

九州横断自動車道関係 埋蔵文化財調査報告

—27—

朝倉郡朝倉町所在上の原遺跡の調査 II

1993

福岡県教育委員会

九州横断自動車道関係
埋蔵文化財調査報告

—27—

朝倉郡朝倉町所在上の原遺跡の調査 II



上の原遺跡全景

序

福岡県教育委員会は、日本道路公団の委託を受けて、九州横断自動車道建設敷地内に所在する埋蔵文化財の発掘調査を昭和54年度以降実施してまいりました。

発掘調査は、平成2年9月に行なった外之隈遺跡の二次調査をもって完了しており、今後は、調査報告書を順次刊行してゆく予定であります。

本報告書は、昭和60年度に発掘調査を実施した朝倉郡朝倉町所在の上の原遺跡についての調査成果を「九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告」第27集としてとりまとめたもので、上の原遺跡の第2冊目の報告書にあたります。

上の原遺跡は、弥生時代から奈良・平安時代にかけての大集落跡で、竪穴住居跡・建物跡・竪穴・貯蔵穴・土壙・溝・壺棺墓・木棺墓などが調査されました。

本書が、甘木・朝倉地域における文化財および歴史に対する認識と理解を深めるとともに学術研究の一助になれば幸いに存じます。なお、発掘調査にあたり多大なるご協力を頂いた地元の方々を始めとして、関係各位に深く感謝いたします。

平成5年3月31日

福岡県教育委員会

教育長 光安 常喜

例　　言

1. 本書は、昭和60年度に福岡県教育委員会が、日本道路公団から委託を受けて、九州横断自動車道建設に伴い発掘調査を実施した上の原遺跡の第2冊目の報告書であり、九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告の第27集にあたる。
2. 本書には、弥生時代の竪穴式住居跡のみ掲載した。
3. 遺構の実測は、調査担当者の他に高田一弘・佐土原逸男・平嶋文博・田中康信・柏原孝俊・加田隆志・永見英徳・目憲一・中村光恵・渡辺輝子・後藤カミヨ・矢野静子・牟田芽子・萩原瑞江諸氏の助力を得た。
4. 出土遺物の整理・復原作業は、岩瀬正信整理指導員のもとに九州歴史資料館復原室及び福岡県教育庁指導第二部文化課甘木発掘調査事務所において行なった。また、鉄器の保存処理は、九州歴史資料館参事補佐横田義章氏の協力を得た。
5. 出土遺物の実測は、渡辺輝子・高瀬照美・大野愛里・小田による。
6. 図面作成・製図作業は、豊福弥生・塙足里美・渡辺輝子・間久江・井上・小田による。
7. 本書掲載の写真は、遺構を井上・高橋・木村・小田が、遺物は北岡伸一氏の撮影による。
8. 住居番号を新番号に変更したため遺物の注記が異なり、遺物は住居跡一覧表の旧住居番号を参照されたい。
9. 挿図で使用する方位は、すべて座標北である。
10. 遺跡分布図は、平成4年国土地理院発行の「甘木」5万分の1を使用した。
11. 図版1の航空写真は、国土地理院撮影による。
12. 本書の執筆は、I～III章を小田が、IV章は井上・小田による。
13. 本書の編集は、小田があたった。

本文目次

I 調査組織と調査経過	1
II 遺跡の位置と環境	5
III 壊穴式住居跡と出土遺物	9
IV 各論	136
1. 住居跡について	136
2. 住居跡出土の土器群について	137

図版目次

卷頭図版	上の原遺跡全景	本文対照頁
図版 1	上の原遺跡周辺航空写真（国土地理院撮影 KU-76-2 X）	1
図版 2	(1) 上の原遺跡航空写真（南西から） (2) 上の原遺跡航空写真（南から）	1 1
図版 3	(1) 東端部貯蔵穴群（東から） (2) 上の原遺跡全景（南から）	1 1
図版 4	(1) 1号住居跡（北東から） (2) 2号住居跡（北から）	9 9
図版 5	(1) 3号住居跡（南東から） (2) 5号住居跡（北東から）	12 12
図版 6	(1) 6号住居跡（南から） (2) 7号住居跡（南東から）	16 21
図版 7	(1) 8号住居跡、11号壊穴（東から） (2) 9号住居跡（北から）	21 25

図 版 8	(1) 10号住居跡（南から）	25
	(2) 11号住居跡（南西から）	25
図 版 9	(1) 12号住居跡（北東から）	30
	(2) 遺物出土状況（北から）	30
	(3) 遺物出土状況（南から）	30
図 版 10	(1) 12号住居跡完掘状況（北東から）	30
	(2) 炉跡内遺物出土状況（北東から）	30
図 版 11	(1) 13・14号住居跡（東から）	39
	(2) 17~19号住居跡（北東から）	44
図 版 12	(1) 21・24号住居跡（南東から）	54
	(2) 23号住居跡（東から）	56
図 版 13	(1) 28号住居跡（南西から）	64
	(2) 30号住居跡（北東から）	68
図 版 14	(1) 31号住居跡（東から）	68
	(2) 32号住居跡（北から）	71
図 版 15	(1) 34号住居跡（北から）	74
	屋内土壤遺物出土状況（北から）	74
図 版 16	(1) 35号住居跡（北から）	77
	(2) 36号住居跡（北から）	80
図 版 17	(1) 36号住居跡完掘状況（北から）	80
	(2) 37号住居跡（北から）	83
図 版 18	(1) 38号住居跡（南から）	86
	(2) 39号住居跡, 44号竪穴（東から）	87
図 版 19	(1) 40号住居跡（北から）	89
	遺物出土状況（北から）	89
図 版 20	(1) 41号住居跡（南東から）	91
	(2) 42号住居跡（南西から）	91
図 版 21	(1) 43号住居跡（南から）	92
	(2) 44号住居跡（東から）	95
図 版 22	(1) 調査区中央部住居跡群（北西から）	95
	(2) 45号住居跡（南から）	97
図 版 23	(1) 46~48号住居跡（南西から）	99
	(2) 46号住居跡（南から）	99

図 版 24	(1) 46・47号住居跡（南西から）	99
	(2) 48号住居跡（南から）	103
図 版 25	(1) 49・50号住居跡（南から）	103
	(2) 49号住居跡完掘状況（南から）	103
図 版 26	(1) 屋内土壌遺物出土状況（北東から）	103
	(2) 無頸壺出土状況（東から）	103
	(3) ミニチュア土器出土状況（南から）	103
図 版 27	(1) 51号住居跡（東から）	106
	(2) 52号住居跡（南から）	108
図 版 28	(1) 大甕出土状況（東から）	108
	(2) 壺出土状況	108
	(3) 柱状石斧出土状況	108
図 版 29	(1) 55号住居跡（南から）	114
	(2) 56号住居跡（南東から）	114
図 版 30	(1) 57号住居跡（南東から）	117
	(2) 投弾形土製品出土状況（北西から）	117
図 版 31	(1) 59号住居跡（南から）	117
	(2) 60～62号住居跡（南東から）	118
図 版 32	(1) 61・62号住居跡（北西から）	119
	(2) 64号住居跡（東から）	125
図 版 33	(1) 65号住居跡（東から）	125
	(2) 積雪の中での調査	
図 版 34	(1) 1号住居跡出土土器	9
	(2) 3号住居跡出土土器	12
	(3) 6号住居跡出土土器	16
	(4) 7号住居跡出土土器	21
	(5) 8号住居跡出土土器	23
	(6) 10号住居跡出土土器	25
図 版 35	(1) 11号住居跡出土土器	30
	(2) 12号住居跡出土土器①	30
図 版 36	12号住居跡出土土器②	30
図 版 37	12号住居跡出土土器③	30
図 版 38	(1) 14号住居跡出土土器	39

	(2) 16号住居跡出土土器	40
	(3) 17号住居跡出土土器	44
図版 39	(1) 18号住居跡出土土器	49
	(2) 19号住居跡出土土器	51
	(3) 20号住居跡出土土器	51
	(4) 21号住居跡出土土器	54
図版 40	(1) 23号住居跡出土土器	56
	(2) 28号住居跡出土土器	64
図版 41	(1) 29号住居跡出土土器	65
	(2) 31号住居跡出土土器	71
	(3) 32号住居跡出土土器	74
	(4) 34号住居跡出土土器	74
	(5) 35号住居跡出土土器	77
図版 42	(1) 36号住居跡出土土器	83
	(2) 40号住居跡出土土器①	89
図版 43	(1) 40号住居跡出土土器②	89
	(2) 42号住居跡出土土器	92
	(3) 43号住居跡出土土器	93
	(4) 44号住居跡出土土器	95
図版 44	(1) 46号住居跡出土土器	99
	(2) 48号住居跡出土土器	103
図版 45	(1) 49号住居跡出土土器	103
	(2) 50号住居跡出土土器	106
	(3) 51号住居跡出土土器	106
図版 46	52号住居跡出土土器①	110
図版 47	(1) 52号住居跡出土土器②	110
	(2) 56号住居跡出土土器	114
	(3) 59号住居跡出土土器	118
	(4) 62号住居跡出土土器	122
図版 48	(1) 住居跡出土石器①	
	(2) 住居跡出土石器②	
図版 49	(1) 住居跡出土石器③	
	(2) 住居跡出土石器④	

- (3) 住居跡出土石器⑤
- 図 版 50 (1) 住居跡出土鐵器
 (2) 住居跡出土土製品①
- 図 版 51 (1) 住居跡出土土製品②
 (2) 住居跡出土土製品③
 (3) 住居跡出土投彈形土製品

挿 図 目 次

第 1 図	九州横断自動車道路線図	
第 2 図	上の原遺跡周辺地形図 (1/10,000)	4
第 3 図	上の原遺跡周辺遺跡分布図 (1/50,000)	6
第 4 図	上の原遺跡地形図 (1/3,000)	8
第 5 図	1号住居跡実測図 (1/60)	10
第 6 図	1号住居跡出土土器実測図 (1/4)	11
第 7 図	2・13・14号住居跡実測図 (1/60)	折込
第 8 図	2号住居跡出土土器実測図 (1/4)	13
第 9 図	3・4号住居跡実測図 (1/60)	14
第 10 図	3・4号住居跡出土土器実測図 (1/4)	15
第 11 図	5号住居跡実測図 (1/60)	16
第 12 図	5・6号住居跡出土土器実測図 (1/4)	17
第 13 図	6号住居跡実測図 (1/60)	18
第 14 図	6・7号住居跡出土土器実測図 (1/4)	19
第 15 図	7号住居跡実測図 (1/60)	20
第 16 図	8号住居跡、11・13・22号竪穴実測図 (1/60)	折込
第 17 図	7・8号住居跡出土土器実測図 (1/4)	22
第 18 図	9号住居跡、20号竪穴実測図 (1/60)	23
第 19 図	8～10号住居跡出土土器実測図 (1/4)	24
第 20 図	10号住居跡実測図 (1/60)	26
第 21 図	11号住居跡実測図 (1/60)	27
第 22 図	11号住居跡出土土器実測図① (1/4)	28
第 23 図	11号住居跡出土土器実測図② (1/4)	29
第 24 図	12号住居跡実測図 (1/60)	31

第 25 図	12号住居跡出土土器実測図① (1/4)	32
第 26 図	12号住居跡出土土器実測図② (1/4)	33
第 27 図	12号住居跡出土土器実測図③ (1/4)	34
第 28 図	12号住居跡出土土器実測図④ (1/4)	35
第 29 図	12号住居跡出土土器実測図⑤ (1/4)	36
第 30 図	12・13号住居跡出土土器実測図 (1/4)	37
第 31 図	13・14号住居跡出土土器実測図 (1/4)	38
第 32 図	15号住居跡, 7号竪穴実測図 (1/60)	40
第 33 図	16号住居跡実測図 (1/60)	41
第 34 図	14~16号住居跡出土土器実測図 (1/4)	42
第 35 図	16・17号住居跡出土土器実測図 (1/4)	43
第 36 図	17・19号住居跡実測図 (1/60)	折込
第 37 図	17号住居跡出土土器実測図① (1/4)	45
第 38 図	17号住居跡出土土器実測図② (1/4)	46
第 39 図	17号住居跡出土土器実測図③ (1/4)	47
第 40 図	17・18号住居跡出土土器実測図 (1/4)	48
第 41 図	18号住居跡, 51号竪穴実測図 (1/60)	49
第 42 図	19号住居跡出土土器実測図① (1/4)	50
第 43 図	19号住居跡出土土器実測図② (1/6)	51
第 44 図	19・20号住居跡出土土器実測図 (1/4)	52
第 45 図	20号住居跡実測図 (1/60)	折込
第 46 図	20・21号住居跡出土土器実測図 (1/4)	53
第 47 図	21・22・24号住居跡実測図 (1/60)	折込
第 48 図	21号住居跡出土土器実測図 (1/4)	55
第 49 図	21~23号住居跡出土土器実測図 (1/4)	57
第 50 図	23号住居跡, 54・55号竪穴実測図 (1/60)	58
第 51 図	23・24号住居跡出土土器実測図 (1/4)	59
第 52 図	24・25号住居跡出土土器実測図 (1/4)	60
第 53 図	25・27号住居跡実測図 (1/60)	62
第 54 図	26号住居跡実測図 (1/60)	63
第 55 図	26・27号住居跡出土土器実測図 (1/4)	64
第 56 図	28号住居跡実測図 (1/60)	65
第 57 図	28号住居跡出土土器実測図① (1/4)	66

第 58 図	28号住居跡出土土器実測図② (1/4)	67
第 59 図	29号住居跡実測図 (1/60)	68
第 60 図	29~31号住居跡出土土器実測図 (1/4)	69
第 61 図	30・31号住居跡実測図 (1/60)	70
第 62 図	32号住居跡実測図 (1/60)	71
第 63 図	31・32号住居跡出土土器実測図 (1/4)	72
第 64 図	32・33号住居跡出土土器実測図 (1/4)	73
第 65 図	33・34号住居跡, 50号整穴実測図 (1/60)	75
第 66 図	34号住居跡出土土器実測図 (1/4)	76
第 67 図	35号住居跡実測図 (1/60)	77
第 68 図	34・35号住居跡出土土器実測図 (1/4)	78
第 69 図	35号住居跡出土土器実測図 (1/4)	79
第 70 図	36号住居跡実測図 (1/60)	80
第 71 図	36号住居跡出土土器実測図① (1/4)	81
第 72 図	36号住居跡出土土器実測図② (1/4)	82
第 73 図	37号住居跡実測図 (1/60)	84
第 74 図	36~38号住居跡出土土器実測図 (1/4)	85
第 75 図	38号住居跡実測図 (1/60)	86
第 76 図	39号住居跡実測図 (1/60)	87
第 77 図	39・40号住居跡出土土器実測図 (1/4)	88
第 78 図	40号住居跡実測図 (1/60)	89
第 79 図	40~42号住居跡出土土器実測図 (1/4)	90
第 80 図	41号住居跡実測図 (1/60)	91
第 81 図	42号住居跡実測図 (1/60)	92
第 82 図	43号住居跡実測図 (1/60)	93
第 83 図	43号住居跡出土土器実測図 (1/4)	94
第 84 図	44号住居跡実測図 (1/60)	95
第 85 図	43・44号住居跡出土土器実測図 (1/4)	96
第 86 図	45号住居跡実測図 (1/60)	97
第 87 図	44・46・47号住居跡出土土器実測図 (1/4)	98
第 88 図	46号住居跡実測図 (1/60)	100
第 89 図	47号住居跡実測図 (1/60)	101
第 90 図	47号住居跡出土土器実測図 (1/4)	102

第 91 図	48号住居跡実測図 (1/60)	折込
第 92 図	48号住居跡出土土器実測図 (1/4)	104
第 93 図	48・49号住居跡出土土器実測図 (1/4)	105
第 94 図	49・50号住居跡実測図 (1/60)	折込
第 95 図	49・50号住居跡出土土器実測図 (1/4)	107
第 96 図	51号住居跡出土土器実測図 (1/4)	108
第 97 図	51・52号住居跡実測図 (1/60)	折込
第 98 図	52号住居跡出土土器実測図① (1/4)	109
第 99 図	52号住居跡出土土器実測図② (1/8)	110
第 100 図	53号住居跡実測図 (1/60)	111
第 101 図	52・53号住居跡出土土器実測図 (1/4)	112
第 102 図	54号住居跡実測図 (1/60)	113
第 103 図	55号住居跡実測図 (1/60)	114
第 104 図	56号住居跡実測図 (1/60)	折込
第 105 図	53~57号住居跡出土土器実測図 (1/4)	115
第 106 図	57号住居跡実測図 (1/60)	116
第 107 図	58号住居跡実測図 (1/60)	118
第 108 図	59号住居跡実測図 (1/60)	折込
第 109 図	60号住居跡実測図 (1/60)	119
第 110 図	57~60号住居跡出土土器実測図 (1/4)	120
第 111 図	61・62号住居跡実測図 (1/60)	折込
第 112 図	61・62号住居跡出土土器実測図 (1/4)	121
第 113 図	63・64号住居跡実測図 (1/60)	123
第 114 図	62・63号住居跡出土土器実測図 (1/4)	124
第 115 図	65号住居跡実測図 (1/60)	125
第 116 図	64・65号住居跡出土土器実測図 (1/4)	126
第 117 図	住居跡出土石器実測図① (1/2)	127
第 118 図	住居跡出土石器実測図② (1/3)	128
第 119 図	住居跡出土石器実測図③ (1/3)	129
第 120 図	住居跡出土鐵器実測図 (1/2)	130
第 121 図	住居跡出土土製品実測図① (1/2)	130
第 122 図	住居跡出土土製品実測図② (1/2)	131
第 123 図	住居跡出土投弾形土製品実測図 (1/2)	132

第 124 図 弥生時代住居跡変遷模式図 (1/1,200)	136
第 125 図 住居跡出土の弥生土器縄年図 (1/12)	折込

付 図 目 次

付 図 上の原遺跡造構配置図 (1/300)

表 目 次

表 1 投弾形土製品計測表	126
表 2 住居跡一覧表	133
表 3 弥生土器観察表	139



第1図 九州横断自動車道路線図

I 調査組織と調査経過

九州横断自動車道の第21地点(建設工事区の STA159+60~168+40)は、弥生~奈良時代の遺跡が密集する「三奈木一十文字一中島田」台地の東端部にあたる。昭和58年度の試掘調査の結果、遺構の過密状況により A ~ D の 4 地区に細分され、A 地区 - 西法寺遺跡、B 地区 - 経塚遺跡、C 地区 - 大庭久保遺跡、D 地区 - 上の原遺跡と各々命名した。

かつて上の原遺跡では、福岡県立朝倉高等学校史学部が石棺墓・甕棺墓の調査を行なっており、試掘の結果でも弥生時代の住居跡・甕棺墓・土壙の他に古墳~奈良時代の住居跡が密集して検出され、大規模な遺跡になることが予測された。

発掘調査は、昭和60年10月14日から着手したが、昭和62年3月の小郡~朝倉間の供用開始に向けて、年度内には調査を終了して欲しいとの道路公団側の要請があり、不本意ながら工事行程と交錯した調査にならざるを得なかった。先ず、STA168+10付近の C. BOX 工事のため調査区東端部に一等最初に着手した。しかし、重機による表土剥ぎが伸展するに従い、貯蔵穴・土壙・住居跡・甕棺墓が次々に顔をみせ、意に進わず大規模集落たる片鱗を覗かせた。

一月半ばには、調査区中央部の STA167+00付近の C. BOX 工事を優先して、その周囲20m の調査にかかった。この周辺は、住居跡・竪穴・土壙・ピットが重複し、遺構検出に手間取った。また、年の暮れから新年にかけては第一級の寒波が押し寄せ、積雪の中での作業は運々として進まなかった。

2月17日に甕棺墓群の写真撮影を行なった。1/10・1/20実測図も多量になり、これには調査員・補助員の増強を行い対処した。3月初旬には、並行して調査を進めていた大庭久保遺跡の調査が一段落し、作業員を上の原遺跡に回した。これにより、作業員は100名にも上り、調査員は東奔西走の日々を送った。3月8日に気球による全景写真を撮影し、調査も山場に向かえた。最後に残っていた東南端の調査を終了したのは、3月19日であった。調査面積は、約12,300m²にも上り、調査期間は約5ヶ月に及んだ。

検出した遺構には、弥生時代の住居跡65軒・竪穴67基・貯蔵穴140基(横断遺第18集として報告済み)・土壙79基・甕棺墓26基・土壙墓1基・木棺墓2基、古墳~奈良・平安時代の住居跡112軒・建物跡25棟・土壙46基がある。今回は、弥生時代の住居跡群の報告で、上の原遺跡調査報告書の第2冊目にあたる。それ以外の遺構については、上の原遺跡調査報告Ⅲとして報告する予定である。

上の原遺跡における昭和60年度の調査関係者は、下記のとおりである。なお、平成4年度における日本道路公団及び福岡県教育委員会の関係者については、九州横断自動車道関係埋文化財調査報告-25-を参照されたい。

日本道路公團福岡建設局

局長	今村	浩二
總務部長	菱刈	庄二（前任）
管理課長	森	宏之
管理課長代理	佐伯	農

日本道路公團福岡建設局甘木工事事務所

所長	衆松	紀三
副所長（事務）	西田	功
副所長（技術）	中村	義治
庶務課長	徳永	登
用地課長	岩下	剛
工務課長	後藤	二郎彦
小郡工事区工事長	友田	義則
甘木工事区工事長	猪狩	宗雄
朝倉工事区工事長	平沢	正（前任）
杷木工事区工事長	山中	茂

福岡県教育委員会

總 括

教育長	友野	隆
教育次長	安部	徹
管理部長	大鶴	英雄
文化課長	前田	栄一
文化課長補佐	平	聖峰
文化課長技術補佐	宮小路	賀宏（現九州歴史資料館学芸二課長）
文化課参事補佐	栗原	和彦（現九州歴史資料館調査課長）

庶 務

文化課庶務係長	平	聖峰（兼任）
文化課事務主査	長谷川	伸弘

調 査

文化課調査第二係長	宮小路	賀宏（兼任）
同 技術主査	井上	裕弘（現文化課参事補佐，調査担当）
同 主任技師	高橋	章（現文化課参事補佐，調査主任）

同 主任技師	佐々木 隆彦 (現文化課参事補佐)
同 技 師	伊崎 俊秋 (現南筑後教育事務所技術主査)
同 技 師	小田 和利 (現九州歴史資料館調査課主任技師)
同 文化財専門員	木村 幾多郎 (現大分市立歴史資料館長、調査担当)
同 臨時職員	日高 正幸 (現小石原村教育委員会)
調査補助員	高田 一弘 武田 光正 (現遠賀町教育委員会) 佐土原 逸男 (現浮羽町教育委員会) 平鶴 文博 (現三輪町教育委員会) 田中 康信 (現瀬高町教育委員会) 柏原 幸俊 (現小郡市教育委員会)

〈実測補助〉

加田隆志 (現佐賀県鹿島市教育委員会) 水見英徳 (現筑後市教育委員会) 高瀬セツ子
本石セツ子 中村光恵 卒田洋子 渡辺輝子 後藤カミヨ 矢野静子 萩原瑞江

〈発掘作業員〉

石松又二郎	浦坂義則	大熊勝造	緒方仁造	国武昌治	古賀藤夫	目 翠一
篠原清彦	池田カオル	石井キヨミ	石松アサカ	一の宮遼子	井上キヨノ	井上シズエ
上野チエ子	上野ミツ子	梅田加代	荻野サカエ	鬼塚孝子	浦 和子	浦 ナルミ
浦 フミコ	大楠房枝	大熊カズエ	大熊キクエ	大熊ナミエ	大熊ミユキ	大熊ツマ
大田ミヨコ	大盛アサ子	緒方邦江	釜堀エミ子	釜堀シズエ	釜堀玉来	釜堀ヒサシ
釜堀ミサヲ	金堀セツ子	金堀ツマ	木下千寿子	窟山ヨシエ	窟山ヨネ子	古賀シズエ
古賀チズ	後藤照香	佐藤道子	佐野チズ子	目 広子	柴山ハツエ	柴山ミネ子
閑屋エミ子	芹田恵美子	高瀬シズエ	武内タツ子	田中サツキ	谷村京子	手島芳子
徳永タカヨ	中西ハル子	永田エツ子	永田トヨノ	伸山シズカ	原島ミチヨ	半田エツ
福山法子	藤田マスミ	丸山静子	丸山ハル子	丸山久子	丸山フミ子	宮田侃子
宮田芳子	牟田シズ子	牟田テル子	牟田ヒロミ	牟田ヨリエ	本園セツ子	森 君子
森キヨ子	野田美知子	安岡よし子	柳原礼子	矢野トラエ	吉松キヨ子	

出土遺物の復原整理作業は、九州歴史資料館・福岡県文化課甘木発掘調査事務所において岩瀬正信整理指導員の下に奥村千恵子・桑本亞子・友清光子・平石史子・有馬信子・植山洋子・鬼木美知子・栗栖絹子・中塙屋リツ子・西奇子・小島佐枝子・石井紀美子・尾花道子・藤井カオルさんが行った。遺物の写真撮影・焼付けは、九州歴史資料館参事補佐石丸洋氏の指導の下に北岡伸一・水ノ江明美氏の手を煩わせた。遺物実測・製図作業は、渡辺輝子・高瀬照美・大野愛里・豊福弥生・塩足里美・閑久江諸氏の多大なる協力があった。



第2図 上の原遺跡周辺地形図 (1/10,000)

II 遺跡の位置と環境

本題に入る前に、当遺跡の所在する福岡県朝倉町について若干紹介しよう。

朝倉町は、福岡県のはば中央に位置する人口約11,500人、面積約34.56km²の農業を主体とする穏やかな町であり、所謂筑後川中流域平野の東端部を占める。町域の東半部を山地が占め、丘陵斜面は至るところ柿の段々畑として開墾されている。西半部の平野には水田が広がり、田植の時期とともに有形民俗文化財の三連水車が号音とともに水田面を潤している。

当町の主な交通網は、筑紫野市と大分県日田市を結ぶ国道386号線のみであったが、横断道のインターチェンジを擁することから、今後は、企業の進出に拍車がかかるものと思われる。

遺跡の位置

上の原遺跡は、福岡県朝倉郡朝倉町大字大庭字上の原572、同字670、同字673-676、字佐屋2189番地他に所在する。

遺跡地は、朝倉低山地に属する鬼ヶ城山に源を発する佐田川と荷原川に挟まれた扇状台地の東端部に立地する。横断道は、朝倉町内においては大字石成~入地にかけての朝倉扇状台地群を、大字菱野~山田にかけては朝倉低山地を通過する。この、甘木市三奈木一十文字~中島田にかけての台地は遺跡の宝庫であり、弥生~奈良・平安時代の集落が立地する(註1)。

歴史的環境

横断道は鳥栖インターチェンジから鳥栖段丘群・城山丘陵を横切り、朝倉扇状台地群・朝倉低山地を抜けて大分県日田市に通じる。横断道関係の調査は、両筑平野北半部に大きなトレンドを入れる結果となり、縄文時代から奈良・平安時代に至る膨大な資料を蓄積し、これまで不明瞭であった古墳・奈良時代の集落がヴェールを剥ぎつつある。ここでは、横断道関係の弥生時代遺跡を主体にみていく。

上の原遺跡(21-D地点)は、弥生時代中期と古墳時代後期及び奈良・平安時代を主体とする大集落跡で、弥生時代の遺構としては竪穴住居跡65軒・竪穴67基・貯蔵穴140基・土壙79基・壺棺墓26基・木棺墓2基・土壙墓1基が調査された。出土遺物には、パンコン300箱にも上る土器の他に石器・鉄器・土製品がある(註2)。

上の原遺跡に西接する大庭久保遺跡(21-C地点)では、弥生時代の墓地群と奈良時代の集落跡が調査された。墓地群は壺棺墓38基・木棺墓33基・土壙墓39基・石蓋土壙墓11基・石棺墓9基で構成され、2ないし3列に継列埋葬されている。木棺墓からは磨製石剣・小形彷彿鏡が出土しており、時期的・距離的にも上の原遺跡と対をなすものと考えられる(註3)。



第3図 上の原遺跡周辺遺跡分布図 (1/50,000)

凡例

- | | | | |
|----------|-----------|-----------|-------------|
| 1 高原道路 | 9 治部ノ上遺跡 | 17 古毛遺跡 | 25 見川古墳群 |
| 2 塚ノ上遺跡 | 10 鹿町寺遺跡 | 18 下原川遺跡 | 26 中島田遺跡 |
| 3 大瀬崎遺跡 | 11 丹田塚跡 | 19 犀坂古墳 | 27 長安寺廃寺 |
| 4 中道遺跡 | 12 民烏塚跡 | 20 石成古墳 | 28 集取五反田古墳跡 |
| 5 西山寺遺跡 | 13 上原塚跡 | 21 吉熊古墳群 | 29 大銚遺跡 |
| 6 大室久保遺跡 | 14 久保鳥塚跡 | 22 信樂院1号墳 | 30 生第1号墳 |
| 7 上の原遺跡 | 15 右近塚跡 | 23 信樂院古墳群 | |
| 8 茅塚南古墳跡 | 16 茅塚南古墳跡 | 24 長安寺塔頭群 | |

時代	集落	墓地
縄文	△	
古	□	
良	○	▲
平	▽	●

高原遺跡(16地点)・中道遺跡(20地点)も「三奈木一十文字一中島田扇状台地」に立地する弥生・奈良時代を主体とする集落跡で、中道遺跡からは中期後半～末の竪穴住居跡25軒が検出され、その大半が焼失家屋であった(註4)。また、上の原遺跡とは荷原川を挟んで対峙する狐塚南遺跡(22-C地点)では、弥生後期の住居跡2軒と後期終末～古墳時代初頭の石棺墓15基・土壙墓17基の他に奈良・平安時代の住居跡、室町時代の土壙墓等が調査された(註5)。

長島遺跡(27地点)は、平野部に島状に突き出た標高46mの丘陵に立地し、弥生時代終末期の竪穴住居跡・墓地群及び奈良～中世の住居跡・建物跡が調査され、4号石棺墓からは小型偽製鏡が、7号石棺墓からは管玉・ガラス小玉が出土した(註6)。長島遺跡とは谷部一つを隔てて東接する原の東遺跡は、旧石器時代から奈良時代に至る大規模複合遺跡であるが、弥生時代の遺構として住居跡・竪穴・甕棺墓群等が調査された(註7)。

これらの弥生集落跡は、標高28～47mの台地部及び丘陵地に立地するが、最近衆目を惹かれている甘木市平塚川添・山の上の両遺跡は、標高20m前後の扇状低地に形成されていたため建築部材・農工具等の豊富な木製品が出土した(註8)。生活条件の悪い低湿地にこれ程大規模な集落跡が立地せざるを得ない社会的要因を究明するのは第一義であるが、遺跡立地のあり方及び建物跡の規模・構造を解明する手がかりを与えてくれた意義は大きい。

なお、古墳～奈良・平安時代の遺跡に関しては、横断道第21・24集に述べられており(註9)，詳細はそれらを参照されたい。

註1 甘木市史編さん委員会 1982 甘木市史上巻

註2 井上裕弘編 九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告－18－(上の原遺跡Ⅰ) 1990 福岡県教育委員会

註3 弥生時代の竪穴・土壙・甕棺墓及び奈良・平安時代の住居跡・建物跡については、上の原遺跡Ⅲとして報告する予定である。

註4 福岡県教育委員会が、昭和60年度に発掘調査を実施した。

註5 福岡県教育委員会が、昭和58～60年度に発掘調査を実施した。

註6 福岡県教育委員会が、昭和60年度に発掘調査を実施した。

註7 福岡県教育委員会が、昭和58・62～63年度に発掘調査を実施した。

註8 甘木市教育委員会が、平成4年度に発掘調査を実施した。

註9 小田・高橋・日高編 九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告－21－(杷木宮原遺跡・中町裏遺跡) 1991 福岡県教育委員会

註10 小田和利編 九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告－24－(大迫遺跡) 1992 福岡県教育委員会

第4図 上の原遺跡地形図 (1/3,000)



III 竪穴式住居跡と出土遺物

調査時点では、総数212軒の竪穴式住居跡を検出したが、適宜番号を付していったため住居番号が散在する結果となった。また、検出時に遺構番号を付したため、調査後に遺構の性格が変わったものが多く、調査区の東南端から遺構番号を付け直した。なお、遺物は旧遺構番号で登録してあるので、遺構と対照する際には各遺構一覧表を参照されたい。

弥生時代の住居跡は、65軒検出した。当遺跡では弥生土器が入っているピットが無数にあり、ピット群の中には円形に配列し、或は住居壁が削平され、柱穴しか留めない円形住居跡も存すると考えられたが、時間的制約により今回の報告では割愛し、上の原遺跡Ⅲとして改めて報告したい。また、土器の説明は概説のみで留め、法量・調整などは観察表をご覧頂きたい。

1号住居跡（図版4-1、第5図）

調査区の東南端に位置し、7号貯蔵穴を切る。削平により東壁の大半を喪失するが、柱穴が円形に回ることから平面形は円形を呈しよう。柱穴はP1～7で、P1-2・P4-5・P6-7間は1.3mで、各々対をなしてほぼ等間隔に配されていることから8本柱の住居跡になろう。また、P1-7間の距離が約4mであることから住居跡の規模は7m程であろう。深さは西壁側で0.23mを測る。遺物は土器の他に、ミニチュア土器・石斧が出土した。

出土遺物（図版34-1・48-1・50-2、第6・117・121図）

土 器 (1-14) 1-7は壺で、1・2は広口壺の口縁部、3・4は動先状口縁の未発達のもので、5-7は平底の底部。8-12は壺で、8-10は逆L字状口縁を呈し、8は肥厚する。11・12は上げ底の底部。13は器台で、指オサエ状のナデ調整による。14は壺の口縁部破片で、端みを欠く。

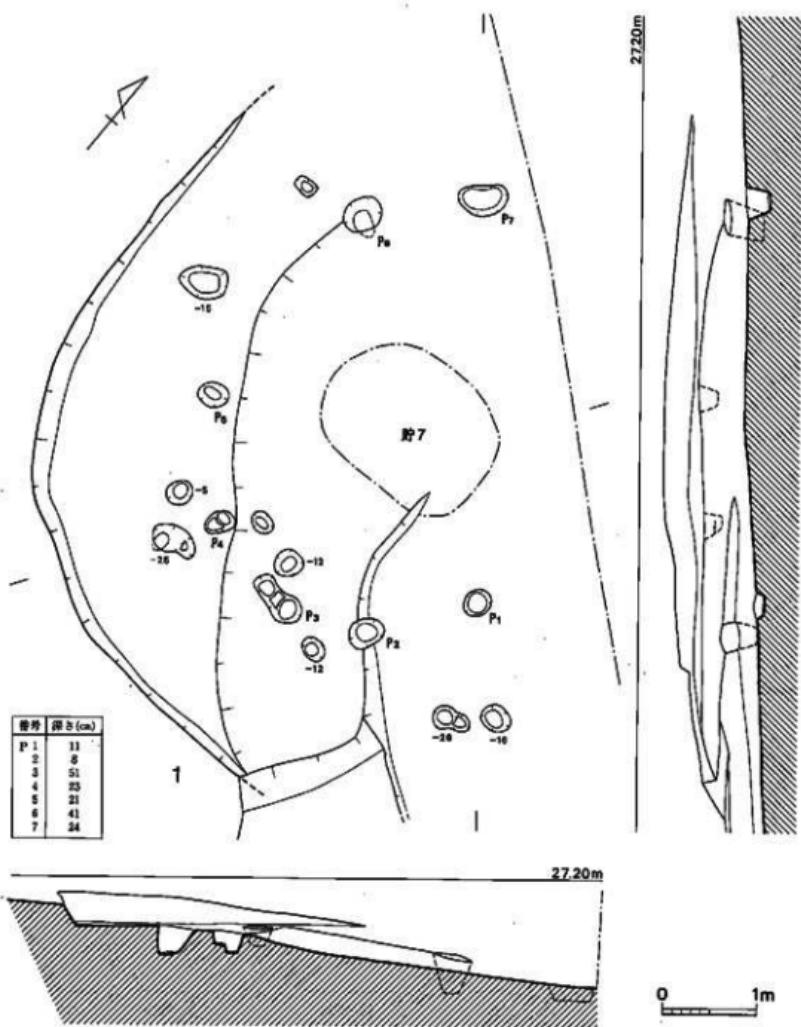
石 器 (12・13) 12は折損品で、長さ7.9cm、厚さ1.7cmを測る。長さに比して身が厚いことから、偏平片刃石斧になろう。石材は頁岩。13は柱片刃石斧片で、折損が著しい。底面には二次的な調整剝離が施され、別なものに転用しようとしたのであろう。石材は粘板岩。

土製品 (?) 7は変形の手捏ね土器の胴部と底部に小孔を穿ったもので、底部に2孔、胴部には5ヶ所造存する。陶墳とは形状が異なる。器高5.4cm、口径4.3cmを測る。

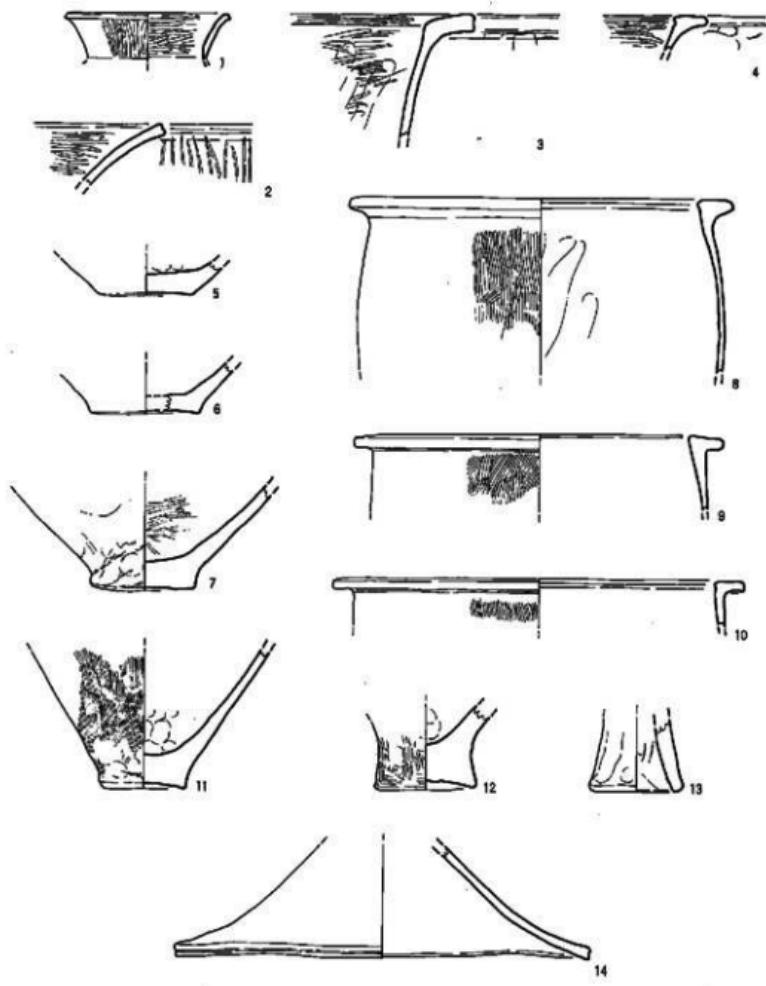
2号住居跡（図版4-2、第7図）

調査区の東南端中央に位置し、13・14号住居跡及び112号貯蔵穴を切り、5号溝に切られる。南半分は調査工程の関係上未掘となってしまった。平面形は方形を呈し、北壁長4.22m、深さは北壁側で10cmを測る。床面には34cmの深さのピットが二つあり、柱穴になるか。炉跡は不明。

出土遺物（図版50-1、第8・120図）



第5図 1号住居跡実測図 (1/60)



第6図 1号住居跡出土土器実測図 (1/4)

土 器 (15~30) 15・16が壺、19~27は甕、17・18・28は鉢、29・30は器台である。15・16は鋸先状口縁を呈し、17・18の底部は平底内薄である。19~22は「く」字状口縁で、口縁端部はやや肥厚する。23は逆L字状口縁で、頸部のやや下位に三角凸帯を貼付する。26・27は頸部が強く縮まり、肩部が外反していることから或は短頸壺になるか。

鐵 器 (1) 1はピット内出土の鐵器片で、側縁が内湾していることから鍛造鐵斧片であろう。残存長3.8cm、幅3.1cm。

3号住居跡（図版5-1、第9図）

2号住居跡の4m北側に位置し、4号住居跡及び58・63号貯蔵穴を切っている。南壁は削平されているが、平面形は隅丸方形を呈しよう。北壁長4.32m、深さは北壁側で16cmを測る。床面にはピットが多く存するが、主柱穴は判然としない。2本柱の住居跡になるか。また、炉跡も不明。床面の中央付近から高坏・壺が出土した。

出土遺物（図版34-2、第10図）

土 器 (31~40) 31~34は壺で、31は広口壺。32は鋸先状口縁を呈し、外面には暗文がみられる。35~37は甕で、35の頸部下位には三角凸帯を貼付する。36の頸部はよく縮まる。37は上げ底の底部。38は鉢で、口唇部は丸く納める。39は富士山形の壺で、裾部は大きく開く。握みの端部は剥離している。外面には煤が付着する。40は高坏の脚部で、裾部はラッパ状に大きく開く。

4号住居跡（第9図）

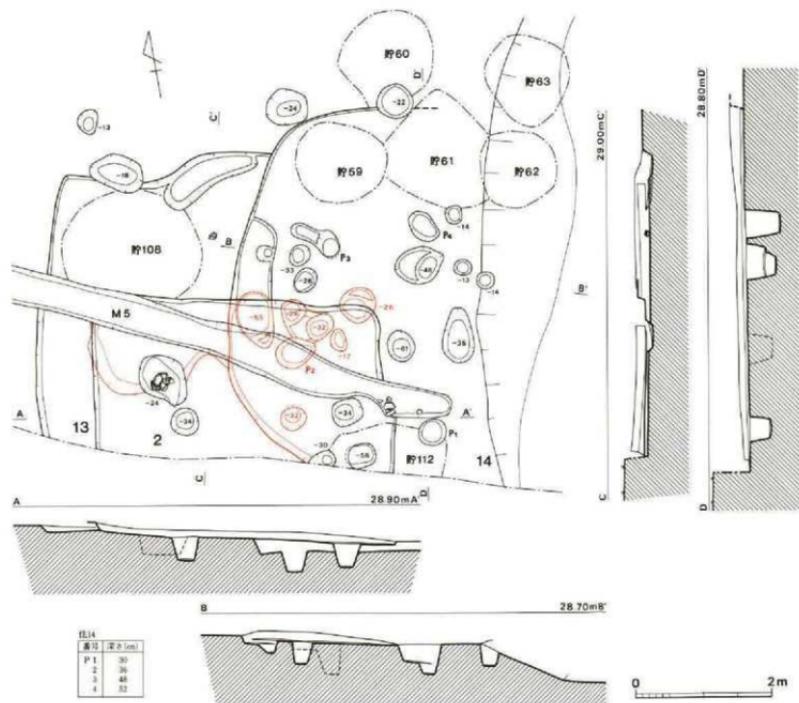
3号住居跡に南壁を切られる。北東壁側に土器群があり、20号土壙とした。土壙との重複関係はつかめなかった。当住居跡も遺存状態は悪く、西壁の一部を残す程度である。P番号を付した5個の穴は、深さが9~18cm程であるが、柱穴になろう。炉跡は判然としない。埋土中から軽石が出土した。

出土遺物（第10図）

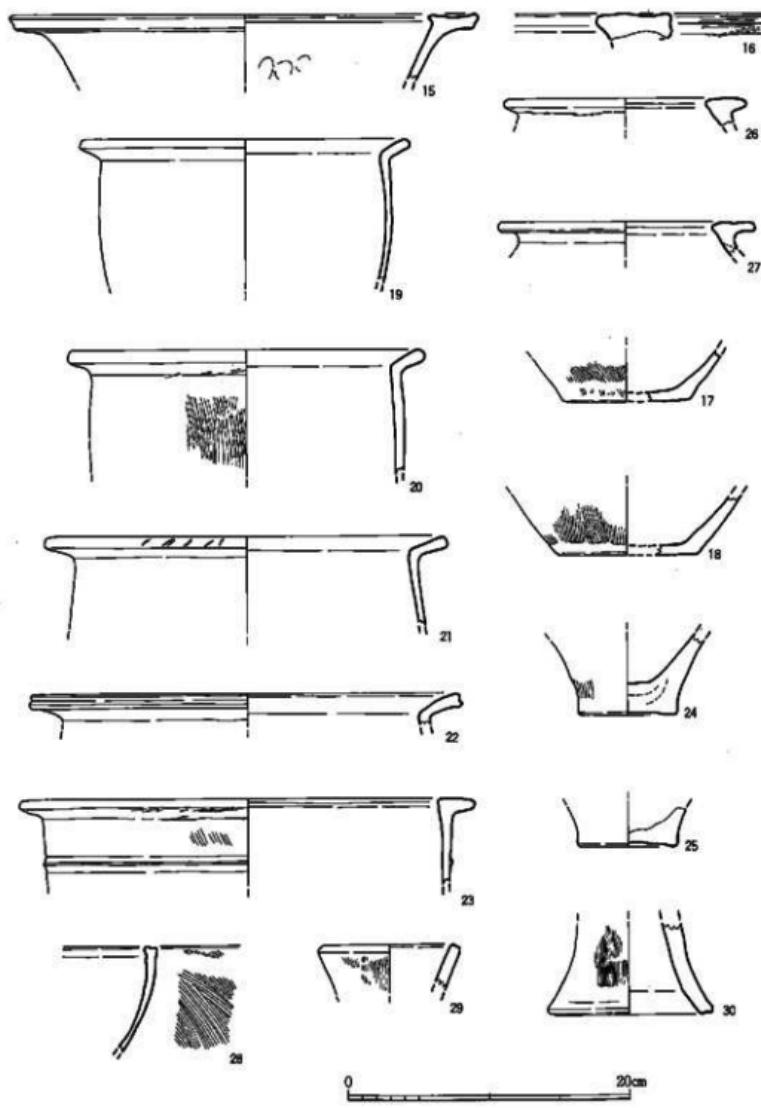
土 器 (41~44) 41は口縁平坦面から内傾していることから鋸先状口縁の壺になろう。42~44は甕で、42は口縁部が「く」字状に外反する。43は逆L字状を呈するが、内面にも突出する。44は平底の底部破片。

5号住居跡（図版5-2、第11図）

4号住居跡の8m北側に位置し、21号竪穴及び31~34号貯蔵穴を切っている。平面形は隅丸長方形を呈し、東壁長5.0m、北壁長3.28mを測る。削平が著しく、深さは東壁側で12cmを留めるにすぎない。P1・2が主柱穴で、柱間は1.4m、柱穴の深さは30~35cmを測る。炉跡は不明。

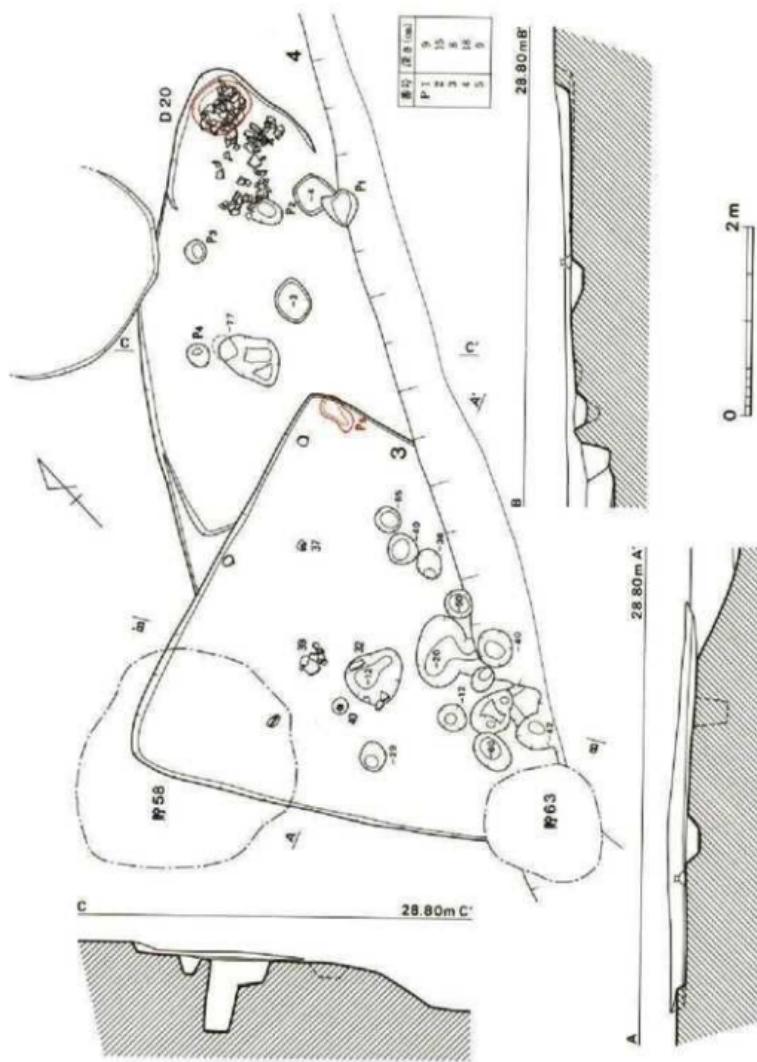


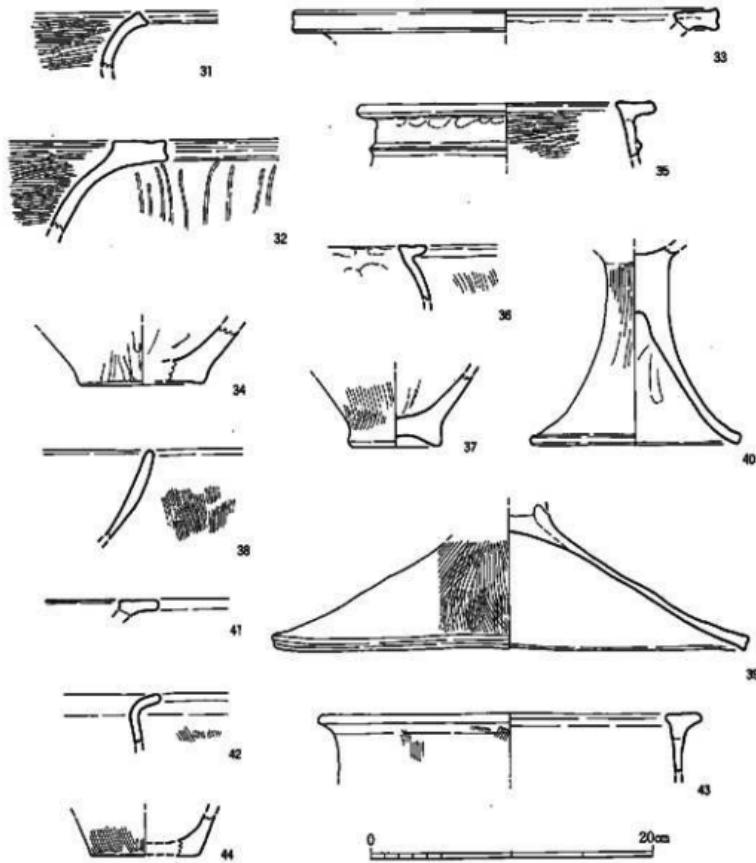
第7図 2・13・14号住居跡実測図 (1/60)



第 8 図 2号住居跡出土土器実測図 (1/4)

第9圖 3・4號住居跡実測図 (1/60)



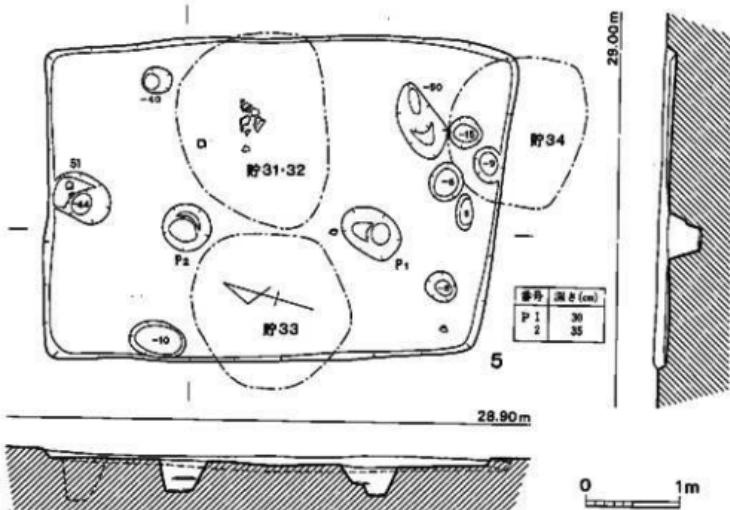


第10図 3・4号住居跡出土土器実測図 (1/4)

土器の他にミニチュア土器・軽石が出土した。

出土遺物 (図版51-1・2、第12・122図)

土 器 (45~52) 45~48は壺で、45は広口、46は鋸先状口縁壺の破片。47・48は平底の底部。49は逆L字状口縁を呈し、頭部の下位に三角凸帯を貼付する。50は平底で、器肉は薄い。



第11図 5号住居跡実測図 (1/60)

51・52は器台で、51は裾付近で屈曲する。52は器面に指オサエ痕を留める。傾きはもう少し起きよう。

土製品 (14・23・28) 14は壺形のミニチュア土器で、口径は5.5cm。床面の出土である。23は棒状の土製品で、径1.75cm。取っ手になるか。28は円盤形の土製品で、8号住居跡出土品に類似する。

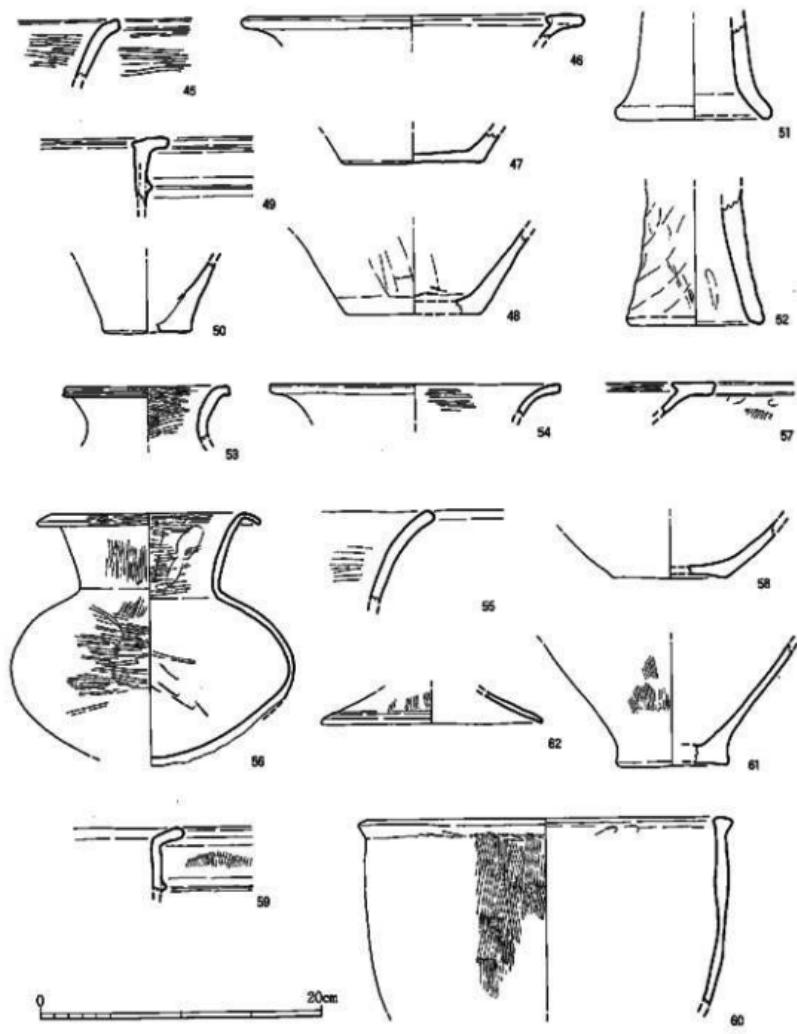
6号住居跡 (図版6-1, 第13図)

5号住居跡の9m北西に位置し、17号堅穴を切っている。比較的遺存状態の良好な住居跡である。平面形は正円ではなく、長径6.54m、短径6.08mを測る偏円形を呈する。深さは西壁側で38cmを測る。P1~6の6本が主柱穴で、P7・8が棟持柱になろう。床面中央のピットは34cmと深く、焼土・炭も見られないことから炉跡ではない。柱間の広いP1~6間が入口になろう。

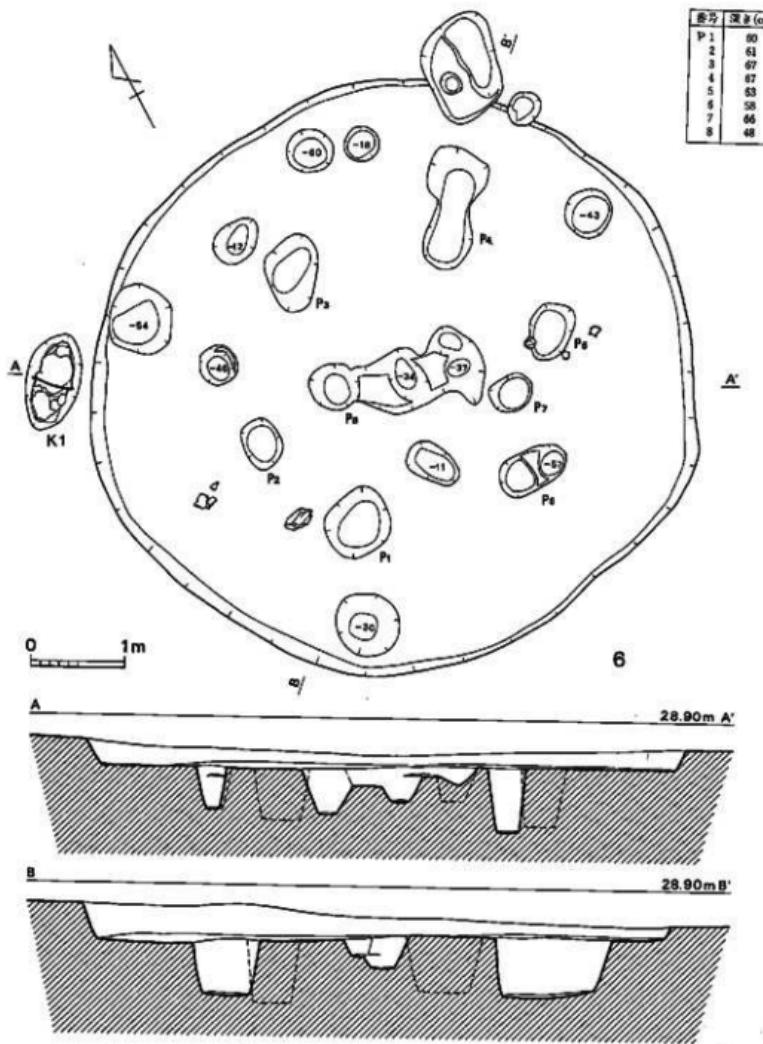
遺物は土器の他に、P6のそばから軽石が出土した。また、西壁のすぐ横に1号甕棺墓が埋葬されている。

出土遺物 (図版34-3・50-2・51-1, 第12・14・121・122図)

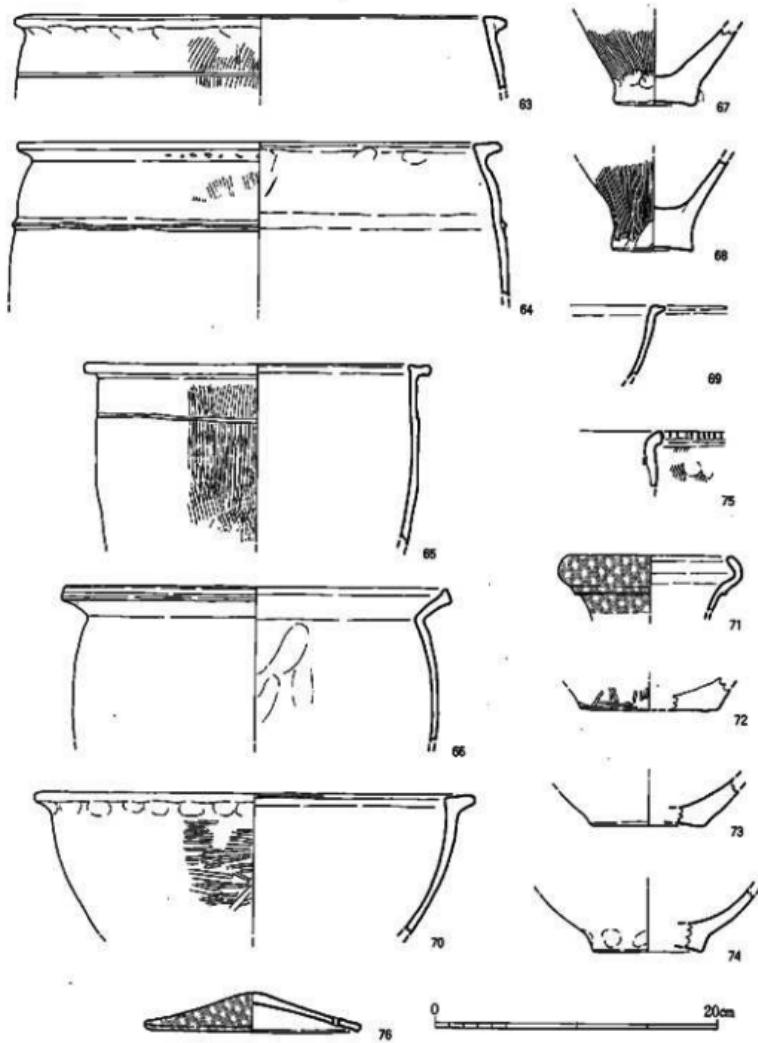
土器 (53~70) 53~58は壺、59~61・63~68は甕、62は蓋、69・70は鉢である。54・55は広口壺で、53の口縁部は外反するのみ。56は口縁部を外方に折り曲げる。57は鋸先状口縁を



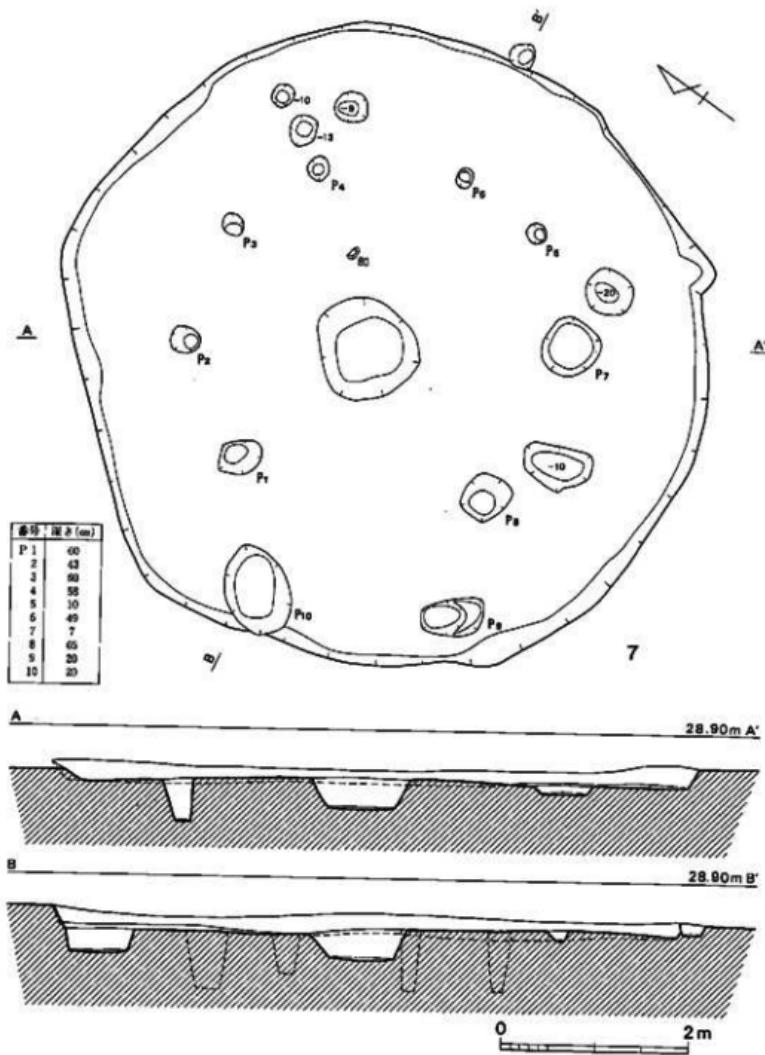
第 12 図 5・6 号住居跡出土土器実測図 (1/4)



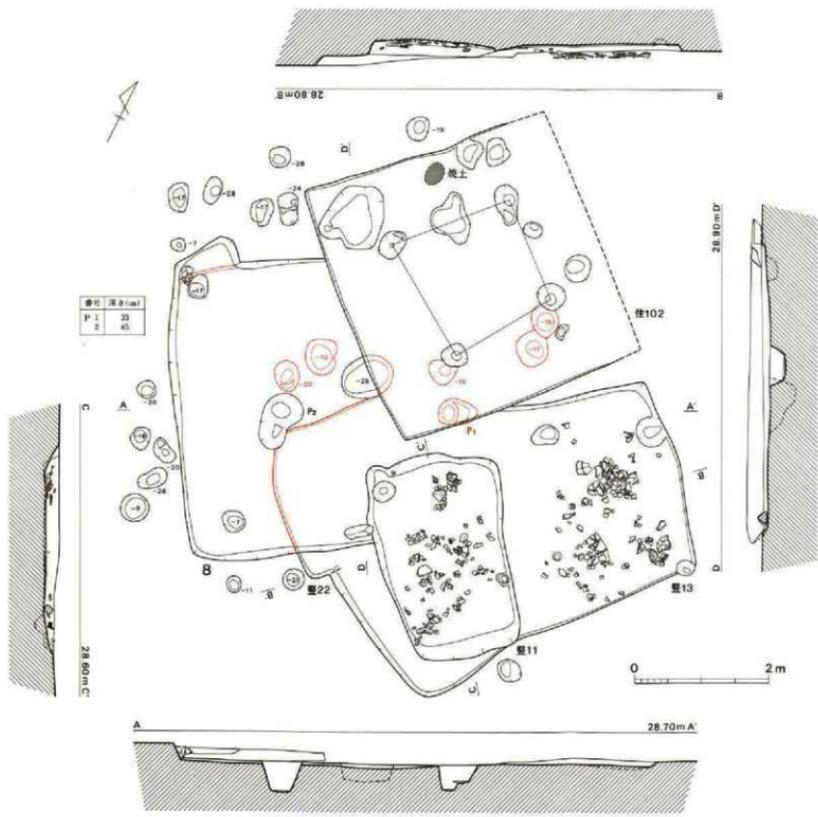
第 13 図 6 号住居跡実測図 (1/60)



第14図 6・7号住居跡出土土器実測図 (1/4)



第 15 図 7 号住居跡実測図 (1/60)



第 16 図 8号住居跡、11・13・22号整穴実測図 (1/60)

呈する。58は蓋の底部で、上底を呈する。60・63の口縁部は断面三角形状を呈する。64・65は逆L字状口縁を呈し、64は頸部下位に三角凸帯を貼付し、65はヘラ描き沈線を施す。66は「く」字状を呈し、口縁端部を上方に跳ね上げる。61・67・68は底部片で、何れも内底部が若干窪む。70の器面調整はミガキによる。

土製品 (2・8・24) 2は紡錘車で、径4.3cm、厚さ1.6cm、孔径0.8cm、重さ27.0gを量る。器面調整はミガキにより、丁寧に仕上げている。8はパイプ形を呈する土製品で、ミニチュアの椀形土器に内溝する長めの取っ手を付す。外面調整はミガキで、丁寧に仕上げている。先端部には0.3cmの円孔を穿ち、杓文字形土製品とは形状を異なる。取っ手部長6.1cm、径1.6cm。24は棒状の土製品で、断面形は梢円形を呈する。

7号住居跡 (図版6-2、第15図)

6号住居跡の2m西側に位置し、10号住居跡に切られ、56号土塙を切っている。図版は住居跡の北東半部に工事用道路が残っていた時の写真である。平面形は6号住居跡同様偏円形を呈し、長径7.0m、短径6.6m、壁高は西壁側で0.24mを測る。柱穴はP1-8の8本で、P1-8の柱間は2.16mと他の柱穴間に比して広く、壁際に対応するP9・10が存することからここを入口部と想定したい。

床面中央土塙は径110cm、深さ34cmで、壁面は焼けておらず、炉跡とは考え難い。遺物は土器の他に黒曜石の剥片が出土したにすぎない。

出土遺物 (図版34-4、第14・17図)

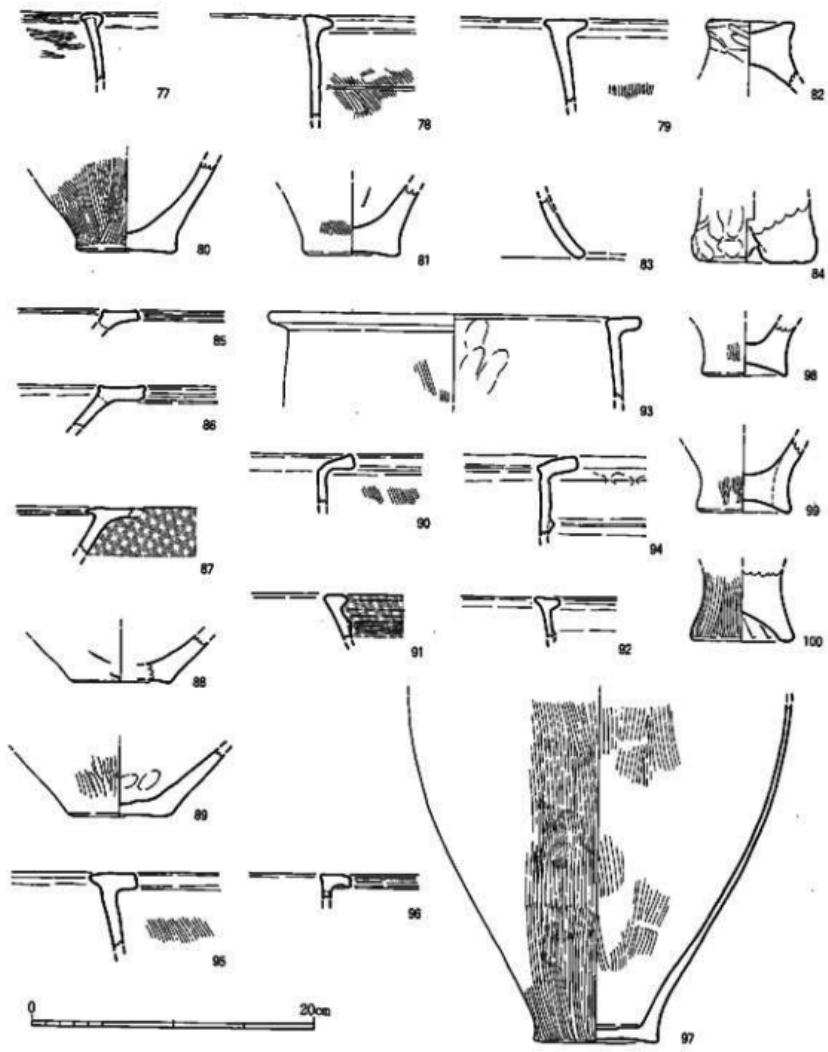
土器 (71-84) 71-74は壺である。71は袋状口縁壺で、湾曲部のやや下位にシャープな三角凸帯を貼付する。外面のみ丹塗り。72-74は底部破片。75・77-81は甕で、75は口唇部にキザミ目を付す。77・78の口縁部は断面三角形を呈し、78の頸部下位にはヘラ描き沈線を施す。80・81は平底の甕の底部片。76は陣笠形の蓋で、円孔を穿つ。外面は丹塗り。82は蓋の縦み部になろう。83は器台の底部破片。84は肉厚の支脚片。

8号住居跡 (図版7-1、第16図)

6号住居跡の1m北側に位置し、102号住居跡(古墳時代)・11号竪穴に切られ、13・22号竪穴を切っている。住居跡・竪穴に東半部を切られ、東壁を喪失するため長軸長は不明。短軸長は西壁で4.12mを測る。壁高は西壁側で26cmを留める程度。

柱穴は2本で、P1-2の柱間は2.02m、深さは0.33-0.45mとしっかりしている。床面中央の穴は深さが25cmで、炉跡とするには疑問が残る。また、北西コーナーに幅0.98m、奥行き0.46mの張出部があり、入口になるか。埋土中から投弾形土製品・土鍤が出土した。

出土遺物 (図版34-5・51-1・3、第17・19・121-123図)

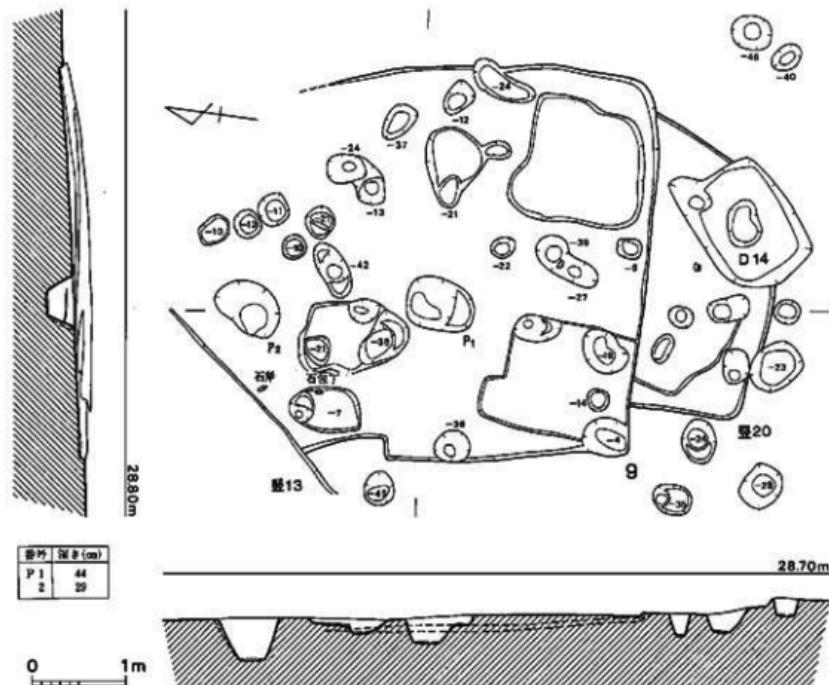


第 17 図 7・8 号住居跡出土土器実測図 (1/4)

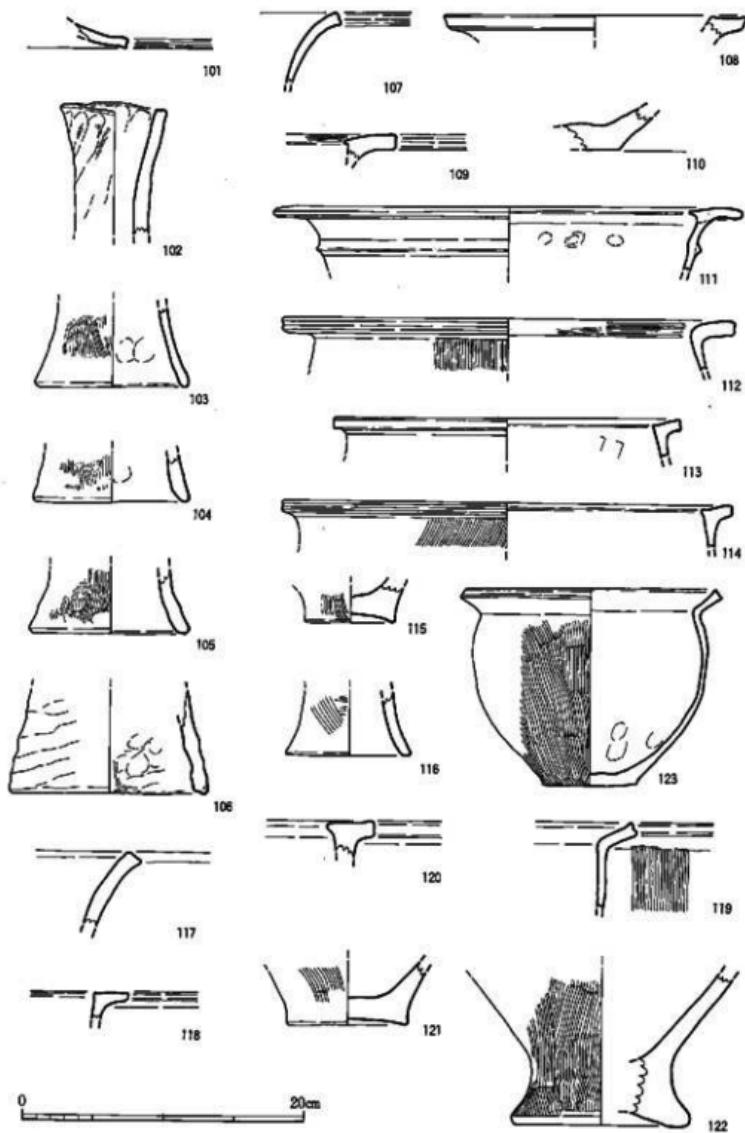
土 器 (85~106) 85~89は壺、90~100は甕、101は蓋、102~106は器台である。85~87は鋸先状口縁壺の小片で、87は内側に突出する。88~89は平底の底部。91は三角形、93は逆L字状、90は「く」字状の口縁部を呈する。97は平底で、98~100は上底の底部。102~106の外面には指ササエ痕がみられる。

土製品 (第121図1、第123図1・2、第122図29) 1は鼓形を呈し、器高2.2cm、径2.9cm、重量18.5gを量る。中央に0.5cmの孔を空けており、筋錐車になるか。焼成は軟質。1・2は大ぶりの投擲形土製品で、一部欠損する。長さは1が4.5cm、2は4.6cm、径は1が2.65cm、2は2.5cm。1・2とも焼成はやや軟質で、暗褐色を呈する。29は半欠品であるが、円盤形を呈する。片面はケズリ調整を施す。

9号住居跡 (図版7-2、第18図)



第18図 9号住居跡、20号竪穴実測図 (1/60)



第 19 図 8~10号住居跡出土土器実測図 (1/4)

8号住居跡の1m東側に位置し、13号竪穴に切られ、20号竪穴を切っている。平面形は長方形を呈し、短軸長は南壁側で3.96mを測る。壁高は6cmと削平が著しく、床面は東側に傾斜している。床面にはピットが数多くあるが、P番号を付した1・2が主柱穴と考えられる。当住居跡も炉跡は判然としない。床面より若干浮いた状態で、石斧・石包丁が出土した。

出土遺物（図版48-2・49-1、第19・118図）

土器（107-116）107-110は壺、111-115は甕、116は器台である。107は広口壺、108・109は鋤先状口縁壺になろう。110は壺の底部片。112の口縁部は「く」字状に外反する。115は上底の甕底部片。116は器台の底部片。

石器（14・16）14は抉入片刃石斧で、長さ11.0cm、幅2.6cm、重さ200gを量る。刃部は一部欠損している。抉りの幅2.6cm、深さ0.6cm。52号住居跡出土品に比して寸胴であり、欠損の度に研ぎ込んだものと思われる。石材は頁岩。16は石包丁の折損品で、残存長10.1cm、幅5.8cmを測る。刃部は刃こぼれが著しい。紐掛けの穴は両面から穿孔している。片面は加熱により黒く変色している。輝緑凝灰岩製。

10号住居跡（図版8-1、第20図）

6号住居跡の4m西側に位置し、103号住居跡（古墳時代）に切られ、7号住居跡を切っている。平面形は隅丸長方形を呈し、中央で長軸長6.91m、短軸長5.47mを測り、壁高は北壁側で12cmを留める程度。柱穴はP1・2で、柱間は2.22mを測る。北東コーナーには張出し状の垂みがあり、入口になるか。また、南壁中央に不整形の穴があるが、屋内土塙とするには浅すぎる嫌いがある。埋土中より磨製石剣・磨製石鎌が出土した。

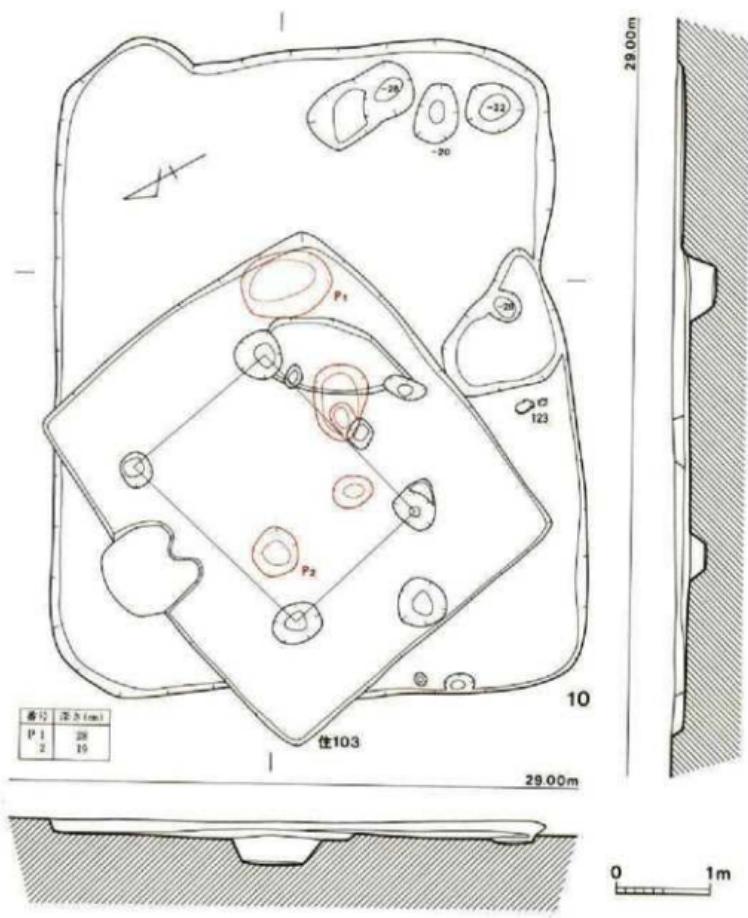
出土遺物（図版34-6・48-1、第19・117図）

土器（117-123）117は壺で、118-122は甕である。119・123の口縁部は「く」字状を呈し、端部を若干跳ね上げている。123は器高に比して口径の大きな鉢状の器形を呈し、底部は平底をなす。122は上底の底部が厚い甕で、120とともに7号住居跡の混入品であろう。

石器（3・7）3は凹基式の磨製石鎌で、長さ4.6cm、幅1.8cm、重さ2.4gを量る。身の厚さは0.2cmと薄い。7は有茎磨製石剣で、先端部を折損する。残存長7.0cm、身の幅4.15cm、茎の長さ1.7cm、幅2.05cmを測る。鎌は茎まで通っている。

11号住居跡（図版8-2、第21図）

8号住居跡の4m北西側に位置する。北壁のすぐ東側に24号甕棺墓が埋葬されるが、両者に切合い関係はない。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸長4.33m、短軸長3.63m、壁高0.2mを測る。床面中央にピットはあるものの、それに対応する穴はない。周囲の黒丸印を付したピットは、深さが10-24cm程度で、当住居跡に伴う柱穴かも知れない。床面より8-15cm浮いた状態で、

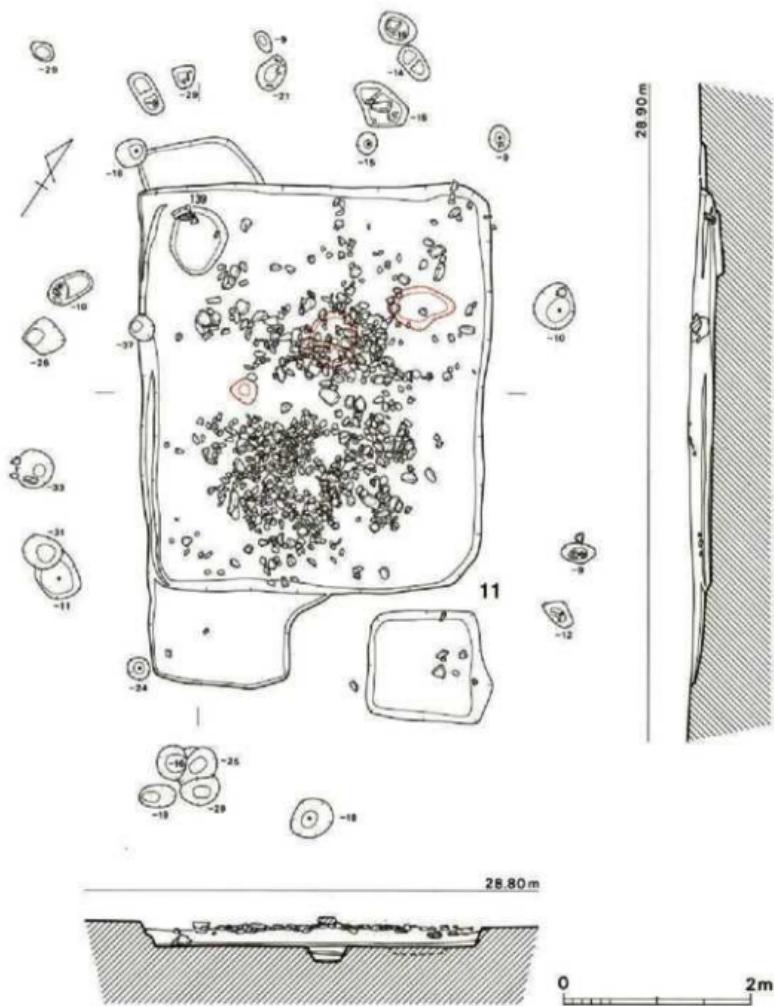


第20図 10号住居跡実測図 (1/60)

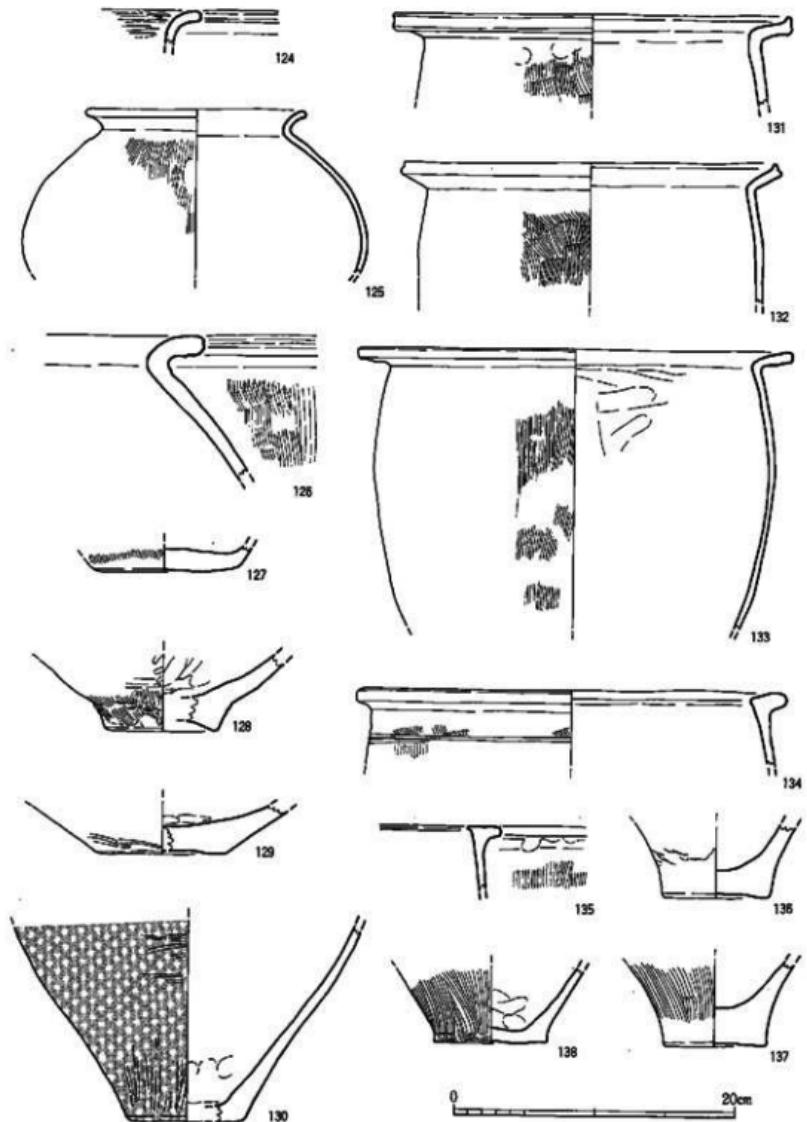
円窓・土器が大量に出土した。

出土遺物 (図版35-1, 第22・23図)

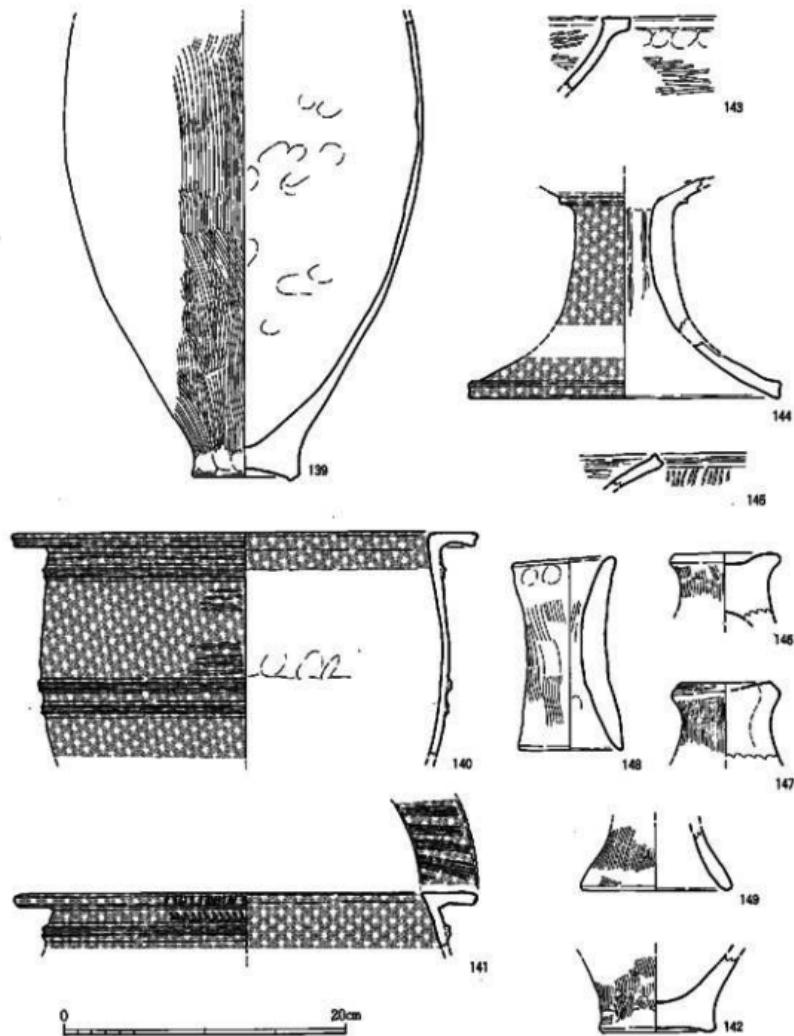
土 器 (124~149) 124~130・145は壺, 131~142は甕, 143・144は高杯, 146・147は蓋,



第 21 図 11号住居跡実測図 (1/60)



第 22 図 11号住居跡出土土器実測図① (1/4)



第 23 図 11号住居跡出土土器実測図② (1/4)

148・149は器台である。125・126は短頸壺で、頸部の繩りは良い。127・130は平底で、129は若干の上底、128は高台状を呈する。131～133の口縁部は「く」字状を呈し、131・132の口縁端部は跳ね上げている。134・135は逆L字状口縁を呈し、134の口縁部は肥厚する。140・141の口縁は水平で、140は頸部直下に1条及び胴部に2条の断面M字形凸帯を貼付する。141は口唇部にキザミ目を施す。136～138は平底の底部片。144は高坏で、裾部と脚柱部は接合しない。

12号住居跡（図版9・10、第24図）

10号住居跡の8m南側に位置し、213号住居跡（古墳時代）に切られ、16号住居跡・18号竪穴・93～97号貯蔵穴を切っている。調査時点では判らなかったが、整理段階で2軒重複していることが判明したので、新しい方を12A号住居跡（黒刷り分）、古い方を12B号住居跡（赤刷り分）として報告する。

12A号住居跡は、径7.2mを測る円形を呈し、壁高は北西側で0.2mを測る。柱穴はP1～6の6本で、床面の中央に74×92cmの卵形の土壙が存在するが、埋土には焼土・炭は含まれておらず、炉跡とは考え難い。床面には多くの土器が散在し、ミニチュア土器・投弾形土製品の出土も見られた。

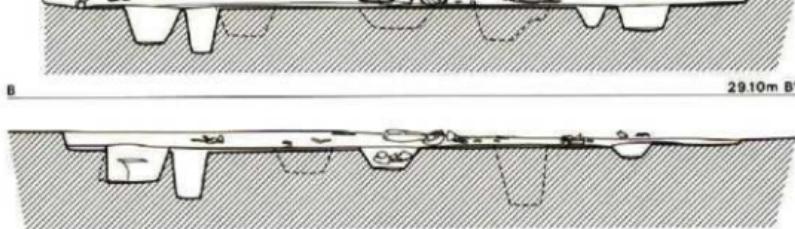
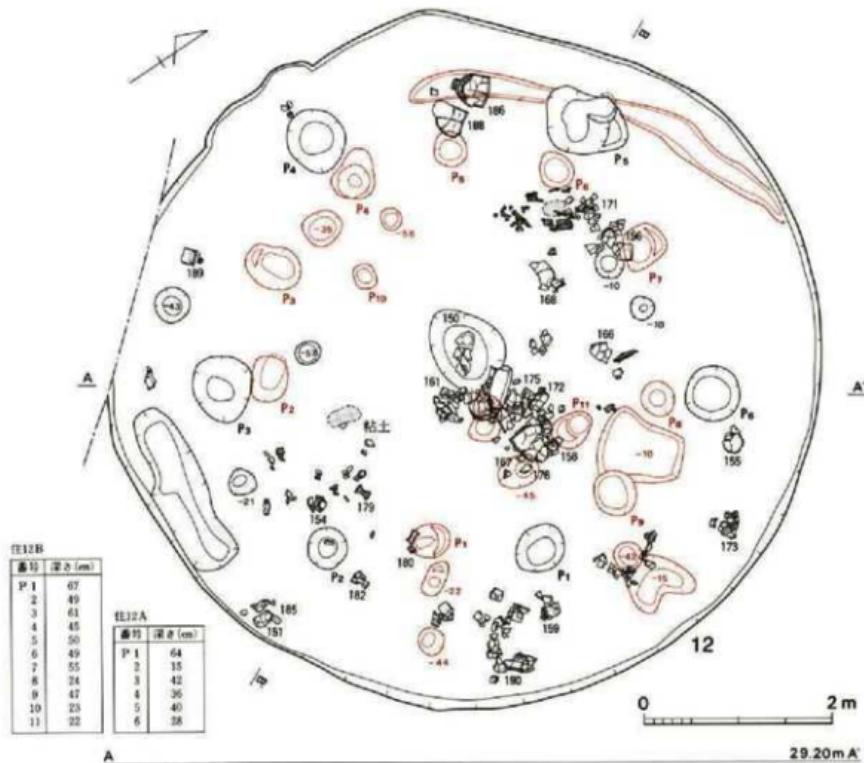
12B号住居跡の規模は、A号住居跡の北整備床面に周溝と考えられる小溝があることからA号住居跡を一回り小さくした径6.6m程になろう。柱穴はP1～9の9本検出したが、P2・3、P4・5、P6・7、P8・9と各々対をなし、P1～9間は他の柱穴間より広く、かつ両者の東側には対応するピットがある。また、P1～2間には94号貯蔵穴が存在することから、P1～2間には未検出のピットが存在した可能性が考えられ、そうすると10本柱の住居跡になる。P10・11は棟持柱と考えたい。なお、床面中央土壙は1基しかなく、住居の切合ではなく、住居壁の拡幅と考える。当住居跡からは、割合多くの土器が出土した。

出土遺物（図版35-2・36・37・51-1-3、第25-30・122・123図）

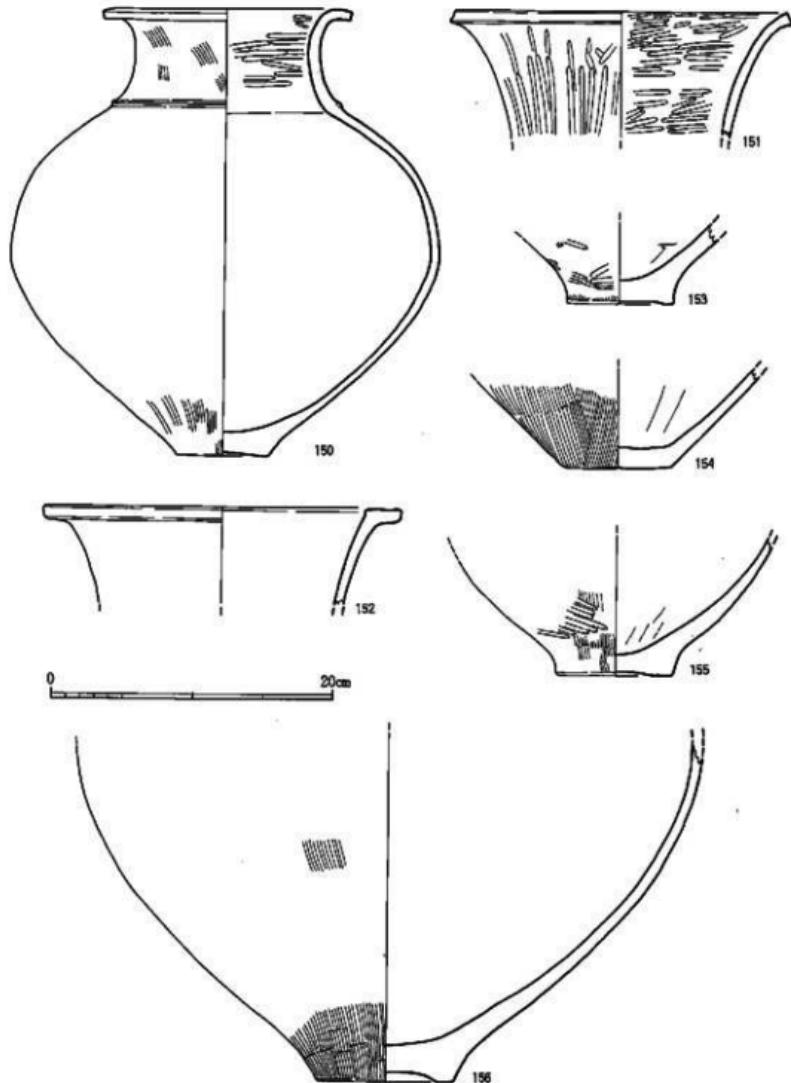
土 器（150～197） 150～157は壺、158～178・186～191は壺、179～182は器台、183・184は蓋、185は支脚、192・193・195～197は高坏。194は蓋になろう。151は広口壺で、150は口縁部が大きく外反するもの。154は平底、156は上底、153・155は内窪みの底部片。

159・160の壺は口縁部が如意形を呈する。159は底部側面を穿孔し、瓶としている。161の口縁部は「く」字状を呈する。底部は肉薄の平底。162・167の口縁部は肥厚する。174・176・186・187の口縁部は三角形状で、亀の甲タイプを呈する。188・189は逆L字状口縁の壺で、頸部下位に三角凸帯を貼付する。191は蝶形の器形で、胴部のやや上位にコ字形凸帯を貼付する。177・178は小型の壺で、178の胴部には三角凸帯を貼付している。179・180・182の器台は口径と底径がほぼ等しい。185は円柱形の支脚で、中央に円孔がある。

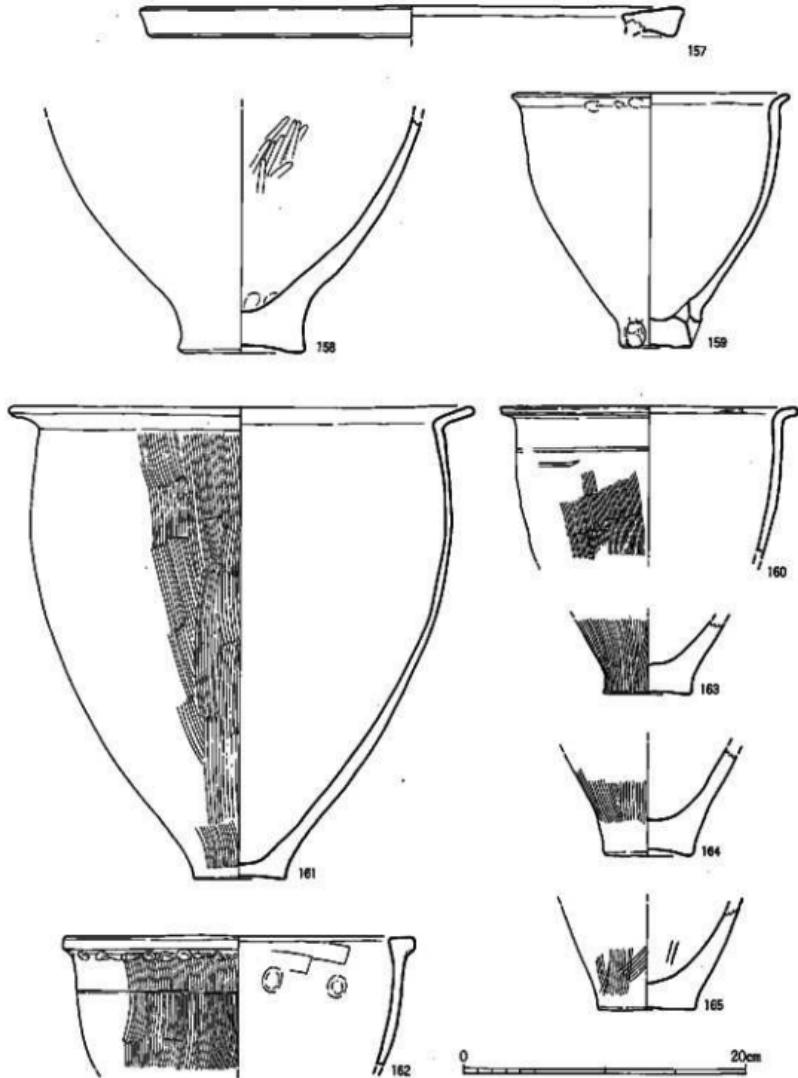
183・184は蓋の口縁部小片で、184には円孔を施す。192・193は高坏の口縁部破片で、193は



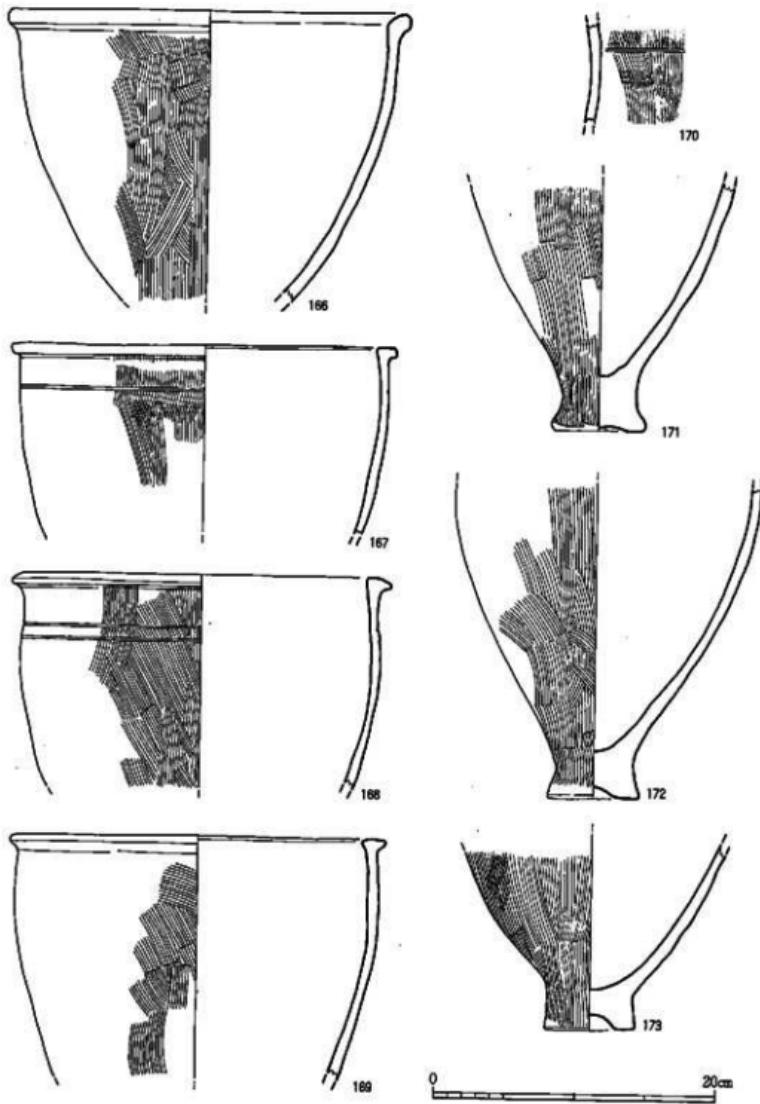
第24図 12号住居跡実測図 (1/60)



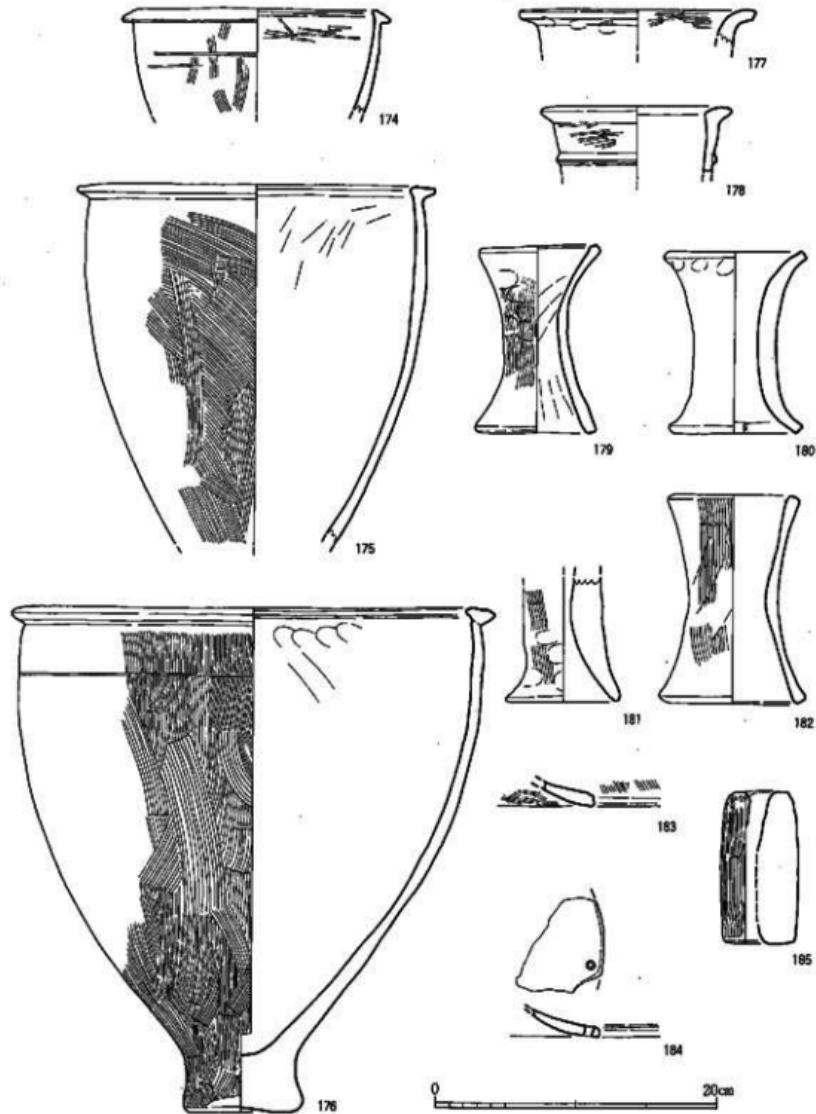
第25図 12号住居跡出土土器実測図① (1/4)



第 26 図 12号住居跡出土土器実測図② (1/4)

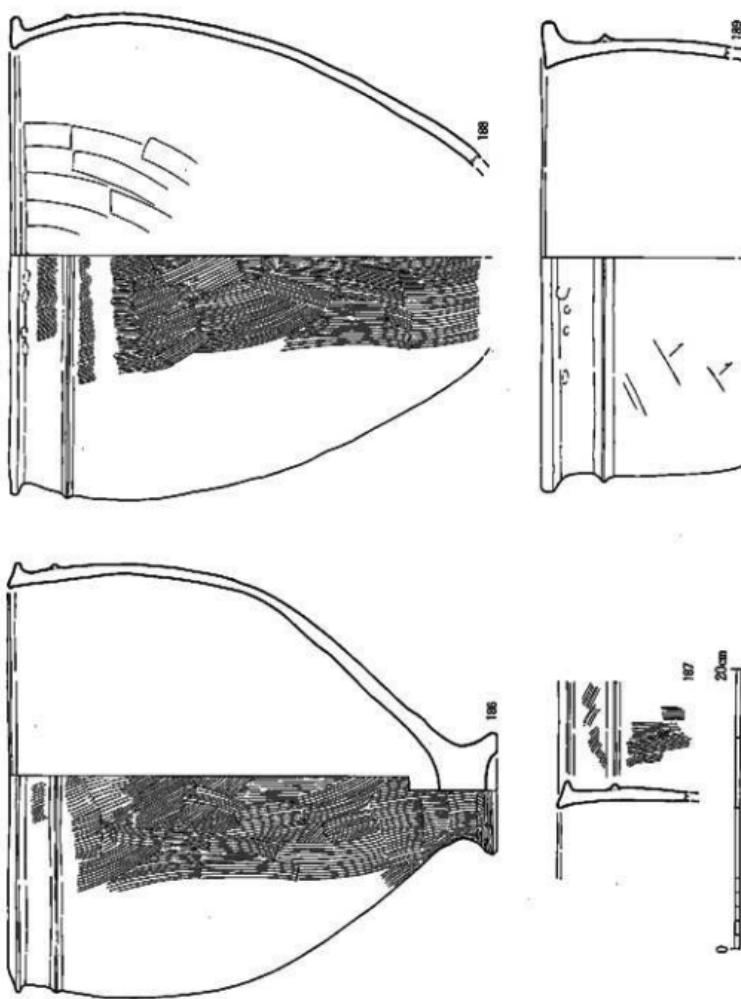


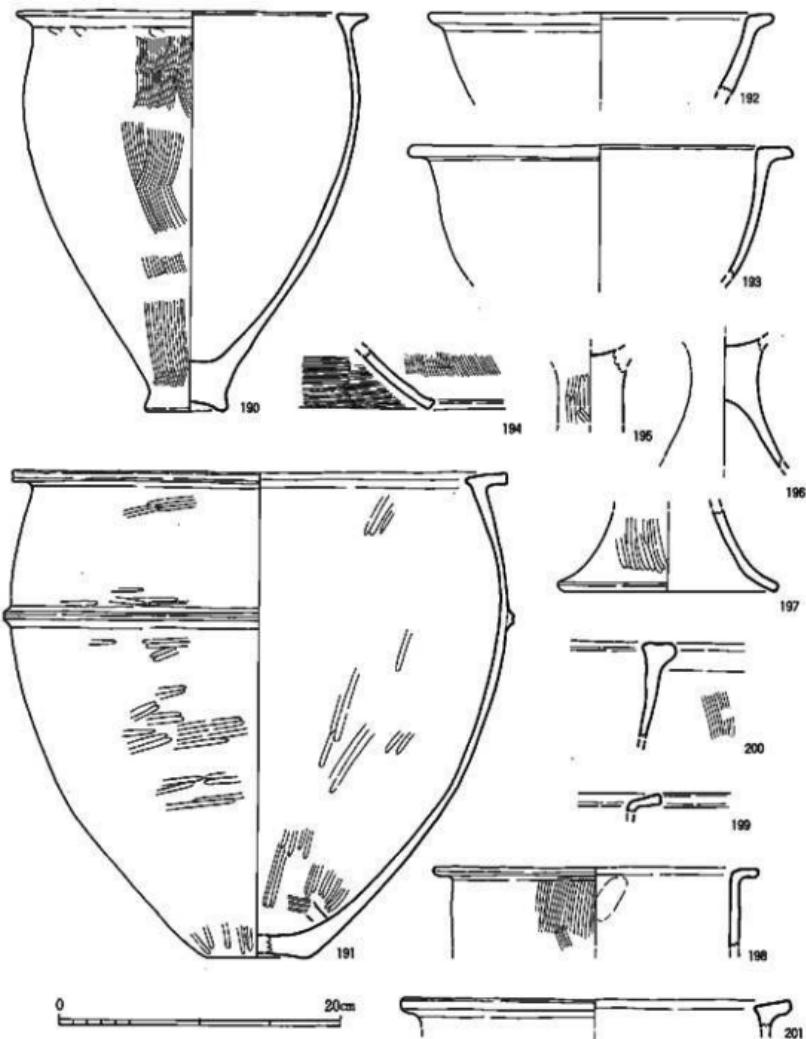
第27図 12号住居跡出土土器実測図③ (1/4)



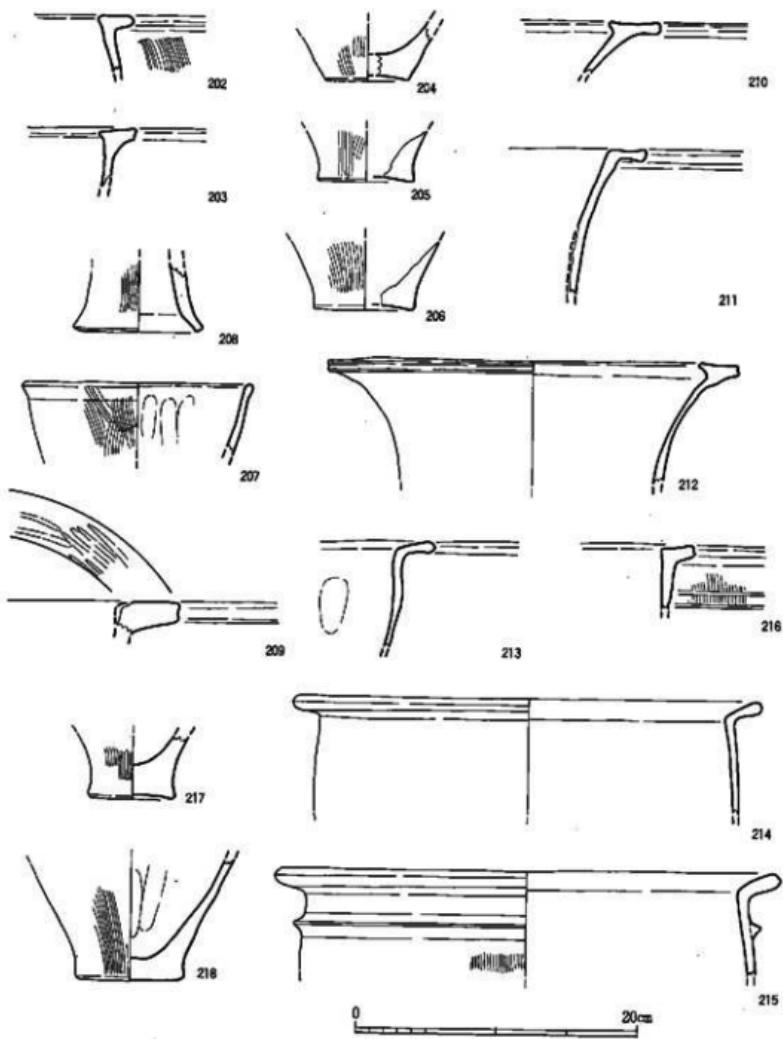
第 28 図 12号住居跡出土土器実測図④ (1/4)

第23圖 12号住居跡出土土器実測図⑤ (1/4)





第30図 12・13号住居跡出土土器実測図 (1/4)



第 31 図 13・14号住居跡出土土器実測図 (1/4)

深めの器形。195～197は高坏の脚部で、197の脚裾は大きく開く。

土製品（4・15・20・25） 15・20はミニチュア土器で、20は壺形を呈し、円孔を施している。内面はミガキ調整による。15は堀を模したものであろう。ナデ調整による。25は紐状の土製品で、捻っている。4は大ぶりの投弾形土製品で、長さ4.8cm、径2.6cm、重さ27.6gを量る。焼成は良好で、暗褐色を呈する。

13号住居跡（図版11-1、第7図）

2・14号住居跡、5号溝に切られ、南半部に未掘部分を残すため詳細は不明。壁高は西壁で8cmを留める程度。また、柱穴も判然としない。

出土遺物（図版49-1・51-1、第30・31・118・121図）

土 器（198～208） 198～203は堀の口縁部片、204～206は堀の底部片で、208は器台、207は鉢になるか。

石 器（19） 19は半月形の石包丁片である。残存長6.4cm。残存部位に円孔は認められない。石材は砂岩系。

土製品（3） 3は紡錘車で、径3.9cm、厚さ1.4cm、孔径0.7cm、重さ21.7gを量る。割と丁寧な作りである。焼成は良好で、褐色を呈する。

14号住居跡（図版11-1、第7図）

2号住居跡に切られ、13号住居跡を切る。東半部は大きく削平され、西半部を留めるのみで詳細は判らないが、平面形は円形に近い隅丸方形を呈するか。深さは西壁側で、10cm残す程度。P1～4が主柱穴で、深さは30～52cmを測る。土器の他に軽石・黒曜石剝片が出土した。

出土遺物（図版38-1、第31・34図）

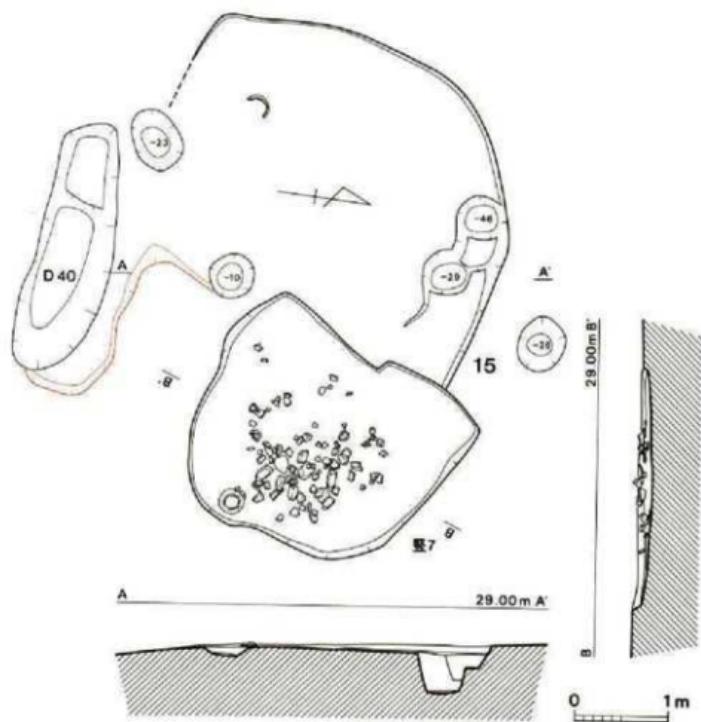
土 器（209～227） 209～212は壺、213～220は堀、221は注口土器、222・223は高坏、224・225は壺、226・227は器台である。210・212の口縁部は鋸先状を呈し、211は水平に折り返した形態を呈する。堀213～215の口縁部は「く」字形を呈し、端部は肥厚する。215は頭部下位に三角凸帯を貼付する。216・219は逆L字状口縁の堀。221は注口土器の注口部破片。

15号住居跡（第32図）

3号住居跡と12号住居跡の中間に位置し、7号竪穴に東壁を切られる。削平が著しく、プランは判然としない。また、床面には積極的に柱穴とし得る穴はなく、詳細は不明。

出土遺物（第34図）

土 器（228～231） 228～230は堀で、229の口縁部は水平近く屈曲する。230は平底の底部片。231は器台で、端部は丸く納める。



第32図 15号住居跡、7号竪穴実測図 (1/60)

16号住居跡 (第33図)

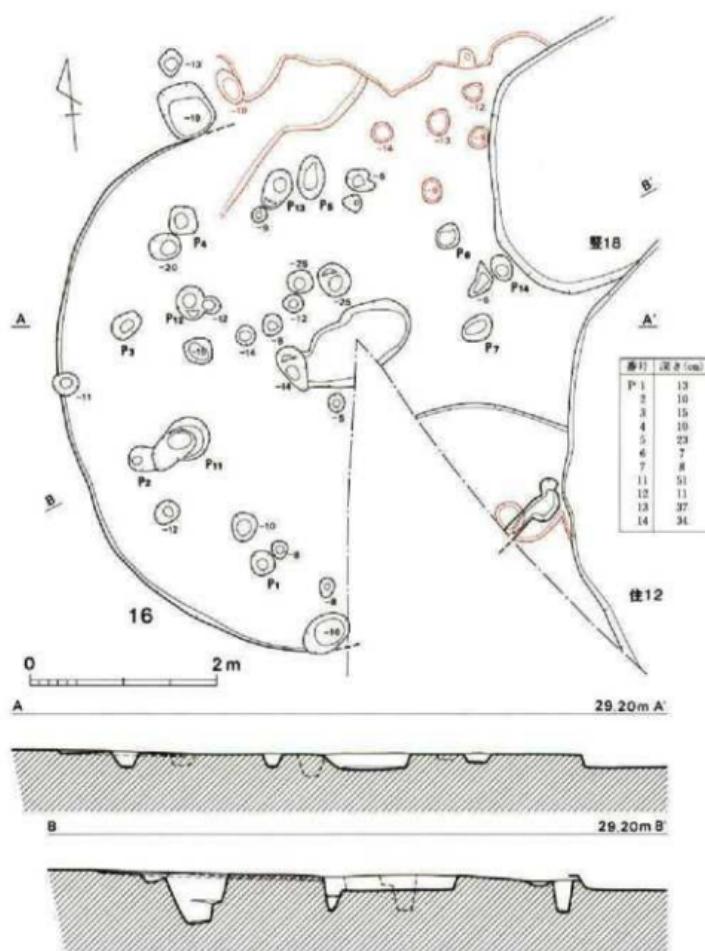
12号住居跡・18号竪穴に東壁を切られて位置する。削平が著しいが、径6m程の円形を呈しよう。壁高は殆ど留めない。床面には多くのピットがあるが、壁際のP1~7が柱穴になろう。また、P11~14も円形に配されており、住居の拡張がなされたか。床面中央には梢円形の土壙があるが、加熱を受けておらず炮跡ではない。

出土遺物 (図版38-2・48-2、第34・35・118図)

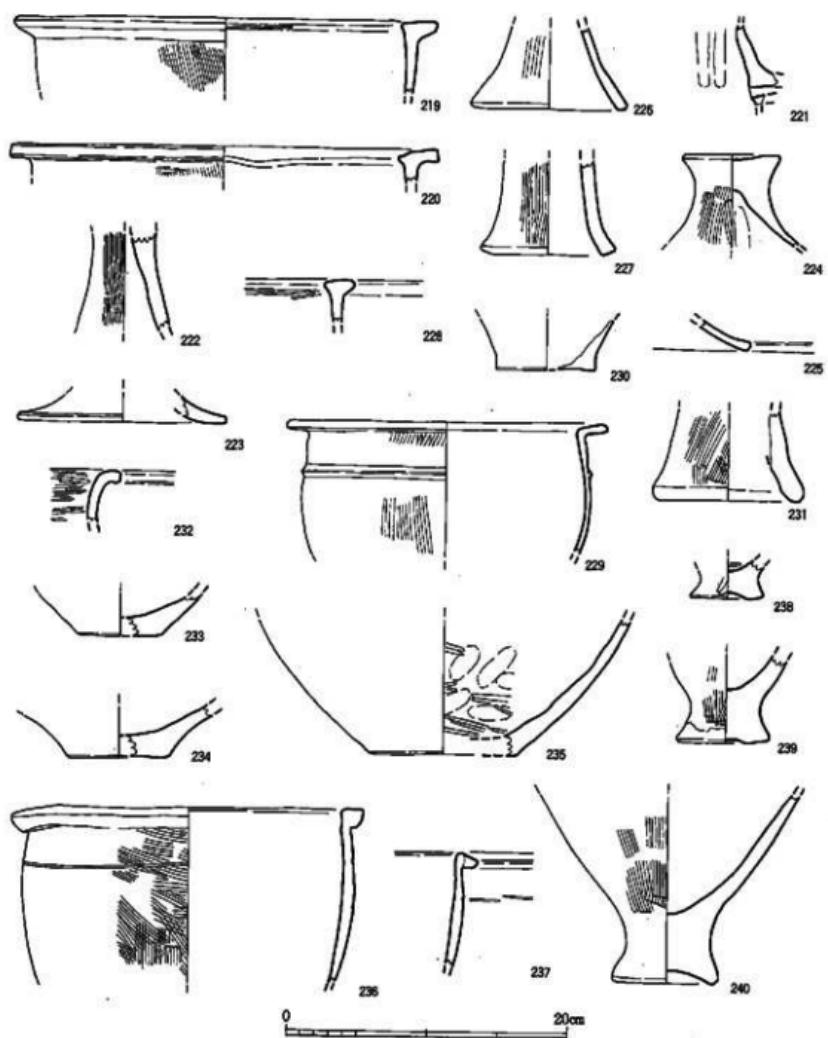
土 器 (232~243) 232~235は壺で、232は口縁部片、233~235は底部破片である。236~242は壺で、236・237の口縁部は突出度が弱く、肥厚する。241は逆L字状口縁を呈する。238

-240は上底の底部。243は器台の裾部片。

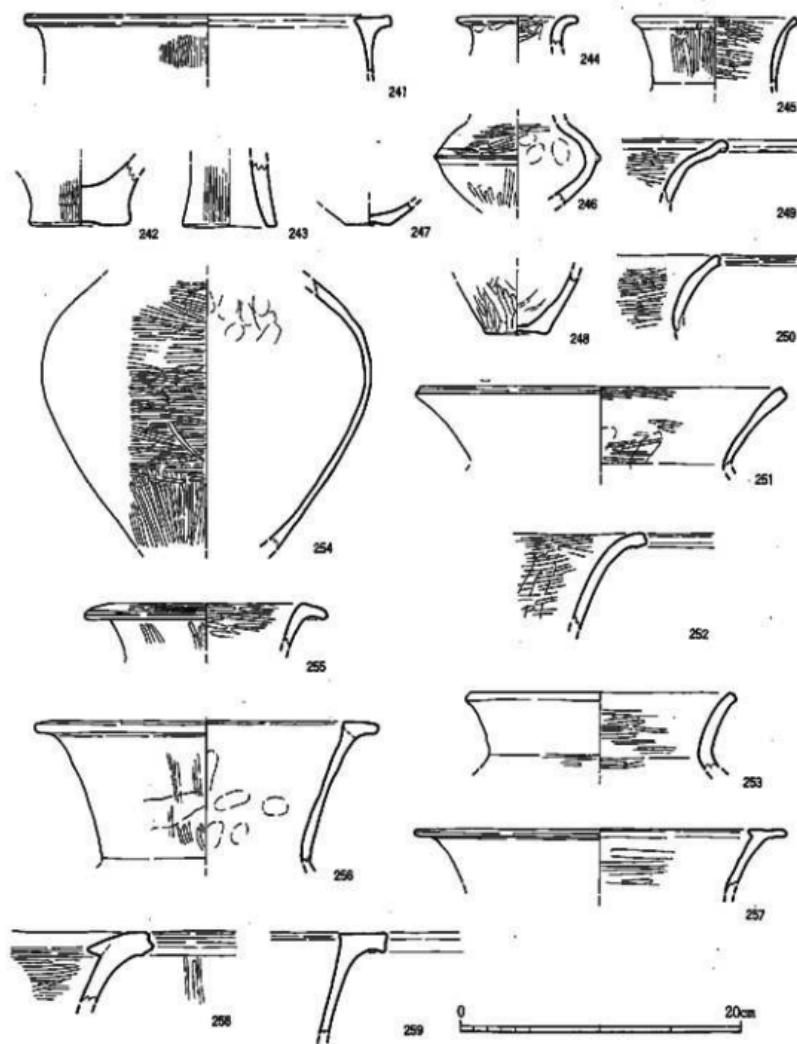
石 器 (22) 22は砥石の欠損品で、4面を砥面としている。石材は砂岩。



第 33 図 16号住居跡実測図 (1/60)



第34図 14~16号住居跡出土土器実測図 (1/4)



第35圖 16·17號住居跡出土土器実測図 (1/4)

17号住居跡（図版11-2、第36図）

19号住居跡の中央で検出した住居跡で、52号竪穴に東壁の一部を切られる。平面形は不整長方形を呈し、長軸長5.68m、短軸長3.87mを測る。19号住居跡を掘り下げていてプランを確認したため、壁高は殆ど留めない。当住居跡からは、パンコン10箱もの大量の土器が出土したが、19号住居跡の遺物と混入している可能性がある。

主柱穴はP1・2とした。床面中央土壇は存在せず、また、壁面側の屋内土壇的な穴も見あたらない。土器の他には、石器・鉄器が出土している。

出土遺物（図版38-3・48・49-3・50-1・51-1・2、第35・37-40・117-122図）

土 器 (244-309) 壺(244-263), 壺(264-284・289), 鉢(285-288・290-294), 蓋(295-299), 高坏(300-303), 器台(304-309) が出土した。

244・246-248は小型の壺で、244の口縁部は外反する。壺の口縁部形態には、頸部から単に大きく開くもの(249-251・253)、外湾しながら開くもの(252)、端部を折り曲げるもの(255)、鋸先状口縁を呈するもの(257・258)、鋸先状口縁の未発達なもの(256・259)がある。260は胴部中位に凸帯を有する。261は胴部中位とその上位にM字形凸帯を貼付する。

壺264・266の口縁部は「く」字状を呈し、端部が肥厚する。271-276は逆し字状口縁の壺で、277は口縁部内面が突出化傾向にある。底部形態には平底のもの(268-270・279)と上底のもの(280-284)とがある。280の底部は肉薄。289は台付き壺で、脚部はハ字形に聞く。

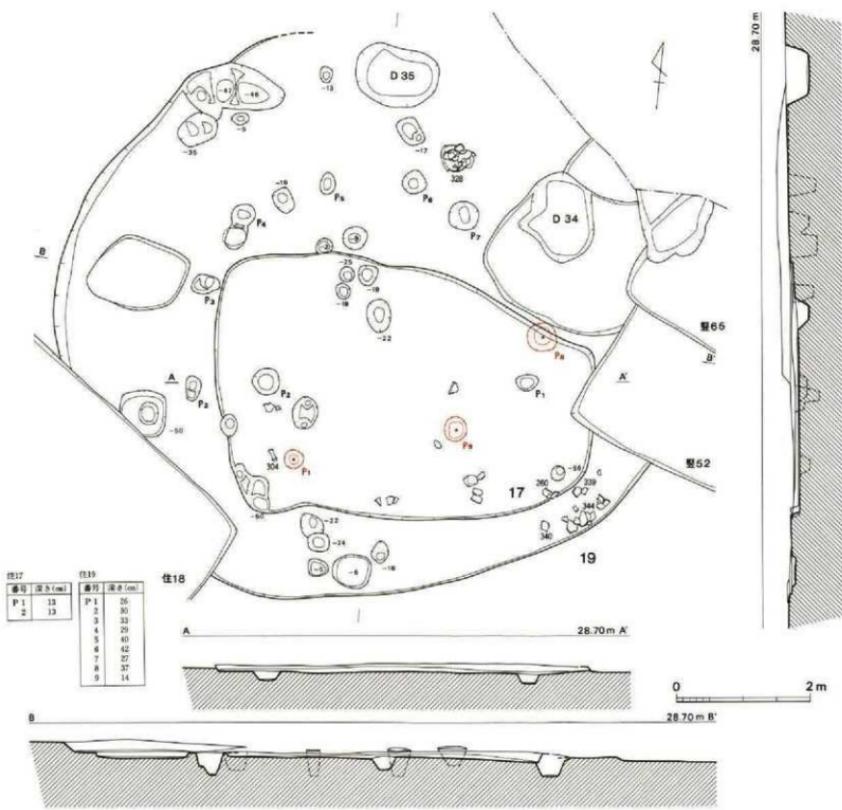
285-287は口縁部が屈曲する鉢、292-294は口縁部が直立する鉢で、291の口縁部は肥厚する。何れも口縁部下位に凸帯を貼付する。295・296は蓋の撮み部分で、297-299は口縁部破片である。297・298は裾広がり。口縁部付近には、煤が付着している。

300・301は高坏の坏部で、300は深めの器形、302は坏部と脚部の接合部位で、303は脚部上位の破片。304-309は器台で、304・305・308は鼓形を呈する。304は口径と底径がほぼ等しい。306・307は底部の破片。

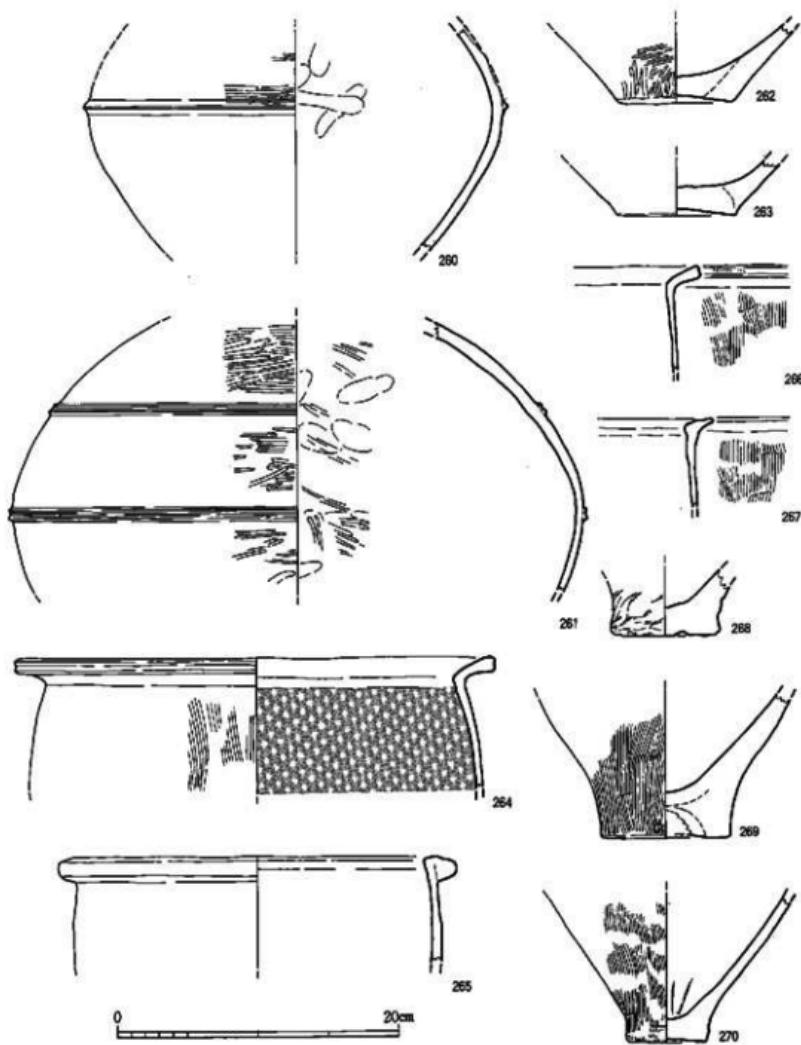
石 器 (1・5・23・24・33) 1は凹基式の打製石錐で、長さ3.1cm、基部幅2.15cm、重さ1.95gを量る。サヌカイト製である。5は側縁に調整剝離を施し、先端部を折損していることから石錐になろう。残存長3.2cm、重さ2.4gを量る。漆黒色の黒曜石製である。23は砥石の欠損品で、4面を砥面としている。残存長9.6cm、中央幅4.0cmを測る。砂岩製。24は長方形の砥石で、両端部を欠損する。4面を砥面としている。石材は硬砂岩製。33は安山岩の円礫を利用した石錐で、側縁の2ヶ所を打欠く。長径7.8cm、短径7.6cm、重さ125gを量る。

鉄 器 (2) 2は台形状の鉄器片で、長さ4.6cm、幅4.3cmを測る。用途は不明。

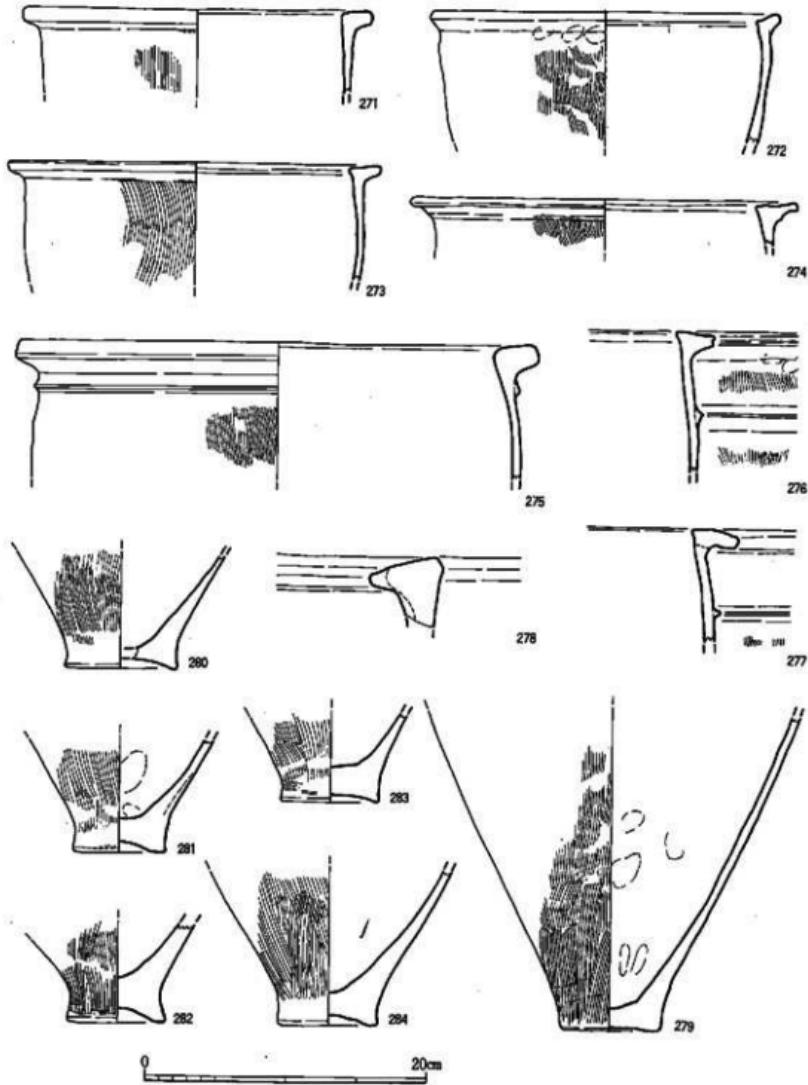
土製品 (9・26) 9は取っ手部の破片で、杓文字形の器形を呈するか。器面はミガキ調整による。26は棒状の土製品で、径は1.8cm。取っ手になるか。



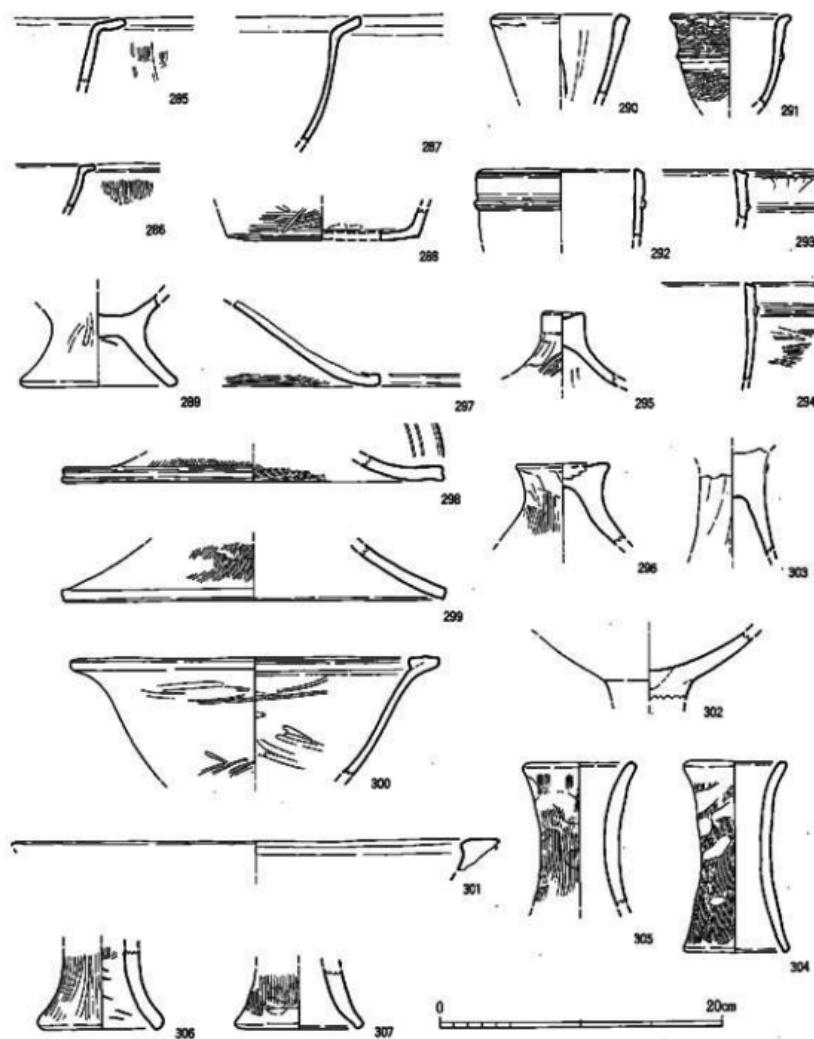
第36図 17・19号住居跡実測図 (1/60)



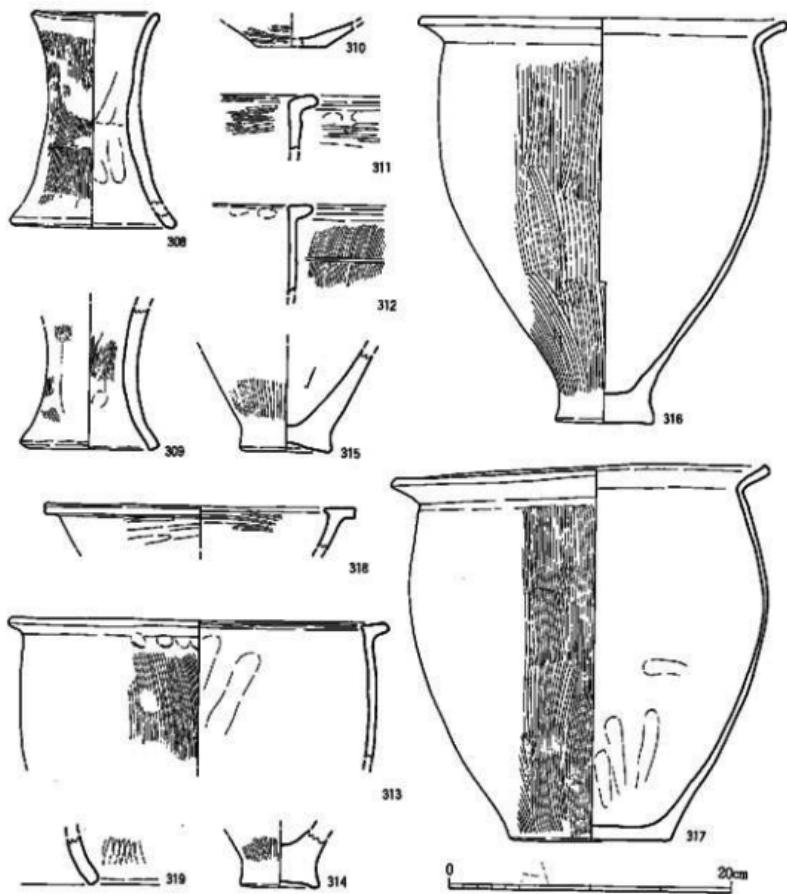
第37図 17号住居跡出土土器実測図① (1/4)



第38図 17号住居跡出土土器実測図② (1/4)



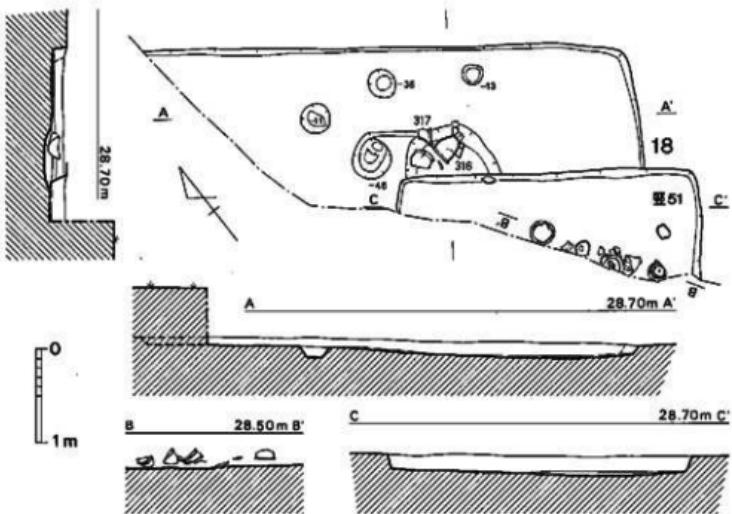
第39図 17号住居跡出土土器実測図③ (1/4)



第40図 17・18号住居跡出土土器実測図 (1/4)

18号住居跡 (図版11-2, 第41図)

17号住居跡のすぐ南側に位置し、51号竪穴に切られ、19号住居跡を切っている。方形住居跡で、壁高は東壁側で16cmを留める程度。大半が調査区外に伸展するため詳細は不明。床面には



第41図 18号住居跡、51号竪穴実測図(1/60)

土器が入った浅い土壙がある。

出土遺物 (図版39-1, 第40図)

土 器 (310~319) 310は壺の底部破片で、上底を呈する。311~317は壺で、311~313は逆L字状口縁で、316・317は「く」字状口縁を呈する。316の底部は縮まるが、317は器高に比して底径が大きく、鉢状の器形をなす。318は高壺の口縁部破片。319は器台の底部小片。

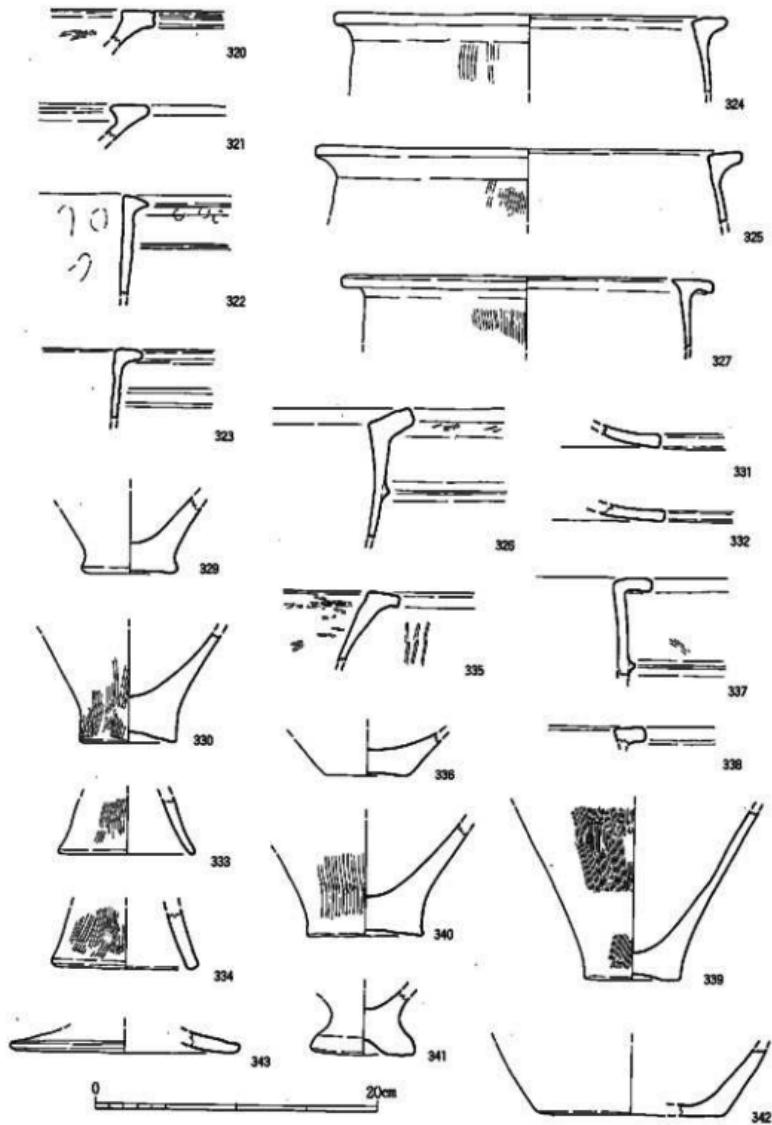
19号住居跡 (図版11-2, 第36図)

15号住居跡の8m南側に位置し、17・18号住居跡、52・65号竪穴、34号土壙に切られる。径8.6mを測り、当遺跡では大きめの部類に入る。17号住居跡が当住居跡の中央に位置するため遺物が混在した可能性がある。

柱穴はP1~9で、柱間の広いP1~9間が入口部になるか。炉跡は17号住居跡に切られたものか存在しない。遺物は土器の他に黒曜石の剥片が出土したにすぎない。

出土遺物 (図版39-2, 第42~44図)

土 器 (320~344) 320・321は壺の口縁部小片。322~330は壺で、322の口縁部は断面三角形を呈する。323~325は逆L字状口縁、327は鋸先状口縁を呈する。328は大型の壺で、口縁



第42図 19号住居跡出土土器実測図① (1/4)

部は逆L字状を呈し、口唇部にハケ状工具によるキザミ目を付す。また、頸部下位に三角凸帯を貼付する。

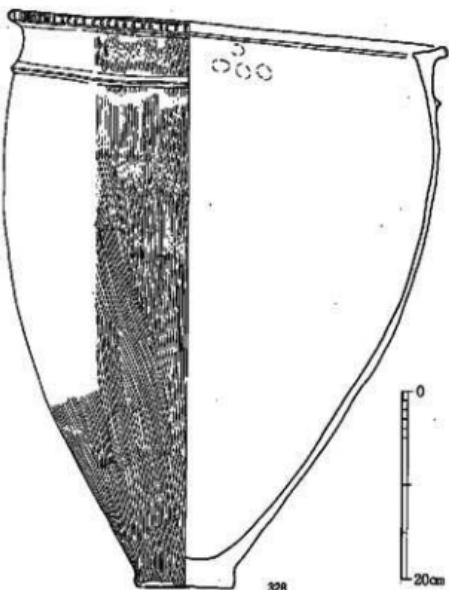
329・330は底部破片。

326は肩部上位が内湾気味であることから鉢になるか。331・332は蓋の口縁部破片で、口唇部は丸く納める。333・334は器台の底部小片。

335～344は19号住居跡南壁付近で出土した土器で、別遺構の切合いとも考えられたが、ここで取り上げた。

335・336は蓋で、337・341は壺である。337・338は逆L字状口縁を呈する。339・340は内窪みの底部片で、341は上底をなす。342は平底で、鉢の底部になるか。344は器高に比して口径が大きいことから鉢としておこう。口縁部は逆L字状を呈する。

343は陣笠形の蓋になろう。



第43図 19号住居跡出土土器実測図② (1/6)

20号住居跡 (第45図)

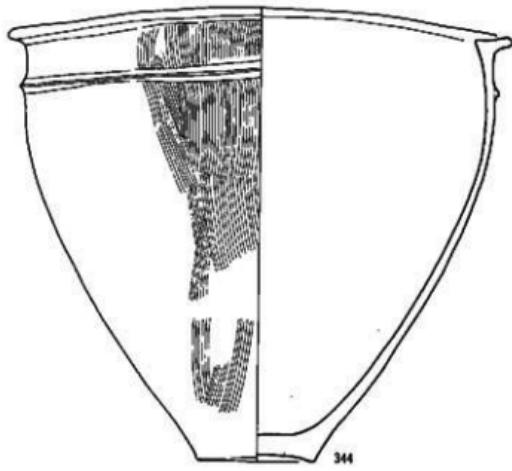
19号住居跡に西壁を切られて位置する。整理段階になって床面中央土壙が2基あることに気づき、円形住居跡が2軒重複していると判断した。床面中央土壙1を中心に配されるP1～10を20A号住居跡、床面中央土壙2を中心に配されるP11～16を20B号に伴う柱穴と考える。

20A号住居跡の柱穴はP1・2、P3・4、P5・6、P7・8が一对になって4方向に配されており、P9・10を棟持柱と考えた場合、P1～8間に入口を想定できる。平面形は偏円形を呈するが、本来の規模は既に掘ってしまっており不明。土器の他に、石劍・石錐・土錐が出土した。

出土遺物 (図版39-3・48-1・51-1、第44・46・117・121図)

土器 (345～361) 出土土器には、壺(345・346)、壺(347～359)、器台(360・361)がある。345・346は壺の底部で、345が平底、346は上底をなす。壺の口縁部は逆L字状を呈する347～349・350・351・357と内面にも突出する352・358の二者がある。底部は353が平底で、354～356・359は上底である。

360・361は器台の口縁部破片で、鼓形をなすものであろう。



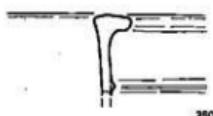
344



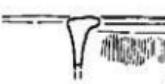
345



346



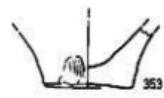
350



351



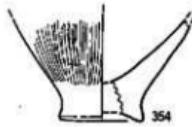
347



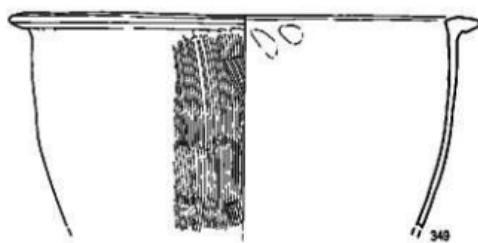
353



348



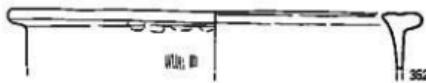
354



349



355



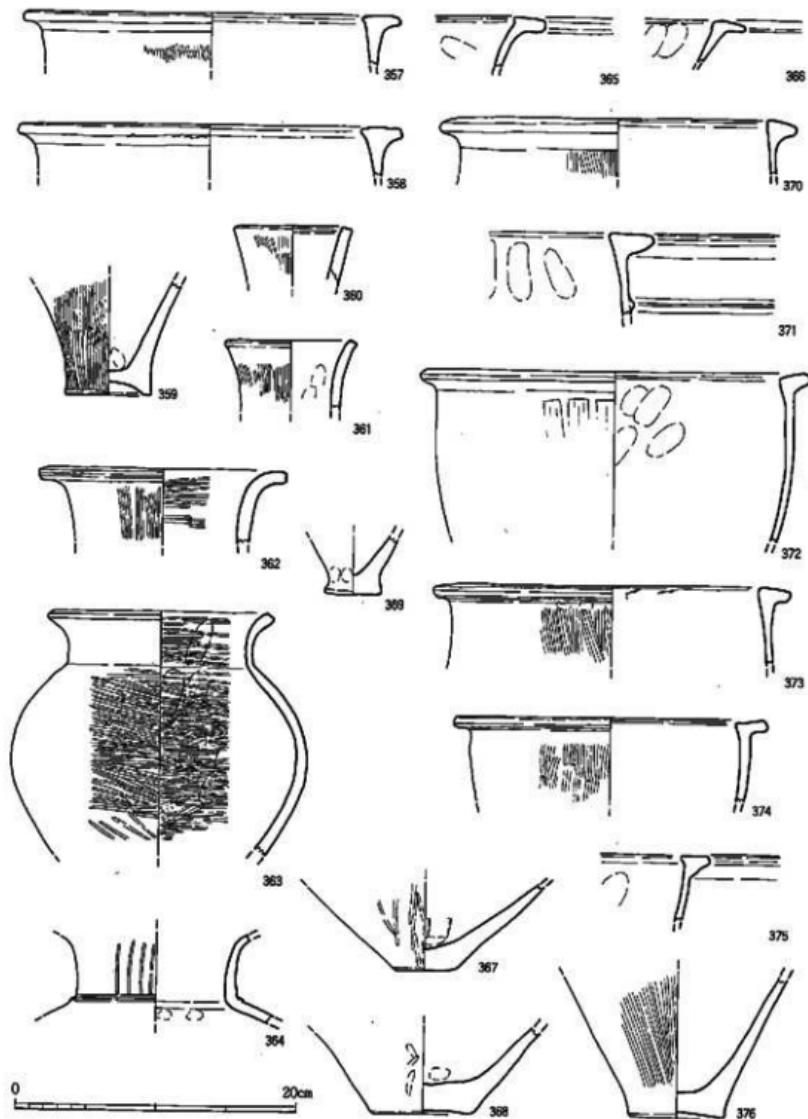
352



第 44 図 19・20号住居跡出土土器実測図 (1/4)



第45図 20号住居跡実測図 (1/60)



第46図 20・21号住居跡出土土器実測図 (1/4)

石 器 (6・8・11) 6は石錐で、側縁から調整剝離を行なう。長さ3.8cm、重さ1.8gを量る。サヌカイト製である。8は磨製石剣の先端部破片で、石材は粘板岩か。11は石製円盤で、径5.3cm、厚さ0.3cm、重さ19gを量る。側縁は打欠いた後、部分的に研磨している。片面のみ研磨しているが、円孔がなく、紡錘車の未製品になるか。石材は紅簾片岩。

土製品 (6) 6は筒形の器形で、土錐になろう。残存長4.8cm、径2.25cmで、1.0cmの円孔を設ける。焼成は良好で、明灰色を呈する。

21号住居跡（図版12-1、第47図）

20号住居跡のすぐ南側に位置し、23号住居跡・64号竪穴に切られる。また、貼床下層から24号住居跡（赤刷り分）を検出した。平面形は長円形を呈し、長軸長7.7mを測る。短軸長は南西壁が調査区外に伸展するため不詳。P1～7が柱穴であるが、P3～4間に64号竪穴・123号貯蔵穴が重複するため柱穴を検出し得ていない。本来、2本一対で4方向に配される柱配置を呈すると考えられる。床面中央土壙は円形を呈し、深さ30cmを測る。壁面は全然焼けておらず、炉跡ではない。土器の他に鉄器、ミニチュア土器などが出土した。

出土遺物（図版39-4・48-2・50-1・51-1、第46・48・49・118・120・122・123図）

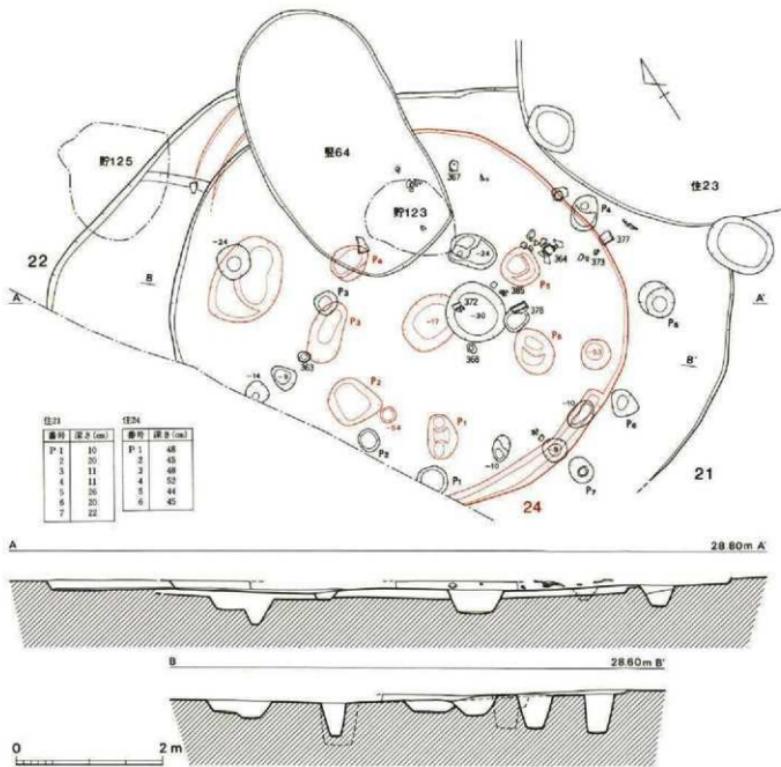
土 器 (362～391) 出土土器には壺（362～368）、甕（369～381・384・385）、甑（382）、鉢（383・391）、高坏（386・387）、器台（388～390）がある。362・363は口縁部がそのまま開く壺で、365は未発達の鋸先状口縁を呈する。367・368は底部片。甕の口縁部形態には、断面三角形を呈するもの（370）と逆L字状口縁を呈するもの（371～375・377・378）があり、371・377・378は頸部下位に凸帯を貼付している。379は胴部上位で内湾していることから鉢になるか。376は上底で、380・381は平底をなし、381は厚めの底部である。

384・385は脚部破片であるが、高台状の底部を呈することから脚台付甕になるか。382は甕の底部中央に穿孔を施し、瓶としている。383は鉢で、内外面とも丁寧なヘラミガキ調整を施す。386は高坏の口縁部片、387は脚部片である。388～390は器台で、388は鼓形を呈しよう。391は脚台部の破片で、台付鉢になるか。

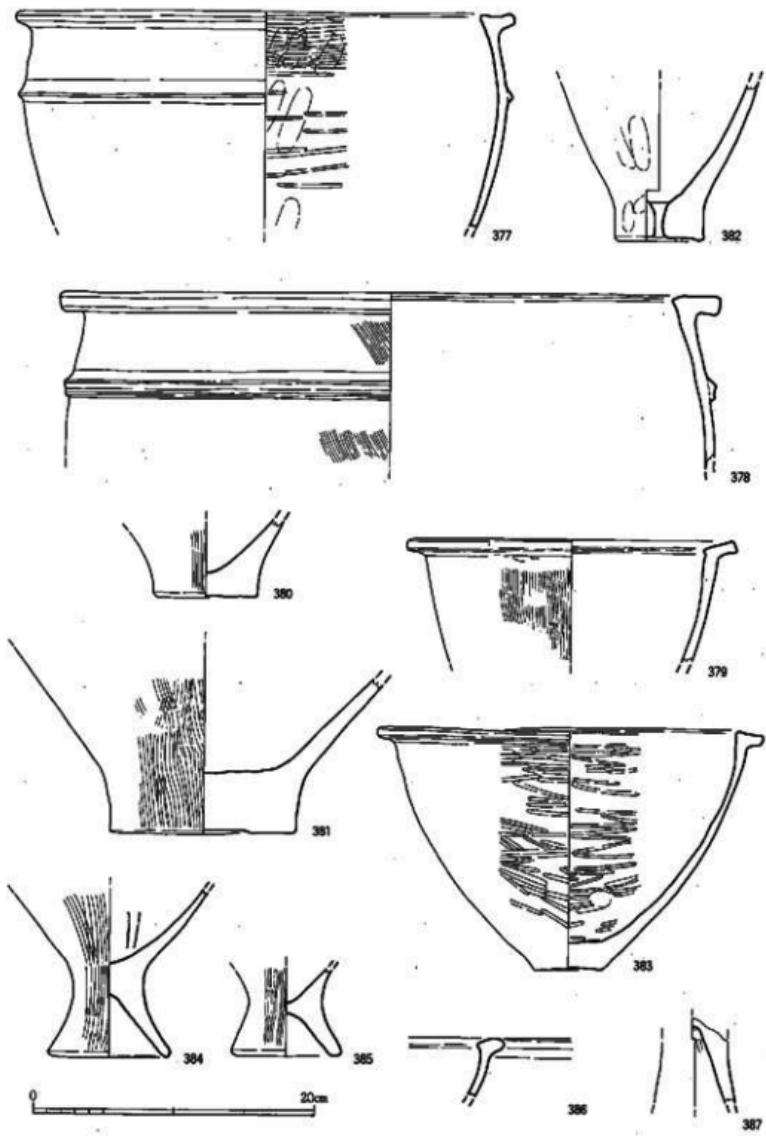
石 器 (25) 25は砥石の欠損品で、4面を砥面として使用している。砥面には線状の擦痕がみられる。石材は砂岩。

鉄 器 (3) 3は長さ7.5cm、基部幅3.0cm、重さ37.15gを量る。鋒から2.1cmの部位まで刃部・鏽を設けており、背面が若干湾曲するので鉈になろう。当遺跡の112号貯蔵穴でも出土しているが（註1），本品はそれより大きめである。

土製品 (3・17) 17はミニチュア土器の底部片で、底部は上底をなす。調整は内外面とも擦過による。焼成は良好で、紫灰色を呈する。3は投弾形土製品で、長さ4.4cm、径2.65cm、重さ28.7gを量る。焼成は軟質で、黄褐色を呈する。



第47図 21・22・24号住居跡実測図 (1/60)



第48圖 21号住居跡出土土器実測図 (1/4)

22号住居跡（第47図）

21号住居跡と重複して検出した。64号竪穴に切られ、北西壁を残すのみである。21号住居跡と当住居跡の床面レベルは等しいので、21号住居跡の床面で当住居跡に伴う柱穴が検出されるべきであるが、柱穴は検出できなかった。或は、住居跡ではないのかも知れない。遺物は土器が僅かに出土したのみ。

出土遺物（第49図）

土 器（392～399） 392～396は壺で、392・393の口縁部は断面三角形を呈し、394・395は逆L字状口縁を呈する。397は鉢形土器になるか。398は器台の底部で、傾きはもう少し起きよう。399も器台で、器面には指オサエ痕がみられる。

23号住居跡（図版12-2、第50図）

20号住居跡のすぐ南側に位置する。54・55号竪穴に切られ、21号住居跡を切っている。不整円形を呈し、長軸長5.36m、壁高は西壁側で20cmを測る。床面には多くのビットがあるものの柱穴は判然としない。また、床面下層から幅70cm、深さ10cmの溝を検出しており、もう一軒住居跡が重複していたものか。西壁側で壺が浮いた状態で出土した。

出土遺物（図版40-1、第49・51図）

土 器（400～421） 壺（400～405）、壺（406～417）、鉢（418）、蓋（419・420）、器台（421）が出土した。400の壺は口縁部が外反するもので、401・402は口縁端部を屈曲させる。403は鋤先状口縁を呈する。404・405は平底の底部。壺406～409・414・417は、肥厚する逆L字状口縁を呈する。415・416は逆L字状の口縁が内傾する壺で、416の器盤は割と薄い。406は頸部下位に三角凸帯を貼付し、414にはヘラ描き沈線が施される。

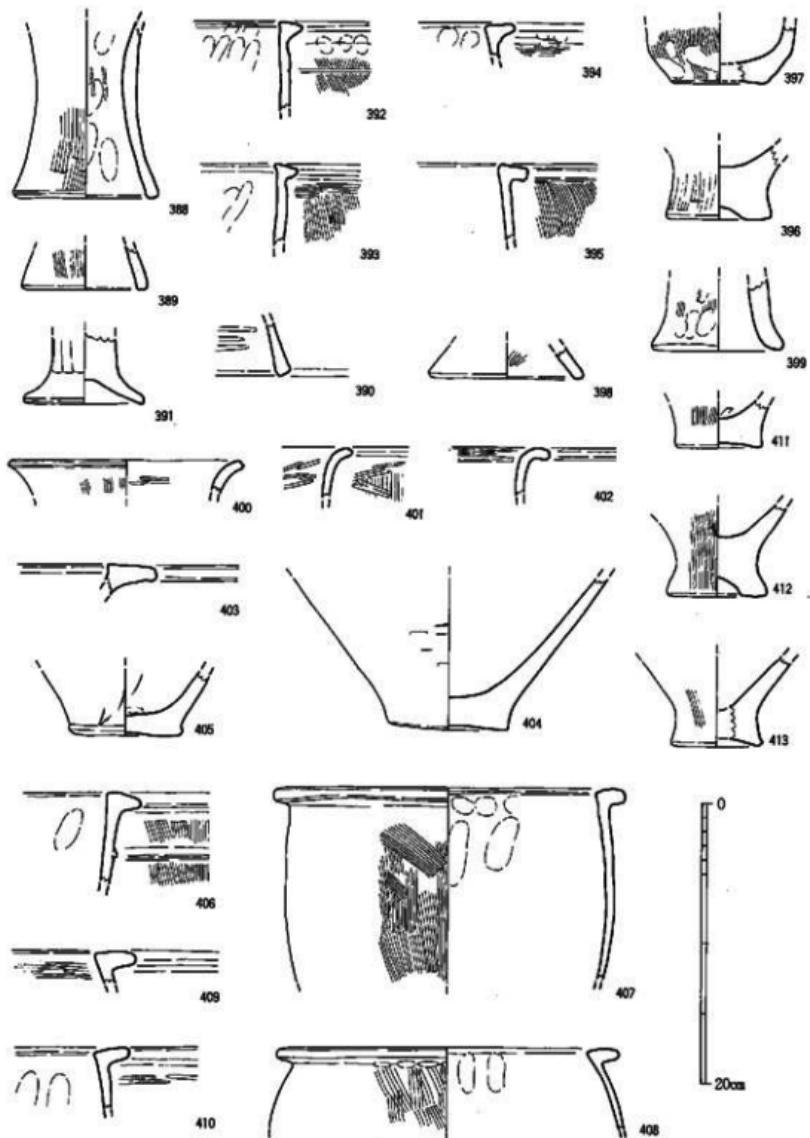
418は洗面器形の鉢で、口唇部は肥厚する。肉厚の作りが雑な土器である。419・420は蓋の口縁部破片で、421は器台の底部破片である。

24号住居跡（図版12-1、第47図）

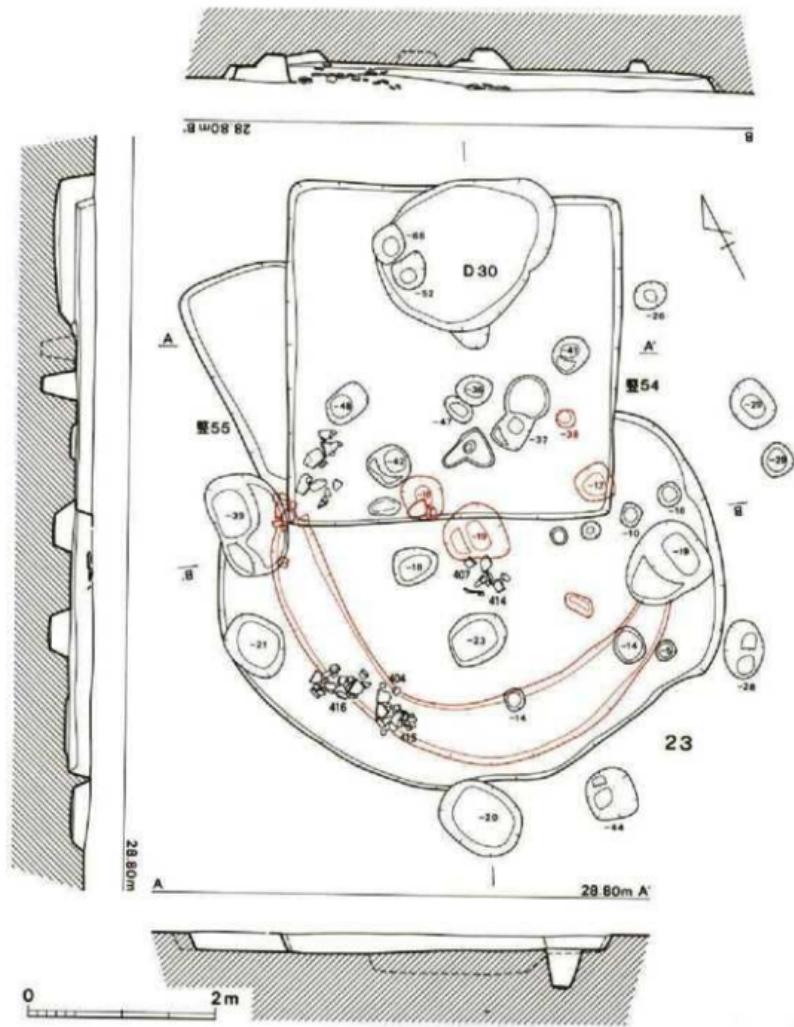
21号住居跡の貼床下層で検出した住居跡で、径は5m程になろう。柱穴はP1～6の6本で、深さは45～50cmとしっかりしている。床面中央土壤は長径83cm、短径66cmで、深さは14cmを測る。当土壤も炉跡とは言い難い。遺物は土器が出土したのみ。

出土遺物（第51・52図）

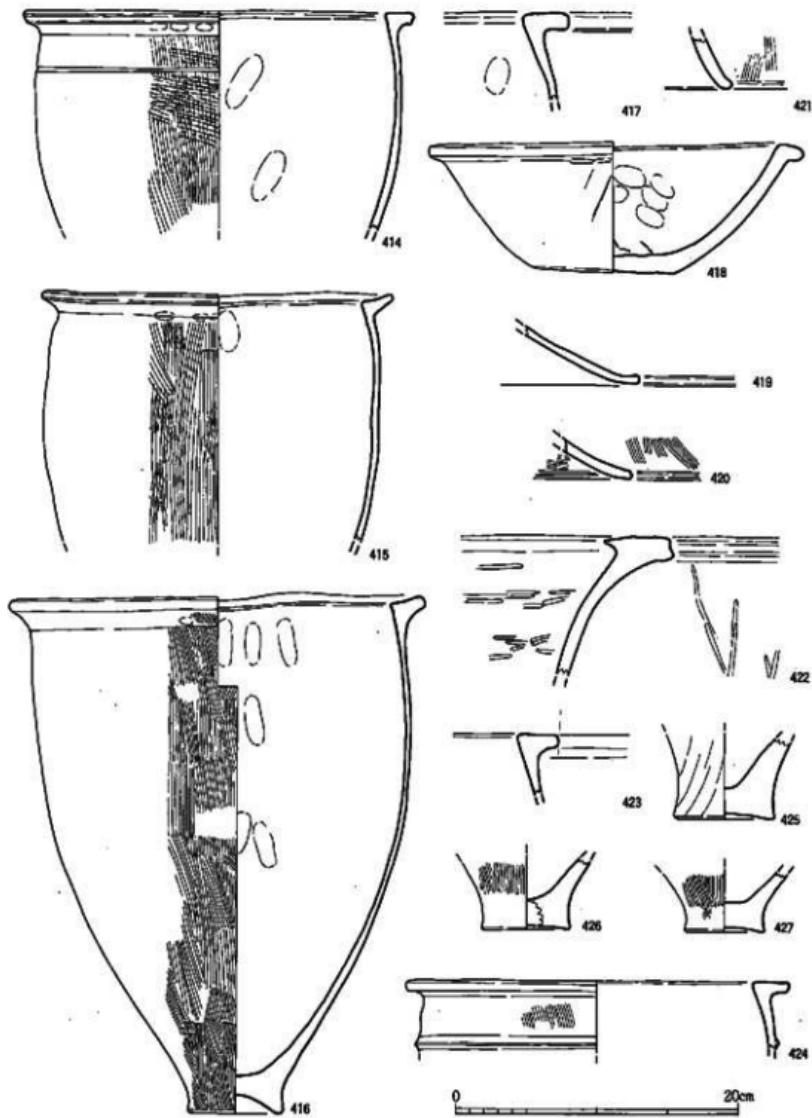
土 器（422～428） 422は壺の口縁部小破片で、鋤先状を呈する。423～428は壺で、423・424・428の口縁部は逆L字状を呈し、424・428は頸部下位に三角凸帯を貼付する。425～427は底部破片で、上底をなす。



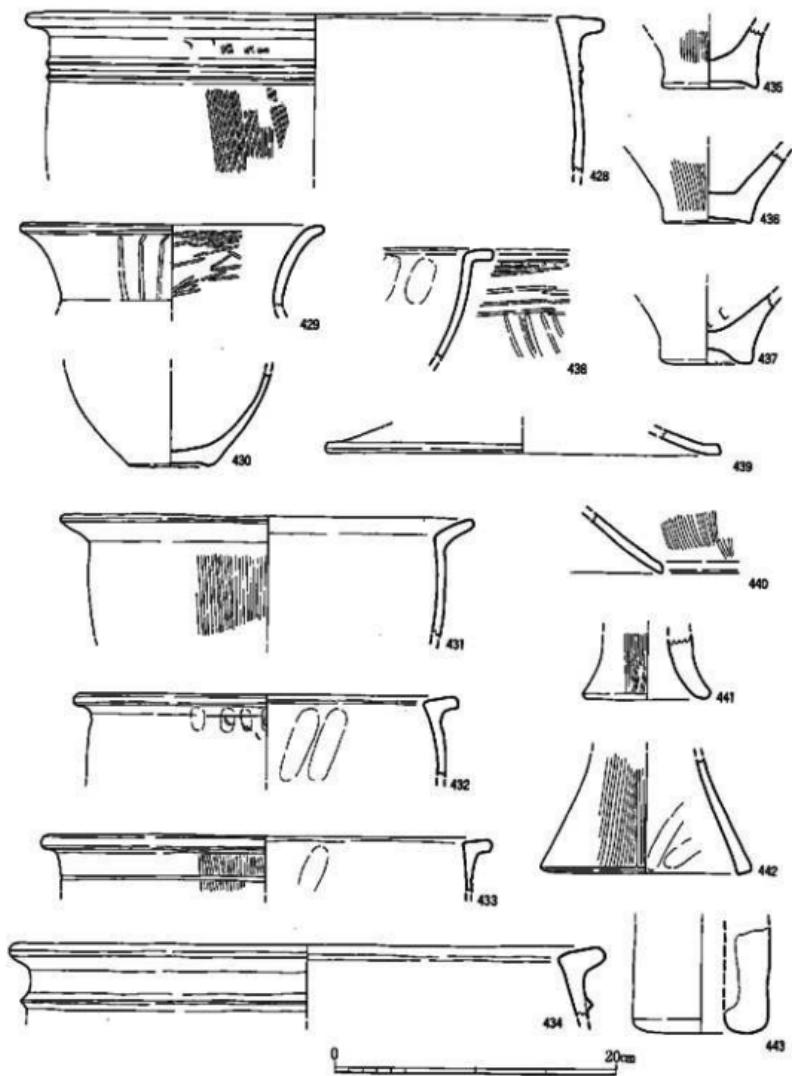
第49図 21~23号住居跡出土土器実測図 (1/4)



第50圖 23号住居跡、54・55号竪穴実測図 (1/60)



第 51 図 23・24号住居跡出土土器実測図 (1/4)



第 52 図 24・25号住居跡出土土器実測図 (1/4)

25号住居跡（第53図）

調査区の南西端に位置し、101号住居跡（古墳時代）に切られ、27号住居跡を切っている。隅丸長方形を呈し、長軸長6.46m、短軸長3.48m、壁高は東壁側で8cmを留める程度。柱穴は一応P1・2としたが、P1は柱穴とするには位置的に無理か。床面中央土壇は存在しないが、北壁側に所謂屋内土壤的な穴がある。土器の他に砥石・土製品が出土した。

出土遺物（図版48-2・51-1、第52・118・122図）

土 器 (429～443) 429は広口壺の口縁部破片で、大きく開く。430は胴下半部から底部にかけての破片。431～437は壺で、431の口縁部は「く」字形を呈する。432～434は逆L字状口縁で、433は頸部下位にヘラ描き沈線を施文し、434は三角凸帯を貼付する。435～437は底部破片で、上底を呈する。

438は鉢の口縁部破片で、口縁部は水平近く折り曲げる。439・440は壺の口縁部破片。441・442は器台の底部破片で、441は肉厚である。443は支脚の底部破片。

石 器 (26) 26は頁岩製の砥石破片である。一面のみ砥面が遺存する。

土製品 (27) 27は棒状の土製品で、脚部或は取っ手になるか。残存長7.1cm、径2.1cm。

26号住居跡（第54図）

調査区の最南端部に位置する。遺存状態は悪く、北壁を僅かに残す程度。床面には多くのピットがあるものの柱穴は判然としない。土器の他に石斧・砥石等が出土した。

出土遺物（図版48-2・51-1、第55・118・121図）

土 器 (444～452) 444は壺の底部破片。445～450は壺で、445～447の口縁部は逆L字状を呈する。448～450は底部破片で、上底を呈する。451・452は鼓形の器台で、口縁部を欠く。

石 器 (27・28) 27は柱状の砥石で、長さ7.6cm、幅3.4cmを測る。四周を砥面として使用している。28は柱状片刃石斧で、両端部を折損する。中央での幅1.3cm、厚さ0.9cmを測る。しかし、石材が粘板岩であることから棒状の砥石になるか。

土製品 (5) 5は土器片軽用の土錠で、側縁を粗く研磨している。

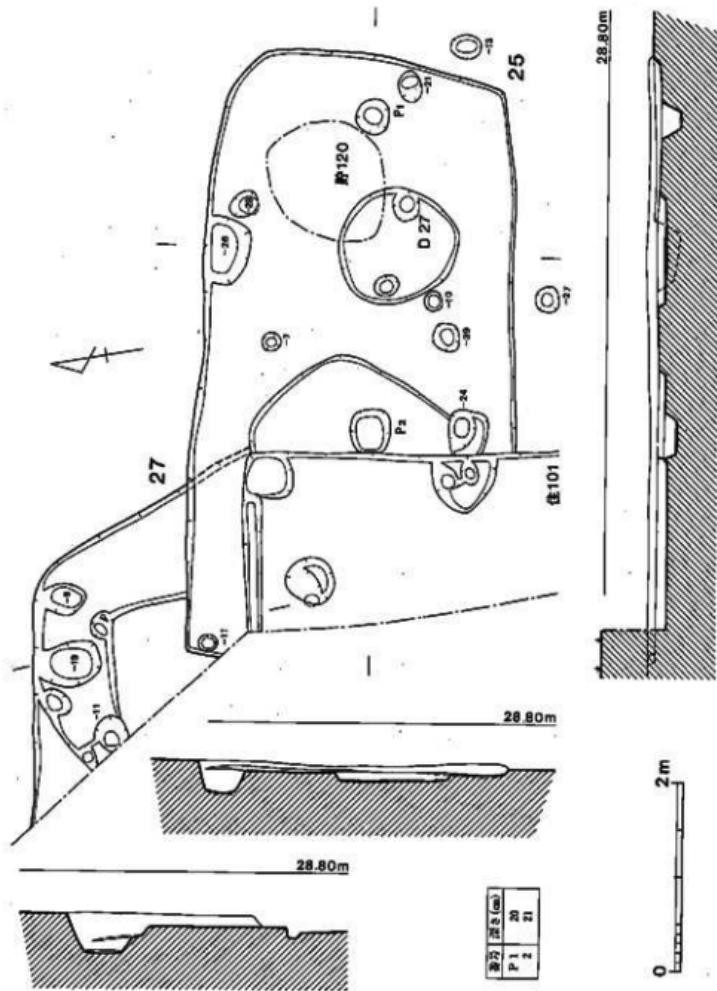
27号住居跡（第53図）

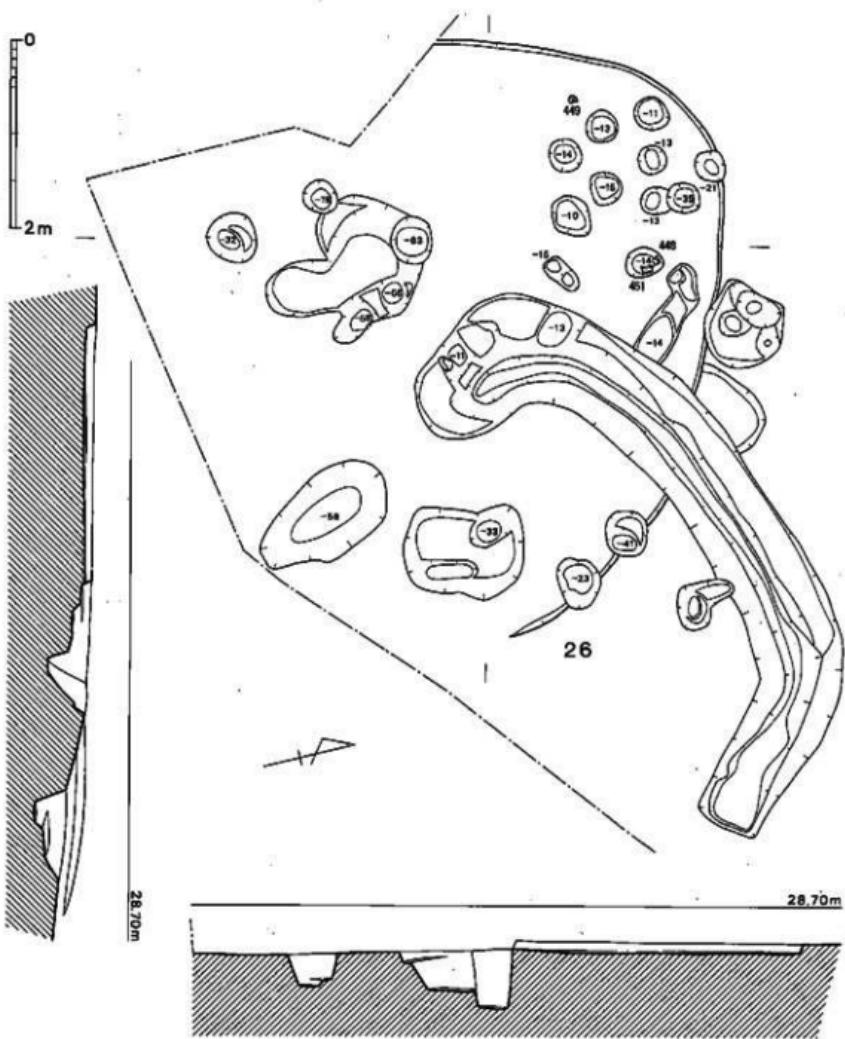
調査区の南西端に位置し、25号住居跡に切られる。北壁の一部を残し大半が調査区外に伸展するため詳細は不明。

出土遺物（第55図）

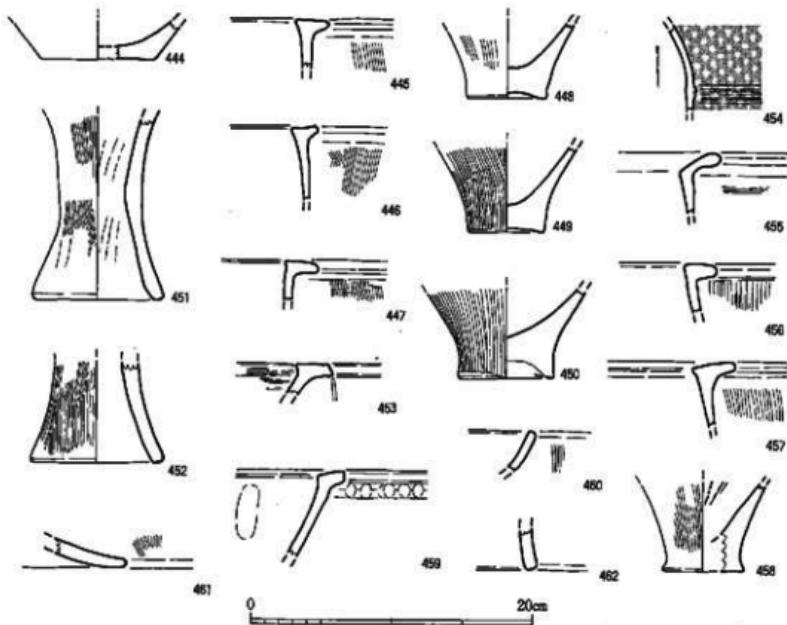
土 器 (453～462) 453・454は壺で、453は口縁部小片。454は胴部片で、M字形凸帯を貼付する。455～458は壺で、455は「く」字形に屈曲する。456・457は逆L字状口縁を呈し、口縁部平坦面は内傾する。458は底部破片。459・460は鉢で、459は口縁部を水平近く折り曲げる。

第53圖 25・27号住居跡実測図 (1/60)





第 54 図 26号住居跡実測図 (1/60)



第55図 26・27号住居跡出土土器実測図 (1/4)

460は口縁部を丸く納める。461は壺の口縁部小片で、462は器台の底部破片。

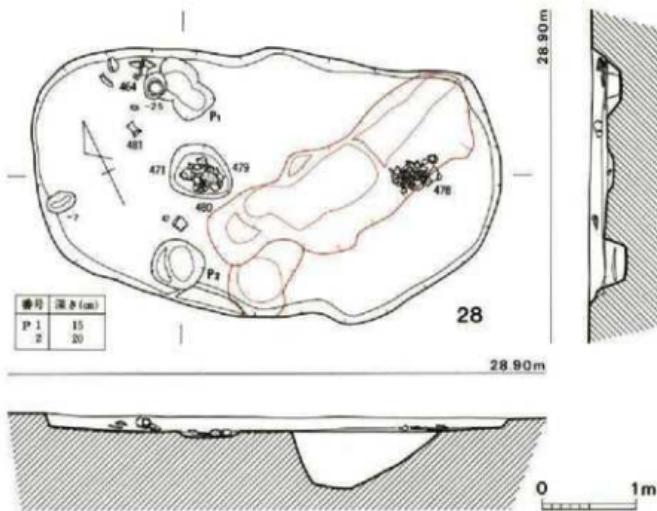
28号住居跡 (図版13-1, 第56図)

11号住居跡の5m北西側に単独で位置する。平面形は長円形状を呈し、長軸長4.98m、短軸長2.86m、壁高は西壁側で14cmを測る。P1・2は住居西寄りの壁際にあるが、深さが15~20cm程で、柱穴になろう。床面の東側と西側の2ヶ所に土器の一群がみられた。また、床面の下層に長さ3.3m、幅1m、深さ0.6mの土壌がある。

出土遺物 (図版40-2, 第57・58図)

土器 (463~482) 出土土器には、壺(463~471)、甕(472~478)、器台(479~481)、支脚(482)がある。463~465・467・468は鋸先状口縁壺で、463は口縁部平坦面にX字形の文様を施文する。466は壺部、470は肩部の破片。471は壺の底部で、平底を呈する。

甕472・473・476~478の口縁部は逆L字状を呈し、473を除き肥厚する。475の口縁部は「く」



第56図 28号住居跡実測図 (1/60)

字状を呈し、端部は丸く納める。479～481は鼓形を呈する器台で、口径と底径はほぼ等しい。482は短脚であるが、支脚になるか。

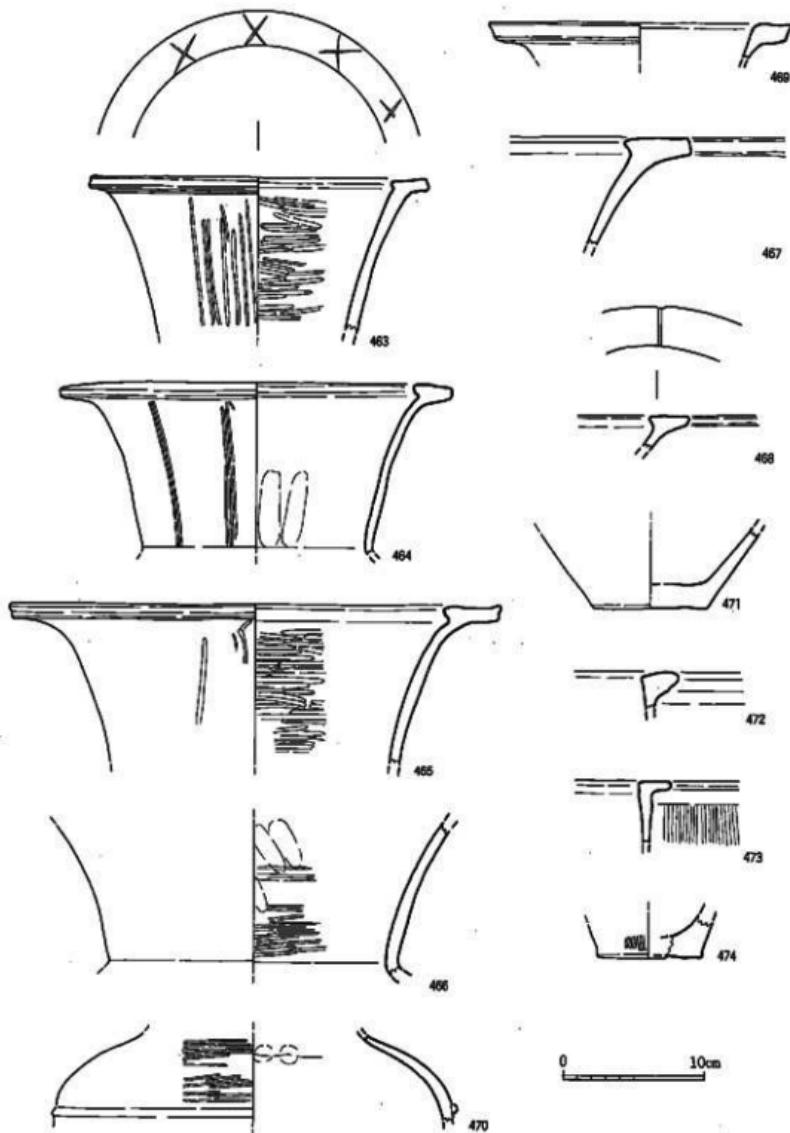
29号住居跡（第59図）

28号住居跡の4.5m北西側で、同住居跡と長軸を等しくして位置する。南壁コーナーは奈良時代の107号住居跡に切られる。平面形は長円形を呈し、長軸長4.96m、短軸長2.98m、壁高は北西壁側で15cmを留める程度。床面中央に径66cm、深さ22cmの穴があるので柱穴とすべきピットはない。また、竪穴部外にも適当なピットはなく、或は周堤部に存在したものか。

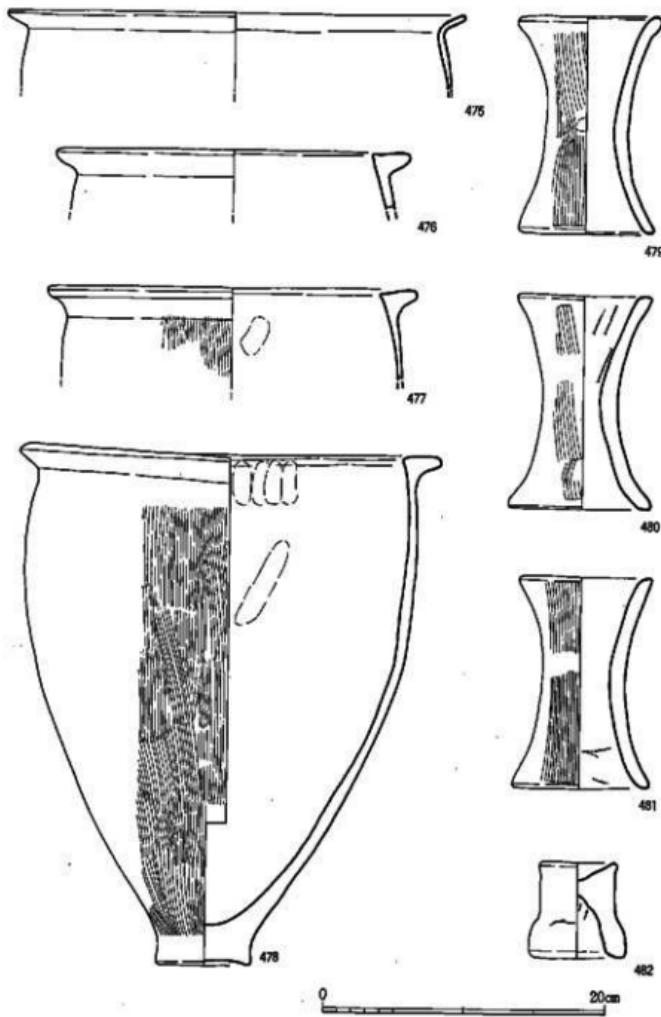
出土遺物（図版41-1、第60図）

土器 (483～492) 483・484は壺で、483は口縁部小片。484は頸部～底部破片で、胴部中位とその上方にM字形凸帯を貼付する。底部は平底である。485～491は壺である。口縁部形態は、485が如意形、486は三角形、487～491は逆L字状を呈する。485・487・488は頸部下位にヘラ書き沈線を施す。

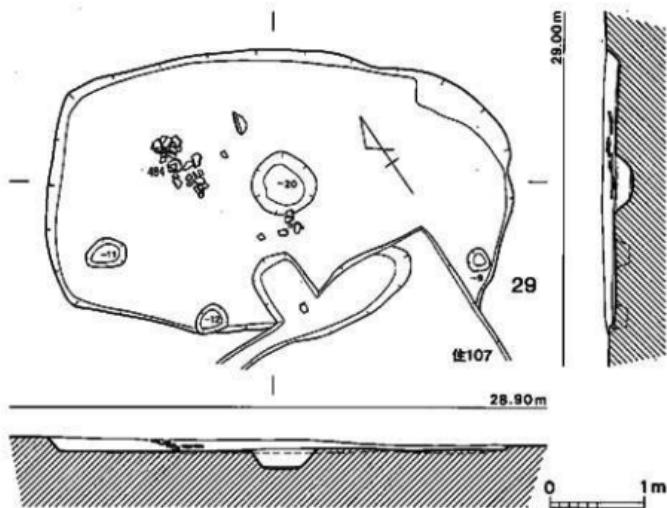
492は小型の鉢で、口縁部がそのまま開く。胴部中位に太めの三角凸帯を貼付する。



第 57 圖 28號住居跡出土土器実測図① (1/4)



第 58 図 28号住居跡出土土器実測図② (1/4)



第 59 図 29号住居跡実測図 (1/60)

30号住居跡 (図版13-2, 第61図)

10号住居跡の 6 m 西側に単独で位置する。平面形は隅丸方形を呈し、長軸長3.82m、短軸長3.38m、壁高は南西壁側で13cmを留める程度で、遺存状態は悪い。P1・2を柱穴とした。また、床面中央には径40cm、深さ34cmのしっかりしたピットがある。

出土遺物 (第60図)

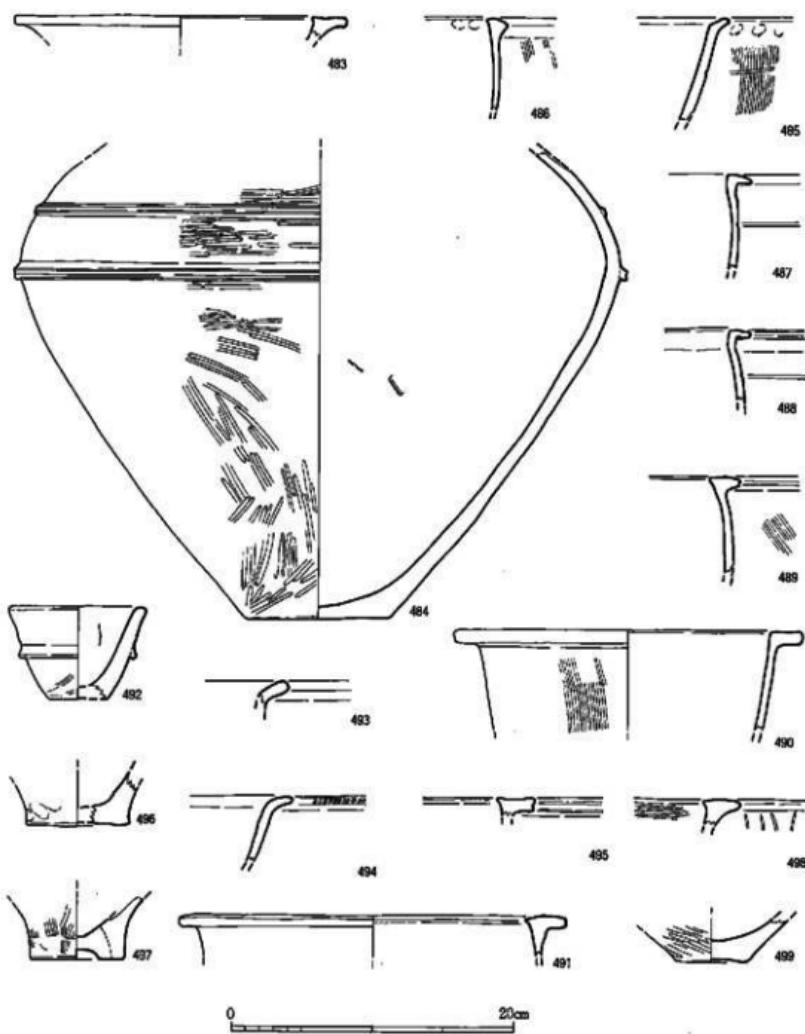
土 器 (493~497) 493~497は壺で、493~495は口縁部小片。494は如意形を呈し、口唇部にキザミ目を付す。496~497は底部片で、497は上底をなす。

31号住居跡 (図版14-1, 第61図)

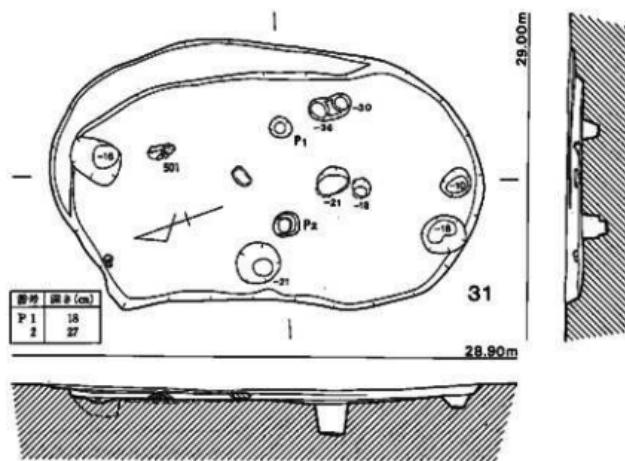
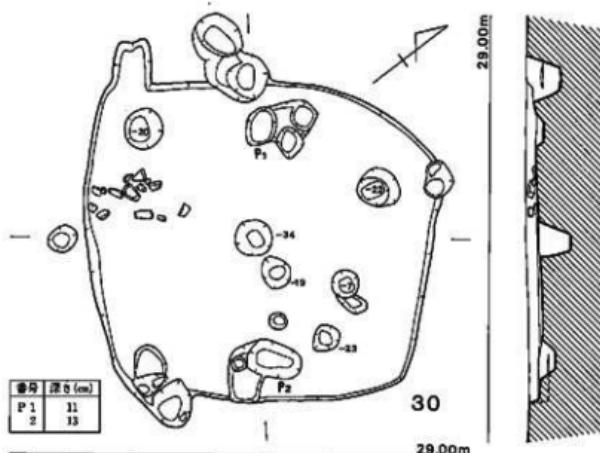
30号住居跡の 2 m 北側に単独で位置する。長軸は北西—南東方向にあり、28・29号住居跡とは直角関係に位置する。平面形は小判形を呈し、長軸長4.64m、短軸長2.8m、壁高は西壁側で14cmと当住居跡も遺存状態は悪い。また、東壁側には幅35cmのテラスを有する。住居跡中央に位置する P1・2が主柱穴で、柱間は0.8mを測る。炉跡は不詳。

出土遺物 (図版41-2, 第60・63図)

土 器 (498~512) 498~502は壺で、498は口縁部小片。499・500は底部破片で、上底と



第 60 図 29~31号住居跡出土土器実測図 (1/4)



第 61 図 30・31号住居跡実測図 (1/60)

いうよりは若干瘤む程度。501・502は胴部破片。501は胴部中位にコ字形凸帯を2条貼付する。

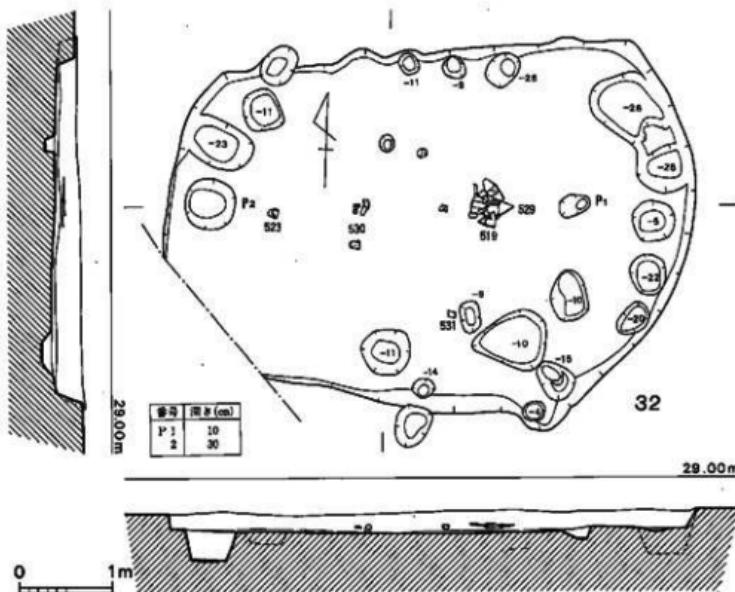
503～512は壺で、503は如意形口縁を呈し、下層貯藏穴の混入品であろう。504・505は「く」字状を呈し、504の端部は若干肥厚する。506は逆L字状口縁、507は亀の甲タイプの口縁を呈する。508～512は底部破片で、508・512が平底。509～511は上底をなす。

32号住居跡（図版14-2, /第62図）

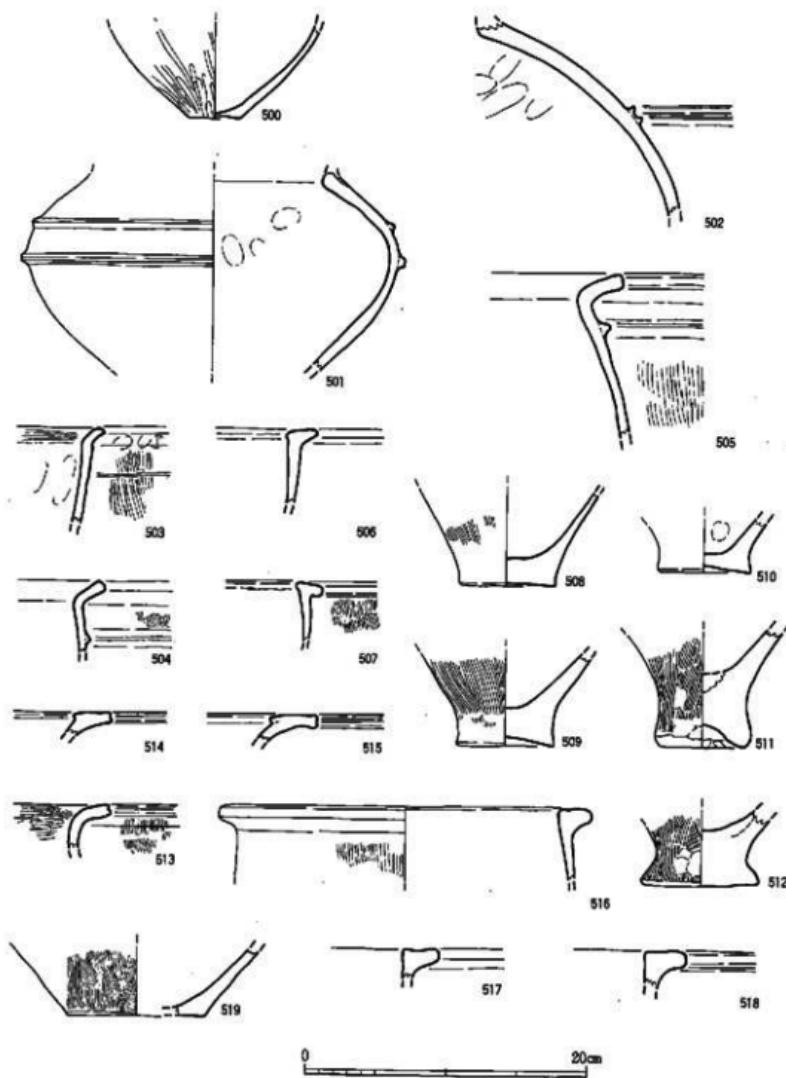
31号住居跡の2m西側に位置し、49号竪穴を切る。長軸を東西方向に取り、後述する34～38・40・47・51・53・55号住居跡と長軸方向を等しくして配される。平面形は小判形を呈し、長軸長5.64m、短軸長3.92m、壁高は南壁側で0.3mを測る。壁際の周囲には多くのビットがあるが、一応P1・2を主柱穴とした。周囲の穴の一部は補柱穴になろう。当住居跡も畑跡は判然としない。また、屋内土壌もみあたらない。

床面の西側に砾の集積がみられた。埋土中から磨製石剣・鉄器片が出土している。

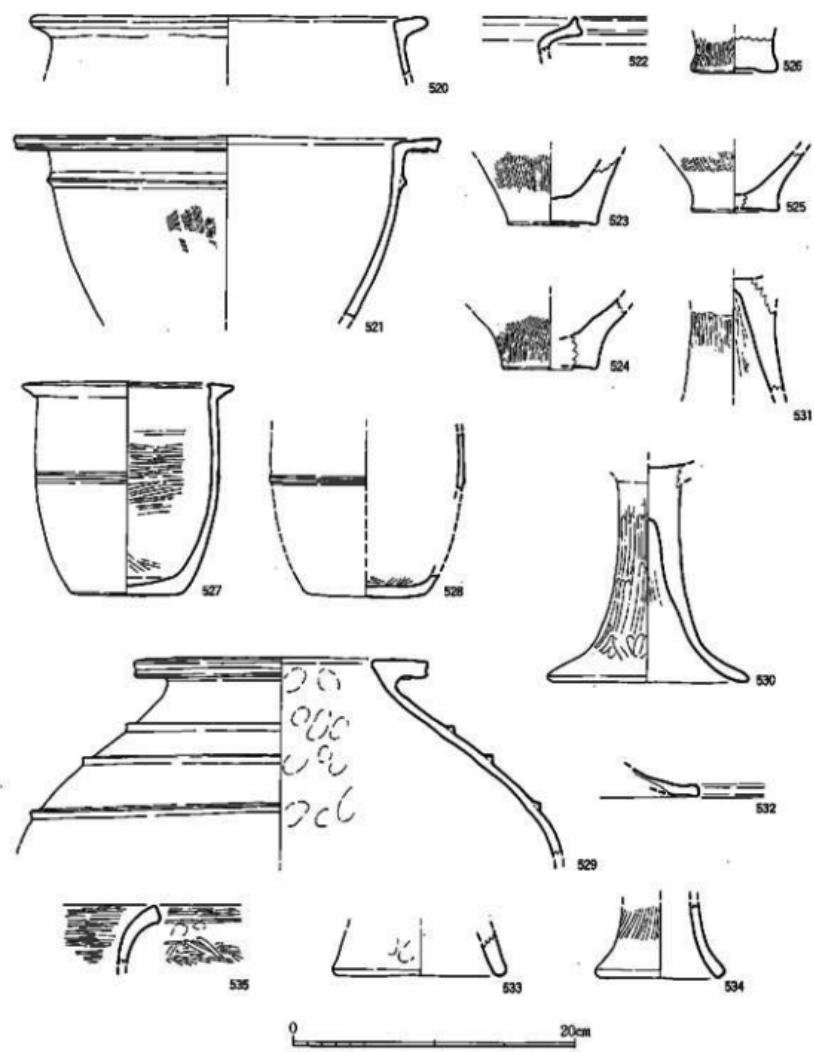
出土遺物（図版41-3・48-1・50-1・51-3, 第63・64・117・120・123図）



第62図 32号住居跡実測図 (1/60)



第 63 図 31・32号住居跡出土土器実測図 (1/4)



第 64 図 32・33号住居跡出土土器実測図 (1/4)

土 器 (513~534) 壺(513~515・529), 壺(516~518・520~526), 鉢(519・527・528), 高坏(530・531), 蓋(532), 器台(533・534) が出土した。

壺513は口縁部が鉤状に外反するもので、514・515は鋸先状口縁を呈するもの。529は無頸壺で、頸部の締りは良い。胴部には3条の三角凸帯を貼付する。

壺516~518・520は肥厚する逆L字状口縁を呈する。522は「く」字状口縁を呈し、端部を跳ね上げる。523~526は底部破片で、平底を呈する。527・528は鉢で、橢形の脇部を呈する。胴部中位にシャープな凸帯を有する。530・531は高坏の脚部破片。532は蓋の口縁部小破片。533・534は器台の底部破片である。

石 器 (9) 9は磨製石剣で、二つに折れた状態で出土した。基部を欠くが、基部付近の両側縁を擦切り、関部としている。鍔は関部まで通り、刃部は刃こぼれしている。残存長15.7cm, 刃部長13.4cm, 刀部最大幅3.1cmを測る。石材は粘板岩。

鐵 器 (4) 4は刀子の鋒片で、切出しナイフ形を呈する。長さ5.5cm, 幅2.0cm, 厚さ0.4cm, 重さ10.5gを量る。

土製品 (5) 5は投弾形土製品の半欠品で、残存長3.9cm。

33号住居跡（第65図）

32号住居跡の1m南側に位置し、50号竪穴に切られる。北壁の一部を残すのみで、詳細は不明。遺物は土器が出土した程度。

出土遺物（第65図）

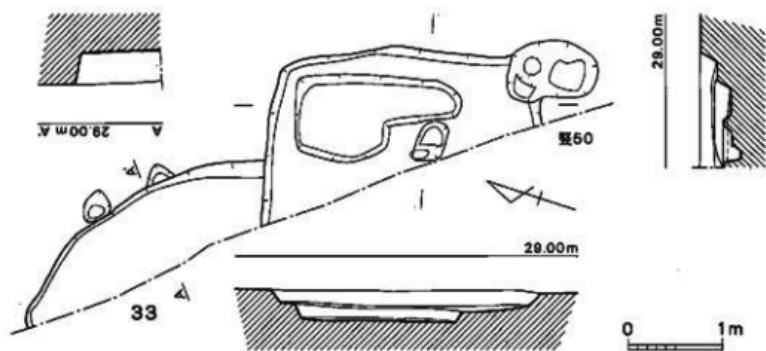
土 器 (535) 535は壺の口縁部小破片。

34号住居跡（図版15, 第65図）

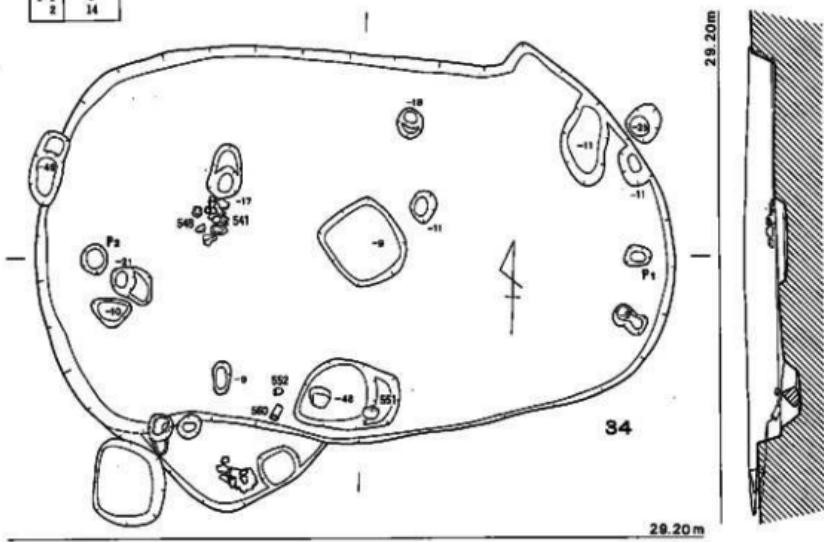
32号住居跡の9m北側に位置し、115~118号住居跡（奈良時代）に切られる。長軸は東西方向にあり、長軸長6.82m、短軸長4.18m、壁高は西壁側で0.34mを測る。P1・2の2本を支柱穴としたが、9~14cmと浅い。また、床面の中央に一辺80cmの方形土壙があり、その南側には屋内土壙がある。屋内土壙は長軸105cm、短軸74cm、深さ20cmを測り、東側に幅17cmのテラスを設けている。その中からは無頸壺と碟が出土した。屋内土壙の西側からは、器台・壺形の小型土器が出土している。

出土遺物（図版41-4・50-1・51-2, 第66・68・120・122図）

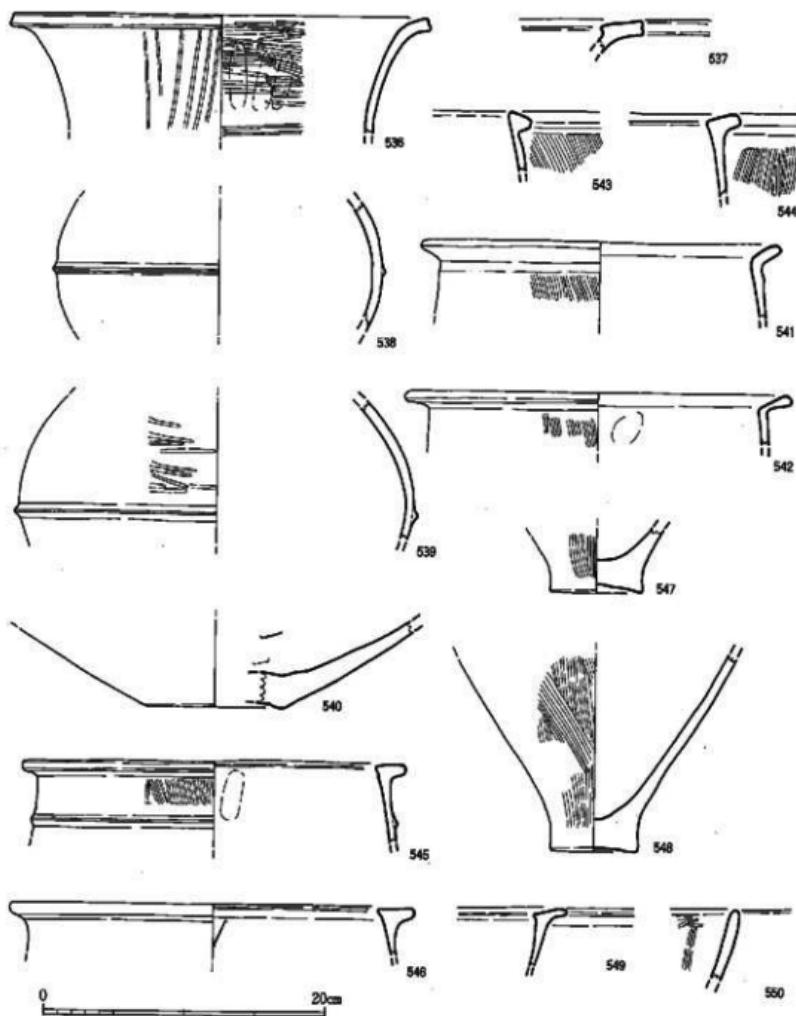
土 器 (536~560) 536~540・551・553は壺で、536の口縁部は大きく開く。538・539は胴部破片で、胴部中位に三角凸帯を貼付する。540は底部破片。551は短頸壺で、肩部に2個一組の円孔を2ヶ所に穿つ。541~548・554・555は壺で、541・542の口縁部は「く」字状口縁を呈し、542の端部は肥厚する。543は三角形を呈し、544~546・554は逆L字状口縁を呈する。



番号	深さ(cm)
P 1	9
2	14



第 65 図 33・34号住居跡, 50号竪穴実測図 (1/60)



第 66 図 34号住居跡出土土器実測図 (1/4)

555は胸部の張りが著しい。547・548は底部破片で、547は上底、548は平底をなす。552は小型の壺形土器で、口縁部は小さく外反し、胴部中位に稜を有する。549・550は鉢で、550の口唇部は丸く納める。557は蓋で、口縁部は掘広がり。558～560は器台で、560は鼓形を呈する。

鉄 器 (7) 7は楔形を呈し、残存長3.4cm、幅1.2cmを測る。用途は不明。

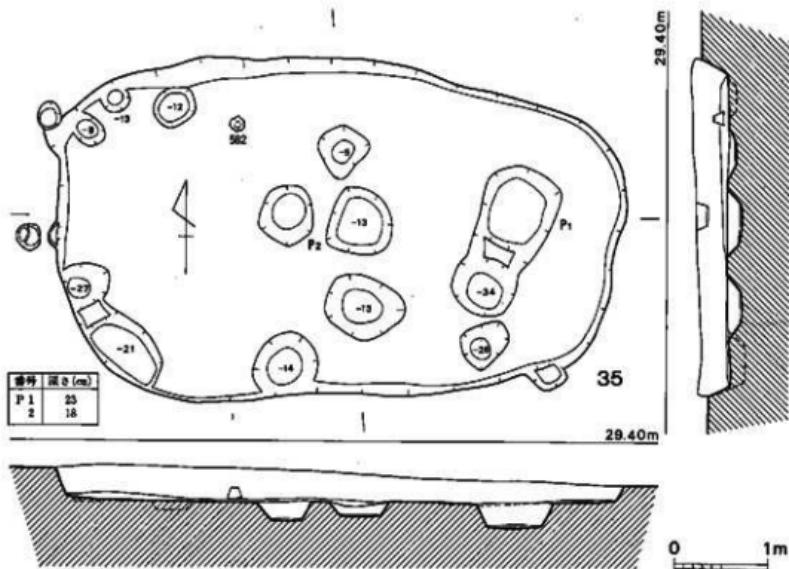
土 製 品 (16) 16は変形のミニチュア土器で、残高3.5cmを測る。

35号住居跡 (図版16-1, 第67図)

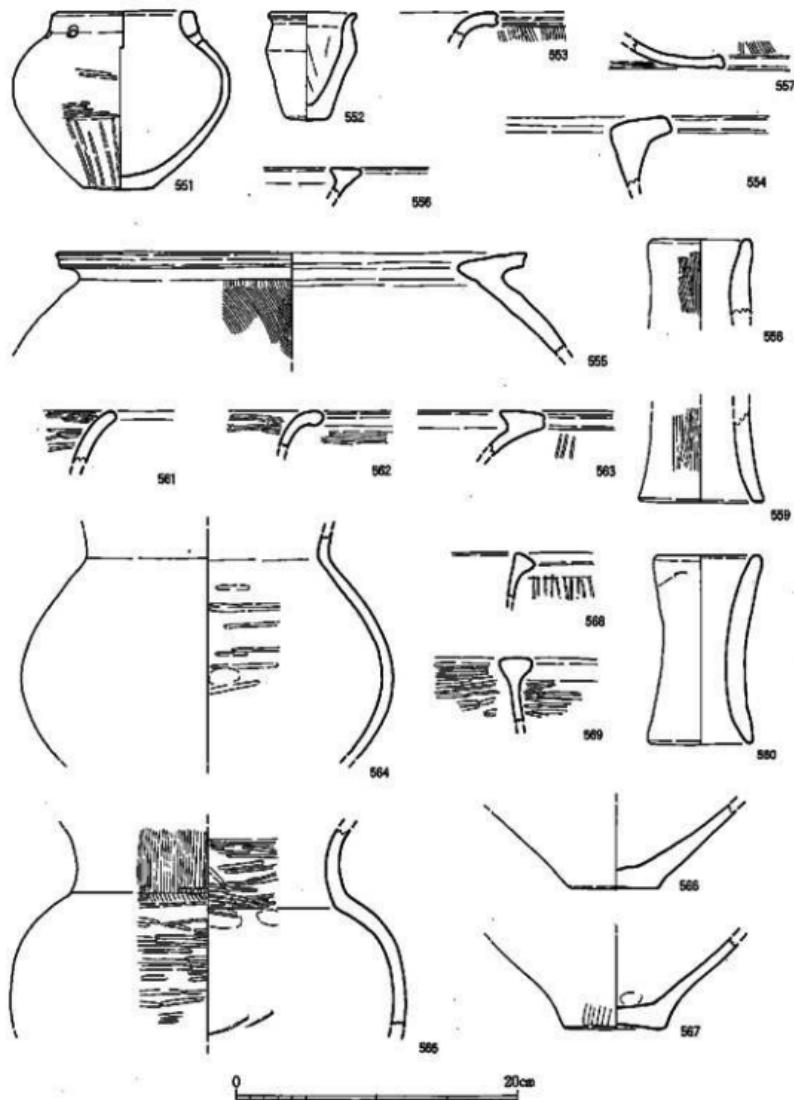
34号住居跡の1.7m西側で、長軸方向を等しくして配される。平面形は小判形を呈し、長軸長6.08m、短軸長3.58mを測る。比較的遺存状態の良好な住居跡で、壁高は西壁側で0.3mを測る。主柱穴はP1・2とした。当住居跡も炉跡は判然としない。

出土遺物 (図版41-5・49-1, 第68・69・118図)

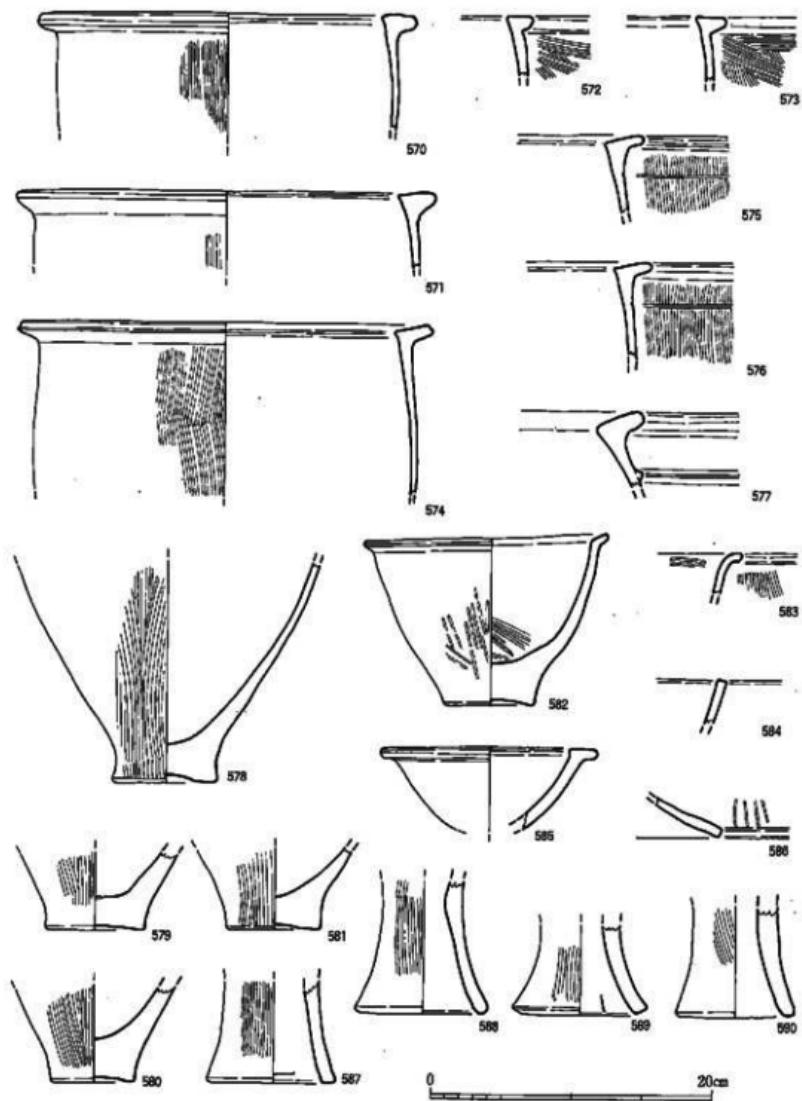
土 器 (561～590) 561～567は臺で、561の口縁部はそのまま外反する。562は鉢形に屈曲する。563は鋸先状口縁を呈する。564・565は頸部～胴中位にかけての破片で、564は撫で肩、565は怒り肩を呈する。566・567は底部破片で、566は平底、567は若干の上底をなす。



第 67 図 35号住居跡実測図 (1/60)



第 68 図 34・35号住居跡出土土器実測図 (1/4)



第 69 図 35号住居跡出土土器実測図 (1/4)

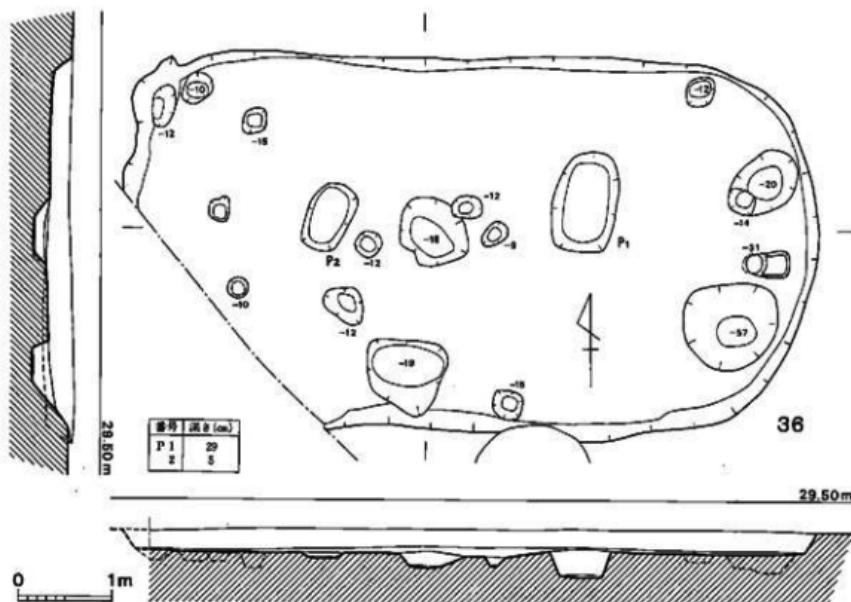
568～581は変で、568の口縁部は三角形を呈し、570～573は肥厚する逆し字状口縁を呈する。574～577は逆し字状口縁を呈するが、口縁部平坦面が内傾する。また、575・576は頭部下位にヘラ描き沈線を、577は三角凸帯を貼付する。578～581は底部破片で、若干の上底をなす。

582～584は鉢で、582の口縁部は外方に小さく屈曲する。底部は上底で、分厚い。584の口唇部は平坦である。585は高坏であるが、口径はもう少し大きくなろう。586は蓋の口縁部小片。587～590は器台の底部破片。何れも鼓形を呈しよう。

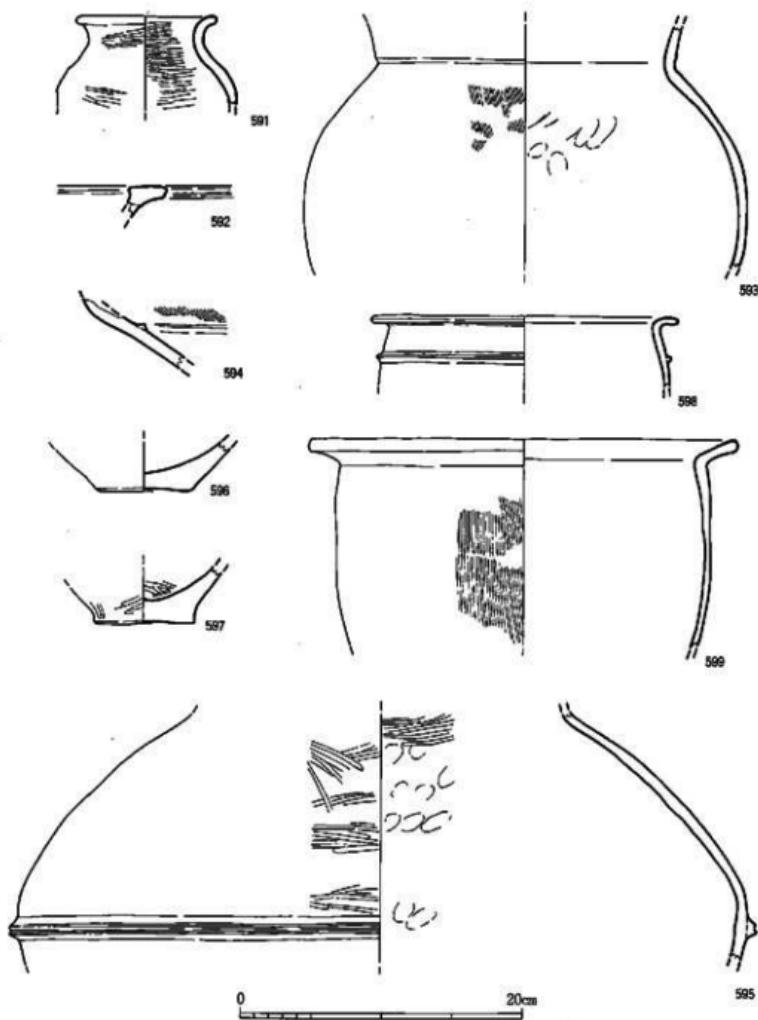
石 器 (17) 17は三角形の石包丁で、長さ12.6cm、幅5.0cm、重さ60gを量る。背は若干内湾している。円孔は主に片面より穿孔しており、刃部は刃こぼれが著しい。石材は凝灰岩。

36号住居跡（図版16-2・17-1、第70図）

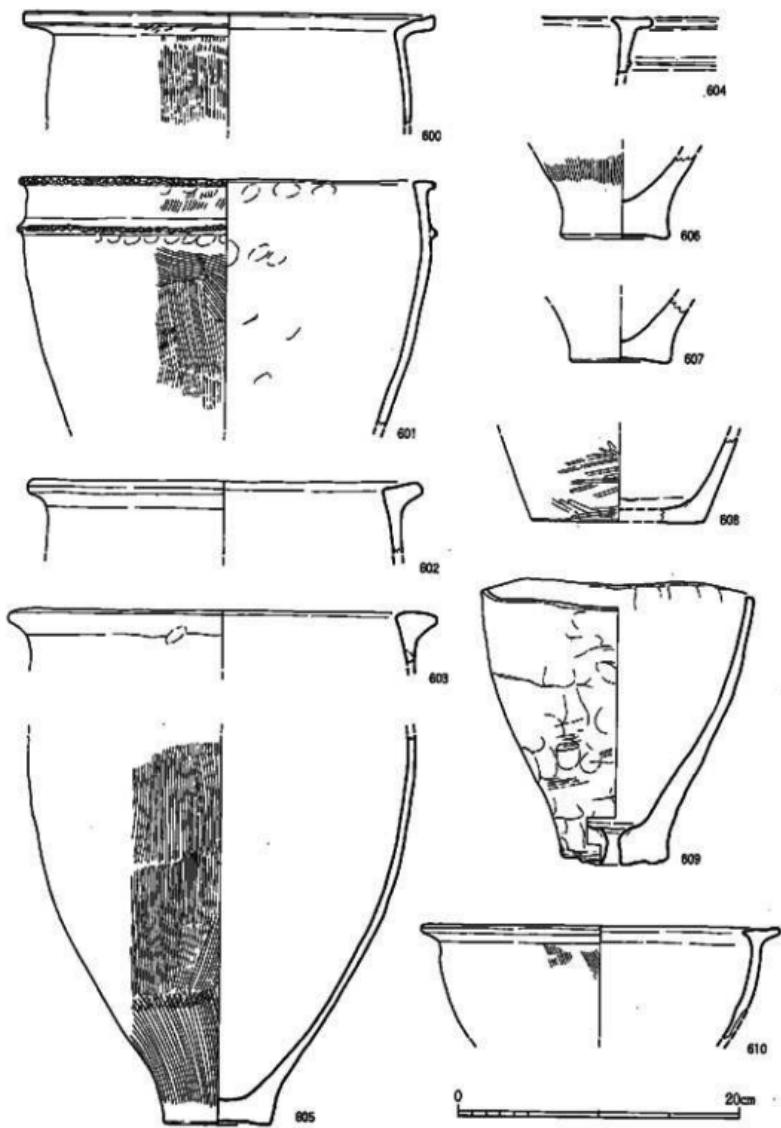
35号住居跡の6m北西側で、長軸方向を等しくして配される。平面形は小判形を呈し、長軸長7.42m、短軸長4.12m、壁高は東壁側で0.22mを測る。P1・2を主柱穴としたが、P2は5cmと浅い。床面中央土壇の南側には屋内土壇がある。床面より浮いた状態で、土器・円環が多量



第70図 36号住居跡実測図 (1/60)



第 71 図 36号住居跡出土土器実測図① (1/4)



第 72 図 36号住居跡出土土器実測図② (1/4)

に出土しており、住居跡廃絶後の投棄によるものと考えられる。

出土遺物 (図版42-1・51-1, 第71・72・74・121図)

土 器 (591~617) 出土土器には、壺(591~597), 壺(598~607), 鉢(608), 高坏(610・611), 瓢(609), 盖(612~614), 器台(615~617)がある。

591は小型の壺で、口縁部は弓なりに屈曲する。592は口縁部小片。593は頸部～胴中位の破片であるが、凸帯は貼付していない。594・595は肩部の破片で、594は上位に、595は中位に凸帯を貼付している。596・597は平底の底部破片。

598~607は壺で、599・600は「く」字状口縁を呈する。598は口縁部を水平に折り曲げ、頸部下位に三角凸帯を貼付する。601は口唇部と凸帯にキザミ目を施している。602は口縁部平坦面が内傾するもので、603は三角形、604はT字形を呈する。605は口縁部を欠く。606・607は底部破片で、外底部が若干窪む。

608は鉢の底部にならう。609は瓢で、底部に穿孔を有する。口縁部は平坦面を有し、器面調整は、指オサエ風のナデによる。概して雑なつくり。610・611は高坏の口縁部破片。612~614は蓋で、612は富士山形を呈する。口縁部の内外面に煤が付着している。613は撮み部、614は口縁部の破片。615~617は器台で、615は鼓形を呈する。口径が底径よりもやや小さい。617は概して粗雑なつくり。

土製品 (4) 4は土器片転用の土錠で、側縁を擦っている。残存幅5.4cm。

37号住居跡 (図版17-2, 第73図)

36号住居跡の8m北西側に長軸方向を等しくして位置する。短軸長は4.74mで、壁高は北壁側で0.22mを測る。南壁が調査区外に伸展するため長軸長は不明。平面形は小判形を呈しよう。東壁には幅30cmのテラスを設ける。主柱穴は2本と考えられるが、P2は調査区外に存するものであろう。調査区側の不整形の穴が炉跡になるか。P1内から石包丁が、北壁際からミニチュア土器が出土した。

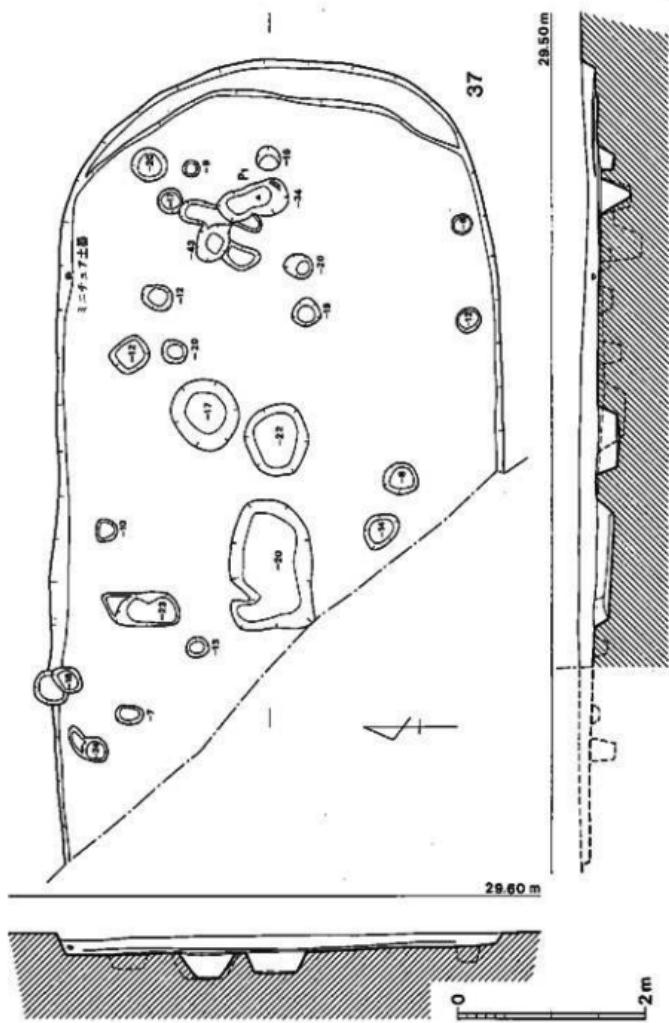
出土遺物 (図版49-1・50-2, 第74・118・122図)

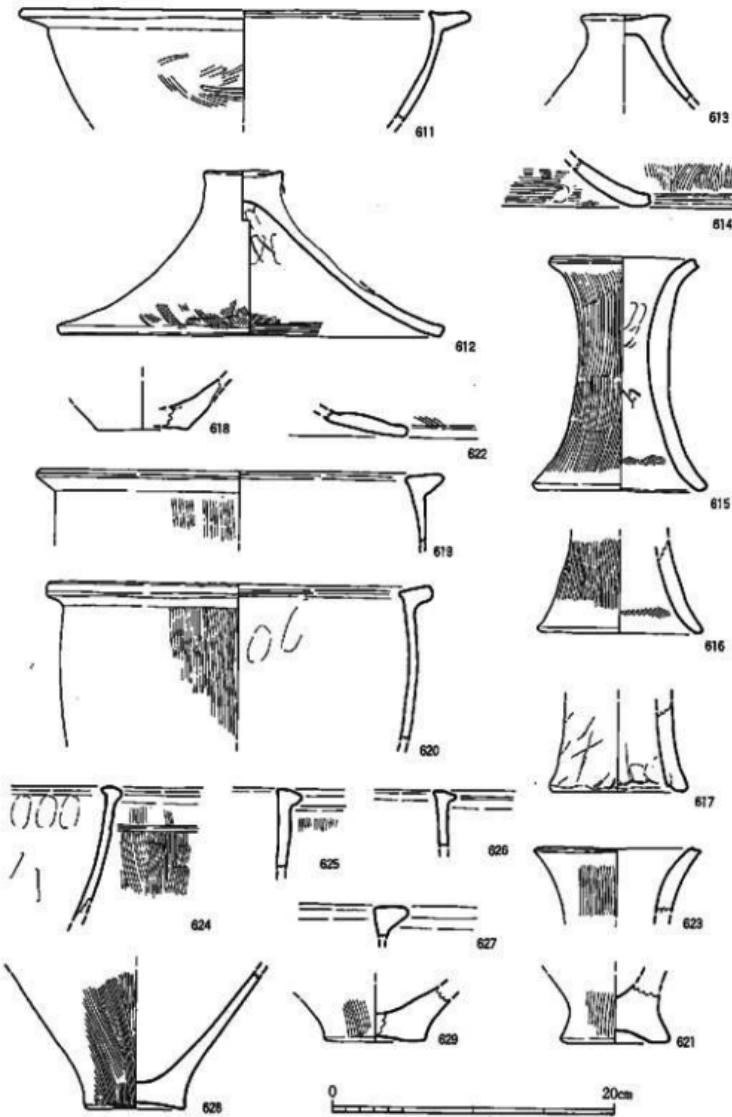
土 器 (618~623) 618は壺の底部小片。619~621は壺で、肥厚する逆L字状口縁を呈する。620の口縁部平坦面は内傾する。621は底部破片で、上底を呈する。622は蓋の口縁部破片。623は器台の口縁部破片である。

石 器 (18) 18は石包丁で、長さ15.4cm, 幅3.7cm, 厚さ0.5cm, 重さ56gを量る。刃部中央が窪む程よく使い込まれている。孔径は0.6cmで、片面からの穿孔である。粘板岩製。

土製品 (10) 10はミニチュア土器で、器高3.85cm, 口径4.0cm, 底径1.6cmを測る。底部の繰りが良く、壺を模したものであろう。外面ミガキ、内面ナデ調整による。

圖 73 37 号住居跡剖面図 (1/60)





第 74 図 36~38号住居跡出土土器実測図 (1/4)

38号住居跡（図版18-1, 第75図）

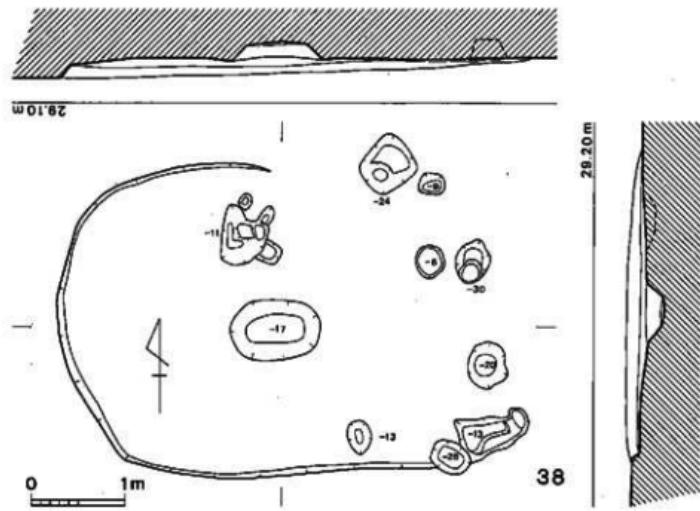
36号住居跡の6m北東側に位置し、43号窓穴に切られる。当住居跡も東西方向に長軸を取る。平面形は小判形を呈すると考えられるが、長軸長は不詳。短軸長は3.36mで、壁高は西壁側で14cmと遺存状態は悪い。床面中央土壤は存するが、主柱穴は不明。埋土中より石包丁・鉄器が出土した。

出土遺物（図版49-1・50-1, 第74・118・120図）

土 器 (624~629) 624~629は甕で、624は内面にも突出する。625・626の口縁部は三角形をなし、627は肥厚する逆L字状口縁を呈する。624は頸部下位にヘラ描き沈線を施す。628・629は底部破片で、上底を呈する。

石 器 (20) 20は石包丁の欠損品で、孔径は0.5cm。両側縁は同じ厚さで、刃部が認められないことから未製品であろう。石材は粘板岩。

鉄 器 (6) 6は三角形を呈する鉄器片で、残存長2.1cm、幅1.5cmを測る。用途は不明。



第75図 38号住居跡実測図 (1/60)

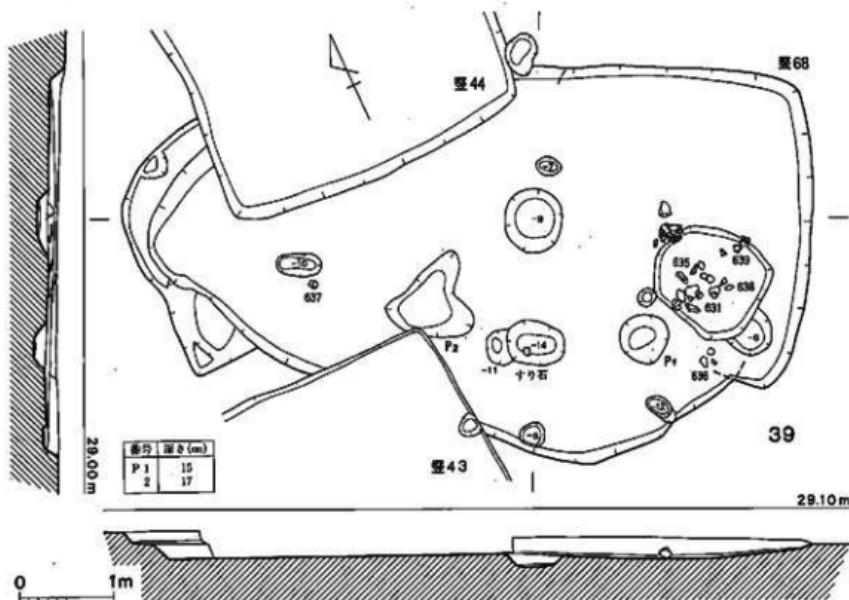
39号住居跡（図版18-2、第76図）

38号住居跡の2m北東側に位置し、43・44号竪穴に切られる。当住居跡は長軸方位を28・29号住居跡と等しく配される。調査時点では認識していなかったが、住居の東壁側は方形を呈し、床面が窪んでいることから方形竪穴(68号)と切合い関係にあった可能性があり、平面形は本来、小判形を呈していたものであろう。主柱穴は深さが15cm前後のP1・2で、両者の中間のピットから出土したすり石は強い加熱を受けており、そのピットは炉跡と考えられる。

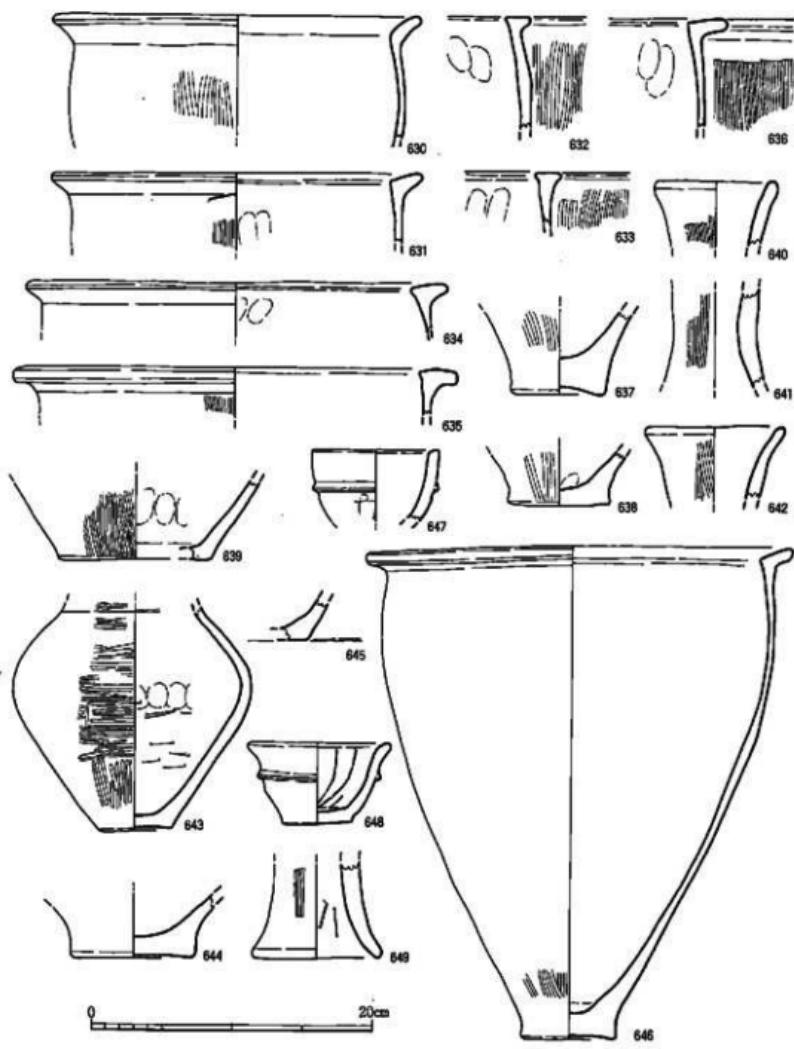
出土遺物（図版49-3、第77・119図）

土 器 (630~642) 630~638は型。口縁部形態は、630が「く」字形、632が三角形、631・634~636が逆L字状口縁を呈する。631は内傾する。637・638は底部破片。639は鉢の底部になる。640~642は器台の口縁部及び底部破片。

石 器 (34) 34は安山岩のすり石で、長径9.4cm、短径8.3cm、厚さ6.8cm、重さ715gを量る。器面は強い加熱により剥落・黒化している。



第76図 39号住居跡実測図 (1/60)



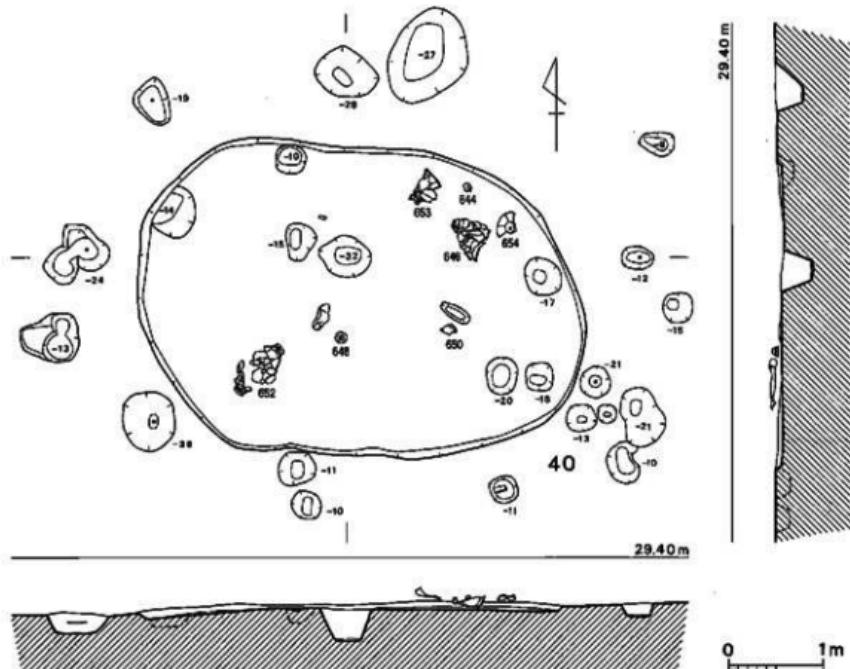
第 77 図 39・40号住居跡出土土器実測図 (1/4)

40号住居跡（図版19、第78図）

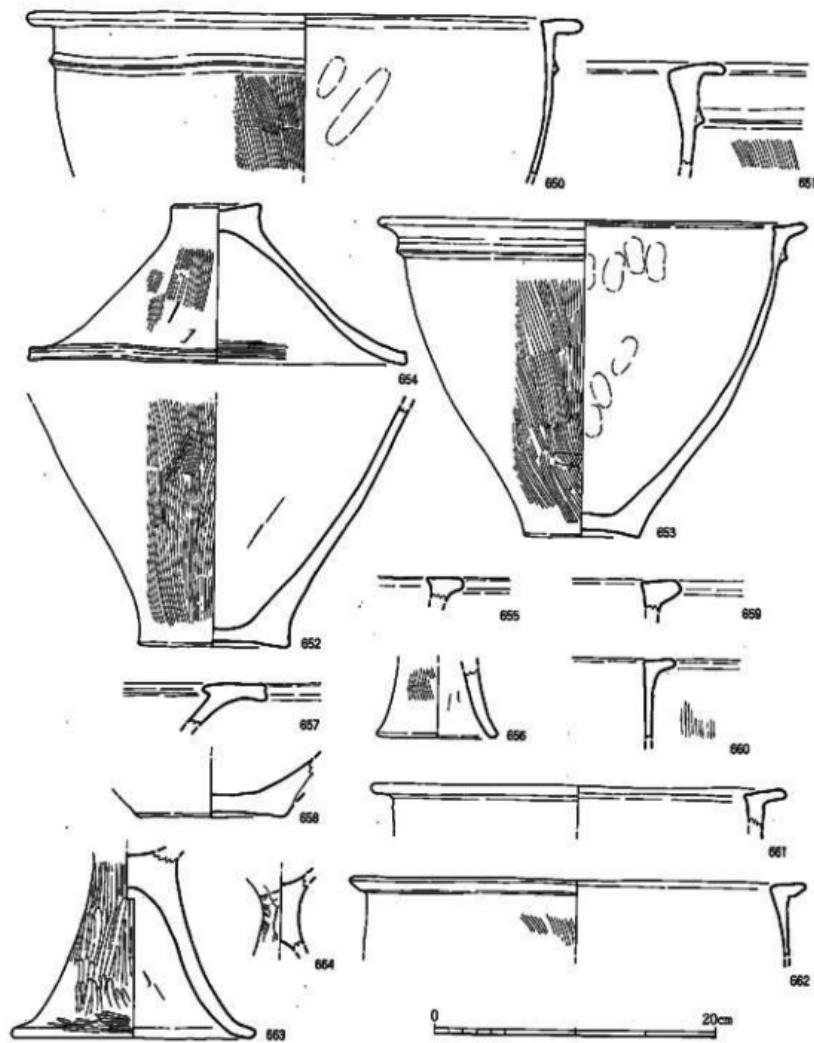
38号住居跡の8m北側に長軸方向を等しくして位置する。平面形は小判形を呈し、長軸長4.84m、短軸長3.31m、壁高は東壁側で6cm遺存する程度で削平が著しい。床面中央のやや北側寄りには、深さ32cmのしっかりしたピットがあるものの、他のピットは積極的に主柱穴とし得る穴ではなく、柱穴は竪穴部外に存したものか。床面の北東側と南西側から壺が出土した。

出土遺物（図版42-2・43-1、第77・79図）

土器（643～654） 643～645は壺で、643は口縁部を欠く。646・650・651は逆L字状口縁の壺で、646は口縁部平坦面が内傾する。648は鉢で、口縁部は外方に若干屈曲する。腹部中位には三角凸帯を貼付している。649は器台の底部破片。652・653は鉢で、653は頸部の下位に三角凸帯を貼付する。654は富士山形の蓋で、口縁部の内外面に煤が付着している。



第78図 40号住居跡実測図（1/60）



第79図 40~42号住居跡出土土器実測図 (1/4)

41号住居跡（図版20-1, 第80図）

40号住居跡の3.5m西側に位置する。長軸を北東—南西方向に取り、28・29号住居跡とは略直角関係にある。長軸長4.72m、短軸長3.42m、壁高は南西側で14cm遺存する程度。主柱穴はP1・2で、深さは25cm前後。また、南壁側にはL字形の浅い溝があり、それと対応するよう4個のピット（*印）があり、住居の建替えが考えられる。

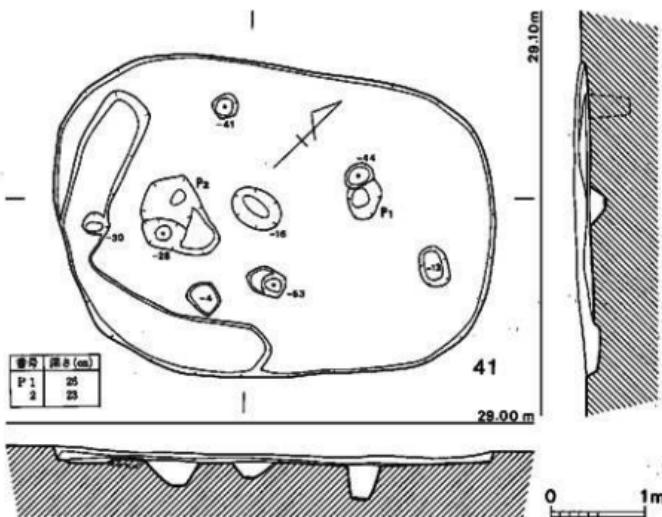
出土遺物（第79図）

土 器（655・656） 655は壺の口縁部小片で、656は器台の底部破片。

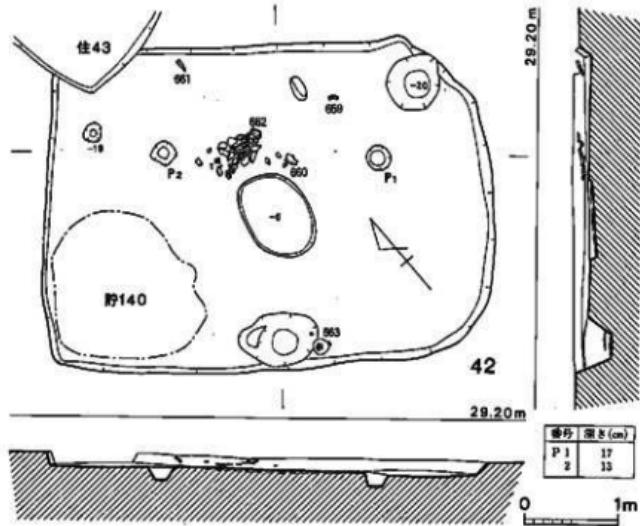
42号住居跡（図版20-2, 第81図）

39号住居跡の4m北東側に位置し、43号住居跡に北側コーナーを切られ、140号貯蔵穴を切っている。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸長4.8m、短軸長3.46m、壁高は東壁側で14cm遺存する程度。主柱穴は床面の北東寄りにあるP1・2で、径25cm前後、深さ15cm前後を測る。柱間は2.02mの間隔を有する。炉跡は床面中央にあり、長径96cm、短径70cm、深さ6cmを測る。屋内土壇は南西壁の中央に位置し、その横から高壠の脚部が倒立した状態で出土した。

出土遺物（図版43-2, 第79図）



第80図 41号住居跡実測図 (1/60)



第 81 図 42号住居跡実測図 (1/60)

土 器 (657~664) 657・658は壺で、657は鋤先状口縁を呈する。658は底部破片で、若干の上底をなす。659~662は甕で、口縁部は逆L字状を呈し、659は肥厚する。また、661の口縁部平坦面はやや内傾する。663・664は高坏で、ともに脚部の破片。663は脚裾がラッパ状に大きく開く。

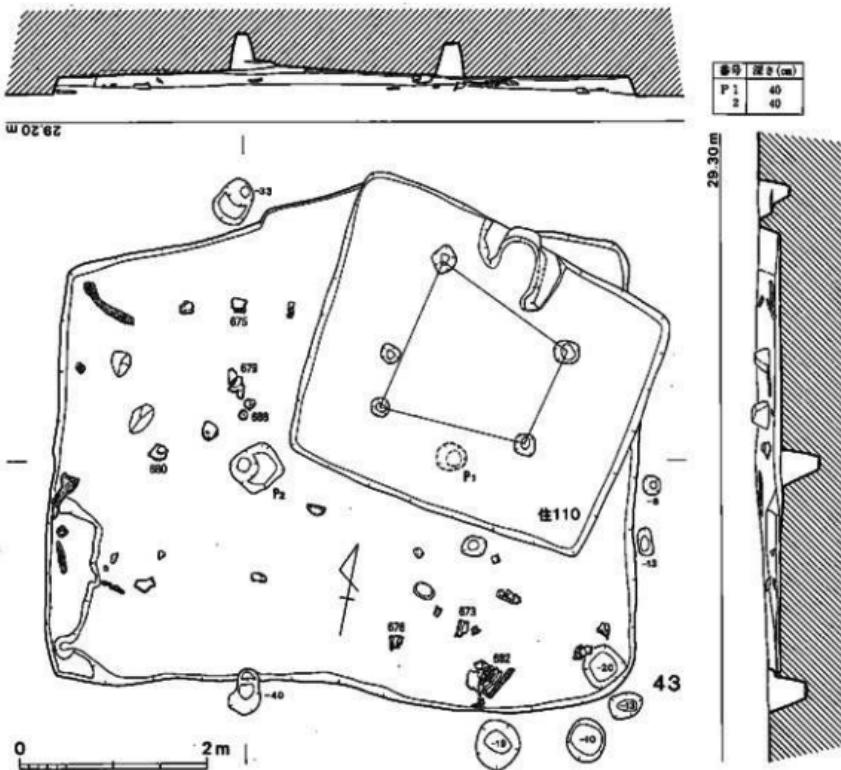
43号住居跡 (図版21-1, 第82図)

40号住居跡の11m東側に位置し、110号住居跡に切られ、42号住居跡を切っている。当住居跡は焼失家屋で、床面には炭化材・焼土及び土器が散在していた。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸長6.24m、短軸長5.24m、壁高は北壁側で0.24mを測る。主柱穴はP1・2の2本で、深さは40cmとしっかりしている。炉跡・屋内土壤は検出し得ていない。

出土遺物 (図版43-3, 第83・85図)

土 器 (665~691) 壺(665~670), 甕(671~681・684), 鉢(682・683・685・686), 高坏(689), 蓋(687・688), 支脚(690・691) が出土した。

壺665の口縁端部は跳ね上げぎみ。666・667は鋤先状口縁を呈するが、668は内面に突出しな

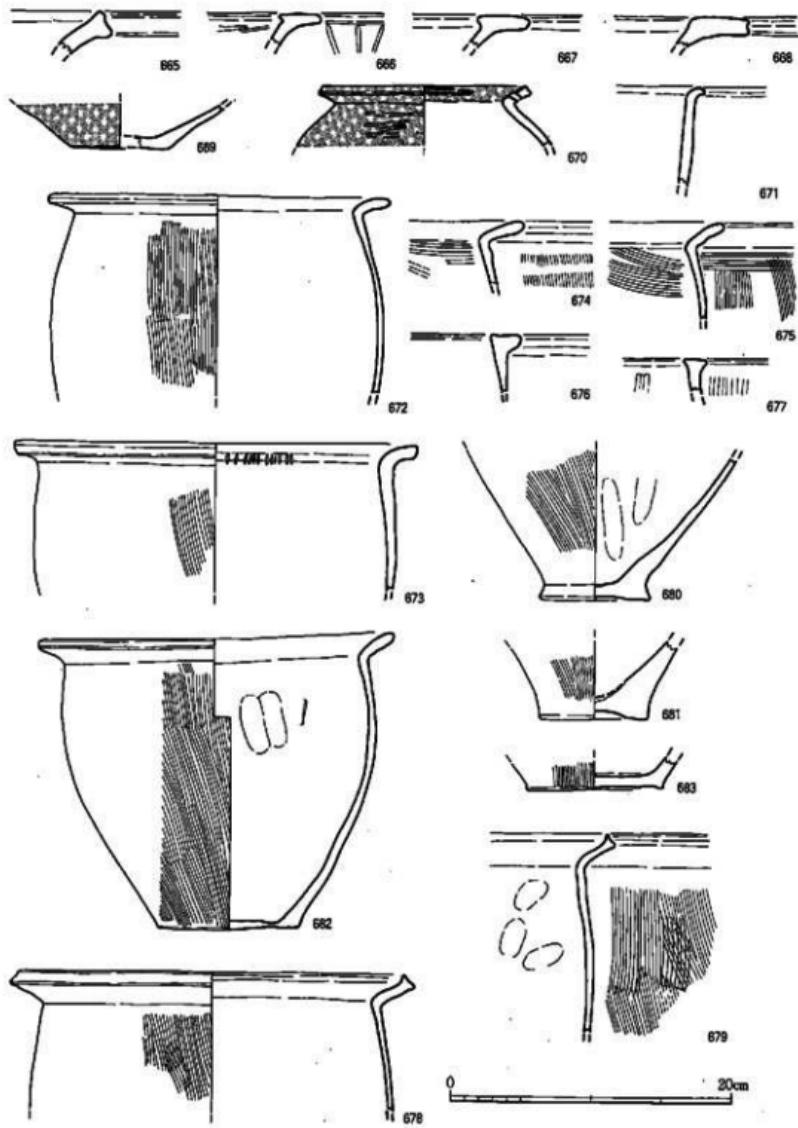


第 82 図 43号住居跡実測図 (1/60)

い。669は底部破片、670は無頸壺で、口縁に円孔を穿つ。

壳の口縁部形態は、671が口唇部を小さく折り曲げたもので、672・674・675・678・679は「く」字状口縁を呈し、678・679は端部を跳ね上げる。676は肥厚する逆L字状口縲で、677は三角形を呈する。680・681は底部破片で、内底部は薄い。684は器肉の厚い底部破片。

682・683・685・686は鉢で、682の口縁部は「く」字形を呈する。683・685・686は底部資料。689は高坏の脚柱部破片。687・688は撮み部から開き気味であることから蓋とした。690・691は支脚の底部破片で、難なつくり。671・676・677・684は混入したものであろう。



第 83 図 43号住居跡出土土器実測図 (1/4)

44号住居跡（図版21-2、第84図）

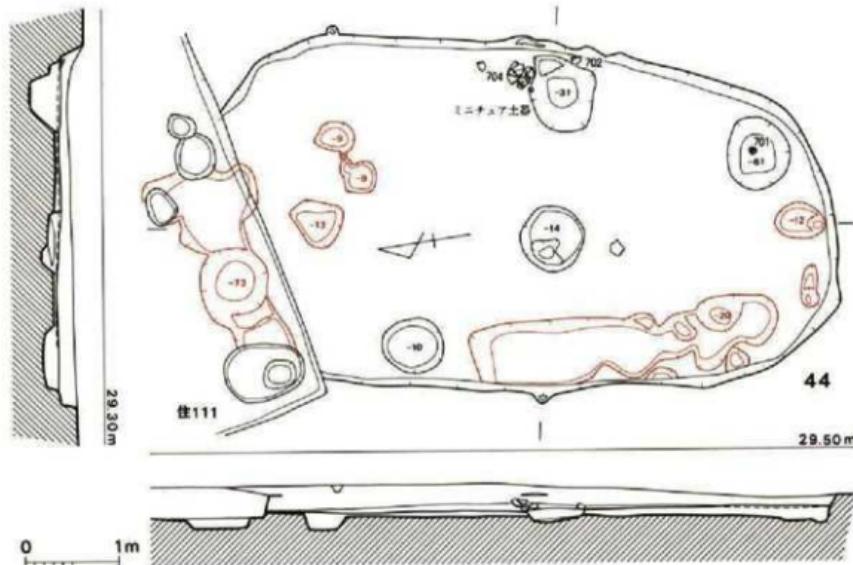
43号住居跡の2.5m北側に位置し、111号住居跡（古墳時代）に北壁を切られる。なお、45号住居跡と重複するが、平面形からして当住居跡が後出しよう。長軸を北一南方向に取り、31号住居跡と長軸方向を等しくする。小判形を呈し、長軸長6.96m、短軸長3.72m、壁高は東壁側で0.26mを測る。床面にピットはあるものの、積極的に柱穴とし得るものはない。屋内土壇は東壁中央にあり、その側から蓋が出土した。

出土遺物（図版43-4・50-2、第85・122図）

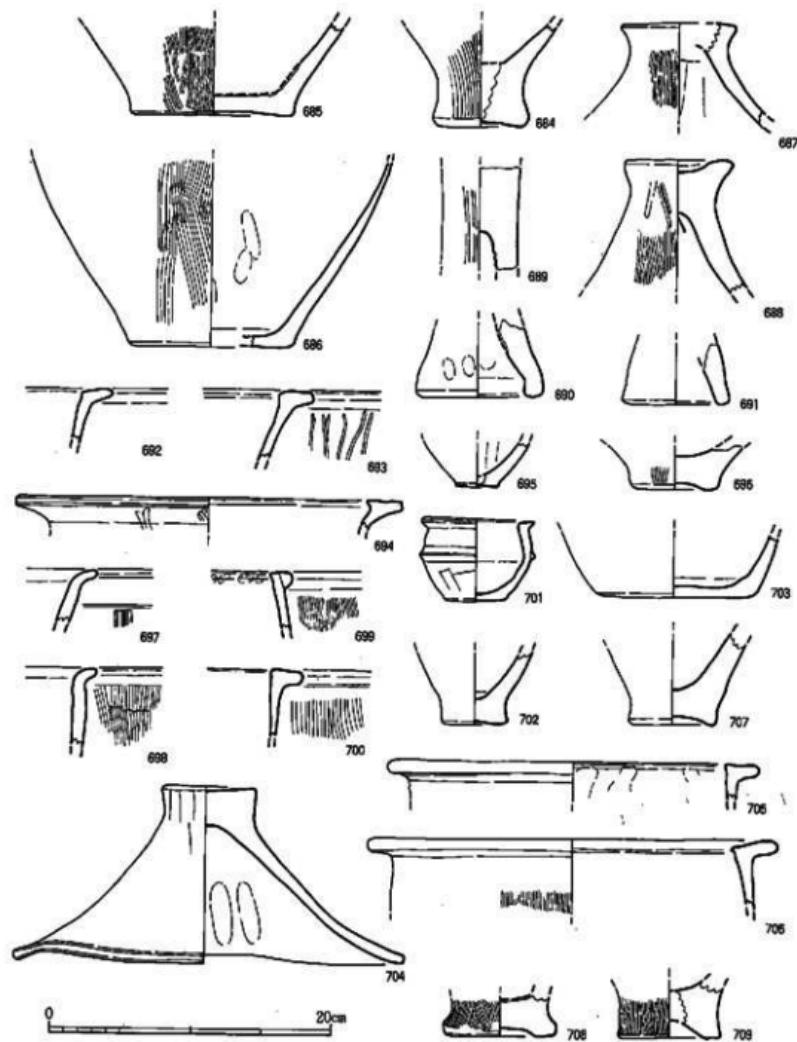
土器（692～715） 692～694は壺の口縁部小片で、695・696は底部破片。697～700は壺の口縁部小片。701は鉢で、口縁部は小さく屈曲する。703は鉢の底部になろう。704は富士山形の蓋で、口縁部内外面に煤が付着する。

705～715は111号住居跡から出土した土器で、44・45号住居跡の何れかに伴う。705～711は壺で、712は高壺、713は丹塗りの高壺、714は脚台部破片、715は支脚片。

土製品（11） 11はミニチュア土器で、器高3.3cm、口径3.7cm、底径1.6cmを測る。底部はよく締まり、壺を模したものであろう。外面はミガキ、内面はナテ調整による。



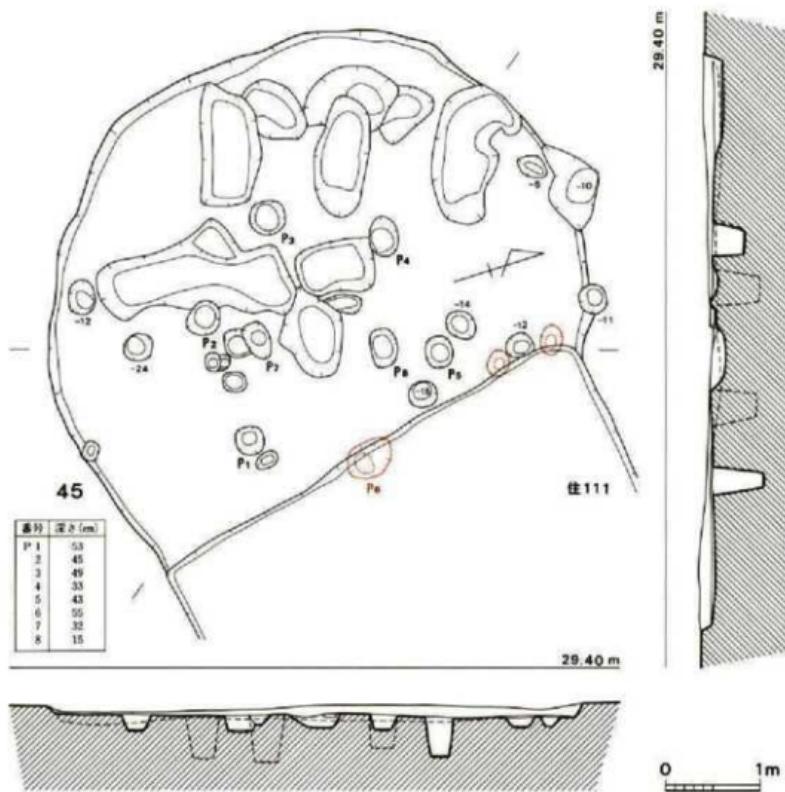
第84図 44号住居跡実測図 (1/60)



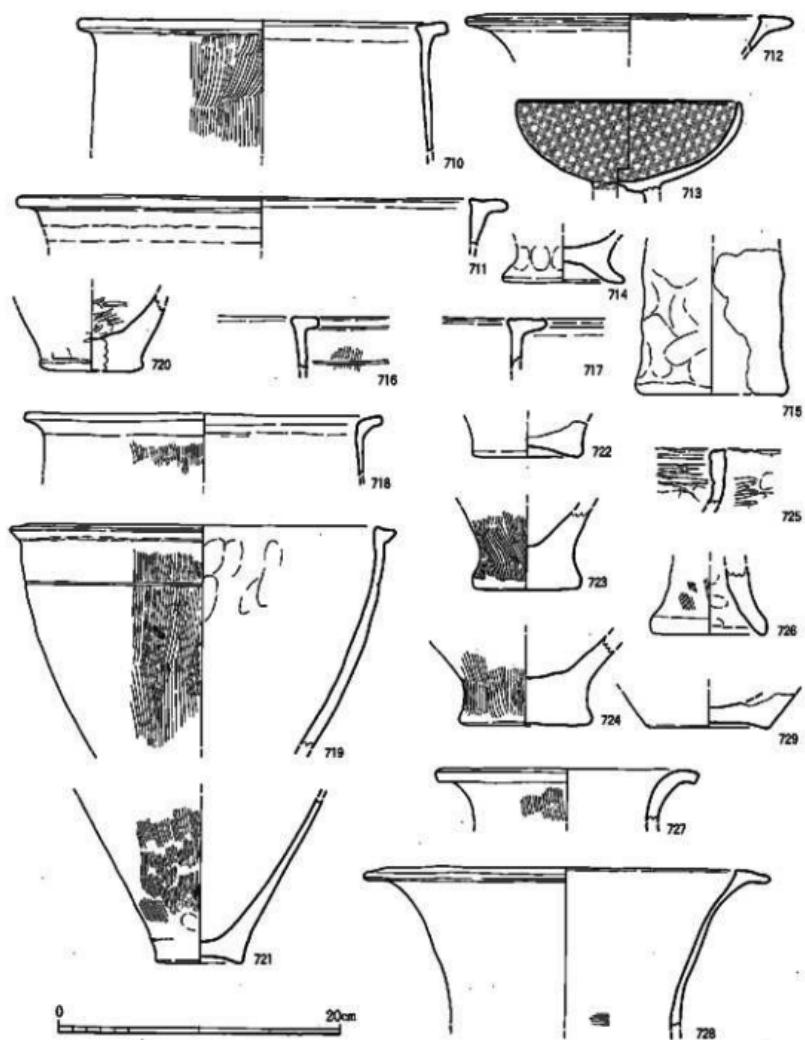
第 85 図 43・44号住居跡出土土器実測図 (1/4)

45号住居跡（図版22-2、第86図）

43号住居跡の8m北側に位置し、111号住居跡（古墳時代）に東壁の大半を切られる。平面形は正円ではなく、隅丸多角形とでも表現すべきもので、径5.92m、壁高は西壁側で14cmを留める程度。柱穴はP1～6の6本で、深さは33～55cmとしっかりしている。P7・8は棟持柱になろう。また、P1～6同は他の柱穴間に比して長く、入口になろう。当住居跡からは、図示可能な土器は出土していないが、111号住居跡出土の705～715は、44・45号住居跡に帰属するものと思われる。



第86図 45号住居跡実測図 (1/60)



第 87 図 44・46・47号住居跡出土土器実測図 (1/4)

46号住居跡（図版23-2・24-1、第88図）

45号住居跡の5m西側に位置し、古墳時代の147号住居跡に切られる。平面形は偏円形を呈し、長径7.7m、短径7.22m、壁高は東壁側で0.36mと割合遺存状態の良好な住居跡である。主柱穴はP1-11で、径20~30cm、深さ40~60cmを測る。P12・13は棟持柱で、20cm前後と浅めである。入口は柱穴間の広いP1-11を想定した。

床面中央土壇は長径1.52m、短径1.1m、深さ0.3mを測る。壁面は焼けておらず、埋土中に焼土・炭は認められず、焼跡とは考え難い。また、東壁側と西壁側には幅30~50cmの浅い溝があり、竪穴部の拡幅がなされたものと考えられる。

出土遺物（図版44-1、第87図）

土器（716~726）716~724は甕で、716~718は逆L字状口縁を呈し、719の口縁部は三角形を呈する。また、718の口縁部平坦面は内傾する。720~724は底部破片で、720・723・724が平底、721・722は上底を呈する。725は口縁部小片であるが、鉢になるか。726は器台の底部破片で、やや肉厚である。

47号住居跡（図版24-1、第89図）

40号住居跡の3.5m北側で長軸方向を等しくして位置し、48号住居跡を切っている。平面形は小判形を呈し、東西方向に長軸を取る。長軸長8.42m、短軸長4.8m、壁高は東壁側で0.32mを測る。主柱穴はP1・2の2本で、柱間は3.98mを測る。床面中央には深さ15cmの土壇があり、その南には屋内土壇がある。屋内土壇の前面には、5cm程の粘土の高まりがみられた。

出土遺物（図版48-2・50-1・2、第87・90・118・120・122図）

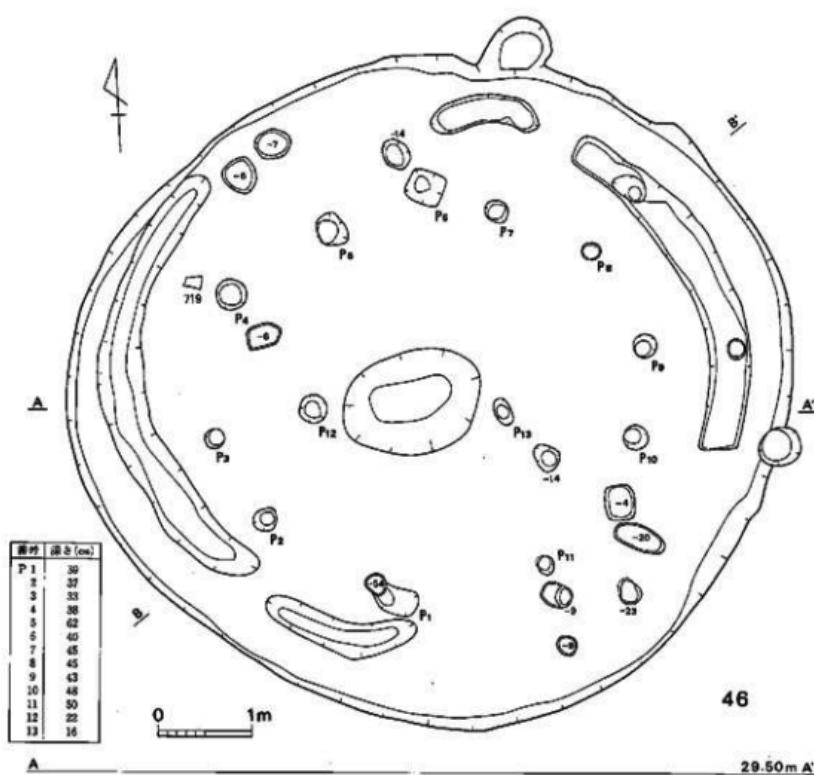
土器（727~747）甕（727~732）、甌（733~743）、鉢（744）、蓋（745）、器台（746・747）が出土した。727は口縁部が大きく外反するもので、728・730は鋸先状口縁を呈する。731は胴部破片で、胴部中位に三角凸帯を貼付する。729・732は底部破片で、729が上底、732は平底をなす。甌733~738は肥厚する逆L字状口縁を呈し、734・735はやや内傾する。739は「く」字状口縁を呈する。740~743は底部破片で、742・743は上底をなす。

744は平底の底部破片であるが、底部から垂直気味に立上がるところから鉢になろう。745は蓋の口縁部破片、746・747は器台の口縁部破片。

石器（29）29は棒状の砥石で、長さ7.1cm、幅1.5cm、厚さ1.4cm、重さ26.7gを量る。4面を砥面として使用している。石材は硬砂岩である。

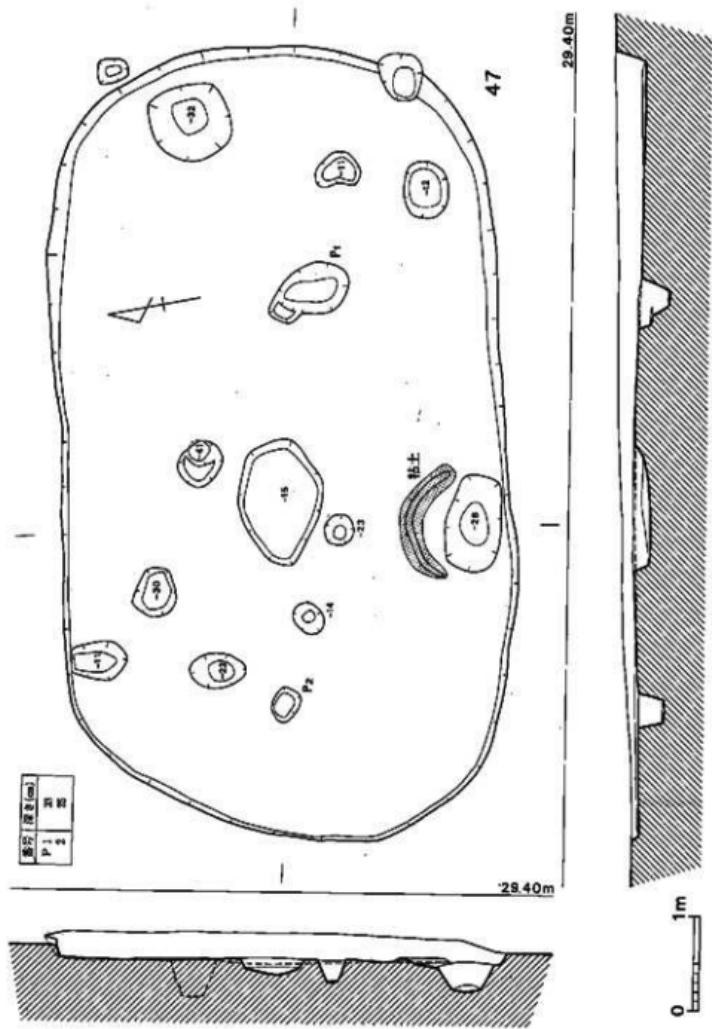
鉄器（5）5は鉈で、劍菱形を呈する。長さ4.3cm、幅2.05cm、重さ4.55gを量る。

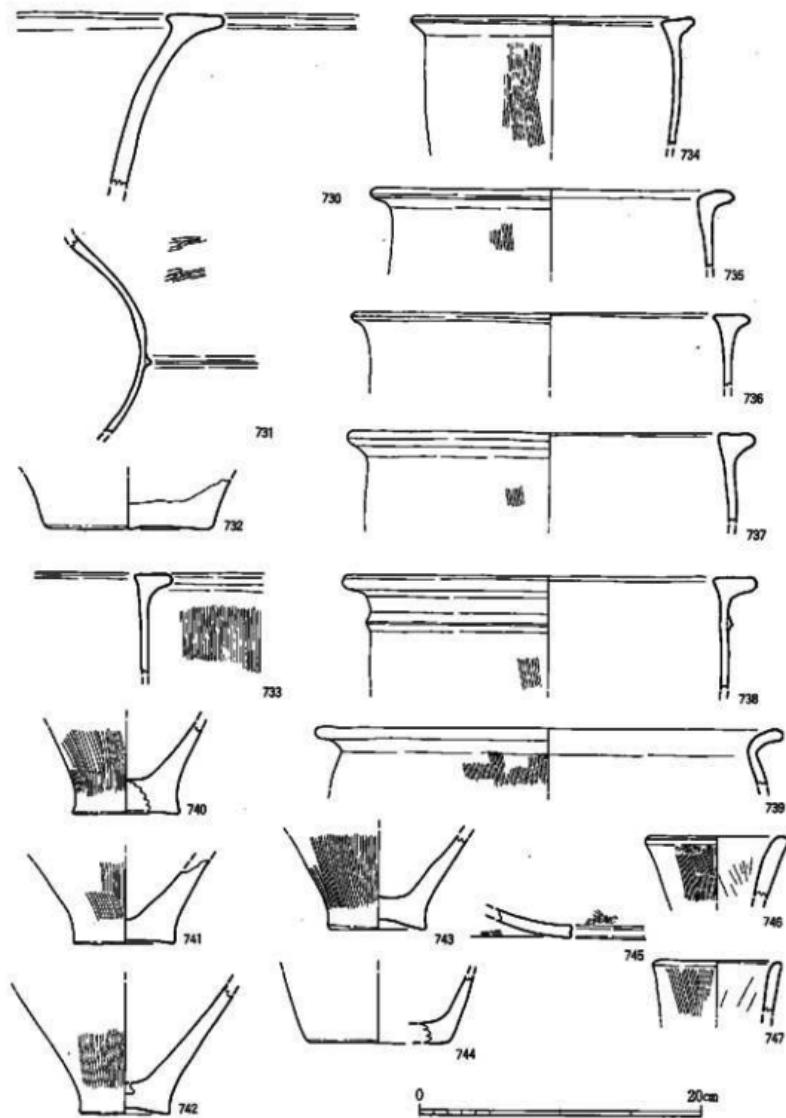
土製品（12）12はミニチュア土器で、器高2.45cm、口径4.1cmを測る。底部がよく締まり、甌を模したものであろう。



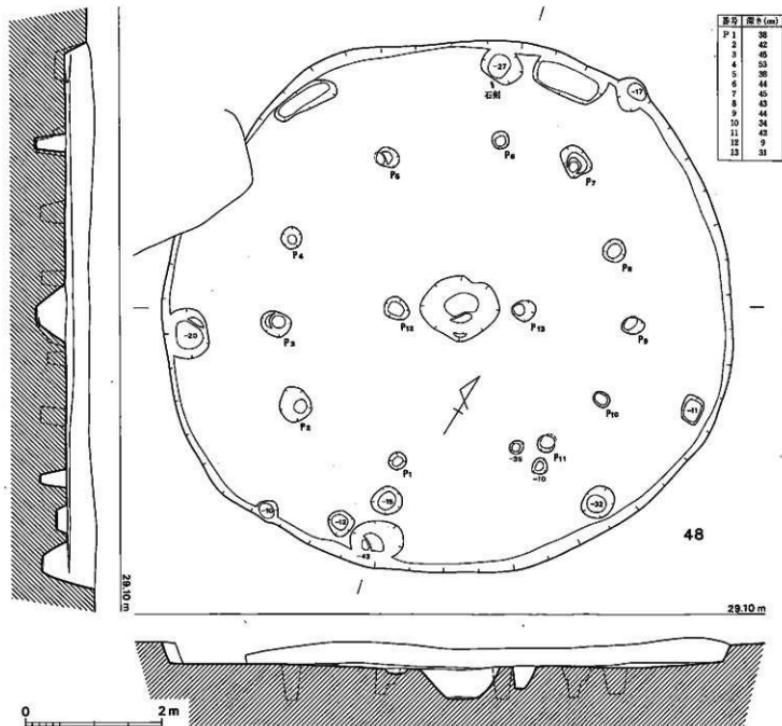
第 88 図 46号住居跡実測図 (1/60)

第 89 圖 47 號住居跡測量圖 (1/60)





第90図 47号住居跡出土土器実測図 (1/4)



第 91 図 48号住居跡実測図 (1/60)

48号住居跡（図版24-2、第91図）

46号住居跡の3m南西側に位置し、奈良時代の住居跡群及び47・53号住居跡に切られる。平面形は円形を呈し、長軸8.38m、短軸7.82mを測り、当遺跡の円形住居跡の中では大型の部類に入る。壁高は東壁側で24cm遺存する程度。柱穴はP1~11で、深さは40~50cm前後で、P12・13は棟持柱になろう。入口は柱間の広いP1~11間を想定した。床面中央土壇は卵形を呈し、長径1.16m、短径0.97m、深さ0.42mを測る。壁面は加熱を受けておらず、炉跡とは考え難い。北壁側のピットの側から石剣が出土した。

出土遺物（図版44-2・48-1・49-3、第92・93・117・119図）

土 器 (748~775) 出土土器には、壺(748~756)、甕(757~771)、蓋(772~773)、器台(774)、支脚(775)がある。748は口縁部がそのまま聞く壺で、頸部に2条のヘラ描き沈線を施す。749・750は頸部破片で、頸部には三角凸帯を貼付する。751は錐先状口縁の壺。752~756は底部破片で、755・756は上底を呈する。

甕757~759の口縁部は如意形を呈し、760・761は口縁部をほぼ水平に折り曲げる。762・764~766は断面三角形の亀の甲タイプの甕で、767は逆L字状口縁を呈する。757~761・765~767は頸部下位にヘラ描き沈線を施し、762・764は凸帯を貼付する。768~771は底部破片で、771の底部は脚台状を呈する。772・773は壺の口縁部小破片であるが、山形を呈しよう。774は器台で、775は支脚の底部破片である。

石 器 (10・35) 10は有茎磨製石剣で、長さ12.75cm、幅3.3cm、茎の長さ1.9cm、幅1.0cm、重さ40.6g。頭は刃部の1/3までしか通らず、後は偏平になっている。刃部は刃こぼれが著しい。石材は粘板岩。35は安山岩のすり石で、長径9.2cm、短径8.9cm、厚さ5.4cm、重さ950g。

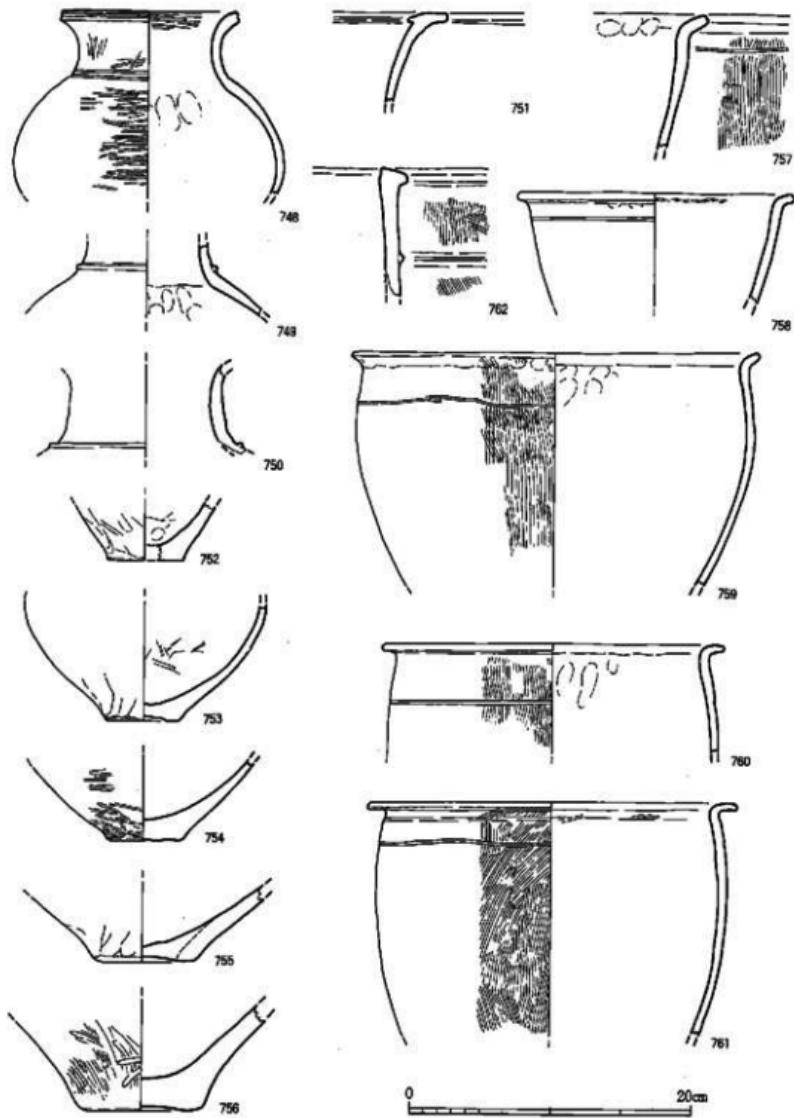
49号住居跡（図版25・26、第94図）

48号住居跡の6m北西側に位置し、50号住居跡を切る。当住居跡は焼失家屋で、壁際には炭化材が遺存していた。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸を東西方向に取る。北壁長5.72m、西壁長4.75mを測り、壁高は西壁側で0.34mを測る。柱穴はP1~2で、柱間は1.62m。その中間に径80cmの不整円形の穴があり、27cmと深いが炉跡になるか。屋内土壇は南壁中央に位置し、径1.2m、深さ0.3mで、甕・壺が出土した。

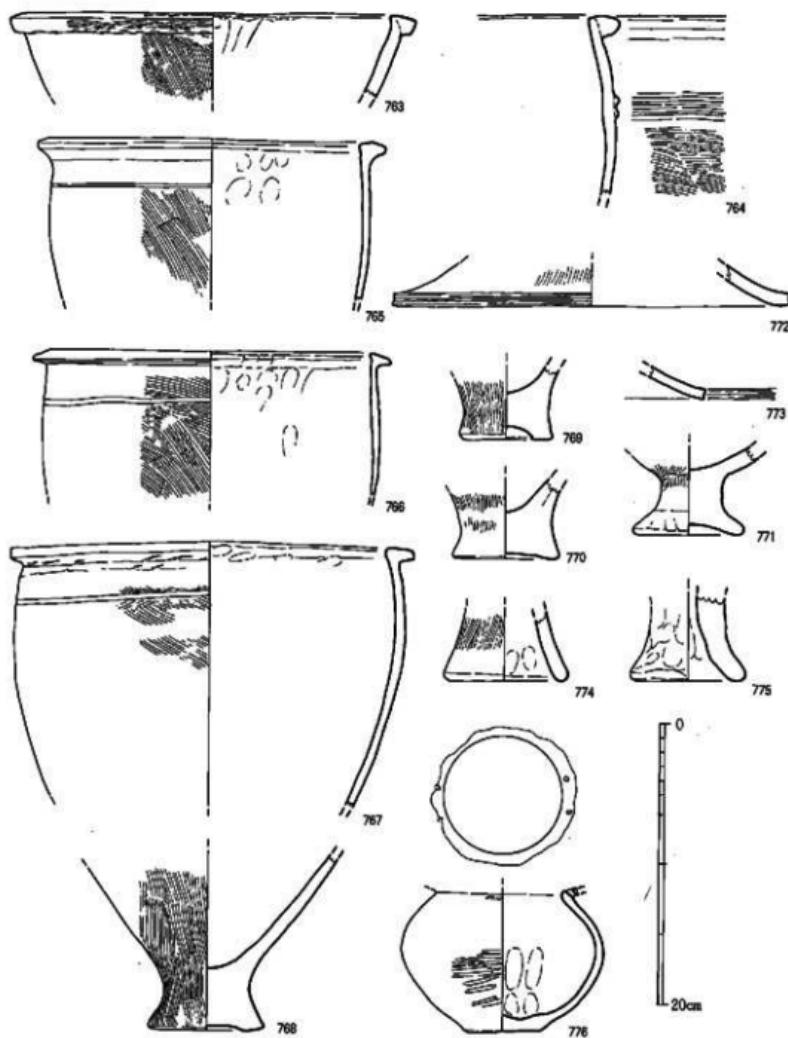
出土遺物（図版45-1・49-2・3・51-2・3、第93・95・119・122・123図）

土 器 (776~789) 776・777は無頸壺で、2個一対の円孔を穿つ。陣笠形の蓋とセットをなすのであろう。778~780は壺の底部破片で、780の底部の器肉は薄い。781~784は甕で、781は「く」字形を呈し、端部を跳ね上げる。783・784は50号住居跡の混入品であろう。

785・786は小型の鉢で、786の口縁部は内湾する。口唇部は何れも丸く納める。788は肉厚の器台で、789は支脚片である。



第 92 図 48号住居跡出土土器実測図 (1/4)



第 93 図 48・49号住居跡出土土器実測図 (1/4)

石 器 (30・31・36) 30は砥石で、長さ19.4cm、中央部幅3.8cm、厚さ2.1cm、重さ615gを量る。4面を砥面としているが、よく使い込まれている。31は長方形の砥石で、残存長21cm、幅5.6cm。2面を砥面とする。また、先端は加熱を受けて黒化している。紅簾片岩製。36は安山岩のすり石で、側縁には敲打痕がみられる。器面の半分が加熱を受けて黒化している。

土製品 (6・9・13・18・19・21・22) 13はミニチュア土器で、口が開く。器高3.2cm、口径4.5cmを測る。内外面ともユビオサエによる。18・19・21・22は手捏ね土器で、18・19・21が変形、22は楕円形を呈しよう。器高は18が5.6cm、19は5.9cm、口径は18が4.0cm、19は5.1cm。何れも内外面ユビオサエによる。

6～9は大ぶりの投弾形土製品で、6・7がラグビー・ボール形を呈し、8は梢円形を呈する。6の長さ4.2cm、径2.8cm、重さ26.35gを量る。9は土玉で、径2.55cm、重さ14.7g。焼成は良好で、色調は暗褐色を呈する。何れも、南東壁側ピットの出土である。

50号住居跡（図版25-1、第94図）

49号住居跡に北半部を切られて位置する。平面形は円形を呈し、径は6.6m程になるか。壁高は南壁側で12cmと遺存状態は悪い。柱穴はP1～8の8本で、深さは33～55cmを測る。P9・10は深さ15cmで、棟持柱になろう。入口部は柱間の広いP1～8を想定した。

出土遺物（図版45-2、第95図）

土 器 (790～795) 790は壺の肩部破片で、三角凸帯を貼付する。791～795は壺で、口縁部は792が断面三角形、793は外傾する逆L字状口縁を呈する。792・793は頸部下位にヘラ描き沈線を施す。底部は793～795とともに高い上底をなす。

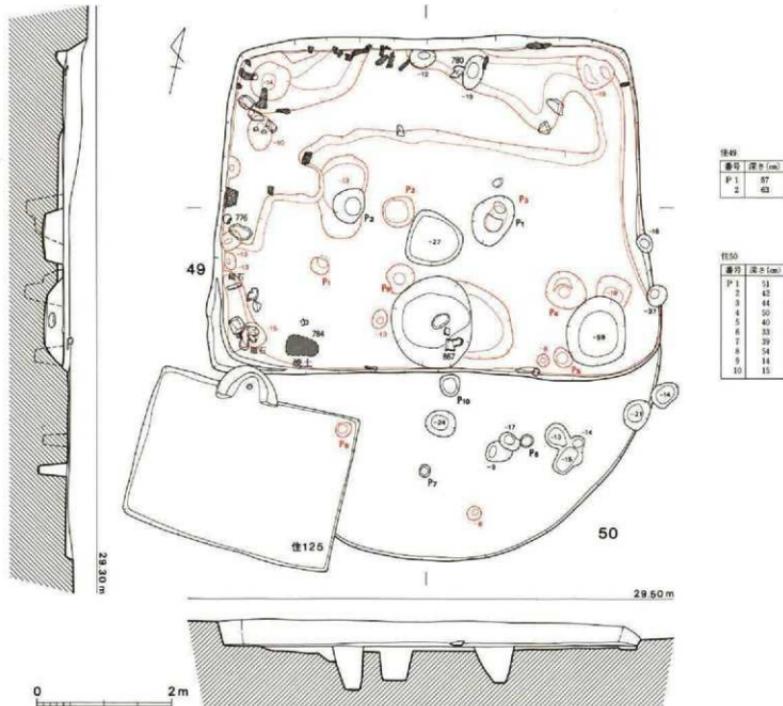
51号住居跡（図版27-1、第97図）

50号住居跡の3m西側に位置し、古墳時代の126号住居跡に東壁を切られ、52号住居跡の南壁を切る。平面形は隅丸方形を呈し、北壁長5.44m、短軸長4.12m、壁高は西壁側で0.21mを測る。長軸を東西に取り、47号住居跡と軸を等しくして配される。床面には数個のピットがあるものの主柱穴は判然としない。遺物は床面より土器が出土したのみ。

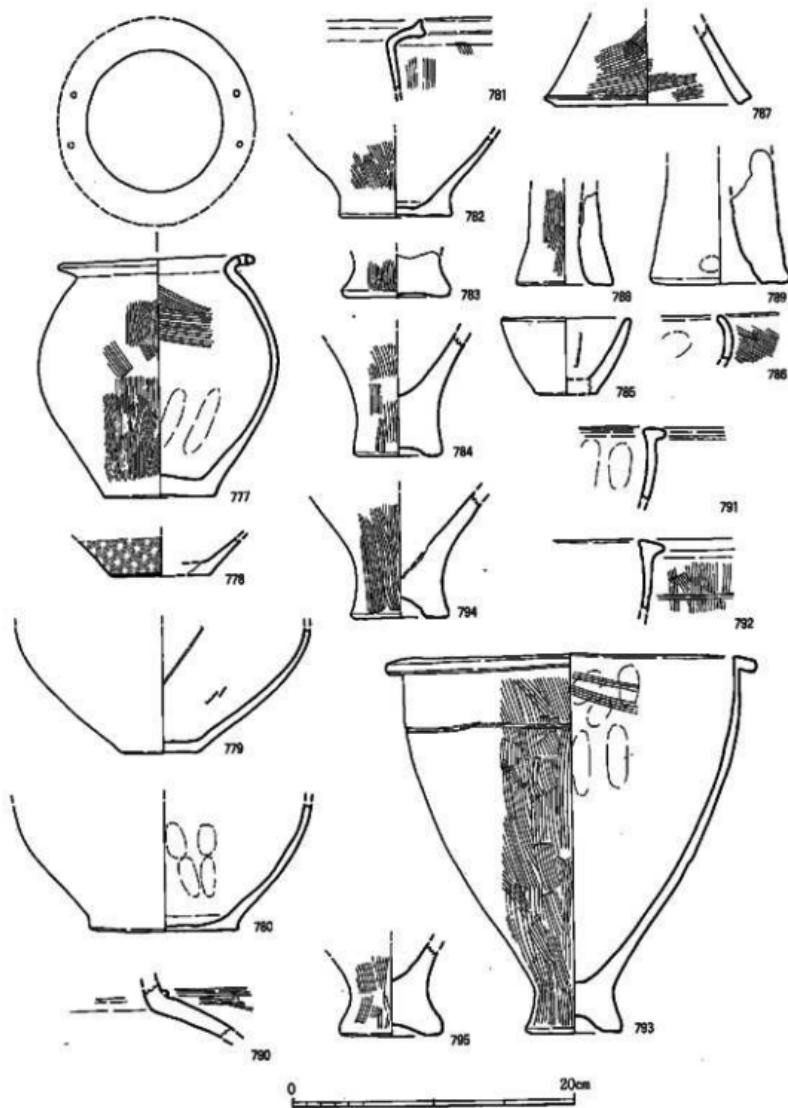
出土遺物（図版45-3、第96図）

土 器 (796～811) 出土土器には、壺(796～801)、壺(802～809)、器台(810・811)がある。壺796～798は、口縁部がそのまま開くもので、799・800は錐先状口縁を呈する。801は頸部の破片で、何れもヘラミガキ調整による。

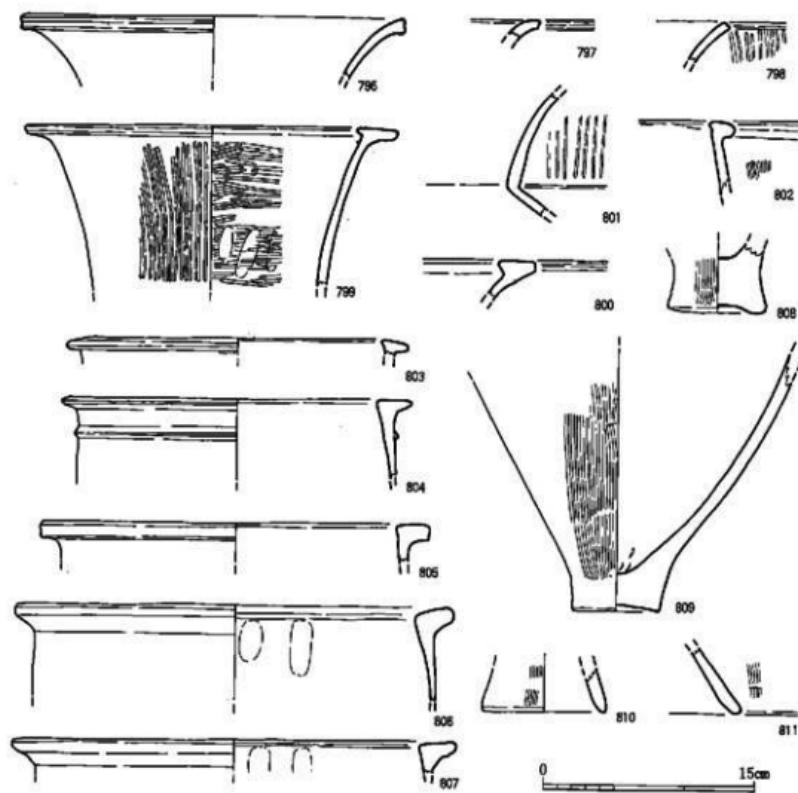
壺802・803の口縁部は断面三角形を呈し、804～807は逆L字状口縁を呈し、806は口縁部平坦面が内傾する。808・809は底部破片で、上底を呈する。810・811は器台の底部破片。



第 94 図 49・50号住居跡実測図 (1/60)



第95圖 49・50号住居跡出土土器実測図 (1/4)



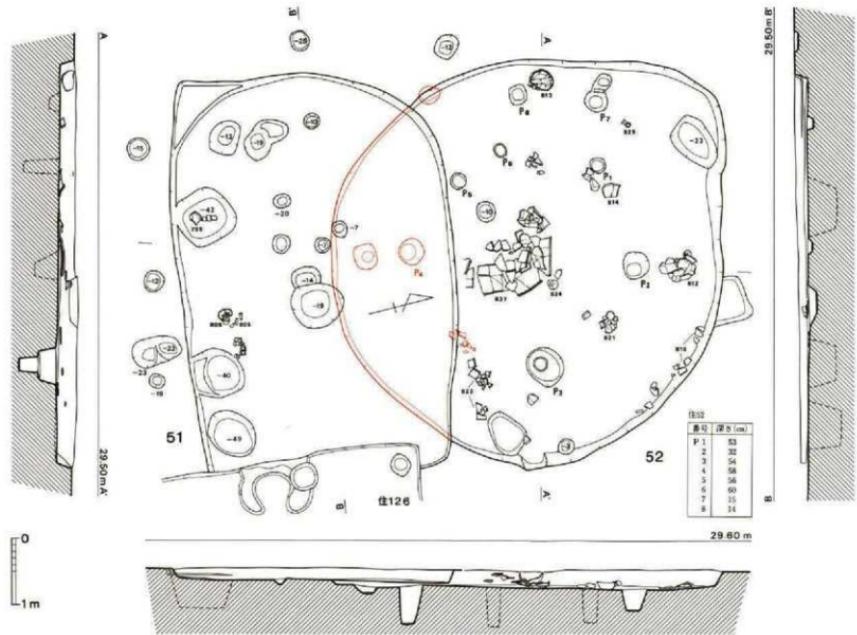
第96図 51号住居跡出土土器実測図 (1/4)

52号住居跡 (図版27-2・28、第97図)

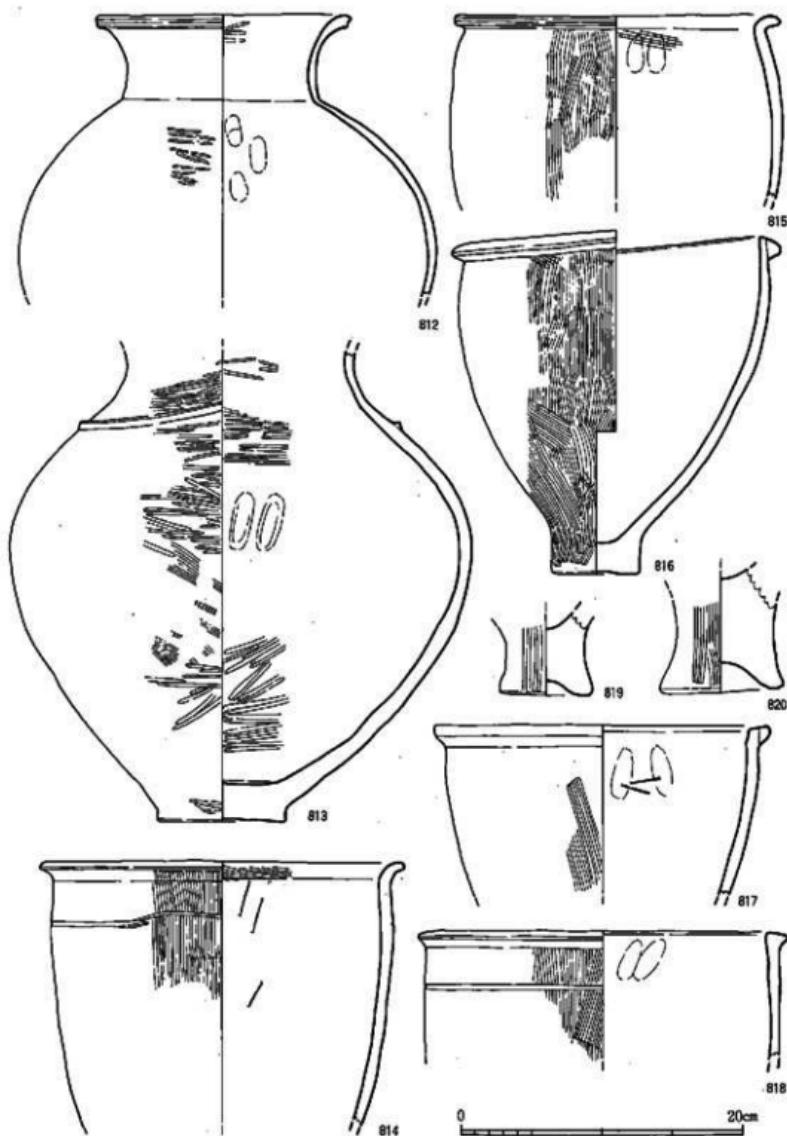
51号住居跡に南半部を切られて位置する。平面形は不整円形を呈し、長径6.08m、短径5.88m、壁高は西壁側で0.22mを測る。柱穴はP1~6で、深さは30~60cmとしっかりしている。P1~6の西壁側にあるP7~8は深さが15cm程で、入口部の補柱穴になるか。炉跡は不詳。

当住居跡からの出土土器は割合が多く、床面中央から壺棺用大壺が、周囲から壺・壺等が出土した。

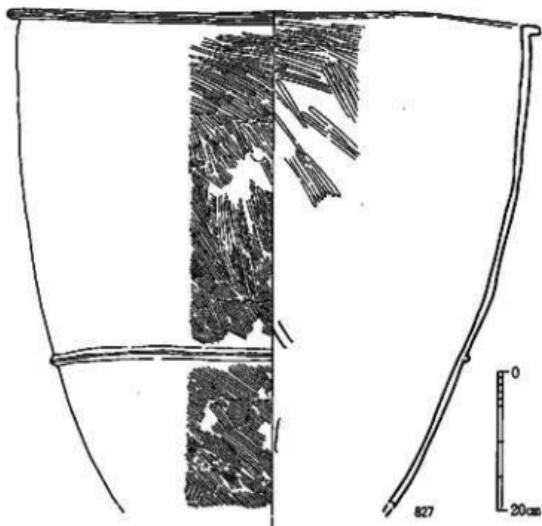
出土遺物 (図版46・47-1・48-2、第98・99・101・118図)



第 97 図 51・52号住居跡実測図 (1/60)



第98図 52号住居跡出土土器実測図① (1/4)



第 99 図 52号住居跡出土土器実測図② (1/8)

土 器 (812~830) 出土土器には、壺(812・813)、壺(814~827)、器台(828~830)がある。壺812は胴下半部を欠き、813は口縁部を欠く。812の口縁部は大きく外反する。813は頸部にシャープな三角凸帯を貼付し、底部は分厚い平底を呈する。

壺の口縁形態には、如意形を呈するもの(814・815)、断面三角形を呈するもの(816・818・821・822)、肥厚する逆L字状口縁を呈するもの(817・823)があり、823は外傾する。また、818・822・823は頸部下位にヘラ描き沈線を1条巡らす。819・820・824~826は底部破片で、上底を呈する。816は平底である。827は床面中央より出土した壺棺用大壺で、胴下半部以下を欠く。口縁部は逆L字状を呈するものの突出度は弱い。胴下半部に三角凸帯を1条巡らせる。内面ミガキ、外面はハケ目調整の後ミガキを行なう。

828~830は器台で、828は筒形、829は鼓形を呈する。830は底部の破片である。

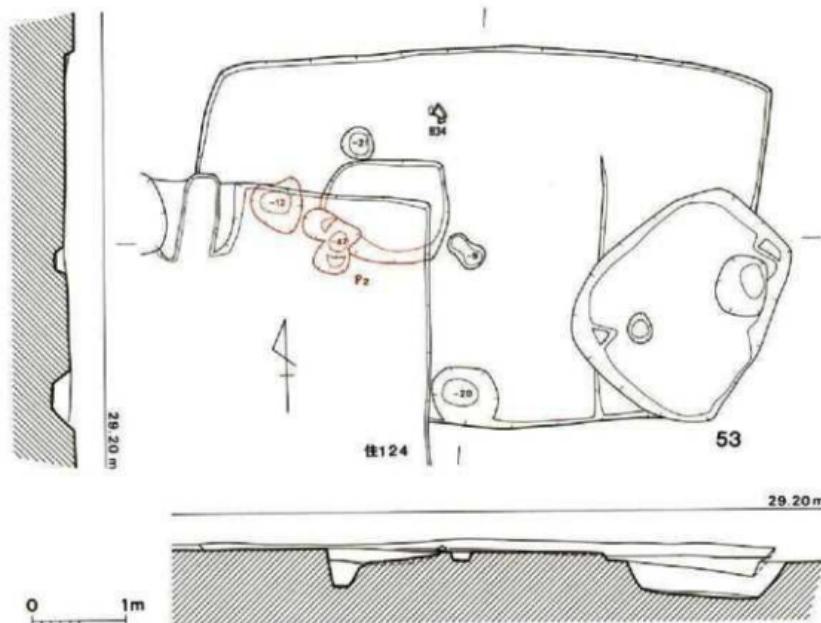
石 器 (15) 15は抉入片刃石斧で、側縁と基部を欠損する。上面に幅1.6cm、深さ0.3cmの抉りを設けるが深くはない。長さ16.5cm、刃部幅3.0cm、厚さ3.4cm、重さ360gを量り、断面形は蒲鉾形を呈する。刃部は僅かに刃こぼれしているが、全体的にシャープな感がある。頁岩製。

53号住居跡（第100図）

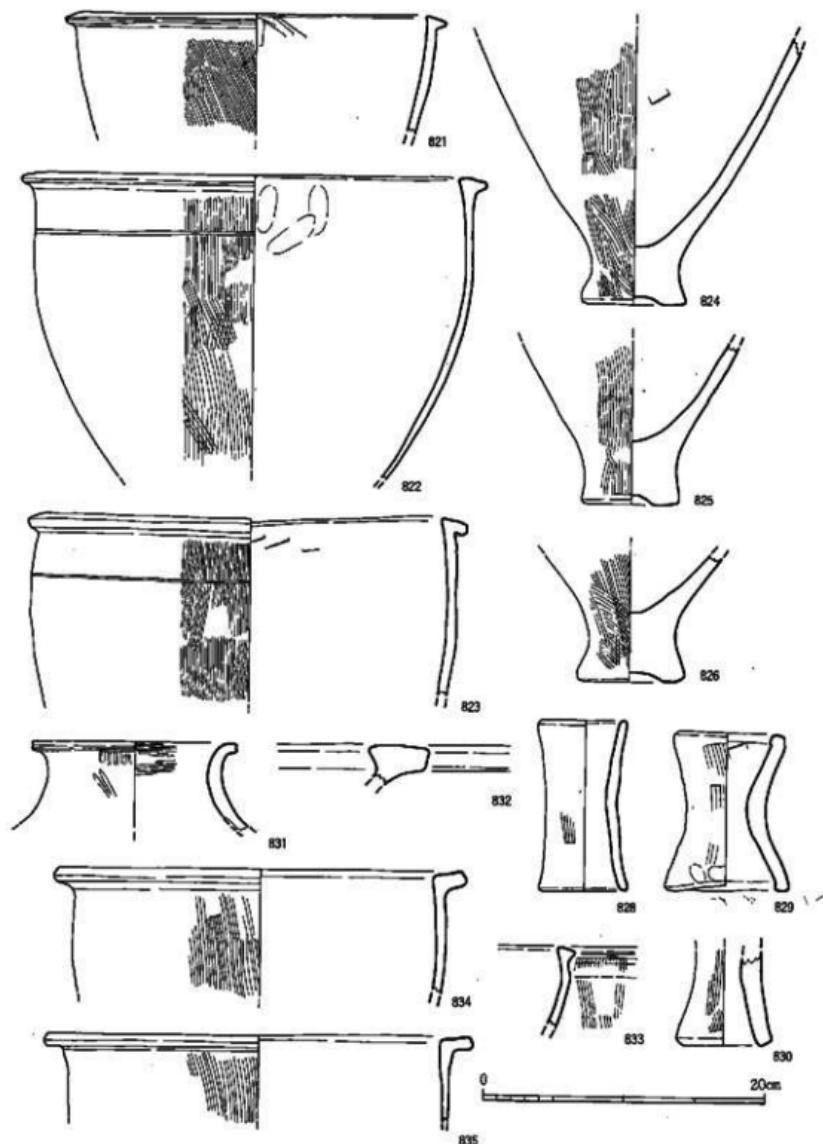
51号住居跡の6.5m東側で長軸方位を等しくして位置する。古墳時代の124号住居跡に南西コーナーを切られ、北東コーナーは土壤に切られる。また、48号住居跡・37号竪穴を切っている。平面形は長方形を呈し、長軸長6.0m、短軸長4.04m、壁高は北壁側で10cm遺存する程度。柱穴は2本と考えられるが、P1は土壤に切られ存在しない。屋内土壤は南壁中央にあり、深さ20cmを測る。

出土遺物（第101・105図）

土器（831～840） 831・832は壺の口縁部破片で、831の口縁部は縫った頭部からそのまま開く。832は鋸先状口縁を呈する。833～839は壺で、833の口縁部は断面三角形、834～836は逆L字状口縁を呈する。837～839は底部破片で、上底の分厚い形態をなす。840は蓋で、攝み部を欠くが、富士山形を呈しよう。口縁部内外面に煤が遺存する。



第100図 53号住居跡実測図 (1/60)



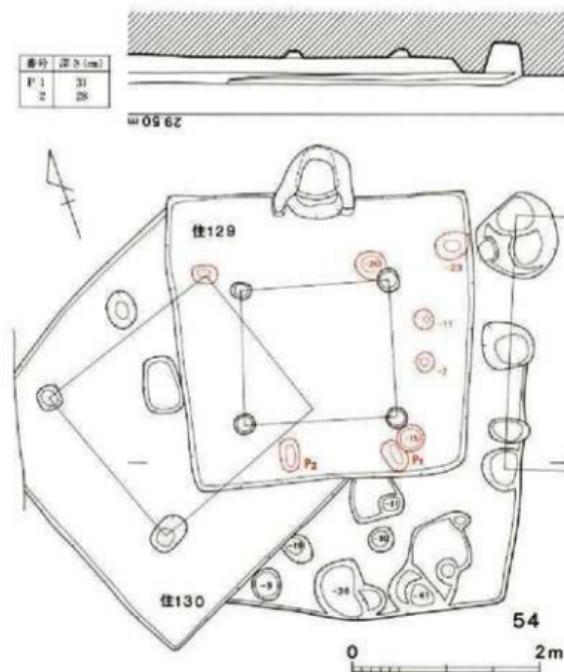
第101図 52・53号住居跡出土土器実測図 (1/4)

54号住居跡（第102図）

37号住居跡の3.5m北側に位置する。古墳時代の129・130号住居跡に切られ、南東コーナー付近を残す程度で、詳細は不明。方形住居跡になるか。柱穴は129号住居跡の下層で検出したP1・2で、深さは30cm前後。

出土遺物（第105図）

土器（841・842） 841は甕の口縁部小破片で、断面三角形を呈する。842は平底の底部破片で、鉢の底部になるか。



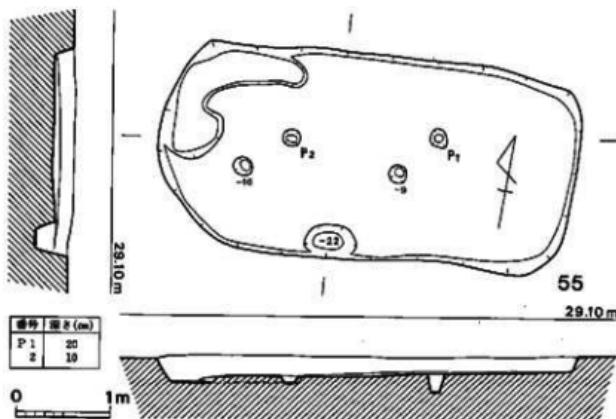
55号住居跡（図版29-1, 第103図）

49号住居跡の4m東側に位置し、奈良時代住居跡群の下層で検出した。平面形は開丸長方形を呈し、長軸を東西方向に取る。長軸長4.48m、短軸長2.2m、壁高は西壁側で0.24mを測る。

柱穴はP1・2の2本で、深さはP1が20cm、P2は10cmを測る。炉跡は不明であるが、南壁中央に長径56cm、短径35cm、深さ22cmの穴があり、屋内土壤の粗形的なものか。遺物は、土器が僅かに出土した程度。

出土遺物（第105図）

土器 (843・844) 843・844は壺で、843が口縁部片、844は底部破片。843は口縁部を水平近く折り曲げる。844は上底の分厚い底部。

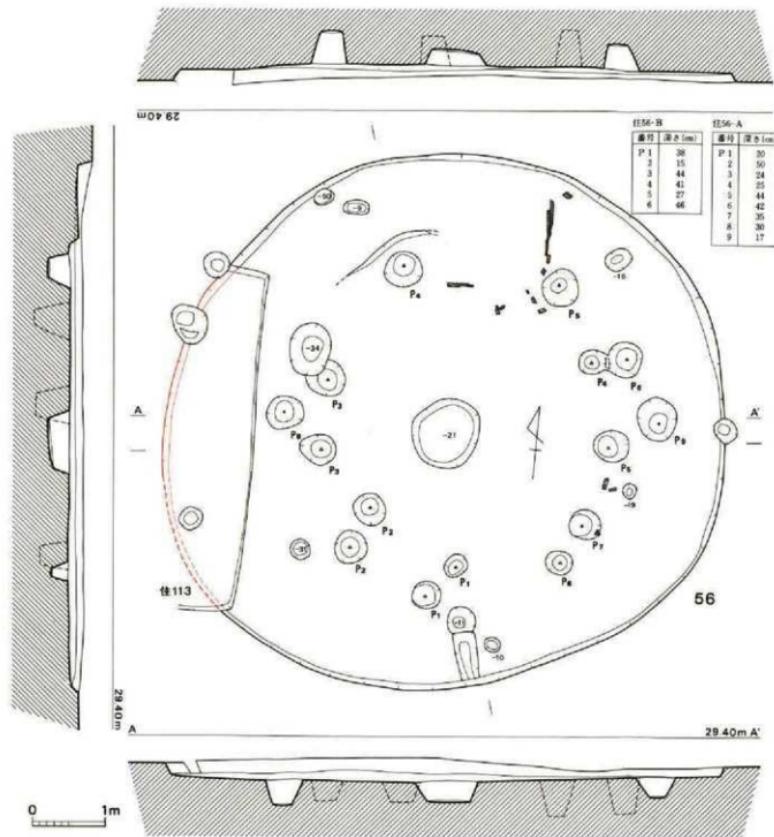


第103図 55号住居跡実測図 (1/60)

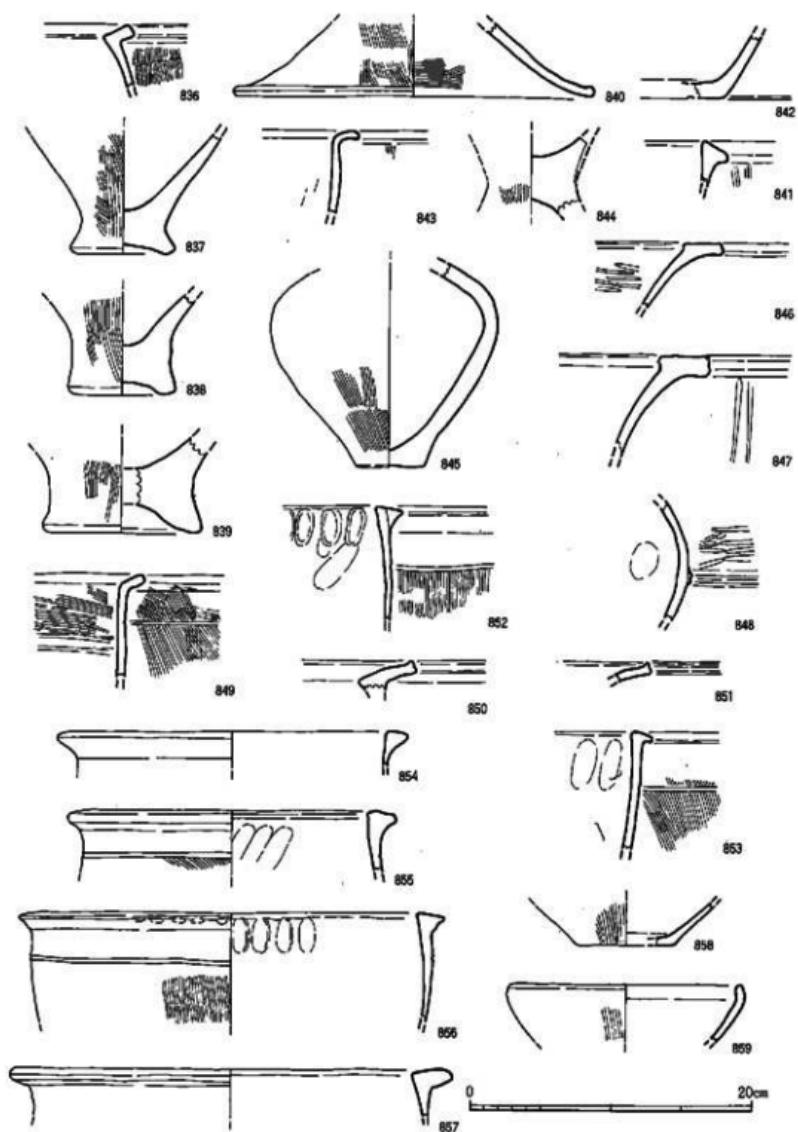
56号住居跡（図版29-2, 第104図）

45号住居跡の10m北側に位置し、113号住居跡（古墳時代）に西壁を切られる。平面形は円形を呈し、長径7.84m、短径7.3m、壁高は北壁側で18cmと遺存状態は悪い。当住居跡も整理段階で重複が判明したもので、新期住居跡を56A号、古期住居跡を56B号として報告する。

56A号住居跡はP1-7(▲印)を主柱穴とし、P8・9を棟持柱と考える。入口はP1-7間に想定した。56B号住居跡はP1-6(△印)を主柱穴とするが、P3-4間に広く空いており、未検出の柱穴が存在するのであろう。ただ、床面中央土壤が1基しかないので、窓穴部の拡幅を考えたい。また、床面には炭化材がみられた。

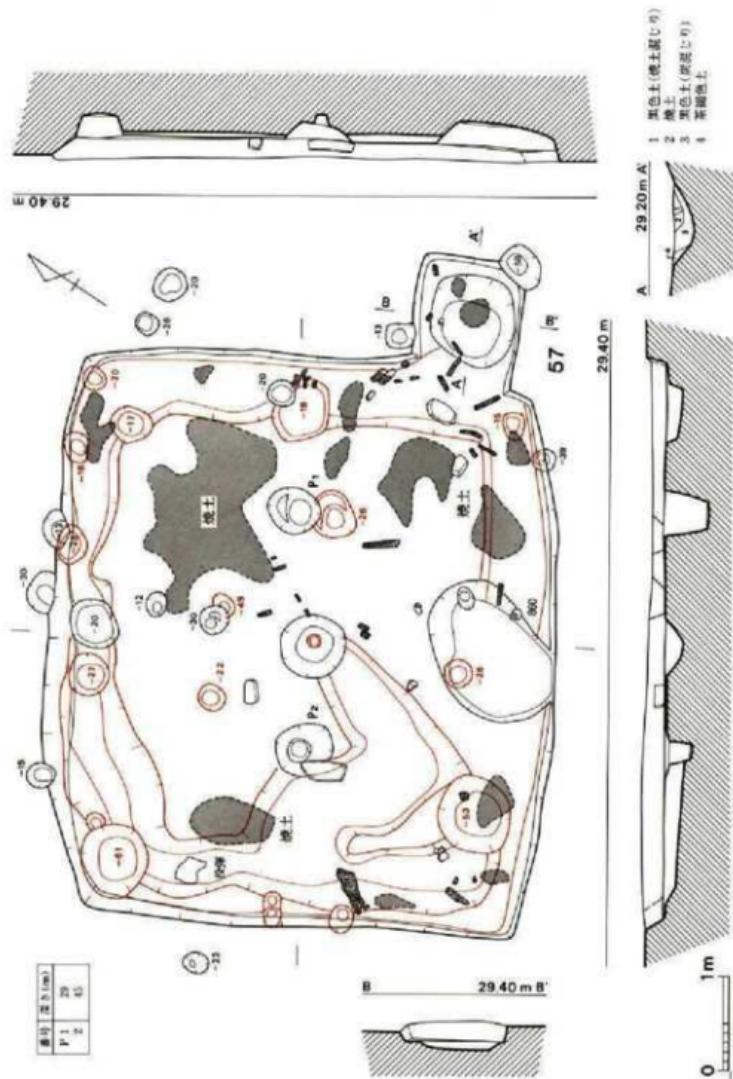


第104図 56号住居跡実測図 (1/60)



第105図 53~57号住居跡出土土器実測図 (1/4)

第106図 57号住居跡実測図 (1/60)



出土遺物（図版47-2・50-1, 第105・120図）

土 器 (845) 845は壺で、頸部以上を欠く。肩部はよく張り、平底の底部に移行する。

鉄 器 (8) 8はP1出土の棒状品で、残存長6.6cm、幅0.3cmを測る。両端部を欠損し、何れの製品になるか不明。

57号住居跡（図版30, 第106図）

56号住居跡の8m西側に位置し、58号住居跡・67号土壤を切っている。平面形は隅丸長方形を呈し、北西壁長5.86m、南西壁長4.6m、壁高は南西壁側で0.18mを測る。当住居跡は焼失家屋で、床面には焼土・炭化材が一面に散在していた。

主柱穴はP1・2の2本で、柱間は2.02mの間隔を有する。その中央に炉跡があり、径66cm、深さ18cmを測る。屋内土壤は南東壁中央にあり、長軸162cm、深さ23cmを測る。また、東コーナーに幅116cm、奥行き106cmの張り出し部があり、入口になろう。貼床を掘り下げたところ、壁際には浅い溝が巡っていた。湿気対策であろうか。また、北壁隅から投弾形土製品がまとまって出土した。

出土遺物（図版48-1・51-3, 第105・110・117・123図）

土 器 (846~860) 出土土器には、壺(846~848)、甕(849~857)、鉢(858~859)、支脚(860)がある。846・847は鋸先状口縁の壺で、848は胴部の破片。848は胴部中位にM字形凸帯を貼付する。壺の口縁部形態には、如意形を呈するもの(849)、「く」字形を呈するもの(850・851)、断面三角形を呈するもの(853~856)、逆L字状口縁のもの(857)がある。858は平底の底部破片。859は口縁部破片であるが、鉢になろう。860はずんぐりした支脚破片。

時期にばらつきがみられ、58号住居跡の遺物が混入したか。

石 器 (2・4) 2は凹基式の打製石器で、長さ2.2cm、幅1.75cm、重さ0.9gを量る。漆黒色の黒曜石製である。4は磨製石器で、基部を欠く。身は偏平で、残存長4.15cm、厚さ0.2cmを測る。刃部は刃こぼれが著しい。石材は片岩系。

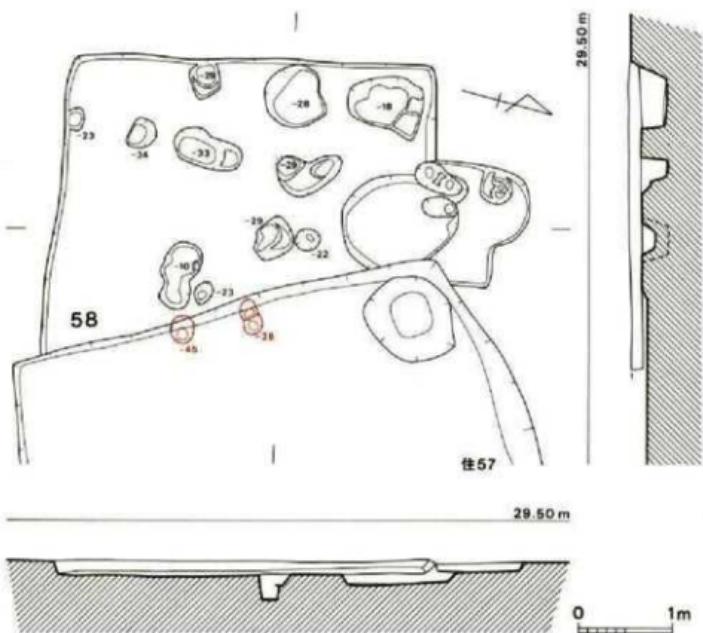
土 製 品 (10~43) 10~43は投弾形土製品で、ラグビーボール形を呈する。長さ3.5~4.45cm、径2.0~2.6cm、重さ12.5~19.75gを量る。焼成は良好で、色調は暗褐色を呈する。

58号住居跡（第107図）

57号住居跡に北半部を切られて位置する。西壁長3.82m、壁高は南壁側で14cmと遺存状態は悪い。床面にピットは存在するものの主柱穴は判然としない。また、炉跡も不詳。遺物は埋土中から土器が出土した程度。

出土遺物（第110図）

土 器 (861・862) 861は甕の口縁部小片で、862は器台の底部破片。



第107図 58号住居跡実測図 (1/60)

59号住居跡 (図版31-1, 第108図)

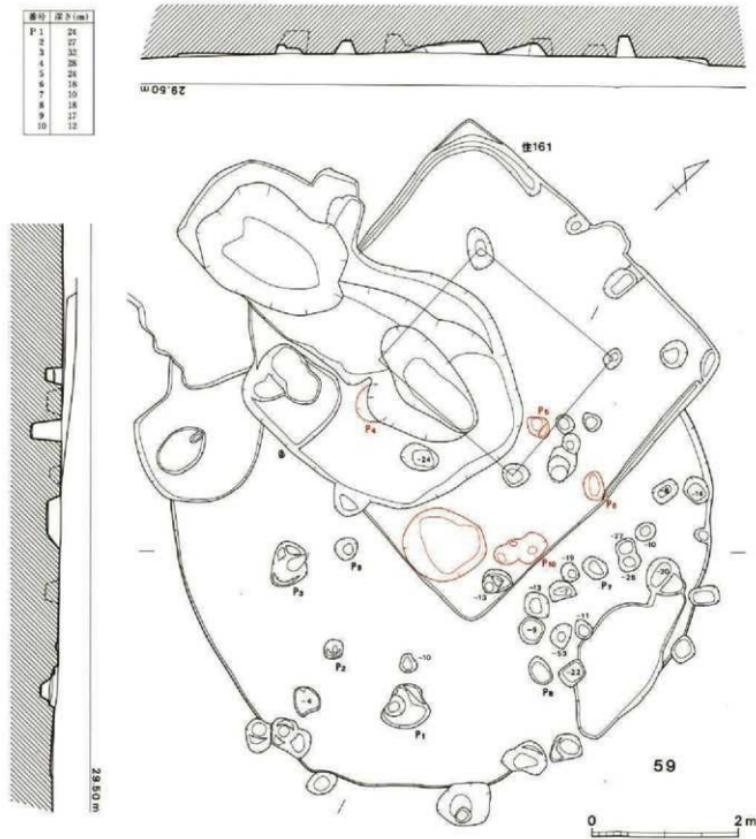
58号住居跡の2m北側に位置し、161号住居跡(古墳時代)に切られる。平面形は円形を呈し、径7.4m、壁高は東壁側で10cmと削平が著しい。主柱穴はP1~8で、深さは20~30cm前後を測る。P9・10は15cm前後で、棟持柱と考える。床面中央土壤は長径112cm、短径102cm、深さ18cmを測る。埋土中から土器が出土した程度。

出土遺物 (図版47-3, 第110図)

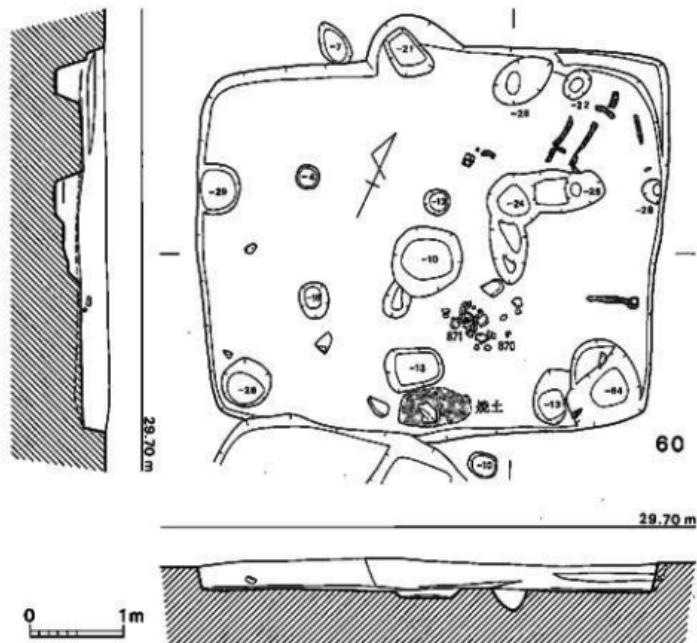
土 器 (863~868) 863は広口壺の口縁部破片で、口唇部は窪む。864~866は壺で、864は如意形を呈し、865は断面コ字形を呈する。864は頸部下位にヘラ描き沈線を施す。866は上底の底部破片。867は鉢で、口縁部は「く」字形を呈する。器壁は薄い。49号住居跡出土の誤り。868は小型の鉢で、口唇部は丸く納める。

60号住居跡 (第109図)

調査区の北側に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し、北壁長4.76m、東壁長3.72m、壁高は東壁側で0.32mを測る。当住居跡は焼失家屋で、床面には焼土・炭化材が散在していた。柱



第108図 59号住居跡実測図 (1/60)



第109図 60号住居跡実測図 (1/60)

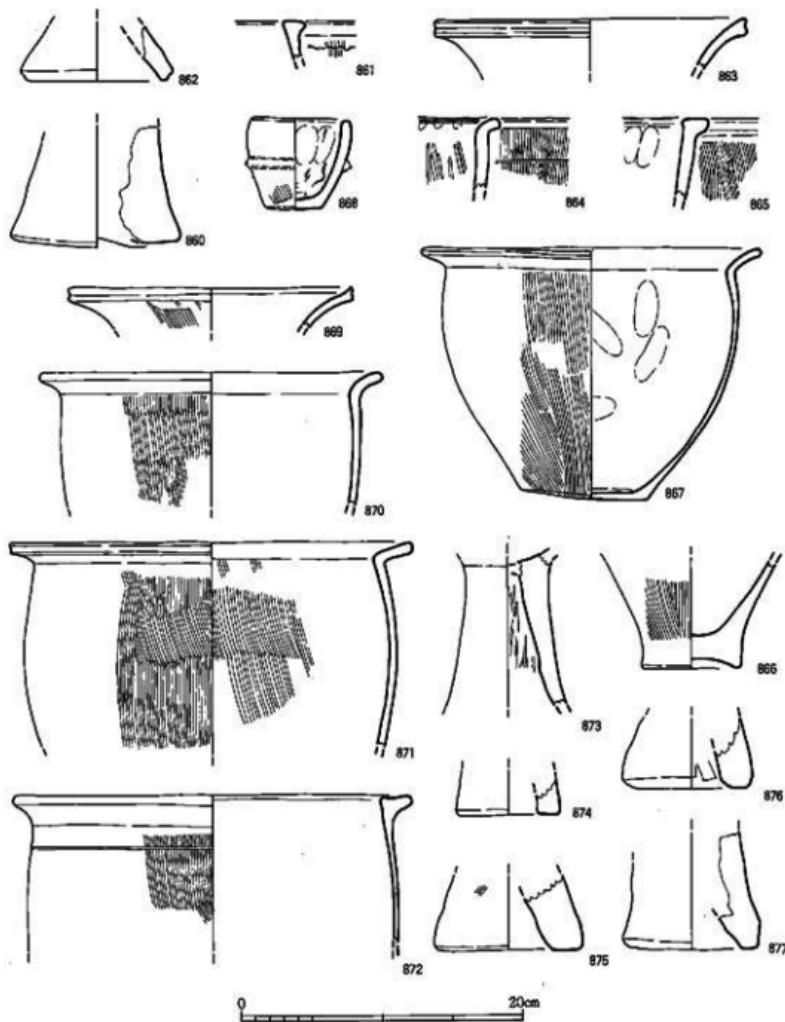
穴は・印を付したビットで、42号住居跡同様に北壁側に偏するのであろう。炉跡は床面中央にあり、径74cm、深さ10cmを測る。

出土遺物（第110図）

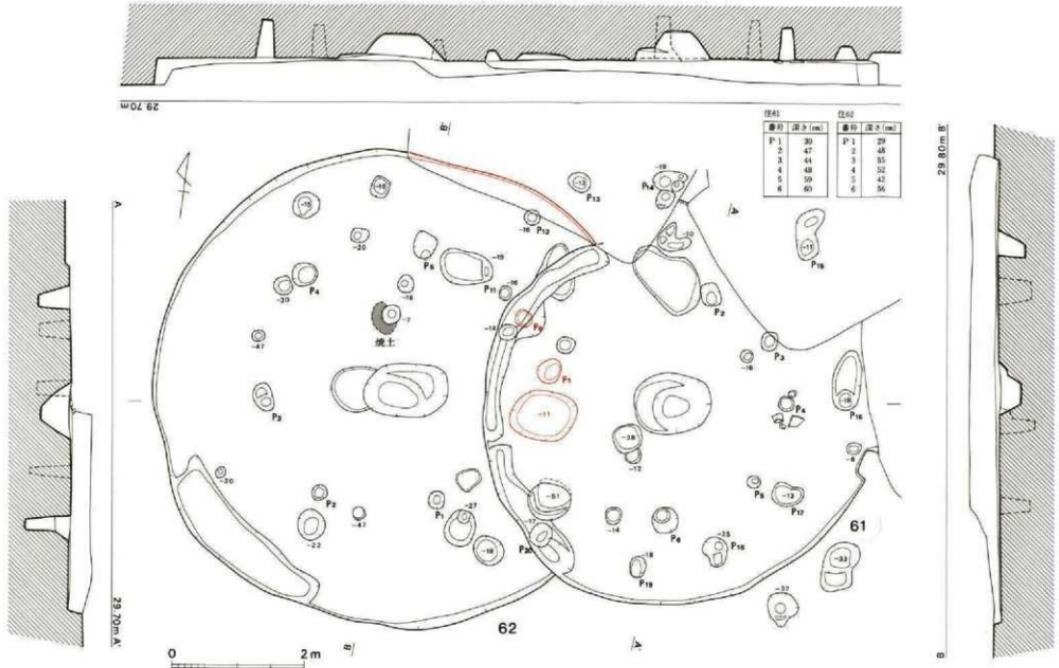
土 器 (869-877) 869は広口壺の口縁部小片で、口縁端部は上方に立つ。870-872は壺で、870・871の口縁部は「く」字形を呈する。872は逆し字状口縁を呈し、頭部の下位にヘラ描き沈線を巡らす。873は高壺の脚部で、内面にはシボリ痕がみられる。874-877は肉厚の支脚片。

61号住居跡（図版32-1、第111図）

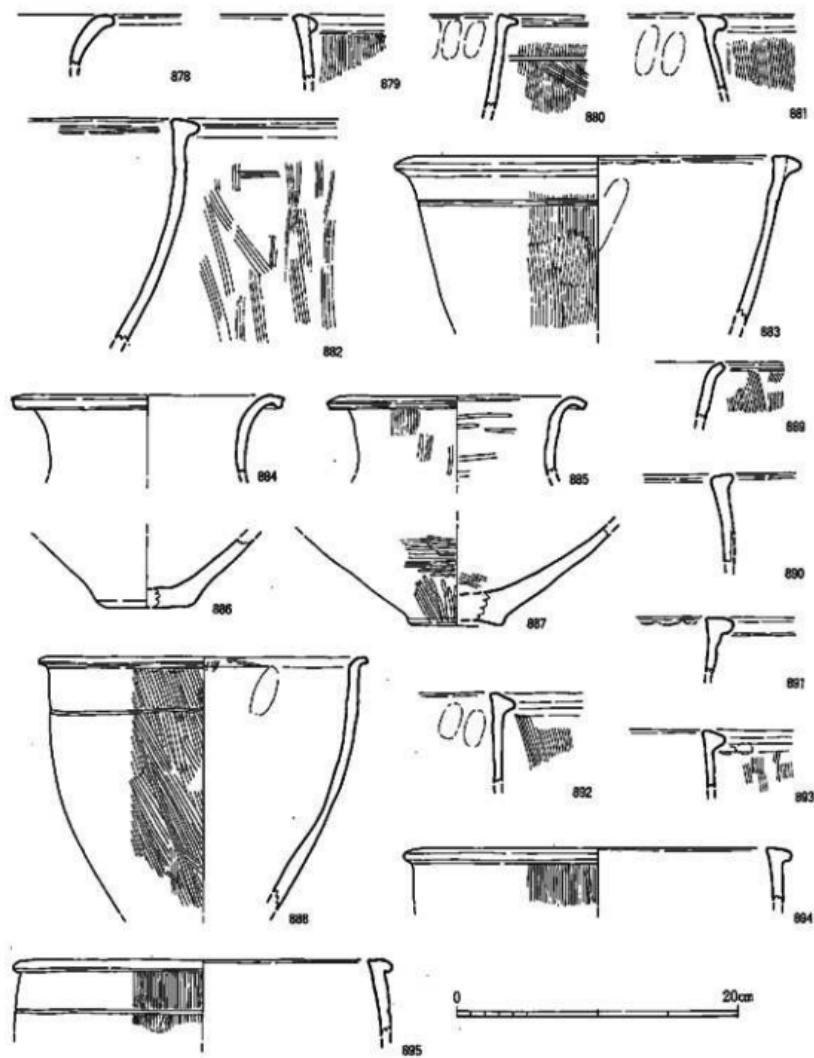
60号住居跡の2.5m南側に位置し、62号住居跡を切っている。奈良時代の住居跡に切られるため遺存状態は悪い。径5.94m、壁高は南壁側で0.32mを測る。柱穴はP1~6で、P1~2間は柱間が広く、未検出のピットが存在するか。P1~6間が入口部になろう。また、P11~20は深さが11~25cmで、円形に配されていることから住居の重複が考えられる。床面中央土壌は長径114cm、短径92cm、深さ45cmで、西側に幅25cmのテラスを有する。壁面が加熱を受けてい



第110図 57~60号住居跡出土土器実測図 (1/4)



第111図 61・62号住跡実測図 (1/60)



第112図 61・62号住居跡出土土器実測図 (1/4)

ないことから炉跡とは考え難い。

出土遺物（第112図）

土 器 (878~883) 878は壺の口縁部小片。879~883は壺の口縁部破片で、断面三角形を呈する。880・883の頸部下位にはヘラ描き沈線を施す。

62号住居跡（図版32-1, 第111図）

61号住居跡に東半部を切られる。平面形は7.2mを測る円形を呈し、壁高は西壁側で0.4mと深い。主柱穴はP1~6の6本で、P1~6間は間隔が長すぎる嫌いがあるが、こちら側に入口を想定しておこう。床面中央土壤は長径126cm、短径80cmの小判形を呈し、北側に幅22cmのテラスを設ける。32cmと深く、壁面が加熱を受けていないことから炉跡とは考え難い。

出土遺物（図版47-4・49-2, 第112・114・119図）

土 器 (884~904) 出土土器には、壺(884~887)、甕(888~902)、鉢(903・904)がある。壺884・885は頸部から直線的に立上がり、先端部で鉤状に屈曲する。886・887は平底の底部片で、887は大きく開く。壺の口縁形態には、如意形を呈するもの(888・889)、断面三角形を呈するもの(892~894・896)、断面コ字形を呈するもの(897)がある。888・895~897の頸部下位にはヘラ描き沈線を施す。898~902は底部片で、肉厚の上底をなす。

903・904は小型の鉢で、903は口縁部が肥厚する。

石 器 (32) 32は中央部が窪むものの、上面は砥石ほど平滑に仕上げておらず、砥石とは別用途であろう。側縁は加熱により黒変している。石材は片岩系。

63号住居跡（第113図）

62号住居跡の4m西側に位置し、奈良時代住居跡群の下層で検出した。長軸を東西方向に取り、北壁長3.96m、西壁長3.12m、壁高は北壁側で0.31mを測る。床面にピットは存するものの主柱穴は判然としない。北壁側と西壁側に壁小溝を設けているが、全周しない。南壁中央側にある径54cmの穴は、屋内土壤の祖形的な穴になるか。住居埋土中から石包丁が出土した。

出土遺物（第114・118図）

土 器 (905~912) 905は鋤先状口縁壺の未発達のもので、歪みが著しい。906は小型の壺の底部にならう。907~912は壺で、907が断面三角形を呈し、908~910は逆L字状口縁を呈し、910は発達している。911は平底、912は高台状の上底をなす。

石 器 (21) 21は石包丁で、長さ7.8cm、刃部幅4.5cm、重さ39.8gを量る。円孔は0.6cmで、両面から穿孔しているが、位置が極端にずれており、製作時に欠損したため縁側寄りに空けたのである。石材は輝緑凝灰岩。

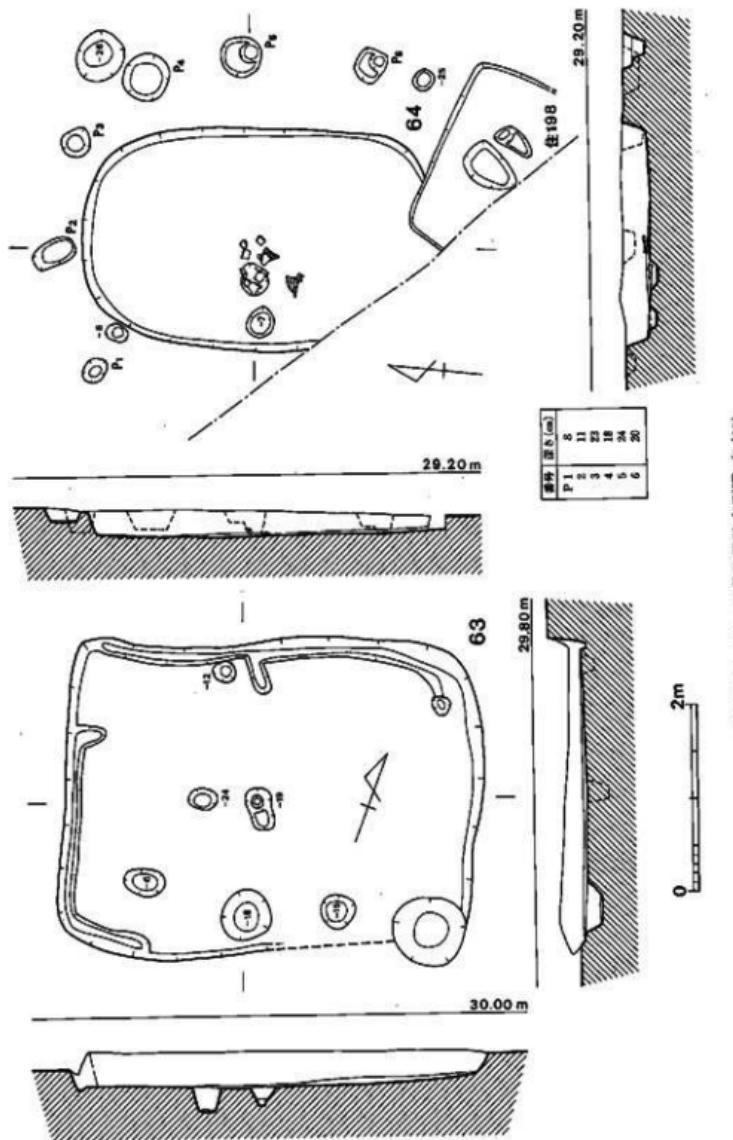
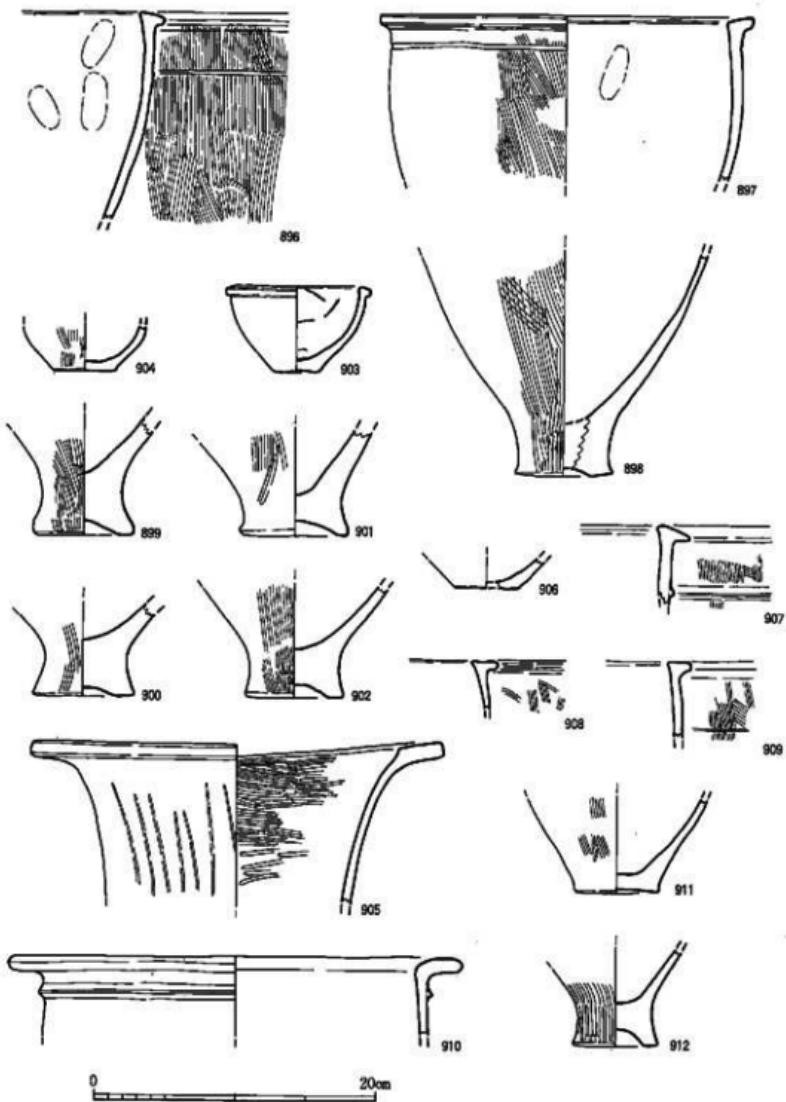


圖113圖 63・64号住居跡実測図 (1/60)



第114図 62・63号住居跡出土土器実測図 (1/4)

64号住居跡（図版32-2、第113図）

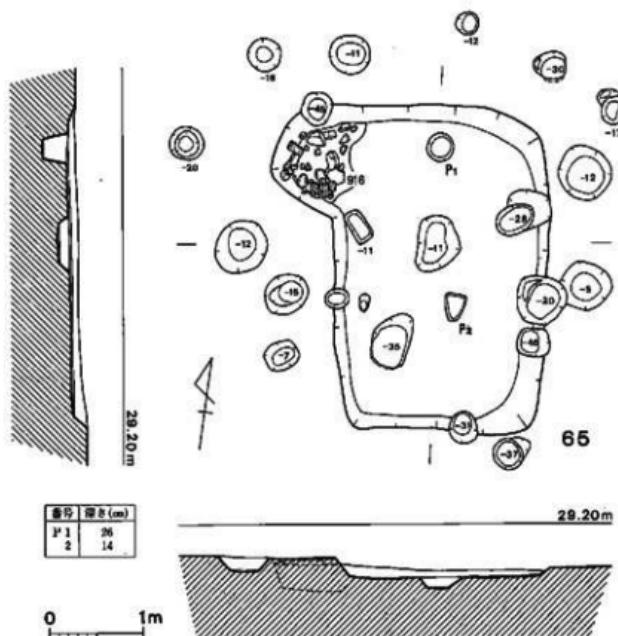
調査区の北西端部で、63号住居跡の9m西側に位置する。奈良時代の198号住居跡に切られる。平面形は小判形を呈し、長軸長3.8m程、短軸長2.37m、壁高は東壁側で0.25mを測る。竪穴部内には柱穴とすべき穴ではなく、竪穴部外のP1~6が当住居跡に関連するピットであろう。遺物は土器が出土した程度。

出土遺物（第116図）

土 器 (913~915) 913・914は甕の口縁部小片で、913が断面三角形、914は逆L字状口縁を呈する。915は甕の底部破片で、若干の上底をなす。

65号住居跡（図版33-1、第115図）

38号住居跡の1m北西側に位置する。当初、竪穴としていたが、床面に柱穴を有するので住居跡に変更した。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸長3.46m、短軸長2.32m、壁高は西壁側で

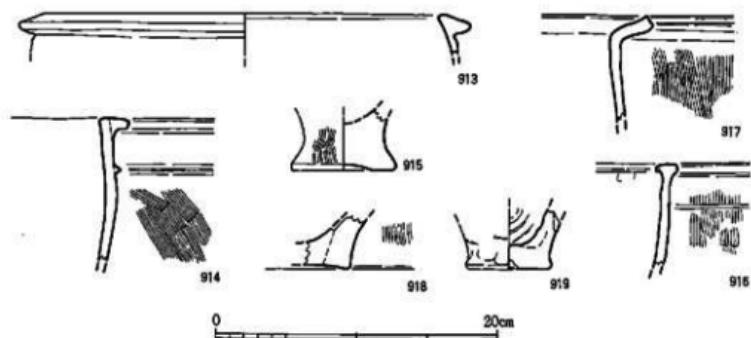


第115図 65号住居跡実測図 (1/60)

0.2mを測る。柱穴はP1・2で、その中間の穴が炉跡になるか。また、竪穴部周辺のピットの中には、当住居跡と関連するものも含まれていよう。北西コーナーはピットと重複しており、礫が入っていた。

出土遺物（第116図）

土 器 (916・919) 916・917は壺の口縁部小片で、916は断面コ字形を呈する。917は「く」字状口縁で、端部を跳ね上げる。混入したのであろう。918・919は平底の壺底部片。

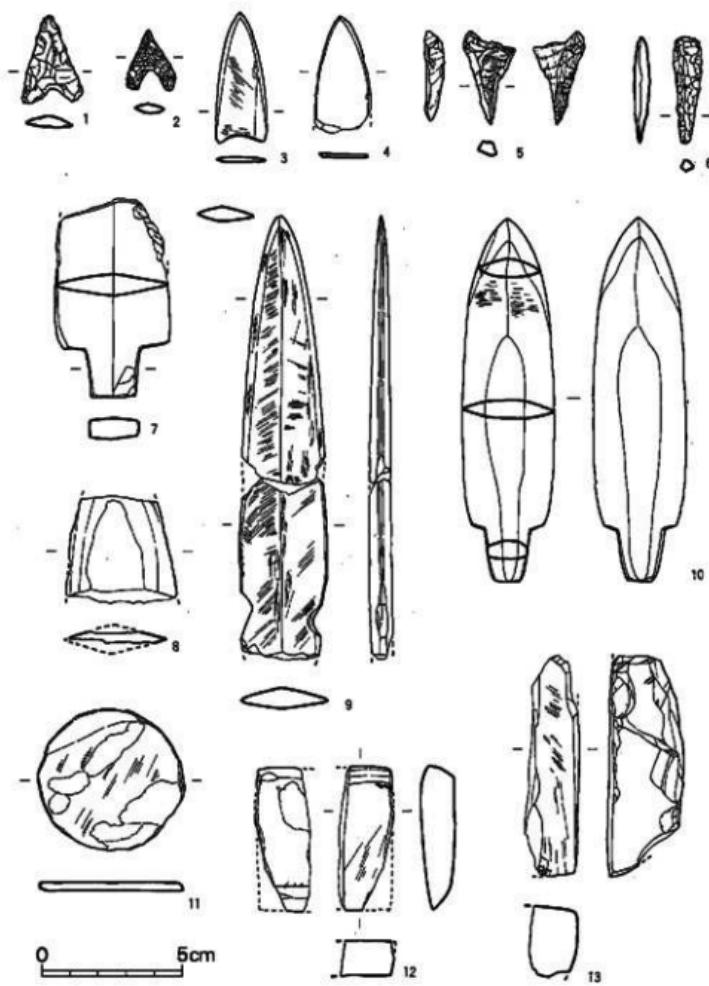


第116図 64・65号住居跡出土土器実測図 (1/4)

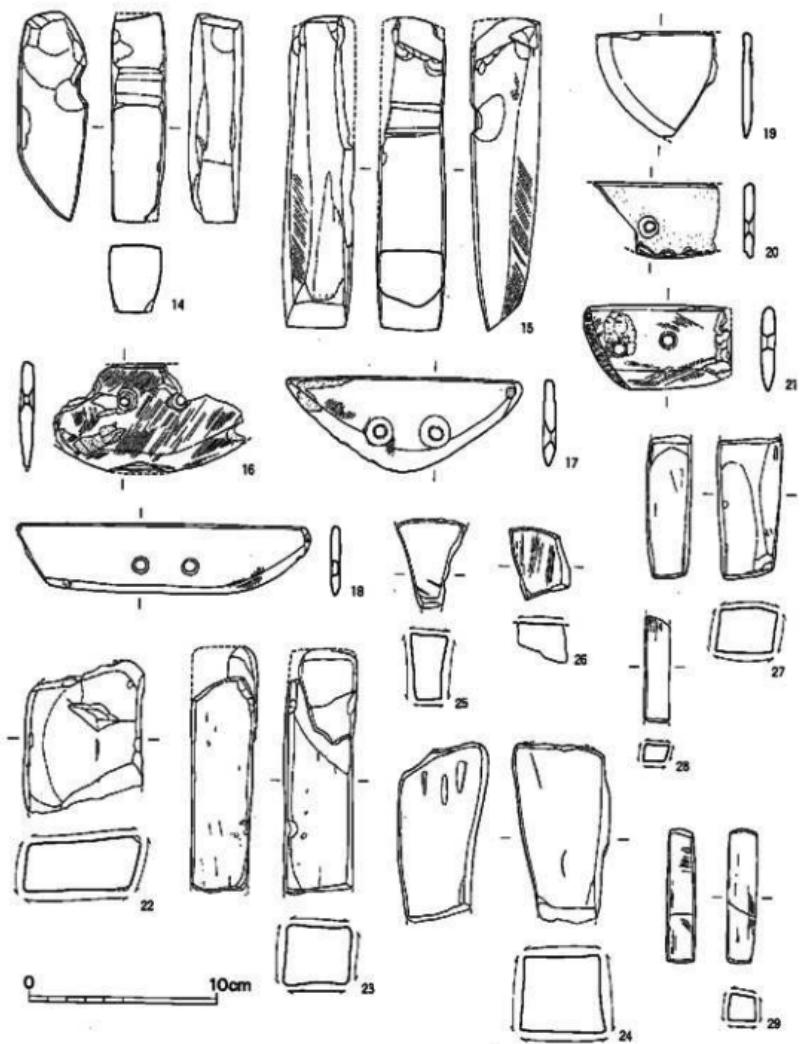
表1 投弾形土製品計測表

(単位: cm, g)

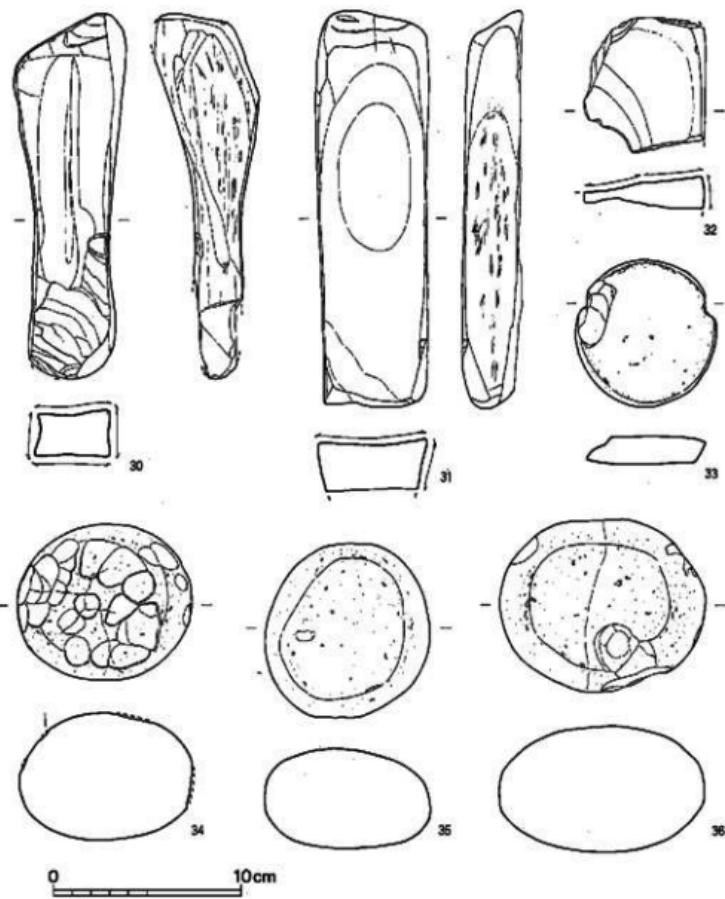
No	出 土 地	長さ	幅	重さ	No	出 土 地	長さ	幅	重さ	No	出 土 地	長さ	幅	重さ
1	8号住居跡	4.5	2.65	23.7	16	57号住居跡	4.45	2.4	18.9	31	57号住居跡	3.9	2.0	15.1
2	タ	4.6	2.5	23.7	17	タ	3.95	2.1	16.8	32	タ	3.9	2.1	15.8
3	21号住居跡	4.4	2.65	28.7	18	タ	4.1	2.3	15.9	33	タ	3.9	2.3	16.6
4	12号住居跡	4.8	2.6	27.6	19	タ	4.0	2.1	16.2	34	タ	4.05	2.25	15.6
5	32号住居跡	3.9	2.6	—	20	タ	3.7	2.15	13.95	35	タ	4.25	2.35	17.3
6	49号住居跡	4.2	2.8	26.4	21	タ	4.0	2.15	14.7	36	タ	4.0	2.1	16.5
7	タ	3.95	2.7	23.4	22	タ	3.7	2.1	14.0	37	タ	4.1	2.2	16.1
8	タ	4.05	2.6	26.7	23	タ	3.5	2.2	15.3	38	タ	3.95	2.6	19.8
9	タ	2.55	2.45	14.7	24	タ	3.85	2.1	14.7	39	タ	3.8	2.0	10.1
10	57号住居跡	3.8	2.15	14.7	25	タ	4.15	2.35	16.3	40	タ			
11	タ	4.15	2.25	16.6	26	タ	3.95	2.1	14.3	41	タ			
12	タ	4.1	2.2	16.7	27	タ	4.1	2.2	16.9	42	タ			
13	タ	4.15	2.4	18.4	28	タ	3.7	2.0	12.5	43	タ			
14	タ	3.6	2.25	15.6	29	タ	4.1	2.25	16.7					
15	タ	3.95	2.15	16.3	30	タ	4.05	2.3	17.6					



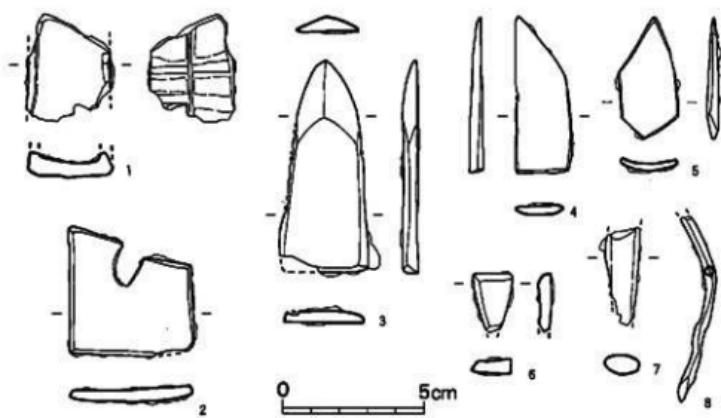
第117図 住居跡出土石器実測図① (1/2)



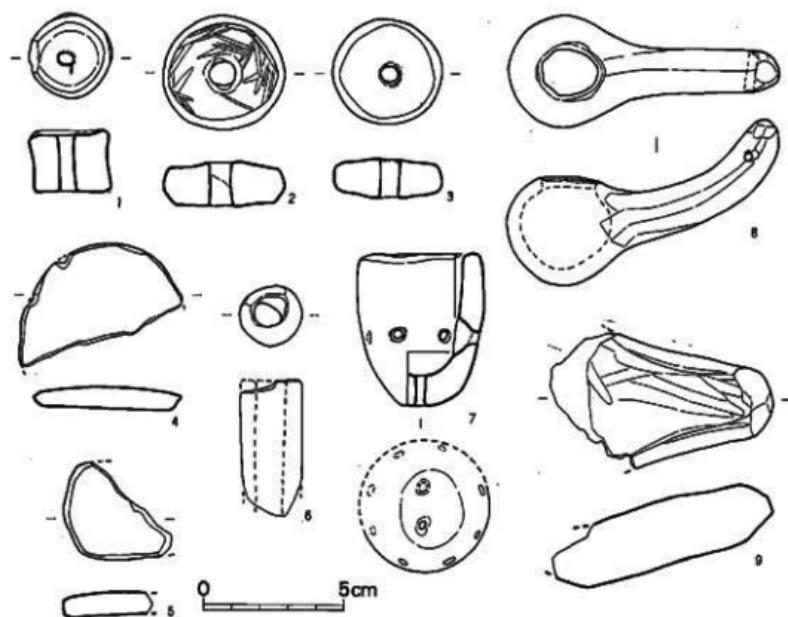
第118図 住居跡出土石器実測図② (1/3)



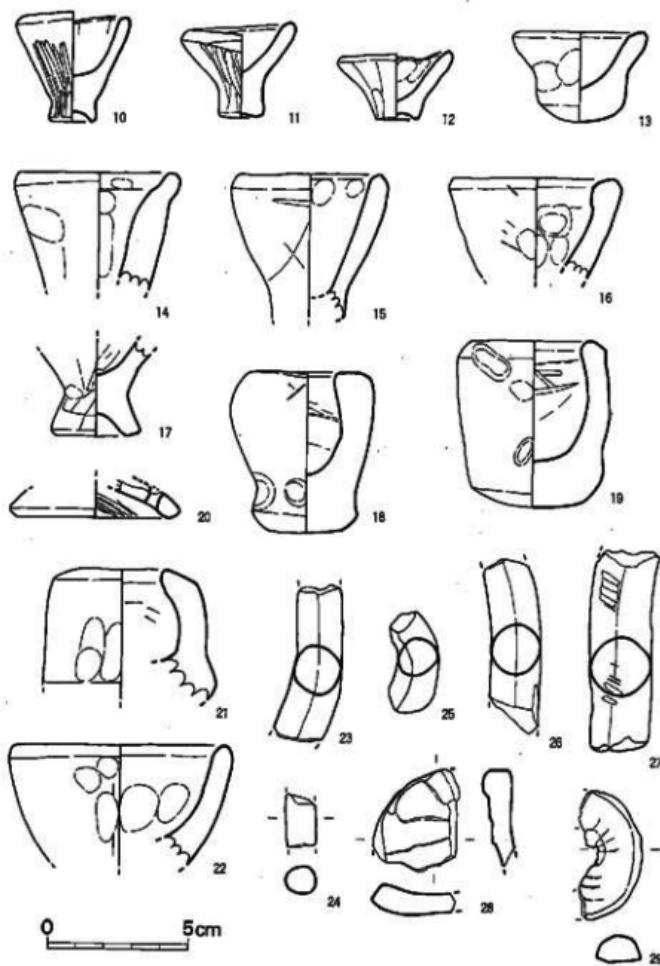
第119図 住居跡出土石器実測図③ (1/3)



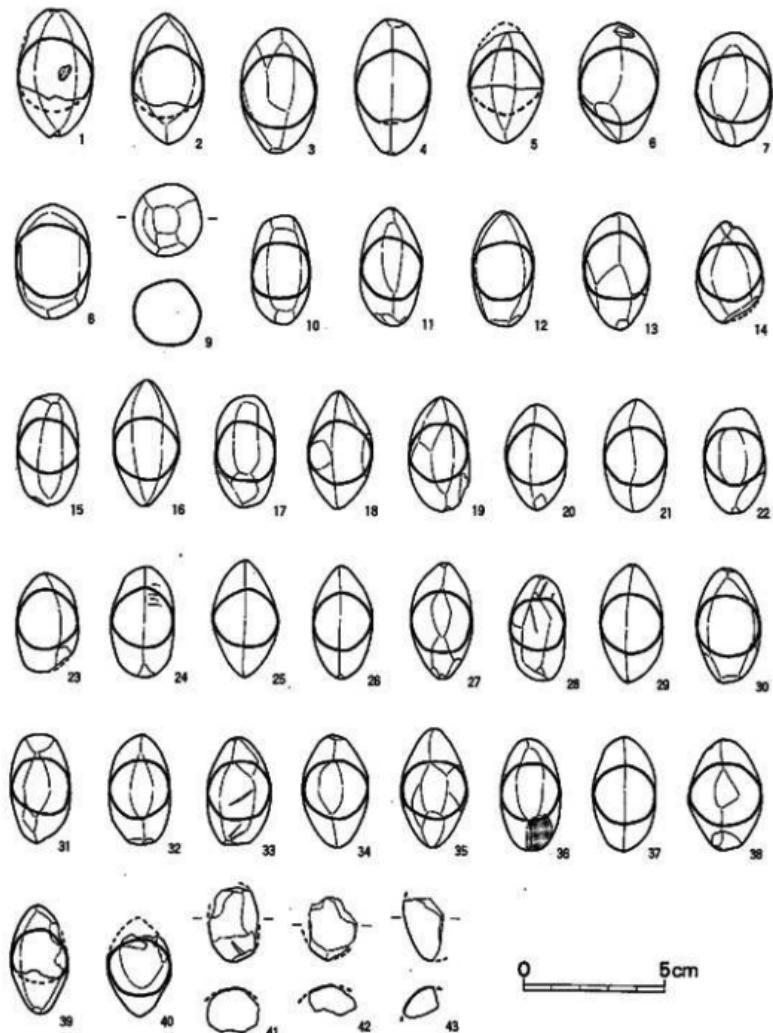
第120図 住居跡出土鉄器実測図 (1/2)



第121図 住居跡出土土製品実測図① (1/2)



第122圖 住居跡出土土製品実測図② (1/2)



第123図 住居跡出土投弾形土製品実測図 (1/2)

表2 住居跡一覧表①

No	平面形	規 模			面積	特 殉 遺 物	備 考	時 期	旧No
		長幅	短軸	残高					
1	円 形 ?	—	—	0.23	—	石斧・手椎ね土器	貯7を切る	中期前半	1
2	隅丸方形?	4.42	—	0.10	—	鉄斧片	住13・14を切る	中葉	2
3	隅丸方形	—	4.12	0.16	—			中葉	3
4	—	—	—	0.10	—		D20と重複	前半	4
5	隅丸長方形	5.04	3.46	0.12	16.4	ミニチュア土器	堅21・貯31-33を切る	前半	5
6	偏円形	6.54	6.08	0.38	31.5	紡錘車・土製品	堅17を切る	中葉	6
7	偏円形	7.0	6.6	0.24	36.8		D56を切る	前半	7
8	隅丸長方形	—	4.12	0.26	—	紡錘車・投擲	堅13・22を切る	前半	9
9	長方形	—	3.96	0.06	—	石斧・石包丁	堅20を切る	前半	10
10	隅丸長方形	6.91	5.47	0.12	37.0	磨製石鎌・石剣	住7を切る	中葉	11
11	隅丸長方形	4.33	3.63	0.20	15.7		張出し部あり	中葉	46
12	円 形	7.43	7.20	0.18	43.4	ミニチュア土器・投擲	住16・堅18を切る。拡幅	初頭	12
13	—	—	—	0.08	—	石包丁・紡錘車	詳細不明	前半	13
14	隅丸方形?	—	—	0.10	—		住13を切る	中葉	14
15	—	—	—	0.07	—		詳細不明	前半	15
16	円 形	6.0?	—	0.04	—	砥石		初頭	16
17	不整長方形	5.68	3.87	0.05	19.0	石鎌・石鋸・砥石	住19を切る	前半	201
18	—	—	—	0.16	—		詳細不明。住19を切る	前半	203
19	不整円形	—	8.60	0.14	—			前半	200
20	偏円形	8.84	—	—	—	石劍・石鋸・石製円鏡	二軒重複	前半	197
21	長円形	7.70	—	0.13	—	砥石・鉄鋸・土製品	住24を切る	前半	190
22	—	—	—	0.13	—		詳細不明	初頭	206
23	不整円形	5.36	—	0.20	—		住21を切る	前半	191
24	円 形 ?	5.0?	—	0.17	—			前半	211
25	隅丸長方形	6.46	3.48	0.08	—	砥石・土製品	住27を切る	前半	186

単位:m, m
※印:推定値

表2 住居跡一覧表②

No	平面形	規 模			面積	特 殉 遺 物	備 考	時 期	旧No
		長軸	短軸	残高					
26	円 形	—	—	0.10	—	石斧・砥石・土器片錐		中期前半	184
27	—	—	—	0.12	—		詳細不明	前半	195
28	長円形	4.96	2.86	0.14	12.1			中葉	58
29	長円形	4.96	2.98	0.15	12.8			中葉	57
30	隅丸方形	3.82	3.38	0.13	11.3			前半	125
31	小判形	4.64	2.80	0.14	11.0			前半	126
32	小判形	5.64	3.92	0.30	18.9	石劍・鐵器片		前半	127
33	—	—	—	0.34	—		壁50に切られ。詳細不明	—	128
34	小判形	6.82	4.18	0.34	24.5	鉄器・ミニチュア土器		前半	135
35	小判形	6.08	3.58	0.30	19.1	石包丁		前半	136
36	小判形	7.42	4.12	0.22	—	土器片錐		前半	141
37	小判形?	—	4.74	0.22	—	石包丁・ミニチュア土器		前半	145
38	小判形?	—	3.36	0.14	—	石包丁・鐵器片	壁43に切られる	前半	69
39	小判形?	7.36	4.08	0.14	24.4	すり石	壁穴と重複	前半	67
40	小判形	4.84	3.31	0.06	13.4			前半	64
41	小判形	4.72	3.42	0.14	13.7		建替え	—	215
42	隅丸長方形	4.80	3.46	0.15	15.6		壁140を切る	前半	61
43	隅丸長方形	6.24	5.24	0.24	30.8		壁42を切る。焼失家屋	中葉	52
44	小判形	6.96	3.72	0.26	22.2	ミニチュア土器	壁45を切る	前半	49
45	円 形	5.92	—	0.14	—			—	48
46	偏円形	7.70	7.22	0.36	42.5			初頭	63
47	小判形	8.42	4.80	0.32	36.8	砥石・鐵鏡・土製品	壁48を切る	中葉	181
48	円 形	8.38	7.82	0.24	52.8	石劍・すり石		初頭	180
49	隅丸長方形	5.72	4.75	0.34	31.5	砥石・すり石・投擲器	壁50を切る。焼失家屋	中葉	26
50	円 形?	6.6?	—	0.12	—			初頭	27

単位:m, m²

※印: 指定値

表2 住居跡一覧表③

No	平面形	規模			面積	特殊遺物	備考	時期	旧No
		長軸	短軸	残高					
51	隅丸方形	5.44	4.12	0.12	—		住52を切る	中期前半	156
52	不整円形	6.08	5.88	0.22	29.1	石斧		△初頭	30
53	隅丸長方形	6.0	4.04	0.10	■ 22.6		住48・堅37を切る	△前半	161
54	方 形	—	—	0.08	—			△前半	148
55	隅丸長方形	4.48	2.20	0.24	9.1			△前半	214
56	円 形	7.84	7.30	0.18	45.8	不明鉄器	住居の括縁	△初頭	42
57	隅丸長方形	5.86	4.60	0.18	32.9	石鏡・投弾形土製品	住58を切る。焼失家屋	△中葉	21
58	隅丸方形？	—	3.82	0.14	—			△ —	22
59	円 形	7.40	—	0.10	—			△初頭	20
60	隅丸長方形	4.76	3.72	0.32	19.4		焼失家屋	△中葉	107
61	円 形	5.94	—	0.32	—		住62を切る。二軒重複	△初頭	111
62	円 形	7.20	—	0.40	—	石製品		△初頭	110
63	隅丸長方形	4.46	3.29	0.31	■ 14.3	石包丁		△前半	212
64	小判形	3.87	2.37	0.25	■ 7.9			△前半	82
65	隅丸長方形	3.46	2.32	0.20	8.2			△前半	堅28

単位:m, m²

■印: 検定値

註1 井上裕弘編 九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告－18－（上の原遺跡Ⅰ）1990 福岡県
教育委員会

IV 各論

1. 住居跡について

上の原遺跡では、総数65軒の弥生時代住居跡を検出した。平面形は円形(19基)・隅丸方形(6基?)・隅丸長方形(12基)・小判形(20基)・不明(8基)を呈し、円形→小判形→長方形と切合い関係を有する。

円形住居跡は径6~8.6mの規模で、柱数は6・8・10本数える。床面中央に長さ1m前後、深さ0.5mの土壙を設けているが、焼土・炭はみられず炉跡とは考え難い。

小判形住居跡は長軸3.8~8.4m、短軸2.3~4.8mを測る。床面にピットは有るもの、主柱穴は判然としない。41号住居跡は2本柱になろう。また、長軸方位を東西方向にとる32~38・47・51・55号と南北方向にとる31・44・64号及び北西→南東方向にとる28・29・39号の3群があり、時期差によるものであろう。

長方形住居跡は長辺4.8~6.9m、短辺3.7~5.4mを測る。2本柱で、中央に炉を有し、壁際に屋内土壙を付設する。

出土遺物は土器の他に、磨製石鎌・磨製石剣・抉入石斧・石包丁・石錐・砥石・すり石、鋳造鉄斧・鉈、投弾形土製品、紡錘車・ミニチュア土器等がある。

平面形は、円形住居跡(中期初頭)→小判形住居跡(中期前半)→長方形住居跡(中期中葉)と変遷するが、中期前半の小判形住居跡は三つの方向性があり、時期的に細分される可能性を有する。

(小田)

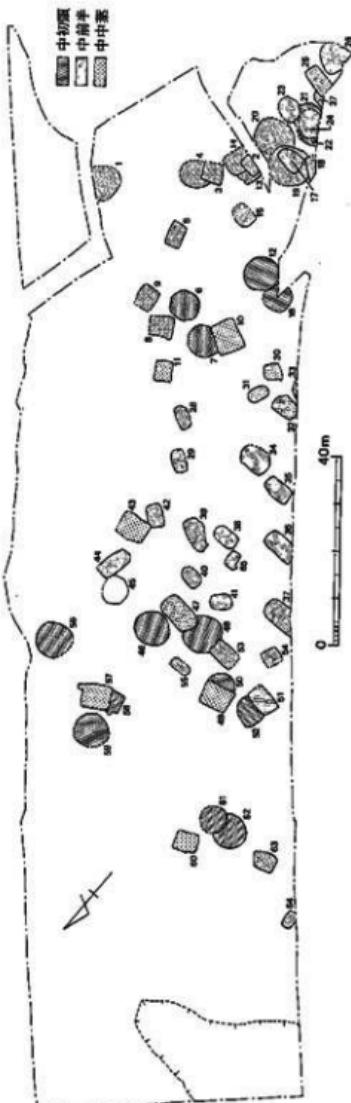


図124 弥生時代住居跡変遷模式図 (1/1,200)

2. 住居跡出土の土器群について

甘木・朝倉地方における弥生時代遺跡の調査例は多いが、弥生前期から中期にわたる調査例は以外と少ないのが現状である。従って、この時期の土器編年は整備できていないのが実状である。さきに上の原遺跡の貯蔵穴から出土した前期末から中期前半の土器群について、一部整理したところであるが（註1）、ここでは住居跡出土の資料をもとに後続する土器群を含めて再整理をしておきたい。

上の原遺跡の住居跡出土の土器群は、良好な一括資料もあるが、その多くは破片資料が多く必ずしも十分な資料でなく、今後の資料の増加により補足する必要がある。住居跡出土の土器群は中期初頭から中頃の資料で大きく三時期に区分できる。なお、前回の時期区分を踏襲して中期初頭を上の原Ⅱ期として取り扱い、Ⅲ期からⅣ期の土器群の変遷を整理する。

次に、各期毎の土器群の特徴と変遷を明らかにし、主に、壺・甕・高坏の形態的特徴とその変化を中心に説明したい。

上の原Ⅱ期 この時期の良好な一括資料は、12号・16号・48号・50号・62号住居跡出土の土器群である。壺には大小がある。立ち気味に外反する口頭部に肩の張った扁球形の胴部が付く壺で、頭部下には沈線や三角凸帯が巡るものがある（748・749・812）。調整は、外面が丁寧なヨコヘラ磨きで仕上げ、内面はヘラ磨きしたものとナデのものがあり、胎土は精良で焼成も良好な作りの良い土器である。甕は前期の系譜を引く如意形口縁のもの（814）と口縁端部に三角凸帯を付したもの（168・176・186・816）がある。とりわけ、三角凸帯を巡らす甕は、この時期の特徴的な甕であり、いわゆる亀ノ甲タイプといわれるものである。三角凸帯を付した168・176の口縁下には沈線が、186には三角凸帯が巡っている。底部はいずれも器肉が厚く、172・176・186・824のように外方に張出し、凹み底を呈するのがこの時期の甕の特徴である。調整は外面刷毛、内面ナデ仕上げのものが多く、159のように内外ともナデで仕上げた作りの良い土器もある。高坏の坏部は深めで、口縁部は原初的な鋸先状口縁をなしている。脚部はⅣ期の高坏に比べ全体に短めで、裾部はラッパ状に開くタイプである。

上の原Ⅲ期 この時期の一括資料としては、1号・6号・19-21号・23号・25号・32号・34号～37号・39号・40号・44号住居跡出土の資料があり、最も豊富な時期である。器種としては、壺・甕・鉢・蓋・椀・高坏・器台などがある。壺には大・中・小があり、口頭部の形状により4つのタイプがある。56・152・255・256は大きく開く口頭部に原初的な鋸先状口縁の壺、529は頭部が強くしまった鋸先状口縁の壺で、胴部には3条のM字状凸帯がつく作りの良い土器である。151は口頭部が大きく外反する單口縁の壺で、内外ともヘラ磨きで仕上げた作りの良い土器で、頭部にはしばしば暗文を施すものがある。777は「く」字状に外反する無頭壺で、口縁部上面には2個対の紐通しの小孔が穿たれている。甕は「く」の字状口縁のもの（161）と

原初的な鋤先状口縁のもの（190・191・271・273）がある。「く」の字状口縁のものには66のように口縁端部を跳ね上げ気味に仕上げた壺もある。この地域では珍しいタイプで、筑豊地方でよくみる壺である（註2）。鋤先状口縁の壺は、Ⅱ期の三角凸帯の壺から生成されたもので、口縁部上面の幅は狭く、内面の屈折も不明瞭なのがこの時期のこの種の壺の特徴である。また、Ⅱ期の壺の器肉の厚い底部は姿を消し、平底の底部に変わる。調整は、胴部外面が刷毛、内面はナデを基本とし、66のように内外ともナデで仕上げたものや、191のように内外ともヘラ磨きで仕上げた特殊な壺もある。高坏は、Ⅱ期のものより口縁部が拡大し、鋤先状に近い形状を呈してくる（193）。

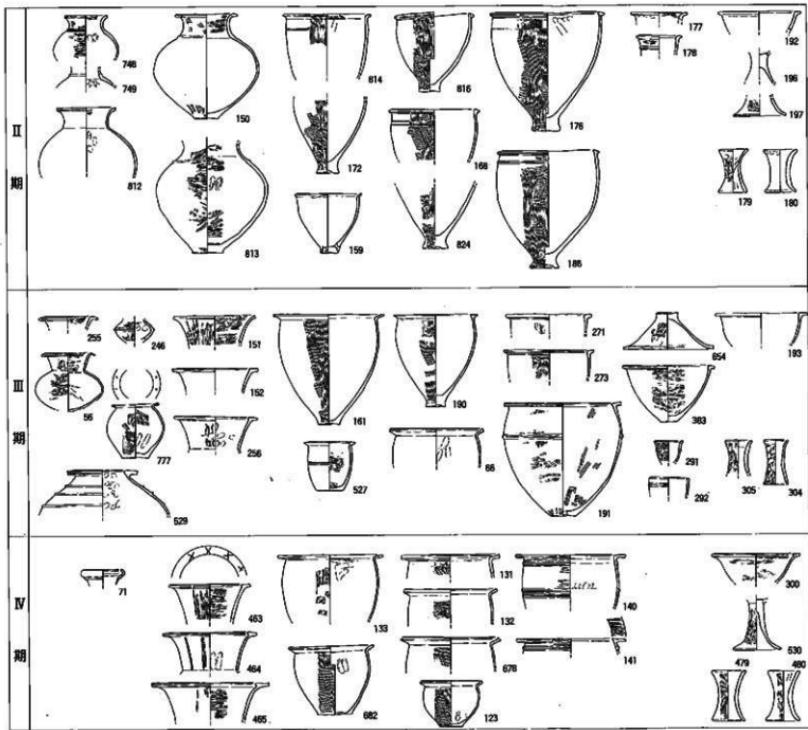
上の原Ⅳ期 この時期の一括資料としては、2号・3号・10号・11号・14号・17号・18号・28号・43号・47号・49号住居跡出土の土器群などがある。器種としては壺・壺・鉢・高坏・器台などがある。壺には大・小があり、71のように袋状口縁をなすもの、463・464・465のような鋤先状口縁のものがある。また、一括資料としては欠落しているが、この時期にもⅢ期にある大きく外反する単口縁の壺は存続している。いわゆる袋状口縁の壺は、この時期から出現する特徴的な土器といえる。一方、鋤先状口縁の壺はⅢ期のものより内面の屈折が明瞭な典型的な鋤先状をなすのが特色である。調整は内外ともヘラ磨きで丁寧に仕上げるもののが一般的で、463・464・466の頸部外面に見られるようなヘラによる暗文を施したものもある。また、463のように口縁部上面にX字状の記号を施したものもある。壺は「く」の字状口縁のものと、鋤先状口縁のものとがあり、「く」の字状口縁のものには131・132・678のように口縁端部をつまみ上げたものもある。調整は胴部外面を刷毛、内面はナデ、口縁部内外はヨコナデで仕上げている。鋤先状口縁の壺は、Ⅲ期のものに比べ内面の屈折が明瞭になるとともに、上面平坦部が幅広になるのが特色である。140・141とも丹塗り土器で、調整は外面を丁寧なヘラ磨き、内面はナデで仕上げた作りの良い土器である。141の口縁部上面には暗文が施されている。この時期の高坏は、壺や壺と同様に、内面の屈折が明瞭な鋤先状口縁もの（300）である。脚部もⅡ・Ⅲ期のものに比べ、スマートで長いのが特徴である。調整は坏部内外と脚部外面をヘラ磨き、脚部内面はナデで仕上げている。いずれも作りの良い土器である。

以上、Ⅱ～Ⅳ期までの土器群が上の原遺跡の住居跡から出土したものである。これらの土器群は、北部九州における從来の弥生土器編年に対比するとすれば、Ⅱ期は中期初頭、Ⅲ期は中期前半、Ⅳ期は中期中頃にほぼ比定できるであろう。從って、Ⅰ期については前期末に比定できる。

（井上）

註1 井上裕弘・木村幾多郎編 九州横断自動車道関係埋文化財調査報告 一18一 1990 福岡県教育委員会

註2 井上裕弘・新原正典編 八王寺遺跡群Ⅱ（碓井町文化財調査報告書 第2集） 1987 碓井町教育委員会



第 125 図 住吉路出土の赤土器編年図 (1/12)

図 版



上の原遺跡周辺航空写真（国土地理院撮影 KU-76-2X C11-33）

1. 大越道跡 2. 石成久保道跡 3. 中道跡 4. 西法寺道跡 5. 大庭久保道跡 6. 上の原道跡 7. 狐塚南道跡
8. 治部ノ上道跡



1 上の原遺跡航空写真（南西から）



2 上の原遺跡航空写真（南から）



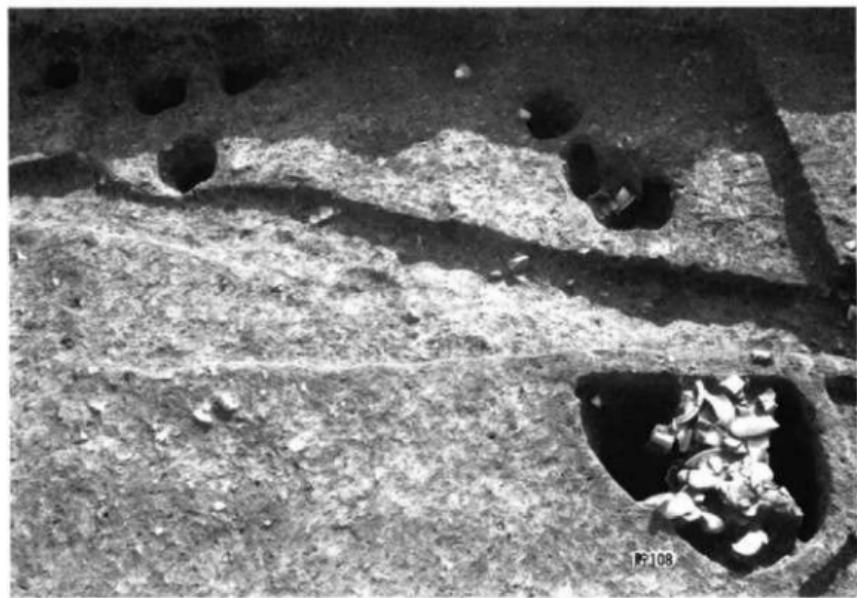
1 東端部貯藏穴群（東から）



2 上の原遺跡全景（南から）



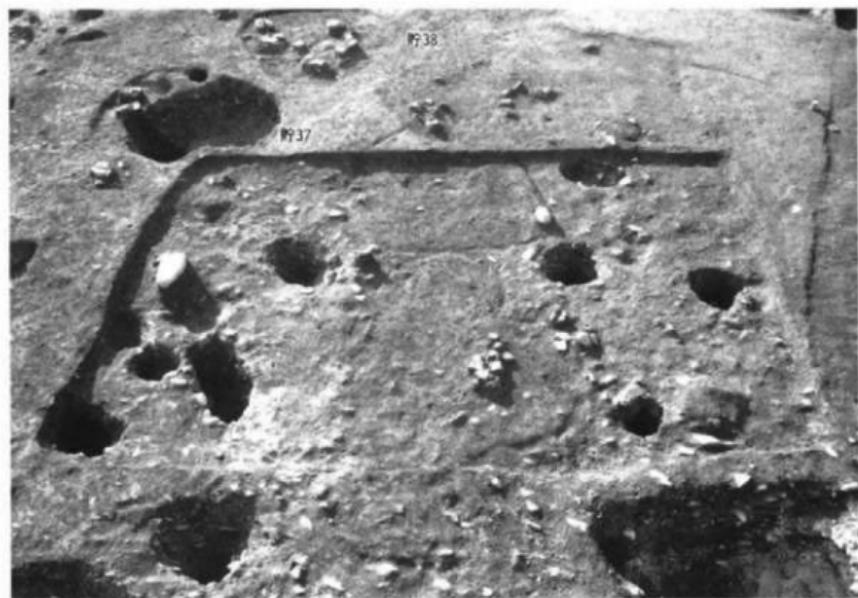
1 1号住居跡（北東から）



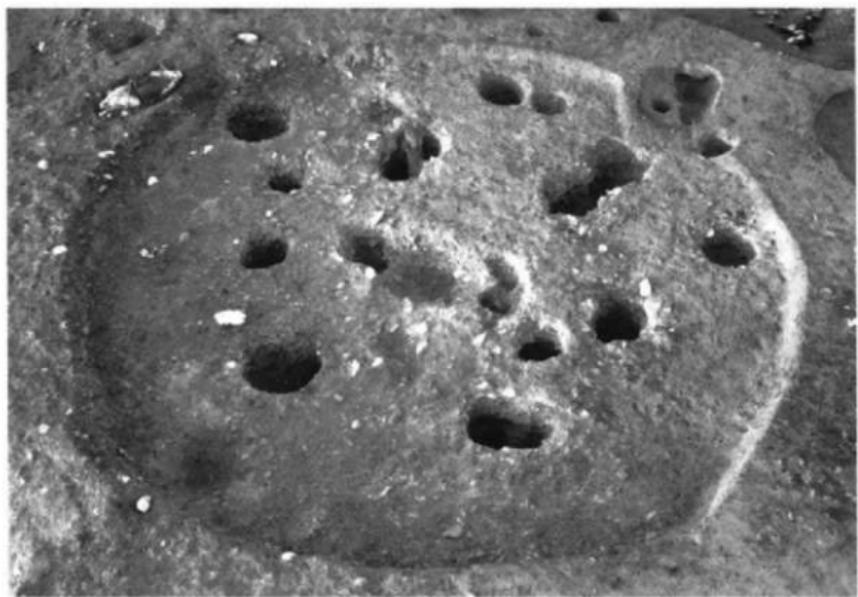
2 2号住居跡（北から）



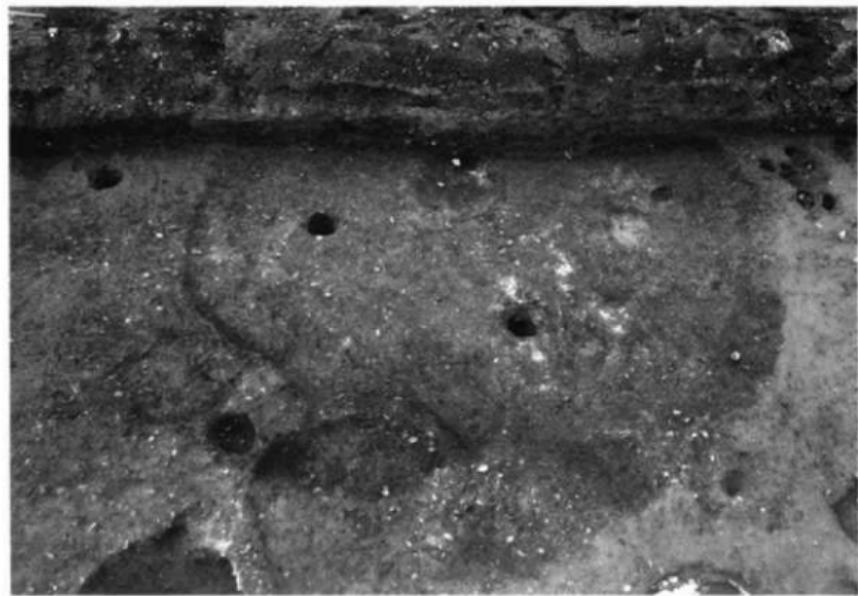
1 3号住居跡（南東から）



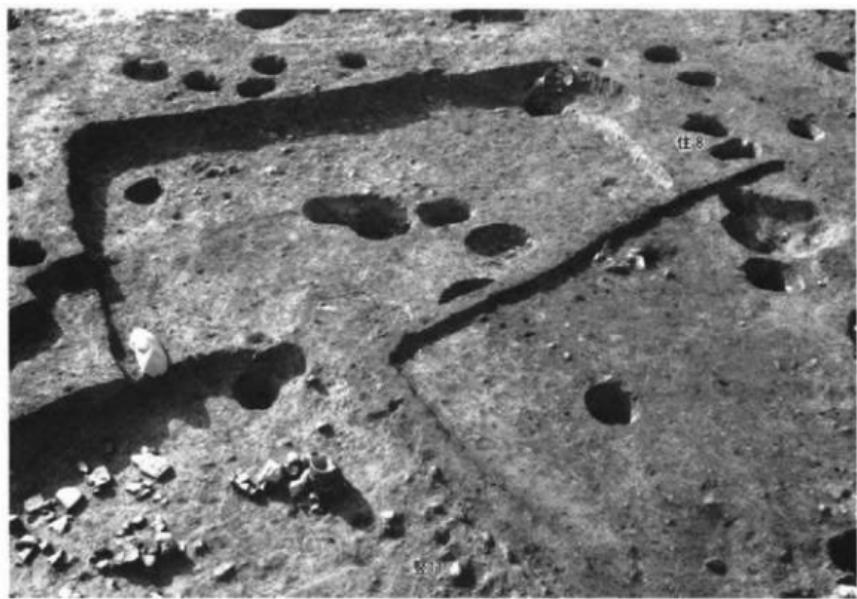
2 5号住居跡（北東から）



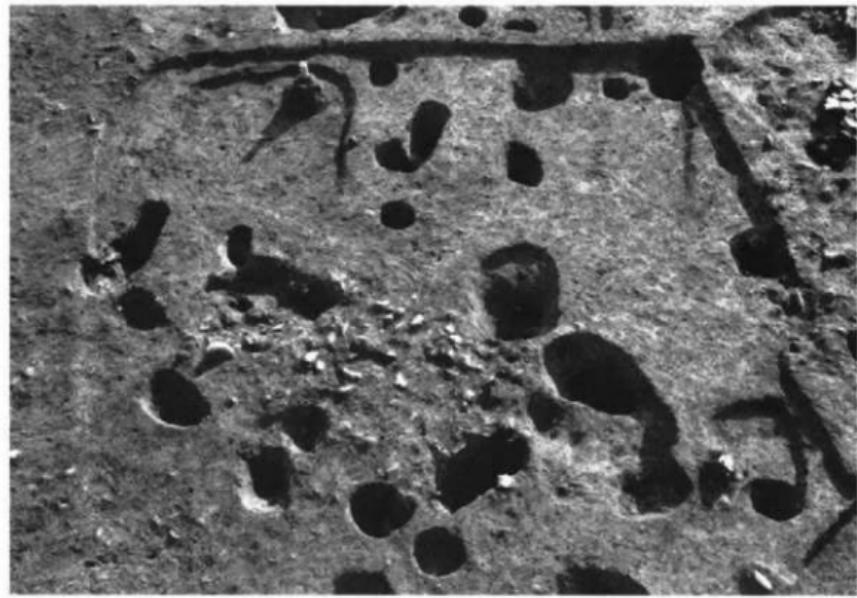
1 6号住居跡（南から）



2 7号住居跡（南東から）



1 8号住居跡、11号堅穴（東から）

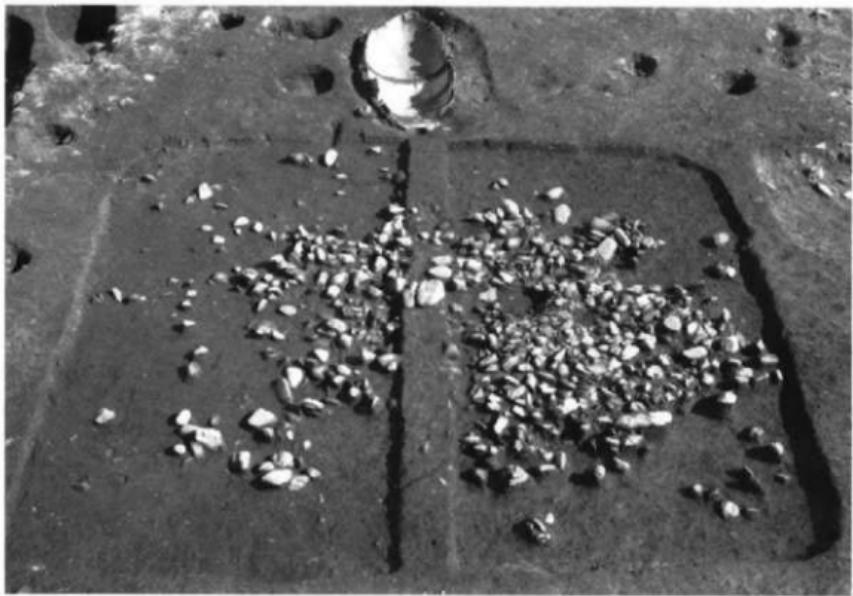


2 9号住居跡（北から）

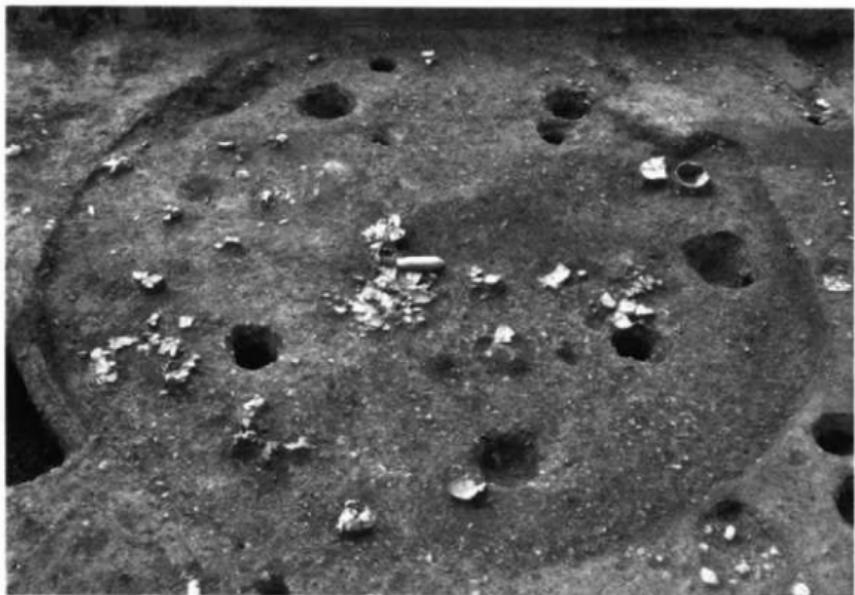


住10

1 10号住居跡（南から）



2 11号住居跡（南西から）



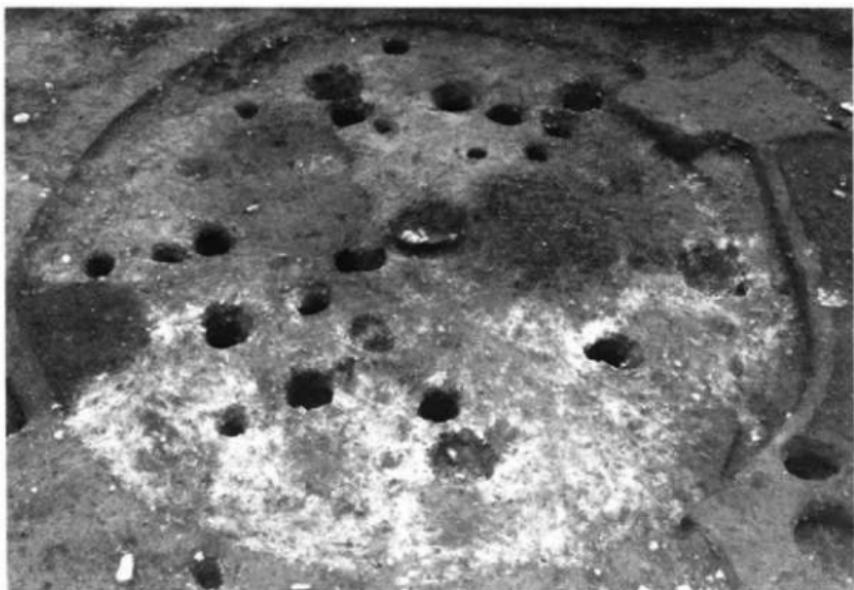
1 12号住居跡（北東から）



2 遺物出土状況（北から）



3 遺物出土状況（南から）



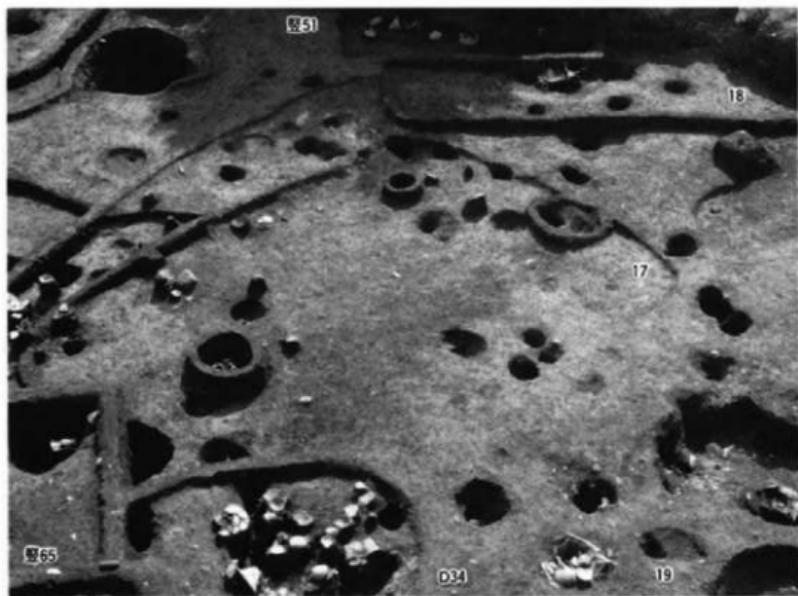
1 12号住居跡穴洞状況（北東から）



2 灰跡内遺物出土状況（北東から）



1 13・14号住居跡（東から）



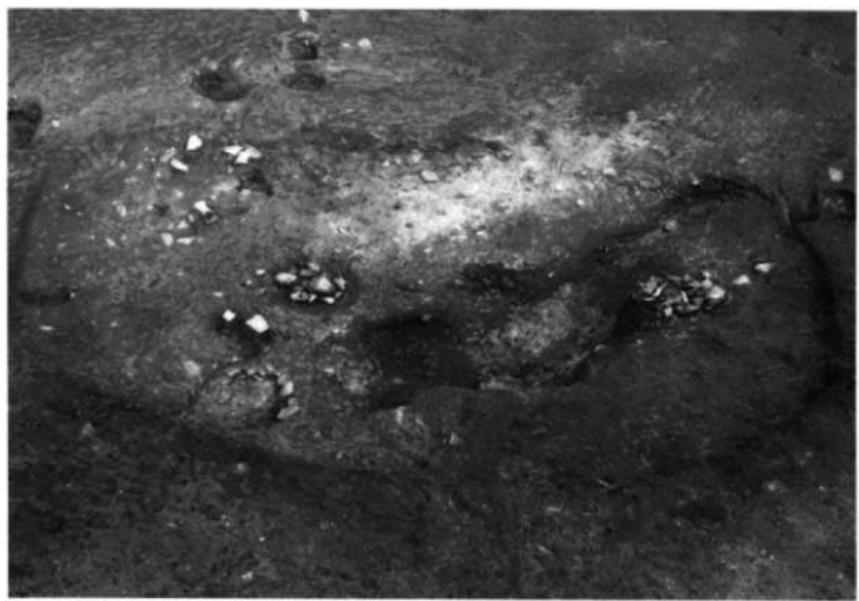
2 17～19号住居跡（北東から）



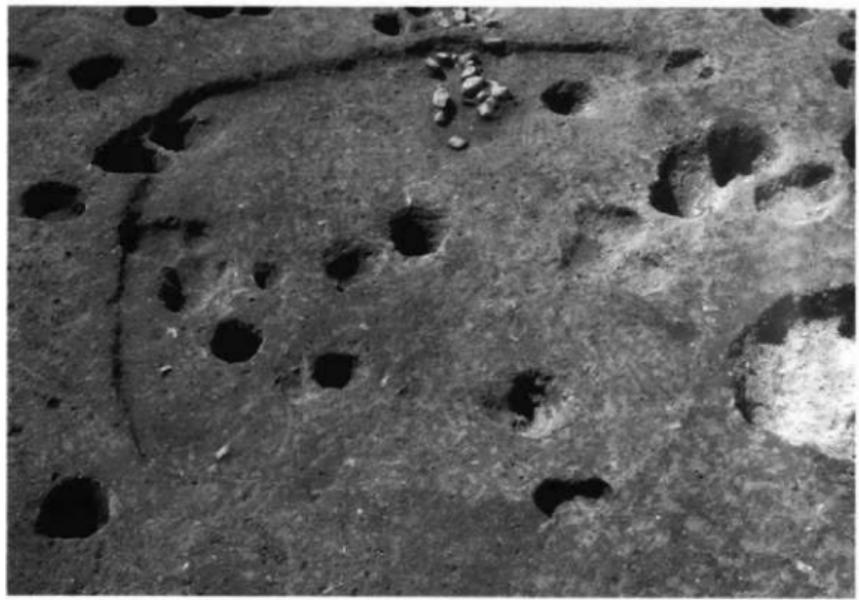
1 21・24号住居跡（南東から）



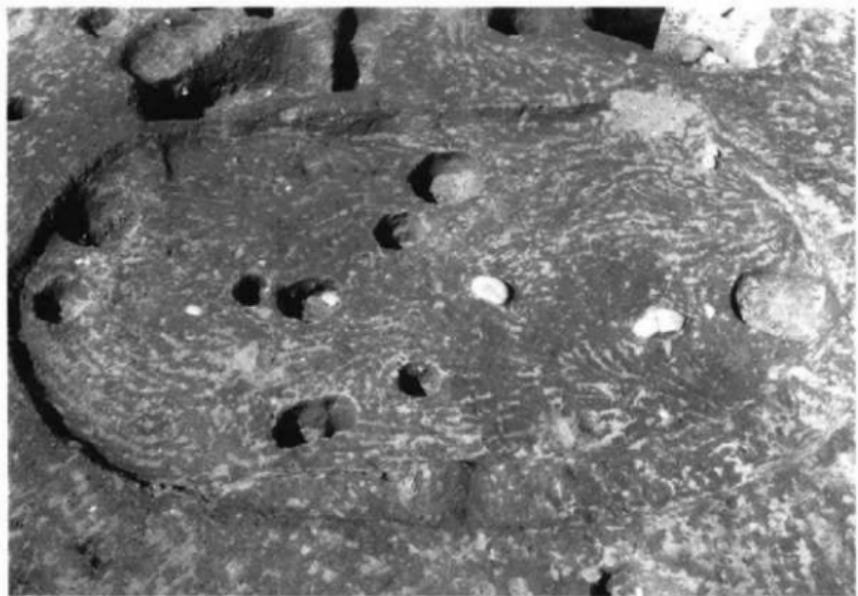
2 23号住居跡（東から）



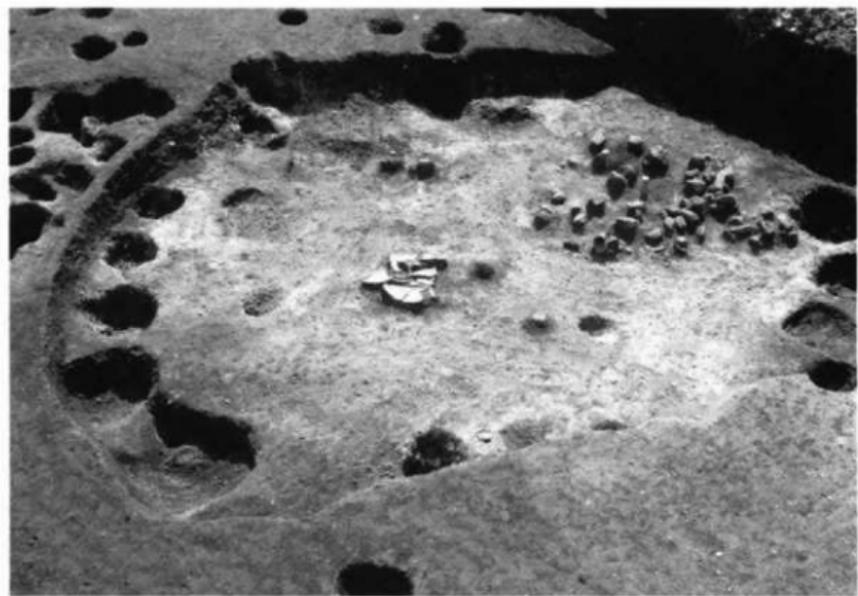
1 28号住居跡（南西から）



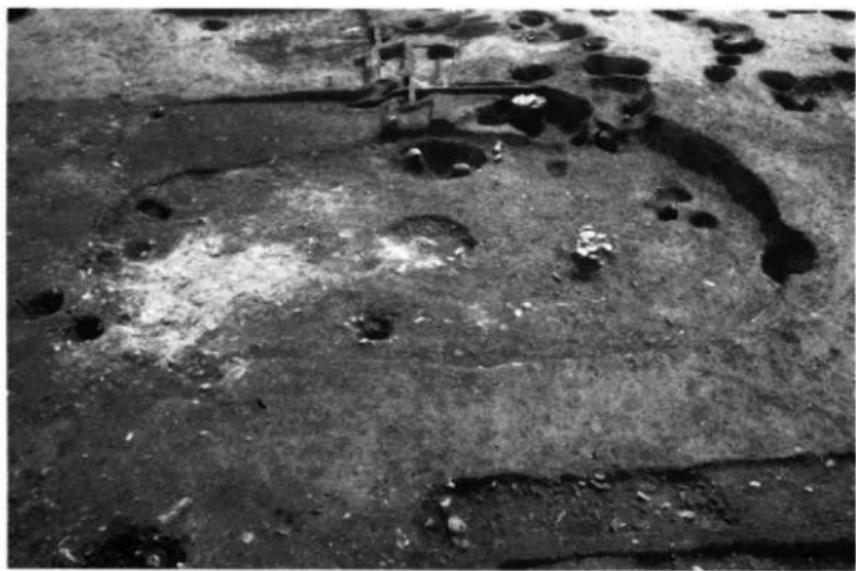
2 30号住居跡（北東から）



1 31号住居跡（東から）



2 32号住居跡（北から）



1 34号住居跡（北から）



2 屋内土器遺物出土状況（北から）



1 35号住居跡（北から）



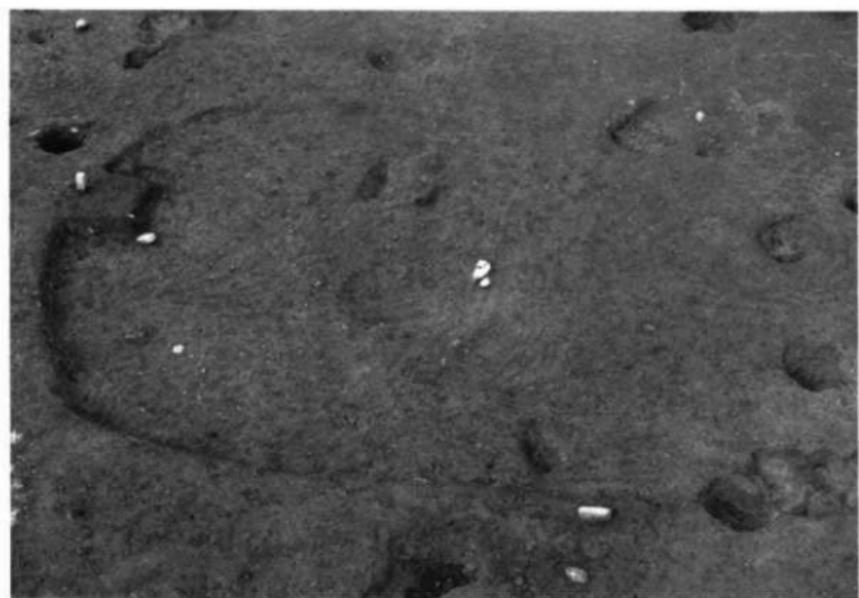
2 36号住居跡（北から）



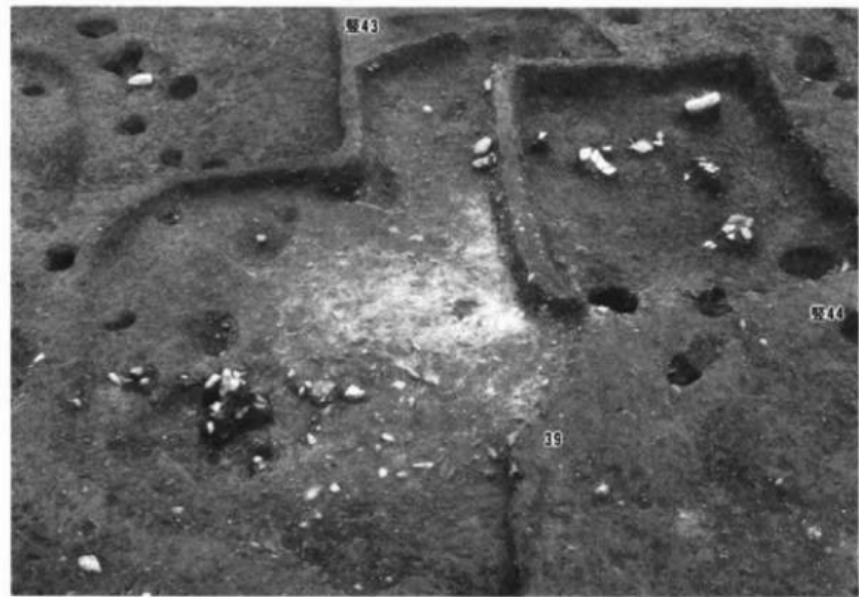
1 36号住居跡完掘状況（北から）



2 37号住居跡（北から）



1 38号住居跡（南から）



2 39号住居跡,44号堅穴（東から）



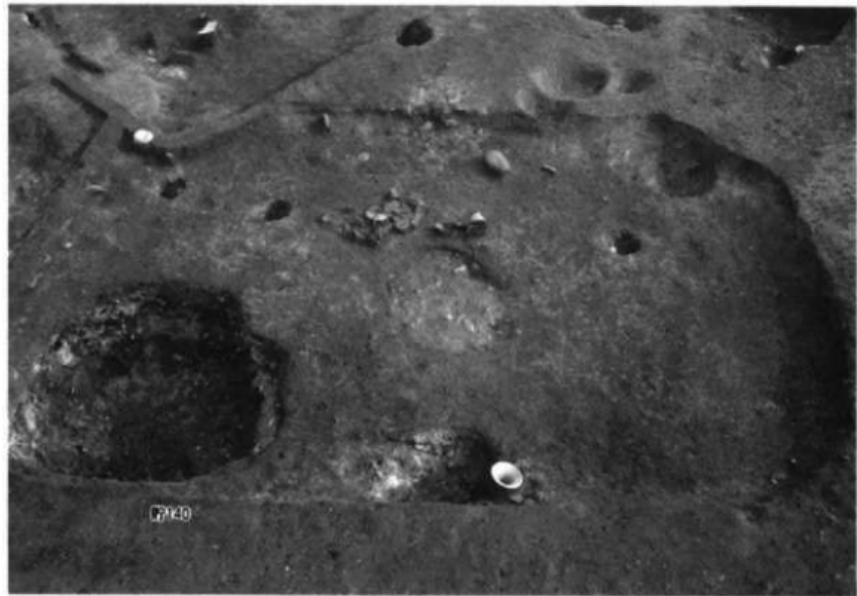
1 40号住居跡（北から）



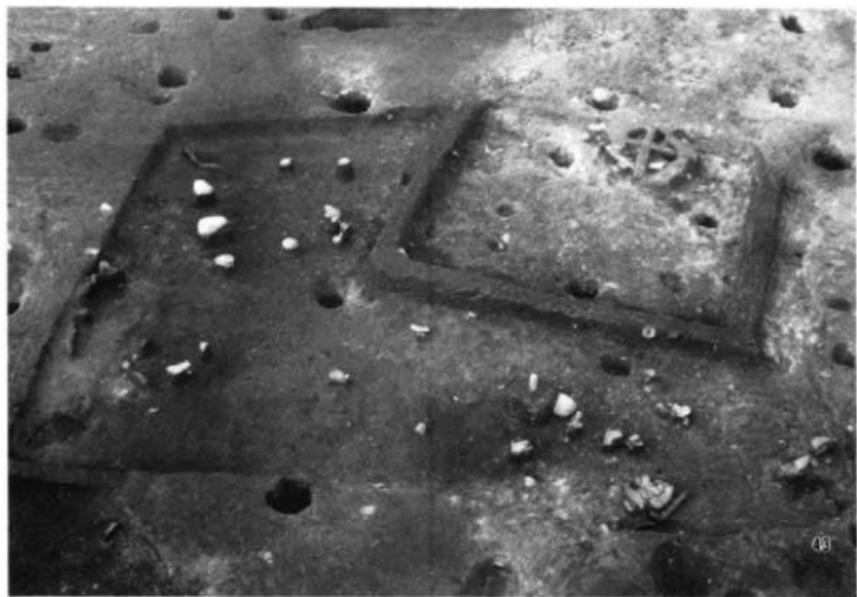
2 遺物出土状況（北から）



1 41号住居路（南東から）



2 42号住居路（南西から）



1 43号住居跡（南から）



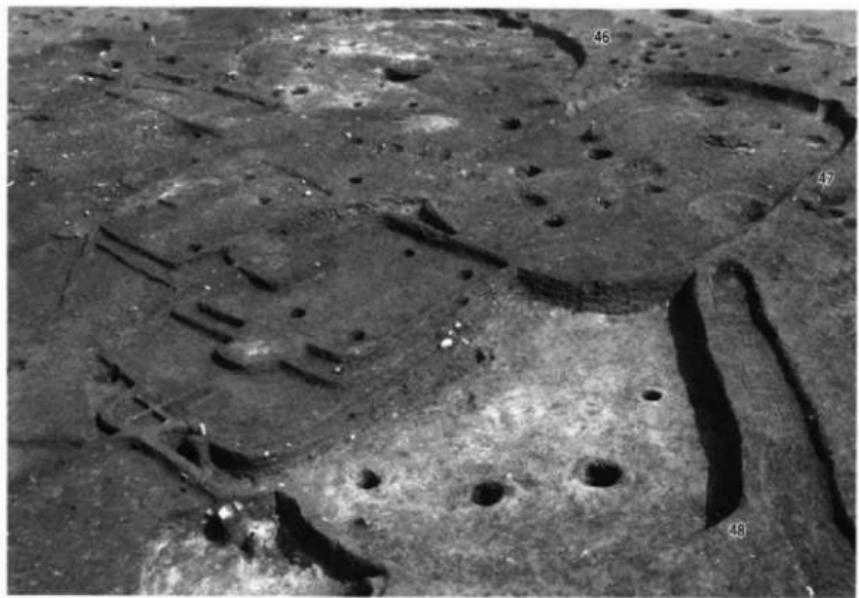
2 44号住居跡（東から）



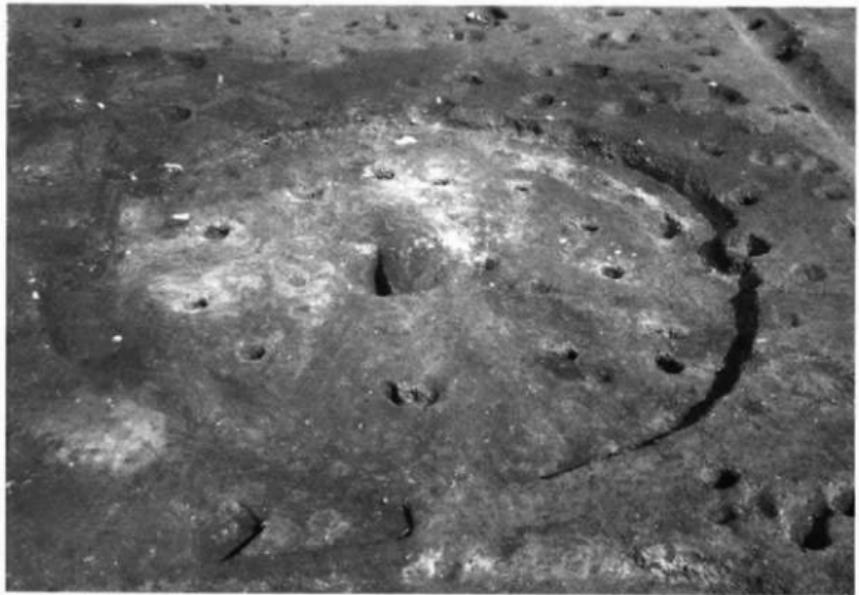
1 調査区中央部住居路群（北西から）



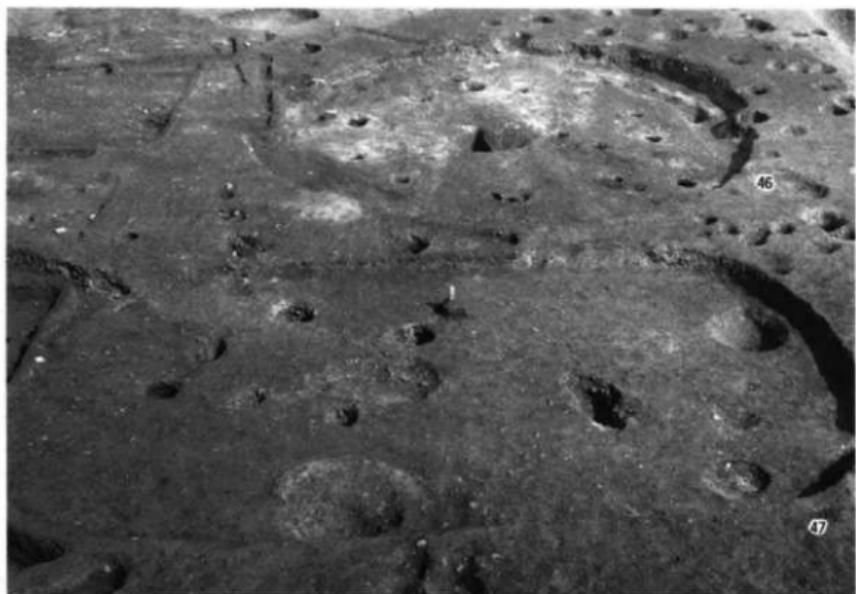
2 45号住居路（南から）



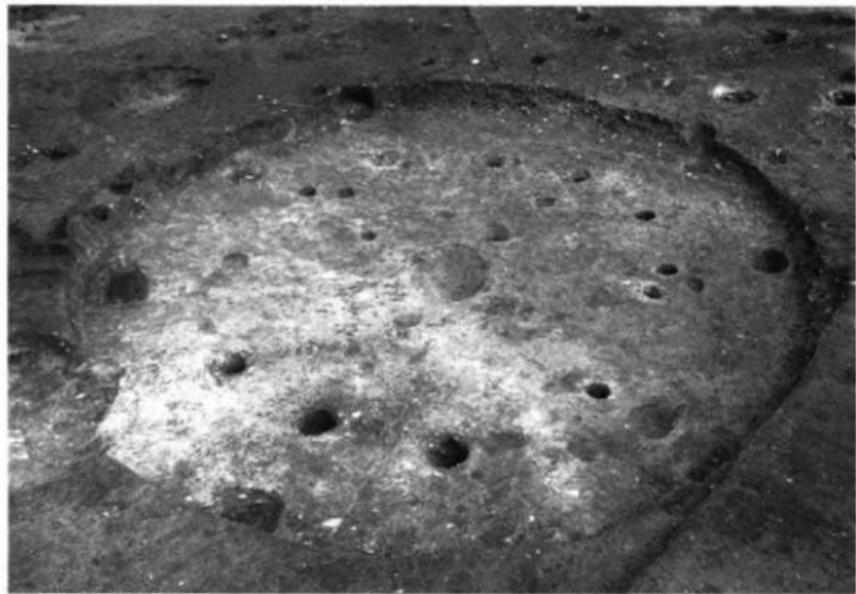
1 46~48号住居跡（南西から）



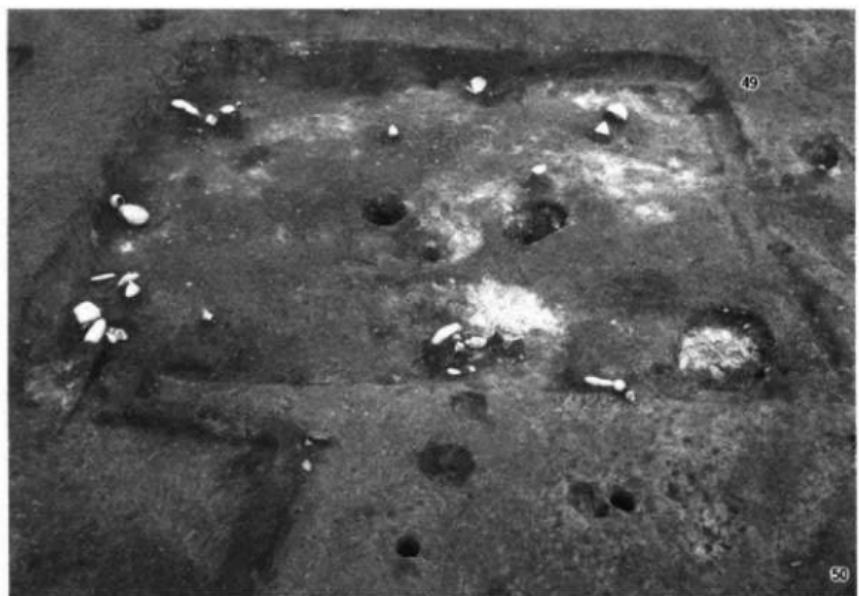
2 46号住居跡（南から）



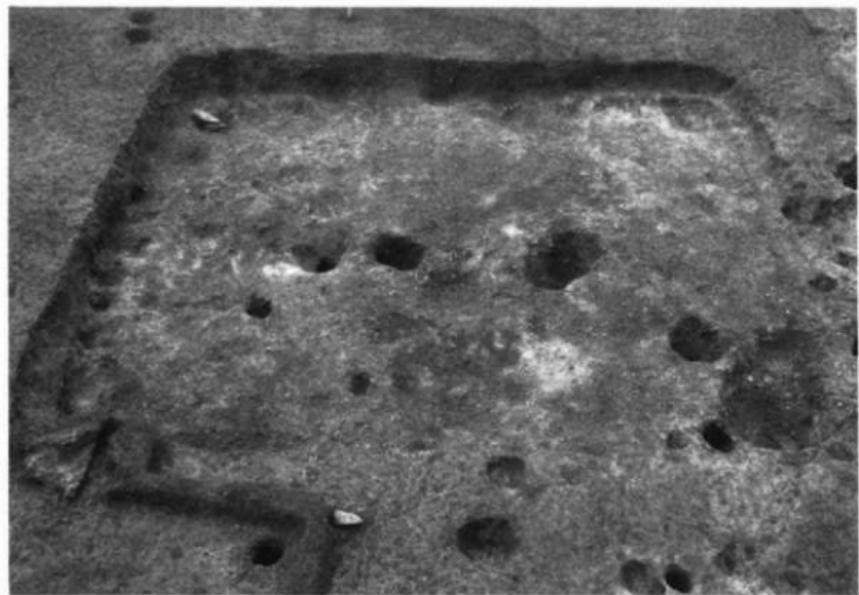
1 46・47号住居跡（南西から）



2 48号住居跡（南から）



1 49・50号住居跡（南から）



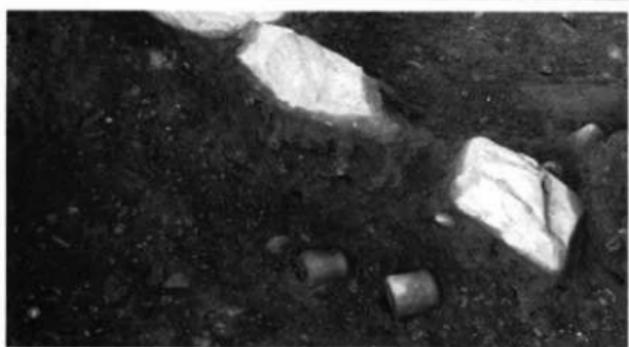
2 49号住居跡完掘状況（南から）



1 屋内土壤遺物出土状況
(北東から)



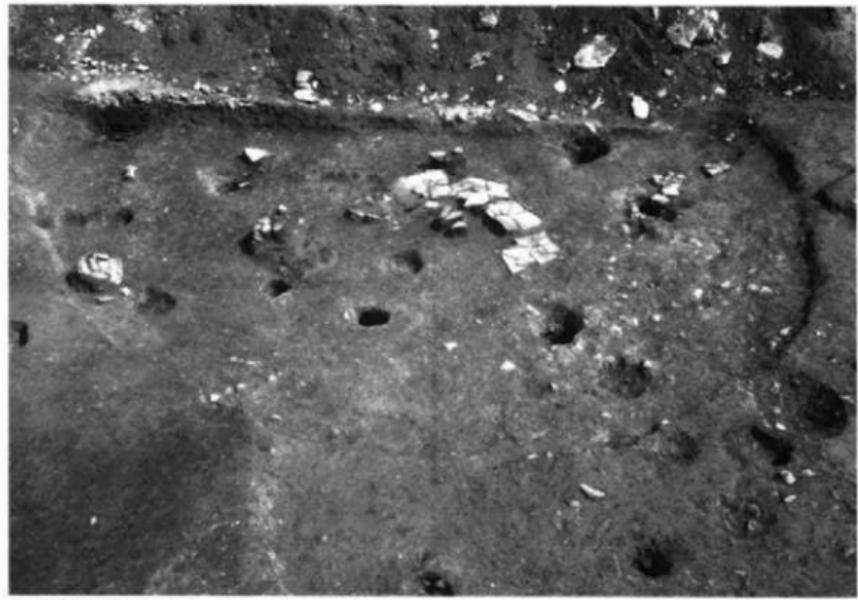
2 無頭壺出土状況
(東から)



3 ミニチュア土器
出土状況 (南から)



1 51号住居跡（東から）



2 52号住居跡（南から）



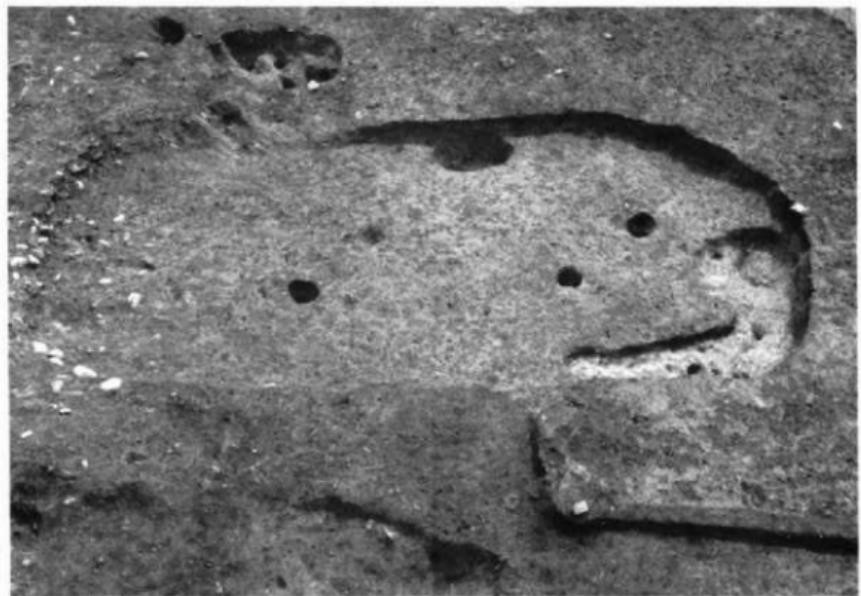
1 大甕出土状況（東から）



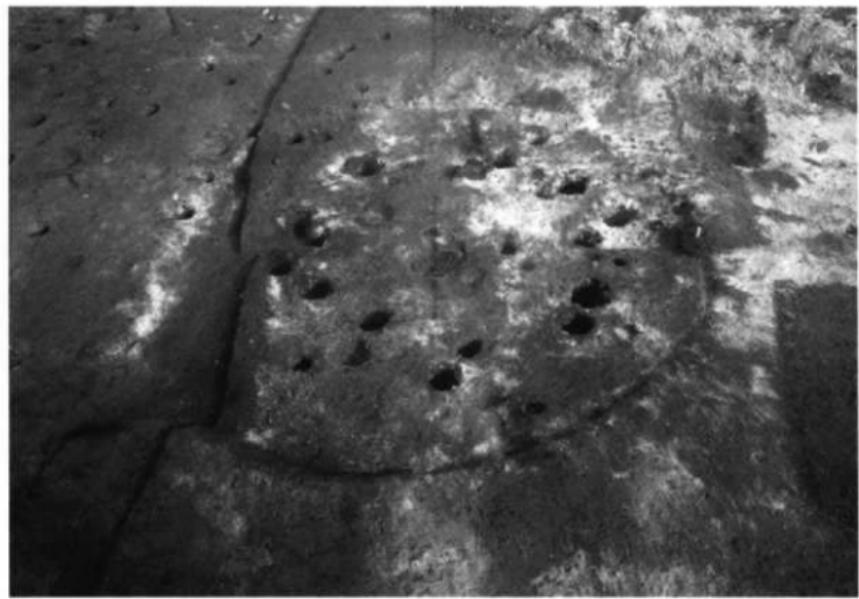
2 甕出土状況



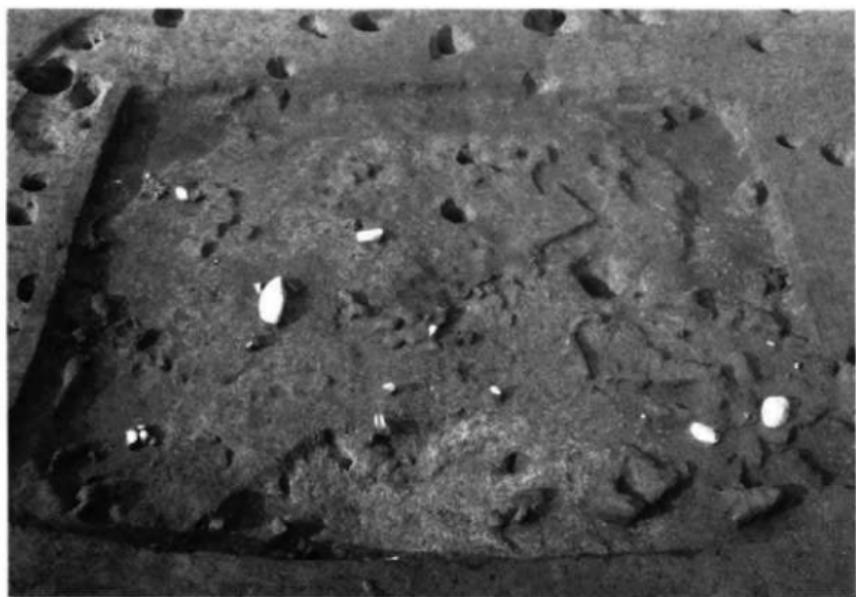
3 柱状石斧出土状況



1 55号住居跡（南から）



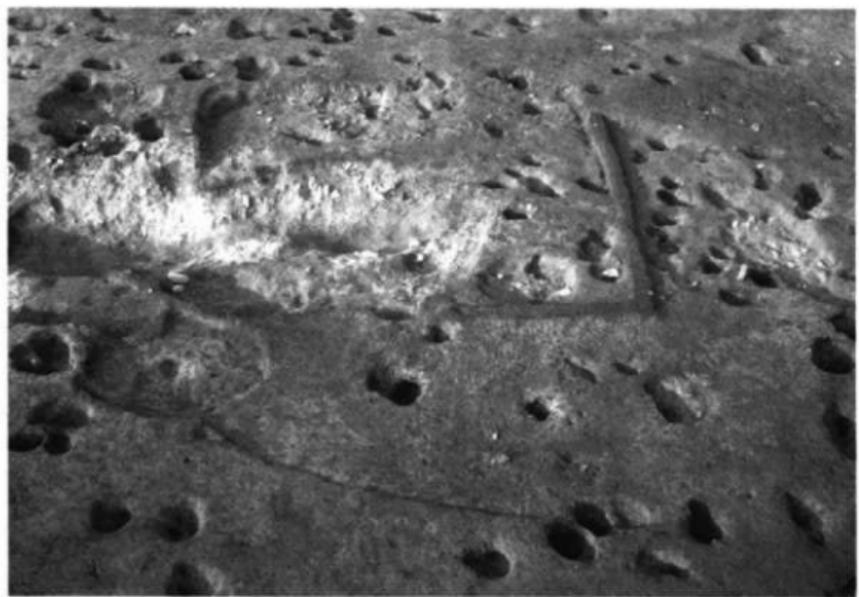
2 56号住居跡（南から）



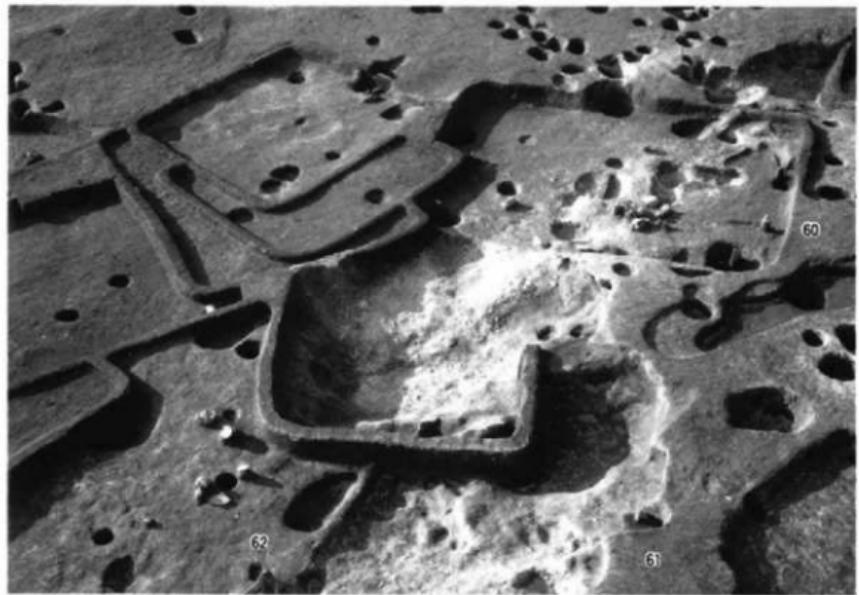
1 57号住居跡（南東から）



2 投弾形土製品出土状況（北西から）



1 59号住居跡（南から）



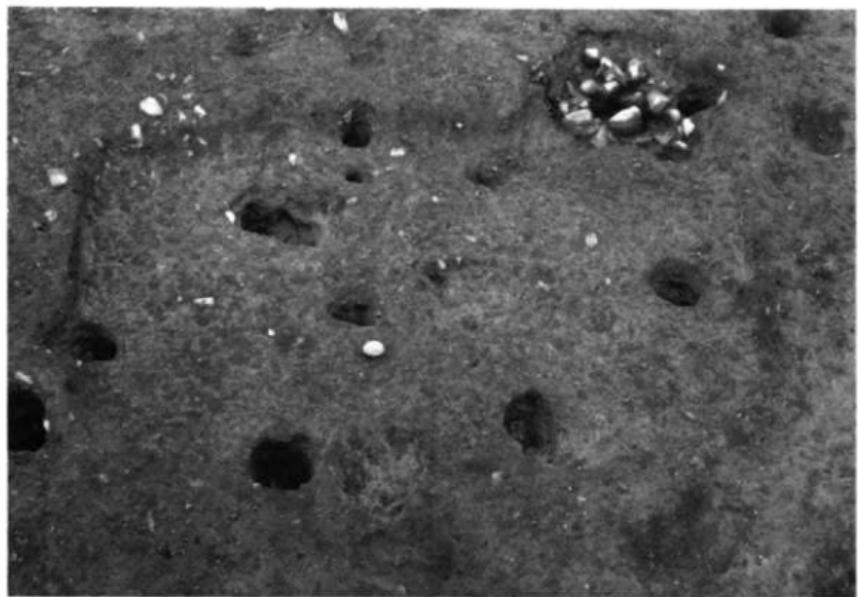
2 60-62号住居跡（南東から）



1 61・62号住居跡（北西から）



2 64号住居跡（東から）



1 65号住居跡（東から）



2 積雪の中での調査



7



56



11



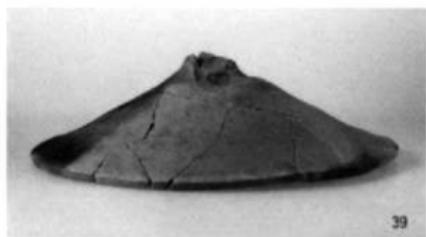
66 3



14



76 4



39



97 5



40



123 6

1 1号住居跡出土土器 2 3号住居跡出土土器
5 8号住居跡出土土器 6 10号住居跡出土土器

3 6号住居跡出土土器 4 7号住居跡出土土器



133



155



158



159



140



150



161 2

1 11号住居跡出土土器

2 12号住居跡出土土器①



166



167



168



169



171



172



173



175



176



186



188



190



179



180



182



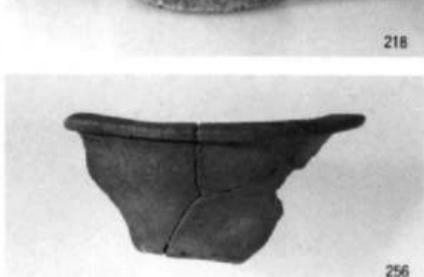
185



218



235



256



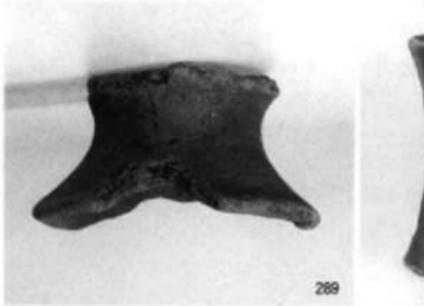
246



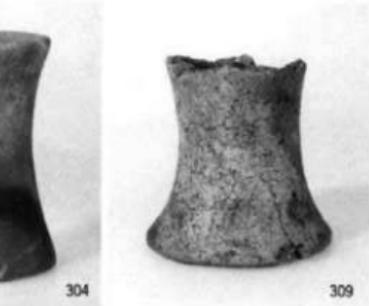
279



240



289



304

309

1 14号住居跡出土土器

2 16号住居跡出土土器

3 17号住居跡出土土器

3



1 18号住居跡出土土器

2 19号住居跡出土土器

3 20号住居跡出土土器

4 21号住居跡出土土器



415



463



416



464



478



418



479



480



481

1 23号住居跡出土土器

2 28号住居跡出土土器

2



484



509 2



527



552



529



560 4



530



582 5

1 29号住居跡出土土器
5 35号住居跡出土土器

2 31号住居跡出土土器

3 32号住居跡出土土器

4 34号住居跡出土土器



1

1 36号住居跡出土土器 2 40号住居跡出土土器①

2



652



678



653



682 3



654



701



663



704



713 4

1 40号住居跡出土土器② 2 42号住居跡出土土器

3 43号住居跡出土土器 4 44号住居跡出土土器



721



761



748



766



753



767



759



768

1 46号住居跡出土土器 2 48号住居跡出土土器



776



777



779



780



782



785 1



793



799 3

1 49号住居跡出土土器

2 50号住居跡出土土器

3 51号住居跡出土土器



812



813



814



815



816



817

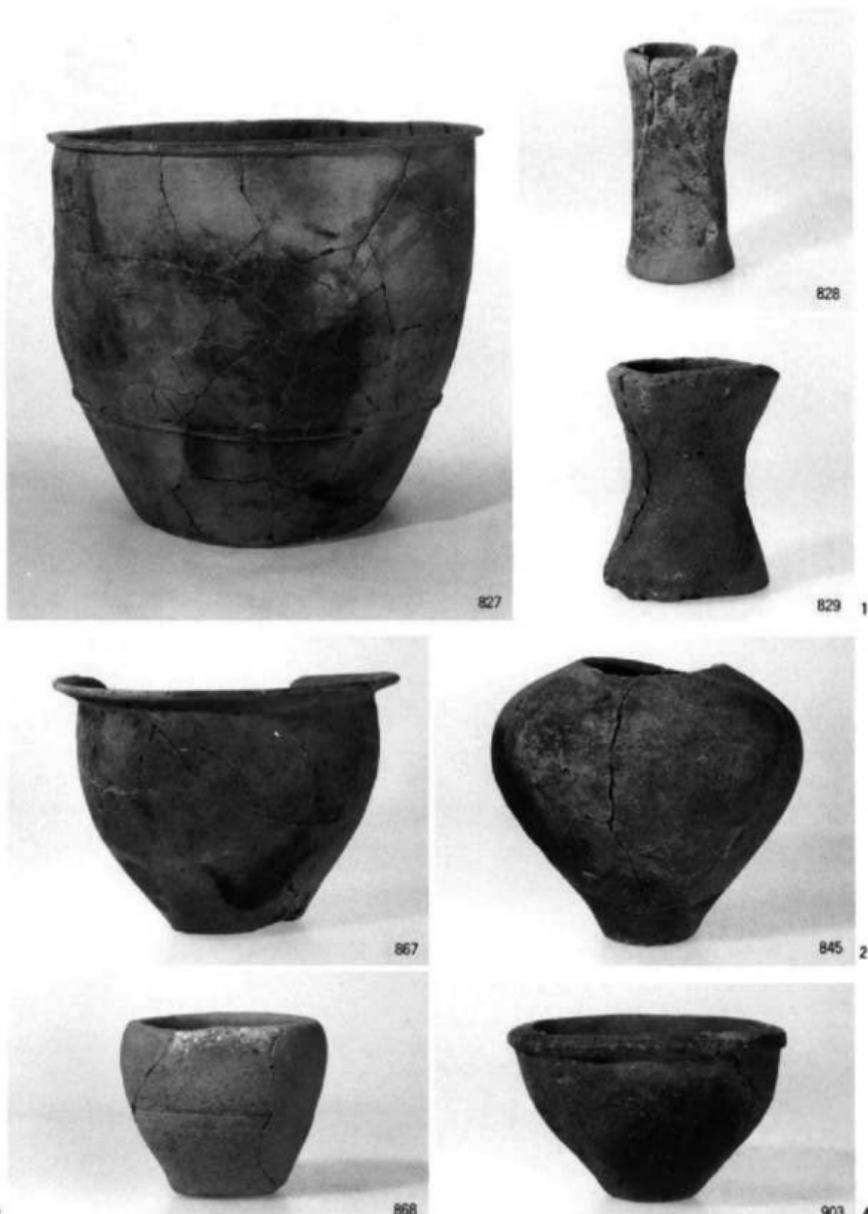


818



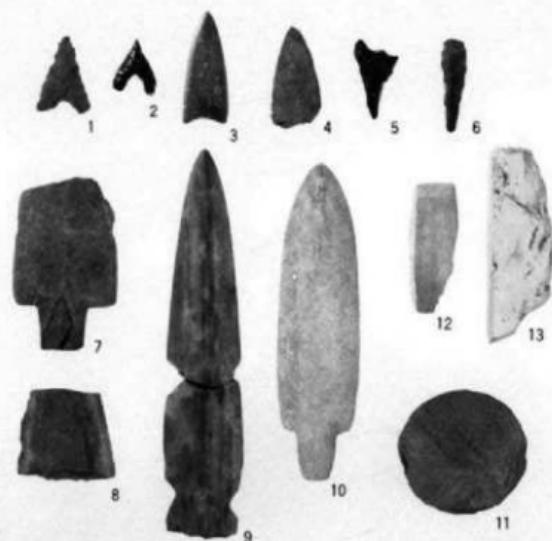
824

52号住居跡出土土器①

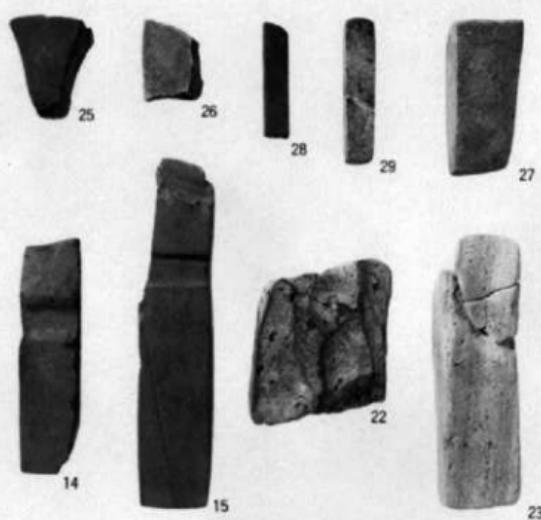


3

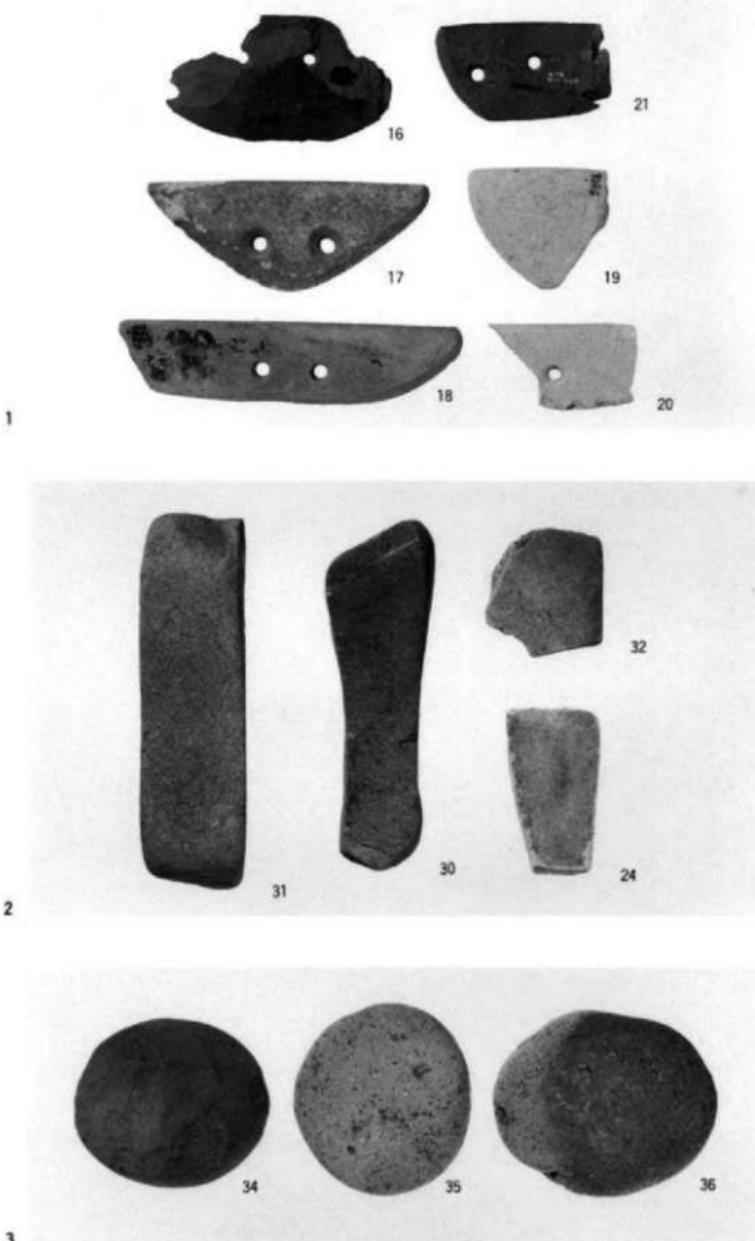
1 52号出土土器② 2 56号住居跡出土土器 3 59号住居跡出土土器 4 62号住居跡出土土器



1 住居跡出土石器①



2 住居跡出土石器②



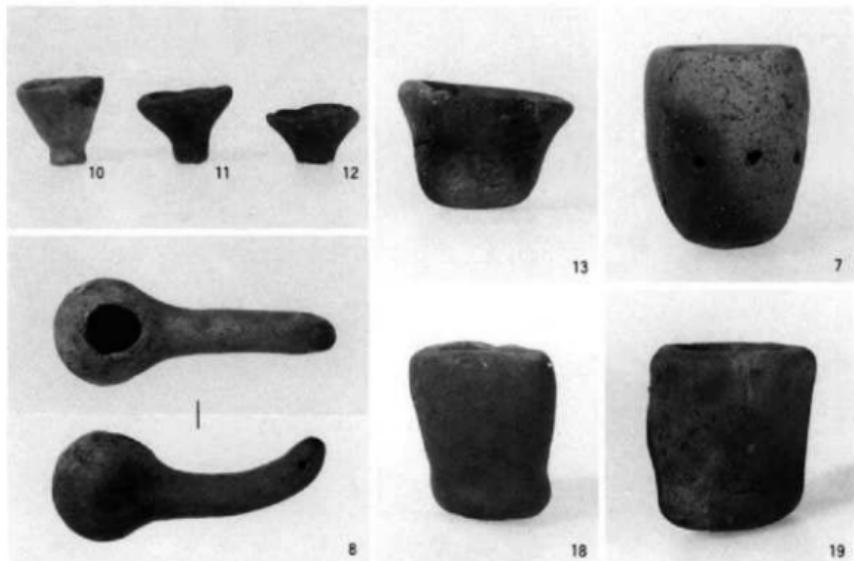
1 住居跡出土石器③

2 住居跡出土石器④

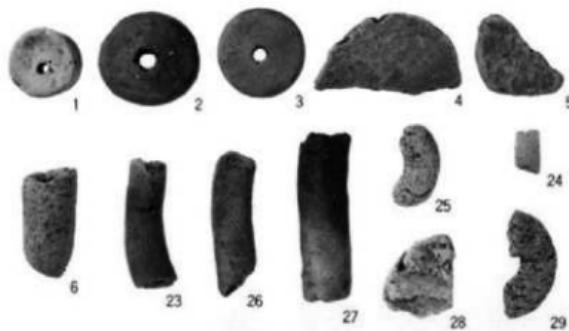
3 住居跡出土石器⑤



1 住居跡出土鉄器



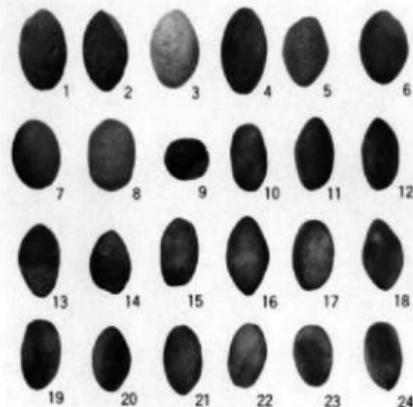
2 住居跡出土土製品①



1



2

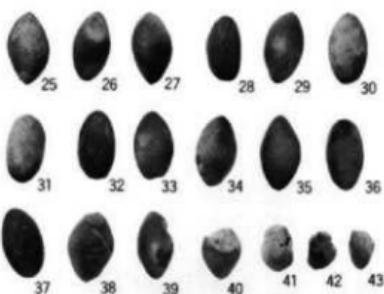


3

1 住居跡出土土製品②

2 住居跡出土土製品③

3 住居跡出土投弾形土製品



弥生土器観察表

凡例 单位：cm

R：反転復原

残：残存器高

推：推定器高

番号	出土地	器種	口径	断面	底径	胎土	色調	調査	参考
1	1号生駒塚	壺	11.7R			石英・雲母・角閃石	内)褐色 外)褐色	口)ミガキ 外)	
2	*	*	*				内)褐色 外)褐色	口)ミガキ 外)	外周に黒文あり
3	*	*	*			石英・雲母	内)褐色 外)褐色	口)ミガキ 外)	
4	*	*	*			石英・角閃石	内)褐色 外)褐色	口)ミガキ・ナデ 外)	
5	*	*	*		6.6	石英・角閃石・赤褐色粒	内)褐色 外)淡褐色	口)ナデ	
6	*	*	*		7.8R	石英・雲母・角閃石	内)褐色 外)褐色	口)ナデ 外)ナデ	
7	*	*	*		7.6	*	内)淡褐色 外)暗褐色	口)ナデ	シボリ無残る
8	*	壺	29R			石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内)淡褐色 外)明褐色	口)ヨコナデ 外)ハケ日 (5.8cm)	
9	*	*	26R		*		内)褐色 外)褐色	口)ヨコナデ 外)ハケ日 (5.8cm)	
10	*	*	30R		*		内)褐色 外)淡褐色	口)ヨコナデ 外)ハケ日 (6.8cm)	
11	*	*	6.3	石英・雲母・角閃石		内)淡褐色 外)淡褐色	口)ナデ		
12	*	*	7.4	石英・雲母・角閃石・赤褐色粒		内)褐色 外)褐色	口)ナデ		
13	*	器台	6.8R	石英・雲母・角閃石		内)褐色 外)褐色	口)ヨコナデ 外)ナデ		
14	*	壺	30.4R		*		内)褐色 外)褐色	口)ヨコナデ 外)ナデ	
15	2号生駒塚	壺	34.2R			石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内)褐色 外)褐色	口)ヨコナデ 外)	
16	*	*				石英・雲母・角閃石	内)褐色 外)褐色	口)ヨコナデ 外)	
17	*	甕	6.8R	石英・雲母・角閃石・赤褐色粒		内)褐色 外)褐色	口)ナデ		
18	*	*	10R	石英・雲母・角閃石		内)褐色 外)褐色	口)ナデ 外)ハケ日 (6.8cm)		
19	*	壺	23.2R			石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内)褐色 外)褐色	口)ナデ	
20	*	*	25.9R			石英・雲母・角閃石	内)切妻長角 外)ハケ日 (3.8cm)	口)ヨコナデ 外)ナデ	

番号	出土地	層	種	口径	高さ	底径	形状	土	色	調	固	繊	備	備
21	2号住居跡	裏	甕	29.2R			石英・紫母・角閃石・赤褐色粒	内)暗青色 外)青黄(火色)	(1)ヨコナデ 外)	内)ナデ			口縁部にキザミ風の工具キズあり	
22	*	*	甕	31.4R			石英・角閃石・赤褐色粒	内)淡褐色	(1)ヨコナデ 外)	内)ナデ				
23	*	*	甕	33.2R			石英・紫母・角閃石・赤褐色粒	内)黑色 外)*	(1)ヨコナデ 外)	(1)ハケ目 (4~5mm/cm)	内)ナデ		三角六面 1本あり	
24	*	*	甕			7.2R	石英・角閃石	内)暗青色	(1)ヨコナデ 外)	(1)ハケ目 (6mm/cm)	内)ナデ			
25	*	*	甕			7.2R	石英・紫母	内)乳灰色 外)灰灰色	(1)	(1)				
26	*	*	甕	17R			石英・角閃石・赤褐色粒	内)暗青色 外)暗褐色	(1)ヨコナデ 外)	(1)ヨコナデ 外)	内)ナデ			
27	*	*	甕	18R			石英・紫母・角閃石・赤褐色粒	内)黑色 外)*	(1)ヨコナデ 外)	(1)ヨコナデ 外)	内)ナデ			
28	*	井	甕				紫母・角閃石	内)黑色 外)*	(1)ヨコナデ 外)	(1)ハケ目 (6mm/cm)	内)ナデ			
29	*	厨台	甕	10R			石英・紫母・角閃石・赤褐色粒	内)淡褐色 外)*	(1)ヨコナデ 外)	(1)ハケ目 (7mm/cm)	内)ナデ			
30	*	*	甕			12R	石英・紫母	内)淡褐色 外)灰褐色	(1)ヨコナデ 外)	(1)ハケ目 (11~12mm/cm)	内)ナデ			
31	3号住居跡	壁	甕				石英・紫母・赤褐色粒	内)褐色 外)暗褐色	(1)ヨコナデ 外)	(1)ヨコナデ 外)	内)ナデ			
32	*	*	甕				石英・紫母・角閃石・赤褐色粒	内)暗青色 外)*	(1)ヨコナデ 外)	(1)ヨコナデ 外)	内)ナデ			
33	*	*	甕				石英・紫母・角閃石	内)青黃色 外)*	(1)ヨコナデ 外)	(1)ヨコナデ 外)	内)ナデ			
34	*	*	甕			9R	石英・紫母・角閃石	内)暗灰色 外)褐色	(1)ヨコナデ 外)	(1)ヨコナデ 外)	ミガキ 内)ナデ			
35	*	*	甕	21.2R			石英・紫母・角閃石・赤褐色粒	内)暗青色 外)*	(1)ヨコナデ 外)	(1)ヨコナデ 外)	ミガキ 内)ナデ			
36	*	*	甕				石英	内)暗青色 外)暗茶色	(1)ヨコナデ 外)	(1)ヨコナデ 外)	ミガキ 内)ナデ			
37	*	*	甕			6.6R	石英・紫母・角閃石・赤褐色粒	内)淡褐色 外)*	(1)ヨコナデ 外)	(1)ハケ目 (5~6mm/cm)	内)ナデ			
38	*	井	甕				石英・角閃石	内)暗黃褐色 外)*	(1)ヨコナデ 外)	(1)ハケ目 (6mm/cm)	内)ナデ			
39	*	壁	甕			34.8R	石英・紫母・角閃石・赤褐色粒	内)暗灰色 外)*	(1)ヨコナデ 外)	(1)ハケ目 (4~5mm/cm)	内)ナデ			
40	*	高坪	甕			15.4R	石英・赤褐色粒	内)暗青色 外)*	(1)ヨコナデ 外)	(1)ミガキ	内)ナデ			

番号	出土場	器種	口径	周高	底延	胎土	色調	参考	
								内) 油緑色 外) *	内) ヨコナデ 外) ハゲ目 (4~5条/cm)
41	4号住居跡	釜				石英・角閃石・赤褐色粒	内) 油緑色 外) *	口) ヨコナデ 外) *	
42	*	釜			*		内) 油緑色 外) *	口) ヨコナデ 外) ハゲ目 (4~5条/cm)	
43	*	*	29R			石英・安息・角閃石・赤褐色粒	内) 油緑色 外) 油緑色	口) ヨコナデ 外) ハゲ目 (6条/cm)	
44	*	*		8R		石英	内) 油緑色 外) 油緑色	口) ヨコナデ 外) ハゲ目 (5条/cm)	
45	5号住居跡	釜				石英・安息・角閃石	内) 油緑色 外) 油緑色	口) ヨコナデ 外) *	
46	*	*	25R			石英・角閃石	内) 油緑色 外) 油緑色	口) ヨコナデ 外) *	
47	*	*			10.2R	石英	内) 油緑色 外) *	口) ヨコナデ 外) *	
48	*	*			9.4R	石英・角閃石	内) 油緑色 外) *	口) ヨコナデ 外) *	
49	*	釜				石英・安息	内) 油緑色 外) *	口) ヨコナデ 外) ヨコナデ	三角形印をあり
50	*	*			6.5R	石英・安息・角閃石	内) 油灰色 外) *	口) ヨコナデ 外) *	
51	*	砾台			11R	石英・安息・角閃石・赤褐色粒	内) 黄褐色 外) *	口) ヨコナデ 外) *	
52	*	*		10R	石英・安息	内) 油緑色 外) 油緑色	口) ヨコナデ 外) ヨコナデ		
53	6号住居跡	釜		11.8R		石英	内) 油緑色 外) 油緑色	口) ヨコナデ 外) *	
54	*	*	21R			石英・角閃石	内) 油緑色 外) *	口) ヨコナデ 外) *	
55	*	*				石英・角閃石・赤褐色粒	内) 油緑色 外) *	口) ヨコナデ 外) *	
56	*	*	16.2R	17.8		石英・角閃石	内) 油緑色 外) *	口) ヨコナデ 外) ミガキ	
57	*	*			*		内) 油緑色 外) *	口) ヨコナデ 外) *	
58	*	*		8R	石英・安息・角閃石	内) *	口) ヨコナデ 外) *		
59	*	釜					内) 油緑色 外) *	口) ヨコナデ 外) ハゲ目 (5~6条/cm)	三角形印をあり
60	*	*	37R			石英・安息	内) 油緑色 外) 油緑色	口) ヨコナデ 外) ハゲ目 (5条/cm)	

番号	出土場	層位	口径	断面	土	色調	測定	備考
61	6号生田井	表		8.2R	石英	内) 黒褐色 外) 鮎青褐色	□) ハケ目 (6角/cm) 外) ハケ目 (6角/cm)	内) ナダ
62	*	蓋	16R		石英・角閃石・斜長石粒	内) 鮎青褐色 外) 鮎青褐色	□) ヨコナダ (6-7角/cm) 外) ハケ目 (6-7角/cm)	内) ナダ
63	*	表	35.6R		石英・雲母	内) 鮎青褐色	□) ヨコナダ 外) ハケ目 (3角/cm)	内) ナダ
64	*	*	35.2R		石英・雲母・角閃石	内) 鮎青褐色 外) 鮎青褐色	□) ヨコナダ (4-5角/cm) 外) ハケ目 (4-5角/cm)	内) ナダ ヘラ比縞あり 三角六番 1番あり
65	*	*	25.2R		石英	内) 鮎青褐色 外) 鮎青褐色	□) ヨコナダ (4角/cm) 外) ハケ目 (4角/cm)	内) ナダ ヘラ比縞あり
66	*	*	25.4R	*		内) 鮎青褐色	□) ヨコナダ 外) ナダ	内) ナダ 外) ナダ
67	*	*		6	石英・雲母・角閃石	内) 鮎青褐色 外) 鮎青褐色	□) ヨコナダ (6角/cm) 外) ハケ目 (6角/cm)	内) ナダ 外) ナダ
68	*	*		5.9	*	内) 鮎青褐色 外) 鮎青褐色	□) ヨコナダ (9角/cm) 外) ハケ目 (9角/cm)	内) ナダ
69	*	鉢			石英・角閃石	内) 鮎青褐色	□) ヨコナダ 外) ナダ	内) ナダ 外) ナダ
70	*	*	35R		石英・雲母・角閃石・斜長石粒	内) 鮎青褐色 外) 鮎青褐色	□) ヨコナダ・ミガキ 外) ナダ・ミガキ	内) ナダ 外) ナダ
71	7号生田井	表	13.4R		粘土	内) 鮎青褐色 外) *	□) ヨコナダ 外) *	外) ヨコナダ 外) ナダ
72	*	*		10R	石英・雲母・角閃石	内) 鮎青褐色	□) ナダ	内) ナダ
73	*	*		8R	*	内) 黑色 外) 鮎青褐色	□) ナダ 外) ナダ	内) ナダ 外) ナダ
74	*	*		8R	石英・雲母	内) 鮎青褐色 外) 鮎青褐色	□) ナダ 外) ナダ	内) ナダ 外) ナダ
75	*	表			石英・角閃石	内) 鮎青褐色 外) *	□) ヨコナダ (6角/cm) 外) ハケ目 (6角/cm)	内) ナダ 外) ナダ
76	*	笠	15.8R		石英	内) 鮎青褐色 外) 朱紫色	□) ヨコナダ (6角/cm) 外) ミガキ	内) ミガキ 外) ナダ
77	*	表		*		内) 黑色 外) 鮎青褐色	□) ヨコナダ 外) ナダ	内) ミガキ 外) ナダ
78	*	*		*		内) 黑色 外) 鮎青褐色	□) ヨコナダ (5角/cm) 外) ハケ目 (5角/cm)	内) ナダ 外) ナダ
79	*	*			石英・角閃石	内) 鮎青褐色 外) 鮎青褐色	□) ヨコナダ 外) ハケ目 (5-6角/cm)	内) ナダ 外) ナダ
80	*	*		7.3	*	内) 鮎青褐色 外) 鮎青褐色	□) ヨコナダ (5角/cm) 外) ハケ目 (5角/cm)	内) ナダ 外) ナダ

番号	出土場	器種	口径	高さ	底径	粘土	色調	測定	備考
81	7号住居跡	壺		7.1	石英・角閃石	内)淡褐色 外) *	外)ハケ目 (10~11系/cm) 内)ナヂ		
82	*	壺			石英・角閃石・赤褐色斑	内)乳白色 外) *	外)ナヂ 内)ナヂ		
83	*	器台			石英・角閃石	内)淡褐色 外) *	外)ナヂ	内)ナヂ	
84	*	文庫		9.2	赤褐色	(内)褐色 外)淡褐色	外)ナヂ	内)ナヂ	
85	8号住居跡	壺			石英・紫母・角閃石	内)淡褐色 外)淡褐色	内)ヨコナヂ 外)ナヂ		
86	*	*			石英・角閃石	内)淡褐色 外)褐色	内)ヨコナヂ・ナヂ 外)ナヂ		
87	*	*			赤褐色	内)淡褐色 外) *	外)ナヂ	内)ナヂ	外面に丹毛少撫朱
88	*	*			7.2R 石英・角閃石	内)淡褐色 外)淡褐色	内)ナヂ 外)ナヂ	内)ナヂ	
89	*	*		7.6R	石英	内)淡褐色 外) *	内)ミガキ 外)ナヂ	内)ナヂ	
90	*	壺			石英・紫母・角閃石	内)褐色 外) *	内)ヨコナヂ 外)ハケ目 (6系/cm) 内)ナヂ		
91	*	*			石英	内)淡褐色 外) *	内)ナヂ 外)ナヂ	内)ナヂ	口縁下にM字形凹窓あり 外面丹毛
92	*	*			*	内) *	内)ヨコナヂ 外) *	内)ナヂ	凸面網織
93	*	*		27R	石英・紫母・角閃石	内) *	内)ヨコナヂ 外) *	内)ナヂ	
94	*	*			*	内)淡褐色 外) *	内)ヨコナヂ・ヨコナヂ 外)ナヂ	内)ナヂ	三列凸沿1条あり
95	*	*			*	内)褐色 外) *	内)ヨコナヂ 外)ハケ目 (4~5系/cm) 内)ナヂ	内)ナヂ	
96	*	*			*	内)褐色 外) *	内)ヨコナヂ 外)ナヂ	内)ナヂ	
97	*	*		8.9	*	内)褐色 外)海綿褐色	内)ハケ目 (4系/cm) 外)ナヂ	内)ナヂ	
98	*	*		6.8	石英・角閃石	内)褐色 外) *	外)ハケ目 (6系/cm) 内)ナヂ	外)ナヂ	
99	*	*		6.8R	*	内)褐色 外)褐色	外)ハケ目 (8~9系/cm) 内)ナヂ	外)ナヂ	
100	*	*		7.2R	*	内)褐色 外) *	内)ハケ目 (4~5系/cm) 内)ナヂ	内)ナヂ	

番号	出土地	断面	口径	断面	底径	地 土	色 調	圓 盤	内 外	備 考
101	8号住居跡	五				石英・黄母	内 外	□ヨコナデ 外ナデ	内ナデ	
102	*	竈台	7.6			石英・雲母・角閃石	内淡褐色 外棕褐色	外ナデ	内ナデ	端部が剥離あり
103	*	*			10.8R	石英・雲母・赤褐色	内暗灰色 外暗灰黑色	外ハゲ目 (7.6cm)	内ナデ	
104	*	*			11R	石英・角閃石・赤褐色	内淡褐色 外	外ハゲ目 (6.6cm)	内ナデ	
105	*	*	11.6R	石英	*		内	外ハゲ目 (6.6cm)	内ナデ	
106	*	*	14R	石英・蜜月		内褐色	内	外ナデ	内ナデ	
107	9号住居跡	普				石英・角閃石・赤褐色	内黄褐色 外黄灰色	内ヨコナデ	内	
108	*	*	22R	石英・雲母・赤褐色		内黄褐色 外	外	□ヨコナデ 外	内	
109	*	*				石英・角閃石・赤褐色	内	□ヨコナデナラ目 (6.6cm)	内	
110	*	*			*		内赤褐色 外棕褐色	内	内	
111	*	要	34R	石英・蜜月・角閃石・赤褐色		内黄褐色 外黄灰色	内	□ヨコナデ 外	内ナデ	三側片岩1塊あり
112	*	*	32.8R	*	*		内黄褐色 外黄灰色	□ヨコナデナラ目 (6.6cm)	内ナデ	
113	*	*	25.3R	石英・赤褐色		内黄褐色 外褐色	内ヨコナデ	内ナデ		
114	*	*	32.8R	石英・角閃石・赤褐色		内淡褐色 外	内ヨコナデ 外ハゲ目 (7.6cm)	内ナデ		
115	*	*	6.6R	石英・雲母・角閃石・赤褐色		内棕褐色 外	外ハゲ目 (7.6cm)	内ナデ		
116	*	竈台		9.2R	*	内	内ヨコナデ 外	内ナデ	内ナデ	
117	10号住居跡	竈				石英・角閃石・赤褐色	内黄褐色 外	□ヨコナデ・ナデ	内	
118	*	要				石英・雲母・角閃石・赤褐色	内	□ヨコナデ	内	
119	*	*				石英・赤褐色	内	□ヨコナデ (6.6cm)	内ナデ	
120	*	*				石英・雲母・角閃石・赤褐色	内	□ヨコナデ 外	内	

番号	出土場	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	調査	備考
121	10号生粘土	瓶		8.5R	石英・黄母・赤褐色粒	内) 壁褐色 外) 淡褐色	1.1) 外) ハケ目 (6~7系/cm) 内) ハケ目 (6~7系/cm)		
122	*	*		12.6R	石英	内) 壁赤褐色 外) 淡褐色	口) ヨコナデ 外) ハケ目 (6系/cm)・ナデ		
123	*	瓶	19R	13.9	石英・黄母・赤褐色粒	内) 淡褐色 外) 黄灰色	1.1) ヨコナデ 外) ハケ目 (5系/cm)		
124	11号生粘土	壺		*	*	内) 淡黃褐色 外) 乳白色	口) ヨカキ・ヨカナデ 外) 乳白色		
125	*	*	16R		石英・角閃石・赤褐色粒	内) 黄色	1.1) ヨコナデ 外) ハケ目 (5系/cm)		
126	*	*			石英・黄母	内) 棕色 外) *	口) ヨコナデ 外) ハケ目 (6系/cm, 2系/cm)・ナデ		
127	*	*		10.2	石英・角閃石・赤褐色粒	内) 黄色 外) 淡灰黑色	口) ヨコナデ 外) ハケ目 (7系/cm)		
128	*	*	8R	石英		内) 壁褐色 外) *	口) ヨコナデ 外) ハケ目 (8系/cm)・ナキ・ナデ		
129	*	*		9.4R	石英・角閃石・赤褐色粒	内) 淡黃褐色 外) 淡黃褐色	1.1) ヨカキ・ナデ 口) ヨカキ		
130	*	*		8.5R	石英・黄母	内) 壁褐色 外) 淡褐色	口) ヨカキ 外) 棕色	外) 淡褐色	
131	*	瓶	29R		石英	内) 壁灰黑色 外) 淡灰黑色	1.1) ヨコナデ 外) ハケ目 (6~7系/cm)	内) ナデ	
132	*	*	27.8R		石英・黄母	内) 黄灰色 外) 淡褐色	口) ヨコナデ 外) ハケ目 (7系/cm)	内) ナデ	
133	*	*	31.5R		石英	内) 淡褐色	1.1) ヨコナデ 外) 淡褐色	内) ナデ	
134	*	*	31R		石英・角閃石・赤褐色粒	内) 壁灰黑色 外) 淡褐色	口) ヨコナデ 外) ハケ目 (6系/cm)	内) ナデ	淡褐色あり
135	*	*		*	*	内) 棕褐色 外) 棕色	1.1) ヨコナデ 外) ハケ目 (5系/cm)	内) ナデ	
136	*	*		7.8R	*	内) 棕色 外) 淡褐色	口) ヨコナデ 外) ナデ	内) ナデ	
137	*	*		7.4R	*	内) 淡褐色 外) 淡褐色	口) ヨコナデ 外) ハケ目 (5系/cm)・ヨコナデ	内) ナデ	
138	*	*		8R	石英・角閃石	内) 壁灰色 外) 淡褐色	口) ヨコナデ 外) ハケ目 (5~6系/cm)・ナデ	内) ナデ	
139	*	*		7.5R	石英・黄母・角閃石	内) 壁褐色 外) 淡褐色	口) ヨコナデ 外) ハケ目 (5系/cm)・ナデ	内) ナデ	
140	*	*	33.6R		石英・黄母	内) 淡褐色 外) 淡褐色	口) ヨカキ 内) ヨカキ	内) ヨカキ	口) 淡褐色~外) 淡褐色 M字形凸溝 3 あり

番号	出土地	層位	口径	器高	底径	胎土	色調	調査	備考
141	11号住居跡	釜	35.6R		精良		内)暗赤褐色 外)。	口)コナデ 内) 外)	升盤り・端文あり
142	*	*		8.2	石英・角閃石・斜長石粒		内)淡褐色 外)暗褐色	口)ハケ目 (6系/cm)・ナデ 内)ナデ	
143	*	窯井			石英・角閃石		内)暗褐色 外)暗褐色	口)ミガキ 外)ミガキ	
144	*	*		22R	石英		内)淡褐色 外)。	口) ナデ 外) ナデ	外周舟盛り
145	*	釜			精良		内)灰褐色 外)淡褐色	口)ヨコナデ・ミガキ 外)。	外周に輪文あり
146	*	釜			石英・角閃石・小颗粒		内)暗灰褐色 外)乳白色	口) ハケ目 (6~8系/cm)・ナデ 内)ナデ	
147	*	*			石英・素目・角閃石・斜長石粒		内)灰褐色 外)淡青褐色	口) ハケ目 (7系/cm)・ナデ 内)ナデ	
148	*	窯井			石英・角閃石		内)暗褐色 外)暗褐色	口) ハケ目 (6系/cm) 内)ナデ	
149	*				*		内)淡褐色 外)。	口) ハケ目 (7系/cm)・ヨコナデ 内)ナデ	
150	12号住居跡	釜	17.6R	32.3	6.8	石英・角閃石・斜長石粒	内)暗褐色 外)暗青褐色	口) ハケ目 (5系/cm)・ナデ 内)ナデ	
151	*	*	24.8R			石英・素目・角閃石・斜長石粒	内)淡褐色 外)。	口) ヨコナデ 内)ナデ	
152	*	*	25.2R			石英・角閃石・斜長石粒	内) *	口) ナデ 外) 実褐色	
153	*	*				7.8R 石英・素目	内)赤褐色 外)褐色	口) ハケ目 (10系/cm) 深ヨコナデ 内)ナデ 外)。	
154	*	*			7.6R 石英・素目・角閃石・斜長石粒	内)灰褐色 外)。	口) ナデ 内)ナデ		
155	*	*		8.4R	石英・素目		内)水青色 外)暗褐色	口) ハケ目 (4~5系/cm) 深ヨコナデ 内)ナデ	
156	*	*		10.2	石英・角閃石・斜長石粒		内)黄褐色 外)褐色	口) ハケ目 (5系/cm) ヨコナデ 内)ナデ	
157	*	*	30.6R		素目・角閃石・斜長石粒		内)淡褐色 外)灰褐色	口) ナデ 内)ナデ	
158	*	釜		9.2R	石英・artz		内)褐色 外)淡褐色	口) ヨコナデ・ナデ 外)ナデ	
159	*	*		20	17.8 5.2	石英・角閃石・斜長石粒	内)暗褐色 外)。	口) ナデ 外)ナデ	
160	*	*	21.4R		石英・素目		内)暗褐色 外)黑茶色	口)ヨコナデ 外)ハケ目 (10~11系/cm)	工具文様あり

番号	出土場	場 種	口径	高さ	底径	胎 土	色 質	調 整		備 考
								内) ヨコナナメ 外) ハケ目 (6束/cm)	内) カナデ	
161	12号生田塚	先	32.8R	34.3	6.6R	石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内) 黄褐色 外) 黄褐色	内) ヨコナナメ 外) ハケ目 (6束/cm)	内) カナデ	
162	*	*	25.6R			石英・赤褐色粒	内) 黄褐色 外) 褐褐色	内) ナナメ 外) ハケ目 (6束/cm)	内) ナナデ	ヘラ状模様あり
163	*	*			6.2	石英・角閃石・赤褐色粒	内) 黄褐色 外) 黄褐色	内) ハケ目 (6束/cm)	内) ナナデ	
164	*	*			6.6R	石英・雲母・赤褐色粒	内) 黄褐色 外) 黄褐色	内) ハケ目 (5束/cm)	内) ナナデ	
165	*	*			7.2	石英・赤褐色粒	内) 黄褐色 外) 褐褐色	内) ハケ目 (6束/cm)	内) ナナデ	
166	*	*	29.2R			石英・角閃石・赤褐色粒	内) 黄褐色 外) 黄褐色	内) ヨコナナメ 外) ハケ目 (6束/cm)	内) ナナデ	
167	*	*	28R			石英・雲母	内) 黄褐色 外) 黄褐色	内) ヨコナナメ 外) ハケ目 (5束/cm)	内) ナナデ	工具状模様あり
168	*	*	27.4R		*		内) 黄褐色 外) 褐褐色	内) ヨコナナメ 外) ハケ目 (6束/cm)	内) ナナデ	ヘラ状模様あり
169	*	*	27.2R			石英・赤褐色粒	内) 黄褐色 外) 褐褐色	内) ヨコナナメ 外) ハケ目 (6束/cm)	内) ナナデ	
170	*	*				石英	内) 黄褐色 外) *	内) ハケ目 (6束/cm)	内) ナナデ	工具状模様あり
171	*	*			6.9	石英・角閃石・赤褐色粒	内) 黄褐色 外) 黄褐色	内) ヨコナナメ 外) ハケ目 (6束/cm)	内) ナナデ	
172	*	*			6.6	*	内) 黄褐色 外) 黄褐色	内) ハケ目 (5束/cm)	内) ナナデ	
173	*	*			6.4	石英	内) 黄褐色 外) 黄褐色	内) ハケ目 (6~7束/cm)	内) ナナデ	
174	*	*	19.4R		*		内) 黄褐色 外) *	内) ハケ目 (6束/cm)	内) ナナデ	ヘラ状模様あり
175	*	*	26R			雲母・赤褐色粒	内) 黄褐色 外) 褐褐色	内) ヨコナナメ 外) ハケ目 (6束/cm)	内) ナナデ	
176	*	*	34R		8.5	石英・角閃石・赤褐色粒	内) 黄褐色 外) *	内) ヨコナナメ 外) ハケ目 (10束/cm, 5束/cm)	内) ナナデ	ヘラ状模様あり
177	*	*	16.6R			石英	内) 黄褐色 外) *	内) ヨコナナメ 外) *	内) ナナデ	
178	*	*	13.4R			石英・角閃石・赤褐色粒	内) 黄褐色 外) 黄褐色	内) ヨコナナメ 外) ハケ目 (6束/cm)	内) ナナデ	三重口型: 1本あり
179	*	器台	8.5	13.6	8.5	石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内) 黄褐色 外) *	内) ヨコナナメ 外) ハケ目 (6束/cm)	内) ナナデ	
180	*	*	10R	13.2	9.4R	*	内) 黄褐色 外) *	内) ヨコナナメ 外) *	内) ナナデ	

番号	出土地	器種	口径	形態	底	土	色	調	筆	備	著者
181	12号住居跡	窖台		8	石突・茎母		内深褐色 外深褐色	口) ハケ日 (7mm/cm) 外) ハケ日 (7mm/cm)	内) ナデ		
182	+	+	9.2R	15	10.3	茎母・角閃石・赤褐色粒	内) 黄褐色 外) 黄褐色	口) ハケ日 (7~8mm/cm) 外) ハケ日 (7~8mm/cm)	内) ナデ		
183	+	茎				石突・赤褐色粒	内) 深褐色 外) 深褐色	口) ヨコナデ (6mm/cm) 外) ハケ日 (6mm/cm)	内) ナデ		
184	+	+				石突・茎母・角閃石・赤褐色粒	内) 黄褐色 外) 黄褐色	口) ハケ日 (6mm/cm) 外) ハケ日 (6mm/cm)	内) ナデ		口輪近くに円孔あり
185	+	支脚	4.8	10.8	5.1	石突	内) 深褐色 外) 深褐色	口) ハケ日 (6mm/cm) 外) ハケ日 (6mm/cm)	内) ナデ		
186	+	茎	30.2R	35.4	8.6	*	石突	内) 深褐色 外) 深褐色	口) ヨコナデ (7mm/cm) 外) ハケ日 (3mm/cm 5mm/cm 7mm/cm)	内) ヨコナデ	二輪凸筋1条あり
187	+	+				石突・茎母・角閃石・赤褐色粒	内) 深褐色 外) 深褐色	口) ヨコナデ (6mm/cm 6mm/cm 8mm/cm) 外) ハケ日 (9~10mm/cm)	内) ヨコナデ		*
188	+	+	33.5R	*	*		内) 黄褐色 外) 深褐色	口) ヨコナデ (5~6mm/cm 10~11mm/cm) 外) ハケ日 (5~6mm/cm 10~11mm/cm)	内) ナデ		*
189	+	+	34.2R	*	*		内) 深褐色 外) *	口) ヨコナデ 外) ハケ日 (9~10mm/cm)	内) ヨコナデ		*
190	+	+	24.6R	29	5.8	石突・赤褐色粒	内) 黄褐色 外) *	口) ハケ日 (5~6mm/cm) 外) ハケ日 (5~6mm/cm)	内) ナデ		
191	+	+	34.8R	35.2	7.2R	石突・茎母・角閃石・赤褐色粒	内) 黄褐色 外) 深褐色	口) ヨコナデ 2.5mm/cm 外) ハケ日 (8mm/cm)	内) ヨコナデ 2.5mm/cm 外) ハケ日 (8mm/cm)	内) ナデ	周縁にコ字形凸筋あり
192	+	高杯	24.2R			石突・茎母・角閃石	内) 深褐色 外) *	口) ヨコナデ 外) ミガキ	内) ヨコナデ		
193	+	+	28R			石突・角閃石・赤褐色粒	内) 黄褐色 外) *	口) ヨコナデ 外) ハケ日	内) ヨコナデ		
194	+	茎		*	*		内) 深褐色 外) 深褐色	口) ヨコナデ (6mm/cm) 外) ハケ日 (6mm/cm)	内) ナデ		
195	+	高杯				石突・茎母・角閃石・赤褐色粒	内) 深褐色 外) *	口) ミガキ	内) ナデ		
196	+	+				石突・角閃石・赤褐色粒	内) 深褐色 外) *	口) ヨコナデ 外) ハケ日 (6mm/cm)	内) ヨコナデ		
197	+	+				石突・茎母・角閃石・赤褐色粒	内) 深褐色 外) 深褐色	口) ミガキ	内) ナデ		
198	13号住居跡	茎	23.6R			茎母・角閃石	内) 深褐色 外) 深褐色	口) ヨコナデ (6mm/cm) 外) ハケ日 (6mm/cm)	内) ヨコナデ		
199	+	+			*		内) 黄褐色 外) *	口) ヨコナデ 外) ハケ日 (6mm/cm)	内) ヨコナデ		
200	+	+				石突・茎母・角閃石・赤褐色粒	内) 深褐色 外) 深褐色	口) ヨコナデ (5~6mm/cm) 外) ハケ日 (5~6mm/cm)	内) ヨコナデ		

番号	出土地	特徴	口径	最高	実深	胎 土	色 滅	調 整	差 值	備 考
201	13号生田塚	要	25.3R			石英・漂母・角閃石	内淡褐色 外暗褐色	(1)ヨコナデ 外)	(1)ヨコナデ 内)	
202	*	*				漂母・角閃石	内) 外)褐色	(1)ヨコナデ 外)ハケ日 (7.5cm)	(1)ヨコナデ 内)	
203	*	*				石英・漂母・角閃石	内)褐灰色 外)淡褐色	(1)ヨコナデ 外)	(1)ヨコナデ 内)	
204	*	*				石英・漂母・角閃石・赤褐色粒 外)基底色	(1)* 内)褐色 外)	(1)ハケ日 (6~7.5cm) (1)ナード	(1)ナード 外)	
205	*	*				6.4R 石英・角閃石	内)褐色 外)	(1)ハケ日 (5~6.5cm) (1)ヨコナデ	(1)ヨコナデ 内)	
206	*	*				7.2R 漂母・角閃石	内)青褐色 外)青褐色	(1)ハケ日 (7.5cm) (1)ヨコナデ	(1)ヨコナデ 内)	
207	*	伴	16.6R			角閃石・赤褐色粒	内)褐褐色 外)淡褐色	(1)ハケ日 (6.5cm) (1)ナード	(1)ナード 内)	
208	*	陪台				9.2R 漂母・漂母・赤褐色粒	内)淡褐色 外)淡褐色	(1)ハケ日 (5.5cm) (1)ミカキ・ヨコナデ 内)	(1)ミカキ・ヨコナデ 内)	
209	14号生田塚	亞				漂母・角閃石	内)青褐色 外)	(1)ヨコナデ 外)	(1)ヨコナデ 内)	
210	*	*				漂母・角閃石・赤褐色粒	内)青褐色 外)	(1)ヨコナデ 外)	(1)ヨコナデ 内)	
211	*	*				石英・角閃石・赤褐色粒	内)褐褐色 外)	(1)ヨコナデ 外)	(1)ヨコナデ 内)	
212	*	*	20.6R			石英・漂母・赤褐色粒	内)淡褐色 外)	(1)ヨコナデ 外)	(1)ヨコナデ 内)	
213	*	要				漂母・角閃石	内)淡褐色 外)暗茶褐色	(1)ヨコナデ 外)	(1)ヨコナデ 内)	
214	*	*	34R			石英・漂母・角閃石・赤褐色粒	内)淡褐色 外)黃褐色	(1)ヨコナデ 外)	(1)ヨコナデ 内)	
215	*	*	36.4R		*		内)褐褐色 外)淡褐色	(1)ヨコナデ 外)ハケ日 (6.5cm) (1)ヨコナデ 外)ハケ日 (6.5cm)	(1)ヨコナデ 内)	三角凸凹1ヶあり
216	*	*					(1)褐色 外)	(1)ヨコナデ 外)ナード	(1)ヨコナデ 内)	ヘラはねあり
217	*	*				6.3 石英・漂母・角閃石	内)淡褐色 外)褐色	(1)ヨコナデ 外)	(1)ヨコナデ 内)	
218	*	*				7.5 石英・漂母・角閃石・赤褐色粒	内)淡褐色 外)淡褐色	(1)ヨコナデ 外)ハケ日 (7.5cm) (1)ナード	(1)ナード 外)	
219	*	*	30.6R		*		内)淡褐色 外)淡褐色	(1)ヨコナデ 外)ナード (6.5cm) (1)ヨコナデ 外)	(1)ヨコナデ 内)	
220	*	*	31R		*		内)淡褐色 外)	(1)ヨコナデ 外)ハケ日 (5.5cm) (1)ナード	(1)ヨコナデ 内)	

番号	出土地	層	口径	器高	底径	始 土	色 面	測 定	備 考
221	14号住居跡	柱上土槽			石英・雲母・角閃石	内)淡灰褐色 外)褐色	口) ヨコナデ 内) ヨコナデ		
222	*	井戸			*		口) 淡褐色 外)淡褐色	口) ハケ日 (10mm/cm) 内) ヨコナデ	
223	*	*		14.6R	石英・角閃石	内)淡灰褐色 外) *	口) ヨコナデ	外)ヨコナデ	
224	*	底			石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内)淡褐色 外)淡褐色	口) ヨコナデ・ハケ日 (6mm/cm)		
225	*	*			石英・雲母・角閃石	内) 褐色 外) 淡褐色	口) ヨコナデ	外) ヨコナデ	
226	*	井戸		11.4R	雲母・角閃石・赤褐色粒	内) 淡褐色 外) *	口) ヨコナデ 外) ハケ日 (4~5mm/cm)	内) ヨコナデ	
227	*	*		9.7R	石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内) 淡褐色 外) 褐色	口) ヨコナデ 外) ハケ日 (6mm/cm)	内) ヨコナデ	
228	15号住居跡	堀		*		内) 淡褐色 外) 褐色	口) ヨコナデ	内) ヨコナデ	
229	*	*	22.5R		*	内) 淡褐色 外) *	口) ヨコナデ 外) ハケ日 (5mm/cm)	内) ヨコナデ	内) 淡褐色 1点あり
230	*	*		7R	*	内) 淡褐色 外) 淡褐色	口) ヨコナデ 外) ヨコナデ	内) ヨコナデ	
231	*	井戸		10.9R	*	内) 淡褐色 外) *	口) ヨコナデ 外) ハケ日 (7mm/cm)	内) ヨコナデ	
232	16号住居跡	底			石英・雲母	内) 褐茶褐色 外) *	口) ヨコナデ 外) ヨコナデ	内) ヨコナデ	
233	*	*			*	内) *	口) ヨコナデ	内) ヨコナデ	
234	*	*			石英・角閃石	内) 淡褐色 外) 淡褐色	口) ヨコナデ 外) ヨコナデ	内) ヨコナデ	
235	*	*			石英・雲母	内) 淡褐色 外) 淡褐色	口) ヨコナデ 外) ヨコナデ	内) ヨコナデ	
236	*	堀	25.6		石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内) 淡茶色 外) *	口) ヨコナデ 外) ハケ日 (6mm/cm)	内) ヨコナデ 内) ヨコナデ	内) ヨコナデ ヘラビ端あり
237	*	*			石英・雲母・赤褐色粒	内) 淡褐色 外) *	口) ヨコナデ 外) ヨコナデ	内) ヨコナデ	工具記載あり
238	*	*		5.1	石英・雲母	内) 褐色 外) *	口) ヨコナデ 外) ヨコナデ	内) ヨコナデ	
239	*	*		6.8R	石英・雲母・赤褐色粒	内) 淡褐色 外) 淡褐色	口) ヨコナデ 外) ハケ日 (6~7mm/cm)	内) ヨコナデ	
240	*	*		7.5	*	内) 淡茶色 外) 淡茶色	口) ヨコナデ 外) ハケ日 (6mm/cm)	内) ヨコナデ	

番号	出土地	特徴	口径	断面	底	土	色調	測		参考
								(内) 淡茶褐色 外) 深褐色	(外) ハケ日 (8mm) (内) ナデ	
241	16号住居跡	要	26.7R	石英、角閃石	7.1	石英、玉砂	内) 淡茶褐色 外) 深褐色	(外) ハケ日 (6mm) (内) ナデ	(外) ハケ日 (6mm) (内) ナデ	
242	*	*					内) 淡茶褐色 外) 深褐色	(外) ハケ日 (6mm) (内) ナデ	(外) ハケ日 (6mm) (内) ナデ	
243	*	滑台			6.8R	*	内) 淡茶褐色	(外) ハケ日 (6mm) (内) ナデ	(外) ハケ日 (6mm) (内) ナデ	
244	17号住居跡	要	8.7R	石英	内) 淡茶褐色 外) 深褐色	内) 淡茶褐色 外) 深褐色	(外) 深褐色 内) 淡茶褐色	(外) ミガキ・ヨコナデ (内) ミガキ・ヨコナデ	(外) ミガキ・ヨコナデ (内) ミガキ・ヨコナデ	
245	*	*	12R	石英、玉砂、角閃石	内) 淡茶褐色 外) *	内) 淡茶褐色 外) *	内) 淡茶褐色 外) *	(外) ミガキ・ヨコナデ (内) ナデ	(外) ミガキ・ヨコナデ (内) ナデ	断面に三角形等1条あり
246	*	*		石英、玉砂、角閃石、赤褐色粒	内) 淡茶褐色 外) *	内) 淡茶褐色 外) *	内) 淡茶褐色 外) *	(外) ミガキ・ヨコナデ (内) ナデ	(外) ミガキ・ヨコナデ (内) ナデ	
247	*	*			3.0	*	内) 淡茶褐色 外) 深褐色	(外) ミガキ (内) ナデ	(外) ミガキ (内) ナデ	
248	*	*	4.4R	石英、玉砂	内) 淡茶褐色 外) *	内) 淡茶褐色 外) *	内) 淡茶褐色 外) *	(外) ミガキ (内) ナデ	(外) ミガキ (内) ナデ	
249	*	*		石英、角閃石、赤褐色粒	内) 淡茶褐色 外) *	内) 淡茶褐色 外) *	内) 淡茶褐色 外) *	(外) ミガキ・ナデ (内) ナデ	(外) ミガキ・ナデ (内) ナデ	
250	*	*		石英、玉砂、角閃石、赤褐色粒	内) 淡茶褐色 外) 深褐色	内) 淡茶褐色 外) 深褐色	内) 淡茶褐色 外) 深褐色	(外) ミガキ・ナデ (内) ナデ	(外) ミガキ・ナデ (内) ナデ	
251	*	*	28R	石英、角閃石、赤褐色粒	内) *	内) *	内) 淡茶褐色 外) 深褐色	(外) ミガキ (内) ナデ	(外) ミガキ (内) ナデ	
252	*	*		石英、玉砂、角閃石、赤褐色粒	内) *	内) *	内) 淡茶褐色 外) *	(外) ミガキ・ヨコナデ (内) ナデ	(外) ミガキ・ヨコナデ (内) ナデ	
253	*	*	19R	*	内) 淡茶褐色 外) 深褐色	内) 淡茶褐色 外) 深褐色	内) 淡茶褐色 外) 深褐色	(外) ミガキ・ナデ (内) ナデ	(外) ミガキ・ナデ (内) ナデ	
254	*	*		*	内) 淡茶褐色 外) 深褐色	内) 淡茶褐色 外) 深褐色	内) 淡茶褐色 外) 深褐色	(外) ミガキ (内) ナデ	(外) ミガキ (内) ナデ	
255	*	*	17.6R	石英、玉砂、角閃石	内) 淡茶褐色 外) 深褐色	内) 淡茶褐色 外) 深褐色	内) 淡茶褐色 外) 深褐色	(外) ミガキ・ヨコナデ (内) ナデ	(外) ミガキ・ヨコナデ (内) ナデ	外側に縦文風のミガキあり
256	*	*	25R	石英、玉砂、角閃石、赤褐色粒	内) 淡茶褐色 外) 深褐色	内) 淡茶褐色 外) 深褐色	内) 淡茶褐色 外) 深褐色	(外) ミガキ・ミガキ (内) ナデ	(外) ミガキ・ミガキ (内) ナデ	
257	*	*	26.2R	*	内) 淡茶褐色 外) *	内) 淡茶褐色 外) *	内) 淡茶褐色 外) *	(外) ミガキ・ヨコナデ (内) ナデ	(外) ミガキ・ヨコナデ (内) ナデ	
258	*	*			*	*	内) 淡茶褐色 外) *	(外) ミガキ・ヨコナデ (内) ナデ	(外) ミガキ・ヨコナデ (内) ナデ	外側に縦文風のミガキあり
259	*	*			*	*	内) 淡茶褐色 外) *	(外) ミガキ・ヨコナデ (内) ナデ	(外) ミガキ・ヨコナデ (内) ナデ	
260	*	*			*	*	内) 淡茶褐色 外) *	(外) ミガキ・ヨコナデ (内) ナデ	(外) ミガキ・ヨコナデ (内) ナデ	断面に三角形等1条あり

番号	出土地	特徴	口径	目高	底径	胎	土	色	調	鑑	鑑
251	17号生居跡	透			7.3R	*	石英・素地・角閃石・赤褐色粒	内)暗褐色 外)淡褐色	口)ミガキ・ヨコナデ 外)ミガキ・ヨコナデ	内)ナデ・ミガキ 外)ミガキ・ヨコナデ	
262	*	*			8.6	*		内)暗色 外)淡褐色	口)ミガキ・ナデ 外)ナデ	内)ナデ 外)ナデ	
263	*	*			35R	*		内)暗色 外)淡褐色	口)ヨコナデ 外)ハゲ目(4% /m)	内)ナデ	
264	*	透			7.4R	*		内)暗色 外)淡褐色	口)ヨコナデ 外)ナデ	内)ナデ	
265	*	*	29R	*		*		内)暗色 外)淡褐色	口)ヨコナデ 外)ナデ	内)ナデ	
266	*	*			7.9	*	石英・素地・角閃石・赤褐色粒	内)暗色 外)淡褐色	口)ヨコナデ 外)ハゲ目(5% /m)	内)ナデ 外)ナデ	
267	*	*			9.4R	*	石英・素地・角閃石・赤褐色粒	内)暗色 外)淡褐色	口)ヨコナデ 外)ハゲ目(4~5% /m)	内)ナデ 外)ナデ	
268	*	*			6	*	石英・素地・角閃石	内)暗褐色 外)淡褐色	口)ヨコナデ 外)ナデ	内)ナデ	
269	*	*			25.6R	*	石英・素地・角閃石・赤褐色粒	内)暗褐色 外)淡褐色	口)ヨコナデ 外)ハゲ目(5% /m)	内)ナデ 外)ナデ	
270	*	*			25.3R	*	石英・素地・角閃石	内)暗褐色 外)淡褐色	口)ヨコナデ 外)ハゲ目(6% /m)	内)ナデ 外)ナデ	
271	*	*	27R	*		*		内)暗色 外)。	口)ヨコナデ 外)ハゲ目(9% /m)	内)ナデ 外)ナデ	
272	*	*			29R	*	石英・素地・角閃石	内)暗褐色 外)淡褐色	口)ヨコナデ 外)ハゲ目(5~6% /m)	内)ナデ 外)ナデ	
273	*	*			36R	*	石英・素地・角閃石	内)暗褐色 外)淡褐色	口)ヨコナデ 外)ハゲ目(6% /m)	内)ナデ 外)ナデ	
274	*	*			7.4	*	石英・素地・角閃石・赤褐色粒	内)暗褐色 外)淡褐色	口)ヨコナデ 外)ハゲ目(4~6% /m)	内)ナデ 外)ナデ	
275	*	*			8.2R	*	石英・素地・角閃石・赤褐色粒	内)暗色 外)淡褐色	口)ヨコナデ 外)ハゲ目(1~5% /m)	内)ナデ 外)ナデ	
276	*	*				*		内)暗褐色 外)淡褐色	口)ヨコナデ 外)ハゲ目(3~4% /m)	内)ナデ 外)ナデ	
277	*	*				*		内)暗色 外)。	口)ヨコナデ 外)ヨコナデ・ハゲ目(7% /m)	*	
278	*	*				*		内)淡褐色 外)暗色	口)ヨコナデ 外)ナデ	内)ナデ	
279	*	*				*		内)暗褐色 外)淡褐色	口)ヨコナデ 外)ハゲ目(6% /m)	内)ナデ 外)ナデ	
280	*	*				*		内)暗色 外)淡褐色	口)ヨコナデ 外)ハゲ目(1~5% /m)	内)ナデ 外)ナデ	

番号	出土地	層	口述	断面	底	土	色調	調	基	参考	
										6.5	6.5
281	17号住居跡	裏			石英・角閃石・斜長石	内)淡褐色 外)褐色	口)褐色 外)ハケ目(5条/cm) 内)ナダ				
282	*	*		7.1	石英・雲母・角閃石	内)褐褐色 外)褐褐色	口)褐色 外)ハケ目(4~5条/cm) 内)ナダ				
283	*	*		7.1	*	内)褐色 外)褐色	口)褐色 外)褐色	口)褐色 外)ナダ			
284	*	*		7.4	石英・雲母・角閃石・斜長石	内)褐色 外)褐色	口)褐色 外)ナダ	口)褐色 外)ナダ			
285	*	鉢			石英・雲母・赤褐色	内)褐色 外)褐色	口)褐色 外)ナダ	口)褐色 外)ナダ			
286	*	*				内)褐色 外)褐色	口)褐色 外)ナダ	口)褐色 外)ナダ			
287	*	*			石英・角閃石・赤褐色	内)褐色 外)褐色	口)褐色 外)褐色	口)褐色 外)ナダ			
288	*	*		11R	*	内)褐色 外)褐色	口)褐色 外)ナダ	口)褐色 外)ナダ			
289	*	台付型		11.5	石英・雲母・角閃石	内)褐色 外)褐色	口)褐色 外)ナダ	口)褐色 外)ナダ			
290	*	鉢		11R		内)褐色 外)褐色	口)褐色 外)ナダ	口)褐色 外)ナダ			
291	*	*		8.8R	*	内)褐色 外)褐色	口)褐色 外)ナダ	口)褐色 外)ナダ			
292	*	*		12R	石英・雲母・角閃石	内)褐色 外)褐色	口)褐色 外)ナダ	口)褐色 外)ナダ			
293	*	*			石英・角閃石	内)褐色 外)褐色	口)褐色 外)ナダ	口)褐色 外)ナダ			
294	*	*			石英・雲母・角閃石	内)褐色 外)褐色	口)褐色 外)ナダ	口)褐色 外)ナダ			
295	*	皿			*	内)黑色	口)黑色 外)褐色	口)黑色 外)ナダ			
296	*	*			石英・雲母・赤褐色	内)褐色 外)赤褐色	口)褐色 外)ナダ	口)褐色 外)ナダ			
297	*	*			石英・雲母・角閃石	内)褐色 外)褐色	口)褐色 外)ナダ	口)褐色 外)ナダ			
298	*	*		28R	石英・赤褐色	内)褐色 外)褐色	口)褐色 外)ナダ	口)褐色 外)ナダ			
299	*	*		28M	石英・角閃石・赤褐色	内)褐色 外)褐色	口)褐色 外)ナダ	口)褐色 外)ナダ			
300	*	瓶坏		26R	*	内)褐色 外)褐色	口)褐色 外)ナダ	口)褐色 外)ナダ			

番号	出土場	特徴	口径	高さ	底径	片 土	色 調	調 整	備 考
301	17号古井	高环	35.4R			石英・角閃石	内)淡褐色 外) *	P)	
302	*	*				石英・角閃石・赤褐色粒	内)淡褐色 外) *	P)	ミコナデ
303	*	*				石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内)淡褐色 外) *	P)	ナデ
304	*	器台	7.4	13.5	7.6	*	内)淡褐色 外)暗褐色	P)	ナデ
305	*	*	8 R			石英・雲母・角閃石	内)淡褐色 外)暗褐色	P)	ミコナデ (7.6/cm) 外)ハケ目 (7.6/cm)
306	*	*		9.2R	*		内)淡褐色 外)暗褐色	P)	ナデ
307	*	*		9 R		石英・角閃石	内)淡褐色 外)暗褐色	P)	ナデ
308	*	*	9.2R	12 R	石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内)淡褐色 外)暗褐色	P)	ミコナデ 外)ハケ目 (8.6/cm, 9.6/cm)	
309	*	*		10	*		内)暗褐色	P)	ハケ目 (8.6/cm)
310	18号古井	盖		5 R		石英・赤褐色粒	内)淡褐色 外)暗褐色	P)	ミコナデ
311	*	堺				石英・雲母・角閃石	内)淡褐色 外) *	P)	ミガキ 内)ミガキ
312	*	*				石英・雲母	内)淡褐色 外)暗褐色	P)	ミコナデ (4 - 5.6/cm)
313	*	*	27.6R			石英・雲母・角閃石	内)淡褐色 外) *	P)	ナデ
314	*	*		5.7		石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内)暗褐色 外) *	P)	ナデ
315	*	*		6.6		石英・雲母・角閃石	内)淡褐色 外) *	P)	ナデ
316	*	*	25.8	29.4	6.9	石英・角閃石・赤褐色粒	内)淡褐色 外) *	P)	ナデ
317	*	*	25.8 - 26.6	27.5	11.3	石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内)暗褐色 外) *	P)	ミコナデ 外)ハケ目 (6.6/cm) - ナデ
318	*	高环	22.6R			石英・雲母・角閃石	内)明褐色 外) *	P)	ミガキ ミコナデ
319	*	器台				*	内)淡褐色 外) *	P)	ミガキ
320	19号古井	盖				*	内) *	P)	ミガキ - ヨコナデ 内)

番号	出土地	西 緯	北 緯	高 度	断 土	色 調	測 定		備 考
							(1)ヨコナデ 外)	(内)	
321	19号生駒峰	立			石英・角閃石 石英	内)淡青灰色 外)褐色	(1)ヨコナデ 外)	(内)	
322	*	臺			石英	内)褐色 外)淡褐色	(1)ヨコナデ 外)	(内)ナダ	ヘラビ端あり
323	*	*			石英・碧母・斜閃石	内)褐褐色 外)暗赤茶褐色	(1)ヨコナデ 外)	(内)ナダ	工具記録あり
324	*	*	23.6R		石英・紫母・角閃石・赤褐色粒 石英	内)褐色 外)褐色	(1)ヨコナデ 外)	(内)ナダ	
325	-	*	30.6R	*	*	内)淡褐色 外)褐色	(1)ヨコナデ 外)ハゲ目(5%/cm)	(内)ナダ	
326	*	*			*	内)淡褐色 外)暗赤茶褐色	(1)ヨコナデ 外)ナダ	(内)	三角凸面1条あり
327	*	*	27R		石英・紫母・角閃石	内)墨灰色 外)淡褐色	(1)ヨコナデ 外)ナダ	(内)ナダ	
328	*	*	46	90.7	10.9	石英・角閃石・赤褐色粒 石英	内)褐色 外)褐色	(1)ヨコナデ 外)ハゲ目(4~5%/cm)	三角凸面1条あり 口縁に工具によるササリあり
329	*	*		6.3R	47	石英・紫母・角閃石	内)暗赤茶褐色 外)褐色	(内)	(内)ナダ
330	*	*		7	石英・角閃石・赤褐色粒 石英	内)褐色 外)褐色	(1)ヨコナデ 外)ハゲ目(6%/cm)	(内)ナダ	
331	*	臺			*	内)淡褐色 外)淡褐色	(1)ヨコナデ 外)	(内)	
332	*	*			石英・紫母・角閃石	内)暗赤茶褐色 外)褐色	(1)ナダ・ヨコナデ 外)	(内)	
333	*	露台		9.7R	石英・角閃石 石英	内)褐色 外)褐色	(1)ヨコナデ 外)ナダ	(内)	
334	*	*		10.6R	石英・紫母・角閃石 石英	内)褐色 外)褐色	(1)ヨコナデ 外)ハゲ目(5%/cm)	(内)ナダ	
335	*	*			石英・紫母・赤褐色粒 石英	内)暗赤茶褐色 外)黃褐色	(1)ミガキ・ヨコナデ 外)	(内)	外縁に削文あり
336	*	*		6 R	石英・角閃石・赤褐色粒 石英	内)暗褐色 外)褐色	(1)ナダ 外)ナダ	(内)	
337	*	臺			石英・紫母・角閃石・赤褐色粒 石英	内)淡褐色 外)淡褐色	(1)ヨコナデ 外)	(内)ナダ	三角凸面1条あり
338	*	*			*	内)褐色 外)褐色	(1)ヨコナデ 外)	(内)	
339	*	*		7	石英・赤褐色粒 石英	内)暗赤茶褐色 外)暗赤茶褐色	(1)ヨコナデ 外)ナダ	(内)	
340	*	*		8.2	石英・角閃石・赤褐色粒 石英	内)淡褐色 外)淡褐色	(1)ヨコナデ 外)ハゲ目(5~6%/cm)	(内)	

番号	出土場所	種類	口径	断面	底径	胎土	色調	調査	備考
341	19号生野層	甕			7.6	石英・赤褐色淀	内) 黒褐色 外) 淡褐色	口) ハゲ目 外) ナデ	
342	*	甕			13.4R	石英・鈍凹石・赤褐色淀	内) 淡褐色 外) 淡茶褐色	口) ハゲ目 外) ナデ	内) ナデ
343	*	甕			16.6R	*	内) 赤褐色 外) 淡褐色	口) ヨコナデ 外) ハゲ目	内) ナデ
344	*	甕	36.4R	39- 31.8	8.6R	石英・雲母・角閃石・赤褐色淀	内) 淡茶褐色 外) 黑褐色	口) ヨコナデ (6系/cm) 外) ハゲ目 (6系/cm)	内) ナデ 三列凸筋1条あり
345	20号生野層	甕			4 R	石英・雲母・角閃石	内) 淡褐色 外) 淡茶褐色	口) ミガキ・ナデ 内) ハゲ目	
346	*	*			4.8R	*	内) 淡茶褐色 外) 淡褐色	口) ヨコナデ 外) ハゲ目	内) ナデ
347	*	甕			27.2R		内) 淡褐色 外) *	口) ヨコナデ 外) ハゲ目	内) ナデ
348	*	*			29.7R	石英・雲母・角閃石・赤褐色淀	内) *	口) ヨコナデ 外) ハゲ目 (6系/cm)	内) ナデ
349	*	*			34 R	石英・雲母・角閃石	内) 淡茶褐色 外) 黑褐色	口) ヨコナデ (5系/cm) 外) ハゲ目 (5系/cm)	内) ナデ
350	*	*				石英・雲母・角閃石・赤褐色淀	内) 淡褐色 外) 淡褐色	口) ヨコナデ 外) ハゲ目	内) ナデ 三列凸筋1条あり
351	*	*				石英・角閃石	内) 淡褐色 外) *	口) ヨコナデ 外) ハゲ目 (3系/cm)	内) ナデ
352	*	*			30 R	石英・雲母・角閃石	内) 淡褐色 外) 黑褐色	口) ヨコナデ 外) ハゲ目 (5系/cm)	内) ナデ
353	*	*			6.4	*	内) 淡褐色 外) *	口) ヨコナデ 外) ハゲ目	内) ナデ
354	*	*			6.2R	石英・雲母・角閃石・赤褐色淀	内) 淡褐色 外) 淡褐色	口) ヨコナデ 外) ハゲ目 (5系/cm)	内) ナデ
355	*	*			5.6R	石英・雲母・角閃石	内) 淡褐色 外) *	口) ヨコナデ 外) ハゲ目 (5系/cm)	内) ナデ
356	*	*			7.4	石英・角閃石	内) 黑褐色 外) 俗灰化	口) ヨコナデ 外) ハゲ目	内) ナデ
357	*	*			27.4 R	石英・雲母・角閃石	内) 明褐色 外) 淡褐色	口) ヨコナデ 外) ハゲ目 (5系/cm)	内) ナデ
358	*	*			23 R	石英・雲母・角閃石・赤褐色淀	内) *	口) ヨコナデ 外) ハゲ目	内) ナデ
359	*	*			6.2R	石英・雲母	内) 淡褐色 外) *	口) ヨコナデ 外) ハゲ目 (5系/cm)	内) ナデ
360	*	器台	6.6R			石英	内) 淡褐色 外) 黑褐色	口) ヨコナデ 外) ハゲ目 (6系/cm)	内) ナデ

番号	出土場	層位	口径	高さ	底径	片土	色調	測量		備考
								(内) 深緑灰 色	(外) ハツ目 (10cm/cm)	
361	20号柱脚	層台	9.4R			石英・雲母・角閃石 外)	内) 深緑灰 色 外)	口) ヨコナデ 外) ハツ目 (10cm/cm)	内) ナナデ	
362	20号柱脚	地	17.4R			石英・雲母・赤褐色粒 外)	内) 深灰色 外)	口) 14cmハツ目 (6cm/cm)	内) ナナデ	
363	*	*	16.4R			石英・雲母・角閃石・赤褐色粒 外)	内) 小深灰色 外) 深灰色	口) ヨコナデ 外) ミガキ	内) ミガキ	
364	*	*				石英・雲母 外)	内) 鮎腹灰 色 外)	口) ナナデ 外) ナナデ	外) ナナデ	外) に断面あり
365	*	*				石英・雲母・赤褐色粒 外)	内) 深褐色 外)	口) ヨコナデ・ナナ 内)	内) ナナデ	
366	*	*				石英・雲母・角閃石・赤褐色粒 外)	内) 深褐色 外)	口) ヨコナデ・ナナ 外)	内) ナナデ	
367	*	*			4	*	内) 深褐色 外)	口) ナナデ 外)	内) ナナデ	
368	*	*			2.7	石英・雲母・角閃石 外)	内) *	口) ミガキ 外)	内) ナナデ	
369	*	要			4.2	石英・角閃石 外)	内) 深褐色 外)	口) ナナデ 外)	内) ナナデ	
370	*	*	25.8R			石英・角閃石・赤褐色粒 外)	内) 深茶褐色 外) 深褐色	口) ヨコナデ (7cm/cm)	内) ナナデ	
371	*	*				石英・雲母・角閃石・赤褐色粒 外)	内) 深褐色 外) 深褐色	口) ヨコナデ 外) ナナデ	内) ナナデ	三輪凸槽 1 条あり
372	*	*	27.5R		*	*	内) 深褐色 外)	口) ヨコナデ 外) リリナ	内) ナナデ	
373	*	*	26R		*	*	内) *	口) ヨコナデ 外) ハツ目 (6cm/cm)	内) ナナデ	
374	*	*	22R		*	*	内) 茶色 外)	口) ヨコナデ 外) ハツ目 (6cm/cm)	内) ナナデ	
375	*	*				*	内) 深褐色 外)	口) ヨコナデ 外) ナナデ	内) ナナデ	
376	*	*				7.1	石英・角閃石・赤褐色粒 外)	口) ハツ目 (6cm/cm)	内) ナナデ	
377	*	*	36R			石英・雲母・角閃石・赤褐色粒 外)	内) 深褐色 外) 深褐色	口) ヨコナデ 外)	内) ナナデ・ミガキ	三輪凸槽 1 条あり
378	*	*	48R		*	*	内) 深褐色 外)	口) ヨコナデ 外) ハツ目 (7~8cm/cm)	内) ナナデ	内) ナナデ
379	*	*	23.2R		*	*	内) 深褐色 外)	口) ヨコナデ 外) ハツ目 (7cm/cm)	内) ナナデ	
380	*	*			7.4	石英・角閃石・赤褐色粒 外)	内) 黒灰色 外) 深褐色	口) ハツ目 (8cm/cm)	内) ナナデ	

番号	出土地	層	地質	岩名	地質	石英	粘土	色調	調	量	備考
381	21号柱基盤	壳				13.1	石英・雲母・角閃石・斜長色粒	内)淡茶褐色 外)褐色	口)外ハケ日 (5mm) 内)ナデ		
382	*	板				6.8	石英・雲母・角閃石・斜長色粒	内)淡茶褐色 外)褐色	口)ナデ 外)ナデ		板状に穿孔あり
383	*	鉢				27.9	17.1	5	石英・雲母・角閃石・斜長色粒	内) *	口)ヨコナデ 外)ミガキ・ナデ
384	*	台付鉢				8.9	*		内)淡茶褐色 外) *	口)ナデ 外)ハケ日 (5mm) 内)ナデ	
385	*	*				7.9	*		内)淡茶褐色 外)淡褐色	口)外ハケ日 (6mm) 内)ナデ	
386	*	海杯					石英・雲母・角閃石	内)淡茶褐色 外) *	口)ヨコナデ 外)ナデ		
387	*	*					石英・雲母・角閃石・斜長色粒	内) *	口)ナデ 外) *		
388	*	器台				10.6	*		内)淡茶褐色 外) *	口)外ハケ日 (5mm) 内)ナデ	
389	*	*				8.9	2	石英・雲母・角閃石	内)褐色 外)淡茶褐色	口)外ハケ日 (6mm) 内)ナデ	
390	*	*					*		内)褐色 外) *	口)ヨコナデ 外)ミガキ	
391	*	台付鉢?				8.8	R	*	内)淡茶褐色 外)黃茶色	口)ナデ 外)ナデ	
392	22号柱基盤	壳					石英	内)褐色 外) *	口)ヨコナデ 外)ハケ日 (6mm) 内)ナデ		ヘラ挖痕あり
393	*	*					石英・雲母・角閃石	内)褐色 外)淡茶褐色	口)ヨコナデ 外)ハケ日 (5mm) 内)ナデ		
394	*	*					石英・雲母・角閃石・斜長色粒	内)褐色 外) *	口)ヨコナデ 外)ハケ日 (6~7mm) 内)ナデ		
395	*	*					石英・雲母・角閃石・斜長色粒	内)褐色 外)淡茶褐色	口)ヨコナデ 外)ハケ日 (6mm) 内)ナデ		
396	*	*				7.6	石英・雲母・角閃石	内)淡茶褐色 外)明褐色	口)ナデ 外)ハケ日 (4mm)		
397	*	鉢				6.6	R	*	内)黑色 外)淡茶褐色	口)外ハケ日 (6mm) 内)ナデ	
398	*	器台				11.2	R	石英・雲母・斜長色粒	内) *	口)ナデ 外) *	
399	*	*				9.2	R	*	内)褐色 外)淡茶色	口)ナデ 外) *	
400	23号柱基盤	壳				17.2	R	石英・雲母・角閃石	内)淡茶色 外) *	口)ミガキ・ヨコナデ 外) *	

番号	出土地	層	径	口径	高さ	底径	粘土	色	質	筆	備考
401	23号住居跡	壁					石英・雲母・赤褐色粒	内)淡褐色 外)褐色	口)ミガキ+ヨコナデ 外)	内)	
402	*	*					石英・角閃石・赤褐色粒	内)褐色 外)淡褐色	口)ミガキ+ナデ 外)	内)	
403	*	*					石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内)褐色 外)褐色	口)ヨコナデ 外)	内)	
404	*	*			8.8	*	内)淡褐色	口)ナナデ 外)ナナデ	口)	内)	
405	*	*			8.3	*	内)暗褐色 外)黄色	口)ナナデ 外)ナナデ	口)	内)	
406	*	堀					石英・雲母・角閃石	内)暗褐色 外) *	口)ヨコナデ 外)ハケ日 (8mm/cm)	内)ナナデ 内)ナナデ	三輪六番1条あり
407	*	*	25.6R				石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内)淡褐色 外) *	口)ヨコナデ 外)ナナデ	内)ナナデ	
408	*	*	24.2R			*	内)暗褐色	口)ハケ日 (4-5mm/cm)	口)ヨコナデ 外)ハケ日 (4-5mm/cm)	内)ナナデ	
409	*	*				*	内)暗褐色	口)ヨコナデ 外) *	口)ヨコナデ+ミガキ 外)	内)ナナデ	
410	*	*					石英・角閃石・赤褐色粒	内)暗褐色 外) *	口)ヨコナデ 外)ミガキ	内)ナナデ	
411	*	*			6.3	石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内) *	口) *	外)ハケ日 (6mm/cm)	内)ナナデ	
412	*	*			7.3	石英・角閃石・赤褐色粒	内) *	口) *	外)ハケ日 (5-6mm/cm)	内)ナナデ	
413	*	*			6.4R	石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内)暗褐色 外)淡褐色	口) *	外)ハケ日 (5mm/cm)	内)ナナデ	
414	*	*	26.3R		*	内)淡褐色 外) *	口)ハケ日 (6mm/cm)	口)ヨコナデ 外)ナナデ	内)ナナデ	内)ナナデ	工具状跡あり
415	*	*	25.5		*	内) *	口)由褐色 外)褐色	口)ヨコナデ 外)ナナデ	口)ハケ日 (5mm/cm)	内)ナナデ	
416	*	*	30R	36.4	6.8	*	内)淡褐色 外) *	口)ヨコナデ 外)ナナデ	口)ハケ日 (7mm/cm)	内)ナナデ	
417	*	*			*	内) *	外)褐色	口)ヨコナデ 外)ナナデ	外)ナナデ	内)ナナデ	
418	*	堀	27R	9.1	10.3	*	内)暗褐色 外) *	口)ヨコナデ 外)ナナデ	口)ヨコナデ 外)ナナデ	内)ナナデ	
419	*	堀			*	内) *	内)淡褐色 外) *	口)ヨコナデ 外)ナナデ	口)ヨコナデ 外)ナナデ	内)ナナデ	
420	*	*			*	内)褐色 外) *	内)ハケ日 (8mm/cm)	口)ヨコナデ 外)ナナデ	内)ナナデ	内)ナナデ	

番号	出土施	断面	口径	口径	断面	底	土	色	調	調	調	備考	
421	23号住居跡	西台			石英・黄母・角閃石・赤榴石	赤榴石	P)	淡褐色 外) 淡褐色 内) 淡褐色	(1)ヨコナデ 外ハケ目(6cm) 内ナデ	(1)ヨコナデ 外ナデ	(1)ヨコナデ 外ナデ		
422	24号住居跡	西	*		石英・黄母	角閃石	P)	淡褐色 外) 淡褐色 内) 淡褐色	(1)ヨコナデミガキ 外)	(1)ヨコナデ 外ナデ	(1)ヨコナデ 外ナデ	外側に暗文あり	
423	*	東			石英・云母	赤榴石	P)	淡灰褐色 外) 淡灰褐色 内) 貝壳灰	(1)ヨコナデ 外)	(1)ヨコナデ 外ナデ	(1)ヨコナデ 外ナデ		
424	*	*	27R	*	石英・黄母	角閃石・赤榴石	P)	淡褐色 外) 淡褐色	(1)ヨコナデ 外ハケ目(6cm) 内) 淡褐色	(1)ヨコナデ 外ナデ	(1)ヨコナデ 外ナデ	三角凸帯1条あり	
425	*	*			7.3	石英・角閃石・赤榴石	P)	淡灰褐色 外) 淡褐色	(1)ヨコナデ 外ナデ	(1)ヨコナデ 外ナデ	(1)ヨコナデ 外ナデ		
426	*	*	6.4R		石英・黄母	角閃石	P)	淡褐色 外) 淡褐色	(1)ヨコナデ 外ハケ目(6cm) 内) 淡褐色	(1)ヨコナデ 外ナデ	(1)ヨコナデ 外ナデ		
427	*	*			5.8R	石英・角閃石・赤榴石	P)	淡褐色 外) 淡褐色	(1)ヨコナデ 外ハケ目(6cm) 内) 淡褐色	(1)ヨコナデ 外ナデ	(1)ヨコナデ 外ナデ		
428	*	*	42R	*	6.1	石英・黄母	角閃石	P)	淡褐色 外) 淡褐色	(1)ヨコナデ 外ハケ目(9cm) 内) 淡褐色	(1)ヨコナデ 外ナデ	(1)ヨコナデ 外ナデ	三角凸帯2条あり
429	25号住居跡	西	23R		石英・黄母	角閃石	P)	淡褐色 外) 淡褐色	(1)ヨコナデ 外ナデ	(1)ヨコナデ 外ナデ	(1)ヨコナデ 外ナデ	外側に暗文あり	
430	*	*			6.1	石英・黄母	赤榴石	P)	淡褐色 外) 淡褐色	(1)ヨコナデ 外ナデ	(1)ヨコナデ 外ナデ		
431	*	東	30R		石英・雲母	角閃石	P)	淡褐色 外) 淡褐色	(1)ヨコナデ 外ハケ目(5cm) 内) 淡褐色	(1)ヨコナデ 外ナデ	(1)ヨコナデ 外ナデ		
432	*	*	23R	*	7	石英・雲母	角閃石	P)	淡褐色 外) 淡褐色	(1)ヨコナデ 外ナデ	(1)ヨコナデ 外ナデ		
433	*	*	22.8R		6.5	石英・雲母	角閃石・赤榴石	P)	淡褐色 外) 淡褐色	(1)ヨコナデ 外ハケ目(5cm) 内) 淡褐色	(1)ヨコナデ 外ナデ	(1)ヨコナデ 外ナデ	工具比較あり
434	*	*	43R		6.8	石英・雲母	角閃石	P)	淡褐色 外) 淡褐色	(1)ヨコナデ 外ナデ	(1)ヨコナデ 外ナデ	三角凸帯1条あり	
435	*	*			6.5	*	P)	淡褐色 外) 淡褐色	(1)ヨコナデ 外ハケ目(7cm) 内) 淡褐色	(1)ヨコナデ 外ナデ	(1)ヨコナデ 外ナデ		
436	-	*			6.5	*	P)	淡褐色 外) 淡褐色	(1)ヨコナデ 外ハケ目(5cm) 内) 淡褐色	(1)ヨコナデ 外ナデ	(1)ヨコナデ 外ナデ		
437	*	*			6.8	石英・雲母	角閃石	P)	淡褐色 外) 淡褐色	(1)ヨコナデ 外ナデ	(1)ヨコナデ 外ナデ		
438	*	鉢			石英・雲母	角閃石・赤榴石	P)	淡褐色 外) 淡褐色	(1)ヨコナデ 外ナデ	(1)ヨコナデ 外ナデ	(1)ヨコナデ 外ナデ		
439	*	壺	28.6R	*	*	*	P)	淡褐色 外) 淡褐色	(1)ヨコナデ 外ナデ	(1)ヨコナデ 外ナデ	(1)ヨコナデ 外ナデ		
440	*	*			*	*	P)	淡褐色 外) 淡褐色	(1)ヨコナデ 外ハケ目(6cm) 内) 淡褐色	(1)ヨコナデ 外ナデ	(1)ヨコナデ 外ナデ		

番号	出土地	層級	口径	高さ	底径	胎土	色調	質	筆	備考
441	25号住居跡	砾台		9 R	石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内) 淡灰褐色 外) 黄褐色	(1) 外) ハゲ目 (9系/cm) (2) ハゲ目 (5系/cm)	(1) ナデ		
442	*	*	*	15.3 R	石英・雲母・角閃石	内) 淡灰褐色 外) 黄褐色	(1) ハゲ目 (5系/cm)	(2) ナデ		
443	*	丸脚		9.4 R	石英・赤褐色粒	内) 淡灰褐色 外) *	(1) *	(2) ナデ		
444	26号住居跡	敷		8 R	角閃石・赤褐色粒	内) 淡灰褐色 外) *	(1) *	(2) ナデ		
445	*	堀			石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内) 淡灰褐色 外) 黄褐色	(1) ヨコナダ (2) ハゲ目 (7系/cm, 5系/cm)	(1) ナデ		
446	*	*			石英・角閃石・赤褐色粒	内) 黄褐色 外) 棕色	(1) ヨコナダ (2) ハゲ目 (6系/cm)	(1) ナデ		
447	*	*		*		内) 淡褐色 外) 淡褐色	(1) ヨコナダ (2) ハゲ目 (5系/cm, 2系/cm)	(1) ナデ		
448	*	*		5.8	*	内) 淡褐色 外) 黄褐色	(1) ハゲ目 (5系/cm)	(1) ナデ		
449	*	*		5.6	石英・雲母・角閃石	内) 淡灰褐色 外) *	(1) ハゲ目 (6系/cm)	(2) ナデ		
450	*	*		6.8 R	石英・角閃石・赤褐色粒	内) 棕褐色 外) *	(1) ハゲ目 (4系/cm)	(1) ナデ		
451	*	砾台		9.6	*	内) 淡灰褐色 外) 淡褐色	(1) ハゲ目 (6系/cm)	(2) ナデ		
452	*	*		9.6 R	*	内) 黄褐色 外) *	(1) ハゲ目 (5~6系/cm, 4系/cm)	(1) ナデ		
453	27号住居跡	蓋			石英・雲母・角閃石	内) 淡褐色 外) *	(1) ヨコナダ (2) *	(1) ヨコナダ (2) ナデ	附文あり	
454	*	*			石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内) 黄褐色 外) 淡褐色	(1) ナデ		外面研磨り 詳細: M字形凹凸あり	
455	*	玉		*	*	内) 淡褐色	(1) ヨコナダ (2) ハゲ目 (9~10系/cm)	(1) ナデ		
456	*	*		*	*	(1) *	(1) ヨコナダ (2) ハゲ目 (5系/cm)	(1) ナデ		
457	*	*			石英・雲母・角閃石	内) 淡灰褐色 外) 淡褐色	(1) ヨコナダ (2) ハゲ目 (6系/cm)	(1) ナデ		
458	*	*		6 R	石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内) 淡褐色 外) *	(1) ハゲ目 (6系/cm)	(2) ナデ		
459	*	鉢			*	内) 淡褐色 外) *	(1) ヨコナダ (2) ナデ	(1) ヨコナダ (2) ナデ		
460	*	*			*	内) 黄褐色 外) 淡褐色	(1) ヨコナダ (2) ハゲ目 (6系/cm)	(1) ヨコナダ (2) ナデ		

番号	所在地	層 位	層 厚	口 押	固 高	流速	黏 土	色 調	調 整	備 考
461	27号柱基部	臺			石英・雲母・角閃石・斜長色粒	内)淡褐色 外)。		□)ヨコナデ 外)ハゲ目(4.6/cm)	内)ナデ	
462	*	器台			石英・雲母・角閃石	内)淡褐色 外)。		□)ヨコナデ 外)ヨコナデ	内)ナデ	
463	28号柱基部	臺	24.6R	*	石英・雲母・角閃石・斜長色粒	内)茶色 外)。		□)ミガキ・ヨコナデ 内)	口様上にヘク文様あり 外面に端文あり	
464	*	*	28.5	*	*	内)淡茶色 外)暗茶色		□)ナデ・ヨコナデ 内)	外面に端文あり	
465	*	*	35.6R	石英・雲母	内)淡褐色 外)。		□)ヨコナデ 外)			
466	*	*		石英・雲母・角閃石・斜長色粒	内)淡褐色 外)淡褐色		□)ミガキ・ナデ 外)			
467	*	*		*	内)淡褐色 外)。		□)ナデ・ヨコナデ 外)			
468	*	*		石英・雲母	内)褐色 外)淡褐色		□)ヨコナデ 外)		口様上にヘク文様あり	
469	*	*	22R	石英・雲母・角閃石・斜長色粒	内)淡褐色 外)。		□)ヨコナデ 外)			
470	*	*		*	*	内)灰褐色 外)深茶褐色	□)ミガキ 外)		時松山古跡	
471	*	*		8R	*	内)暗茶色 外)淡茶褐色	□)	内)ナデ		
472	*	臺			石英・雲母・角閃石	内)淡褐色 外)。		□)ヨコナデ 外)		
473	*	*		*	*	内)暗茶褐色 外)。	□)ヨコナデ 外)	□)ヨコナデ(5.6/cm) 内)ナデ		
474	*	*		7.7R	石英・雲母・斜長色粒	内)暗褐色 外)。		□)ハゲ目(10.6/cm) 内)ナデ		
475	*	*	33.4R		*	内)淡褐色 外)。		□)ナデ		
476	*	*	35.6R	*	石英・雲母・角閃石・斜長色粒	内)暗褐色 外)。		□)ヨコナデ 外)		
477	*	*	36.8R		*	内)淡系褐色 外)。		□)ヨコナデ 外)ハゲ目(6.6/cm)	内)ナデ	
478	*	*	36.4	36.5	6.9	*	内)褐系色 外)暗褐色	□)ヨコナデ 外)ハゲ目(5~6.6/cm)	内)ナデ	
479	*	器台	10.4R	15.3	9.8	*	内)淡褐色 外)。	□)ヨコナデ 外)ハゲ目(5.6/cm)	内)ナデ	
480	*	*	9.7	15.1	10.3R	*	内) + 外)淡褐色	□)ヨコナデ 外)ハゲ目(5.6/cm)	内)ナデ	

番号	出土場所	直径	口径	断面	底径	底高	形状	胎土	色調	調査	備考
481	28号住居跡	盤台	9.6	14.9	9.9	石突・素母・角内石	内輪系色 外	口ヨコナデ 外ハケ目 (6束/cm)	内ナデ		
482	*	支脚	5.6R	6.7	7.1R	*	内輪系色 外	口ナデ	内ナデ		
483	29号住居跡	盤	24.2R			石突・角内石・素母の立	内輪系色 外	口ヨコナデ 外	内		
484	*	*				石突・素母・角内石・赤褐色	内輪系色 外	口) 黄褐色 外) 黄褐色	内ナデ		
485	*	瓦				石突・素母・赤褐色	内輪系色 外	口ヨコナデ 外ハケ目 (6束/cm)	内ナデ		
486	*	*				石突・角内石・赤褐色	内輪系色 外	口) 黄褐色 外	内ナデ		
487	*	*				石突	内輪系色 外	口ヨコナデ 外	内ナデ		
488	*	*				石突・角内石・赤褐色	内輪系色 外	口ヨコナデ 外	内ナデ		
489	*	*				石突・素母・赤褐色	内輪系色 外	口ヨコナデ 外ハケ目 (5~6束/cm)	内ナデ		
490	*	*	25.2R			石突・素母・角内石	内輪系色 外	口ヨコナデ 外ハケ目 (6束/cm)	内ナデ		
491	*	*	27R			石突・角内石・赤褐色	内輪系色 外	口ヨコナデ 外ナデ	内ナデ		
492	*	井	10R	6.5	4.2R	*	内輪系色 外	口ヨコナデ 外	内ナデ		
493	30号住居跡	瓦				石突・角内石	内輪系色 外	口ヨコナデ 外	内		
494	*	*			*		内輪系色 外輪系色	口ヨコナデ 外ナデ	内ナデ		
495	*	*			*		内輪系色 外	口ヨコナデ 外	内		
496	*	*			7.4R	*	内輪系色 外輪系色	口) ナデ 外ナデ	内		
497	*	*			6.8R	石突・角内石・赤褐色	内輪系色 外輪系色	外ハケ目 (5束/cm)	内ナデ		
498	31号住居跡	瓦			*		内輪系色 外	口ヨコナデ・2ガタ	内		
499	*	*			5.2	石突・赤褐色	内輪系色 外	口) ナデ 外) 黄褐色	内ナデ		
500	*	*			3.8R	石突・角内石	内輪系色 外	口) ナデ 外) 黄褐色	内ナデ		

番号	出土地	器種	口径	縦幅	底径	胎土	色調	触感	備考
501	31号住居跡	壺				石英・素母・角内石 内)淡灰色 外)暗灰黑色	内)淡灰色 外)暗灰黑色	口)外ナナデ 内)ナナデ	河原上断面に 2cmのM字形凸起あり
502	*	*				石英・素母・角内石・角外石 内)淡灰色	内)淡灰色 外) *	口)外ナナデ・ナナデ 内)ナナデ	内)淡灰色 外) (*に暗部発達あり)
503	*	壺				石英・素母	内)暗灰色 外) *	口)ヨコナナデ・ミナナデ 内)ナナデ	工具跡あり
504	*	*				石英・素母・角内石	内)淡灰色 外)淡褐色	口)ヨコナナデ 内)ナナデ	三段分筋1条あり
505	*	*				石英・空柱	内)淡灰色 外) *	口)ヨコナナデ 内)ナナデ	*
506	*	*				石英・角内石・砂網内粒	内) *	口)ナナデ	
507	*	*				石英・当粒・角内石 内) *	内) 棕色 外) *	口)ヨコナナデ 内)ナナデ	
508	*	*			7.1	石英・角内石・砂網内粒	内)淡褐色 外) *	口)ナナデ 内)ナナデ	
509	*	*			7.1	石英・素母・角内石	内)海綿状褐色 外)海綿状褐色	口)ナナデ 外)ハナク日 (5条/cm)	
510	*	*			6.8	石英・角内石	内)淡褐色 外)褐色	口)ナナデ 内)ナナデ	
511	*	*			7 R	石英	内)暗褐色 外) *	口)ナナデ 内)ナナデ	
512	*	*			8.5	石英・素母	内)暗褐色 外)淡褐色	口)ナナデ 外)ハナク日 (5条/cm, 9条/cm)	
513	32号住居跡	壺				石英	内)暗褐色 外) *	口)ヨコナナデ・ミナナデ 内)ナナデ	
514	*	*				石英・角内石	内)暗褐色 外) *	口)ヨコナナデ 内)ナナデ	
515	*	*				石英・素母・角内石	内)暗褐色 外)暗褐色	口)ヨコナナデ 内)ナナデ	
516	*	*			27.2 R	石英・角内石	内)淡褐色 外) *	口)ヨコナナデ 外)ハナク日 (5条/cm)	
517	*	*				石英・角内石	内) *	口)ヨコナナデ 内)ナナデ	
518	*	*				石英・素母・角内石	内)淡褐色 外) *	口)ヨコナナデ 内)ナナデ	
519	*	鉢			10 R	石英・素母・角内石	内) 棕色 外)淡褐色	口)ナナデ 内)ヨコナナデ	
520	*	壺			29 R	石英・角内石・砂網内粒	内)褐色 外) *	口)ヨコナナデ 内)ナナデ	

番号	出土地	器種	口径	断面	底	土	色調	測量		備考
								内)ヨコナナ 外)ハケ目 (10mm/cm)	内)カナデ	
S21	22号住居跡	甕	31R	石英・雲母・角閃石・赤鐵色粒 外)青緑色	内)青緑色 外)青緑色	内)ヨコナナ 外)カナデ				
S22	*	*		石英・雲母	内) *	内)ヨコナナ 外) *				
S23	*	*		6.5R 石英・角閃石	内) 淡褐色 外) 淡褐色	内) ハケ目 (6mm/cm) · ナナ 外) ハケ目 (6mm/cm) · ナナ				
S24	*	*		7 R 石英	内) 淡褐色 外) 淡褐色	内) ハケ目 (6mm/cm) · ナナ 外) ハケ目 (6mm/cm) · ナナ				
S25	*	*		6.4R *	内) 淡褐色 外) 淡褐色	内) ハケ目 (9mm/cm) · ナナ 外) ハケ目 (9mm/cm) · ナナ				
S26	*	*		6.4R *	内) 淡褐色 外) 淡褐色	内) ハケ目 (6mm/cm) · ナナ 外) ハケ目 (6mm/cm) · ナナ				
S27	*	甕	15.4R	14.8 S R 石英・雲母・角閃石	内) 淡褐色 外) 青緑色	内) ヨコナナ 外) ミガキ · ナナ	内) ヨコナナ 外) ミガキ · ナナ	内) ヨコナナ 外) ミガキ · ナナ	内) ヨコナナ 外) ミガキ · ナナ	内) ヨコナナ 外) ミガキ · ナナ
S28	*	*		8.6R 石英	内) 黑灰色 外) *	内) ヨコナナ 外) ハケ目	内) ヨコナナ 外) ハケ目	内) ヨコナナ 外) ハケ目	内) ヨコナナ 外) ハケ目	内) ヨコナナ 外) ハケ目
S29	*	甕	21.3	石英・雲母・角閃石	内) 青緑色 外) 淡褐色	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ
S30	*	盆		14.6R 石英・雲母・角閃石	内) 淡褐色 外) 青緑色	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ
S31	*	*		石英・角閃石	内) *	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ
S32	*	甕		石英・雲母・角閃石	内) 淡褐色 外) 淡褐色	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ
S33	*	粉台		12.6R 石英・角閃石	内) 淡褐色 外) *	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ
S34	*	*		9.4R *	内) 雪色 外) 淡褐色	内) ハケ目 (3~4mm/cm) 外) ヨコナナ	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ
S35	33号住居跡	甕		石英	内) 淡褐色 外) *	内) ヨコナナ 外) *	内) ヨコナナ 外) *	内) ヨコナナ 外) *	内) ヨコナナ 外) *	内) ヨコナナ 外) *
S36	34号住居跡	*	30.4R	石英・雲母・角閃石	内) 淡褐色 外) *	内) ヨコナナ 外) *	内) ヨコナナ 外) *	内) ヨコナナ 外) *	内) ヨコナナ 外) *	内) ヨコナナ 外) *
S37	*	*		石英・斜長色粒	内) 青緑色 外) *	内) ヨコナナ 外) *	内) ヨコナナ 外) *	内) ヨコナナ 外) *	内) ヨコナナ 外) *	内) ヨコナナ 外) *
S38	*	*		45R 石英・雲母・角閃石・赤鐵色粒	内) 青緑色 外) 黄褐色	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ	内) ヨコナナ 外) ヨコナナ
S39	*	*		*	*	内) ヨコナナ 外) *	内) ヨコナナ 外) *	内) ヨコナナ 外) *	内) ヨコナナ 外) *	内) ヨコナナ 外) *
S40	*	*		石英・角閃石・赤鐵色粒	内) 淡褐色 外) *	内) ヨコナナ 外) *	内) ヨコナナ 外) *	内) ヨコナナ 外) *	内) ヨコナナ 外) *	内) ヨコナナ 外) *

番号	出土場	層 積	口径	断面	底	土	色 質	調 整	備 考
541	36号住居跡	地	23.2R		石英・安鉄・角閃石・斜長石粒	内淡褐色、外暗茶褐色	口ヨコナデ 外ハサツ日 (7cm/cm)	内ナデ	
542	*	*	23R	*		内黄褐色	口ヨコナデ 外ハサツ日 (7cm/cm)	内ナデ	
543	*	*		*		内黄褐色	口ヨコナデ 外ハサツ日 (7cm/cm)	内ナデ	
544	*	*		*		内暗褐色	口ヨコナデ 外ハサツ日 (7cm/cm)	内ナデ	
545	*	*	27.8R	石英・雲母・角閃石	内淡褐色 外*	口ヨコナデ 外ハサツ日 (7cm/cm)	内ナデ	三列凸帯1条あり	
546	*	*	26.3R	*		内暗褐色	口ヨコナデ 外ナデ*	内ナデ	
547	*	*		6.8R	*	内暗褐色 外淡褐色	口ハサツ日 (7cm/cm)	内ナデ	
548	*	*	6.5R	石英・雲母・角閃石・斜長石粒	内淡褐色 外淡茶色	口ハサツ日 (6cm/cm)	内ナデ		
549	*	伴		石英・雲母・角閃石	内黄褐色	口ヨコナデ 外ナデ*	内ナデ		
550	*	*		石英・雲母・角閃石・斜長石粒	内淡褐色 外暗茶褐色	口ナデ 内ナダ	内ナダ		
551	*	板	10.4	5	石英・雲母・角閃石	内淡褐色 外*	内ミカキ 外ナデ	内ナデ	断面に2箇一列の凹凸あり
552	*	型	6.2	7.6	3.1	石英・雲母・角閃石・斜長石粒	内暗褐色 外*	内ナデ*	内ナデ
553	*	型				内暗茶褐色	口ナダハサツ日 (6cm/cm)	内	小塊土器
554	*	型			石英・雲母・角閃石	内淡褐色 外*	口ヨコナデ 内ナデ	内ナデ	
555	*	*		*		内暗茶褐色	口ヨコナデ 外ハサツ日 (6~7cm/cm)	内ナデ	
556	*	高环		*		内淡褐色 外暗茶褐色	口ヨコナデ 外ナデ	内ナデ	
557	*	型		*		内暗茶褐色	口ヨコナデ 外ハサツ日 (8cm/cm)	内ナデ	
558	*	器台	7.6R	*		内暗褐色	口ヨコナデ 外ナデ	内ナデ	
559	*	*		*	9R	内黄褐色	口ハサツ日 (7cm/cm)	内ナデ	
560	*	*	7.8	13.2	7.6	内暗茶褐色	口ヨコナデ 外淡褐色	内ナデ	

番号	出土地	器種	口径	縦高	底径	胎土	色調	圖	筆	備考
561	35分竹原塚	壺				石英・外陶石	内)茶葉色 外) *	口)ミガキ・ヨコナデ 外)	P4	
562	*	*				石英・紫母・赤褐色粒	内)茶葉色 外)淡褐色・茶葉色	口)ミガキ・ナデ 外)	P4	
563	*	*				石英・紫母	内)褐色 外) *	口)ヨコナデ 外)	P4	外側に横文あり
564	*	*				石英・云母・角閃石・赤褐色粒	内)淡褐色 外) *	口)ミガキ 外)ナデ	P4	
565	*	*				石英・角閃石・赤褐色粒	内)淡褐色 外)淡褐色	口)ハゲ目(5mm)・ミガキ 外)ナデ	P4	ミガキ・ナデ
566	*	*				6.5 石英・金母・角閃石・赤褐色粒	内)茶葉色 外) *	口)ナデ	P4	
567	*	*				7.4 石英・紫母・角閃石	内)淡褐色 外) *	口)ハゲ目(4mm) 外)ナデ	P4	
568	*	壺				石英・紫母・赤褐色粒	内)紫色 外) *	口)ヨコナデ 外)ハゲ目(3mm)	P4	ナデ
569	*	*				石英・紫母・角閃石・赤褐色粒	内)淡褐色 外) *	口)ミガキ 外)ヨコナデ 外)ハゲ目(8mm)	P4	ミガキ ナデ
570	*	*	27.6R		*		内)淡褐色 外) *	口)ヨコナデ 外)ハゲ目(8mm)	P4	ナデ
571	*	*	30.2R			石英・角閃石	外)茶葉色	口)ヨコナデ 外)ハゲ目(5mm)	P4	
572	*	*				石英・云母	外)茶葉色	口)ヨコナデ 外)ナデ	P4	
573	*	*				石英・紫母・角閃石	内)淡褐色 外) *	口)ヨコナデ 外)ハゲ目(8mm)	P4	ナデ
574	*	*	30R		*	石英・紫母・角閃石・赤褐色粒	内) * 外)茶葉色	口)ヨコナデ 外)ハゲ目(5mm)	P4	ナデ
575	*	*				石英・紫母・角閃石	内)淡褐色 外) *	口)ヨコナデ 外)ハゲ目(6mm)	P4	ナデ ヘラ比輪あり
576	*	*				石英・紫母・角閃石・赤褐色粒	内) * 外) *	口)ヨコナデ 外)ハゲ目(5mm)	P4	ナデ
577	*	*				石英・角閃石	内)淡褐色 外) *	口)ヨコナデ 外)	P4	三脚凸筋1条あり
578	*	*				7.3 石英・紫母・角閃石・赤褐色粒	内)褐色 外)茶葉色	口)ナデ 外)ハゲ目(5mm)	P4	ナデ
579	*	*				7.4 石英・角閃石・赤褐色粒	内)黑色 外)淡褐色	口)ナデ 外)ハゲ目(5mm)	P4	
580	*	*			6	石英・紫母・角閃石	内)淡褐色 外) *	口)ナデ 外)ハゲ目(7mm)	P4	

番号	出土場	層	標	岩質	連続	胎	土	色	調	筆	備考
581	35号房跡	表		6.8 石英・雲母・角閃石	内)赤褐色 外)灰褐色	口)ハケ目 (5系(m))	内)ナデ				
582	*	33	17.7R	12.1	6.5 石英・雲母・角閃石・赤鐵鉄	内)暗褐色 外)淡赤褐色	口)ヨコナデ 外)ミガキ				
583	*	*			石英・云母	内)茶褐色 外)*	口)ヨコナデ 外)ハケ目 (9系(m))	内)ナデ			
584	*	*			石英・雲母・角閃石・赤鐵鉄	内)淡褐色 外)*	口)ヨコナデ・ナデ 外)				
585	*	苔坪	15.6R		石英・角閃石	内)淡褐色 外)深褐色	口)ヨコナデ 外)	内)ナデ			
586	*	表			石英・雲母・赤褐色	内)赤褐色 外)*	口)ヨコナデ 外)	内)ナデ			外壁に斜文あり
587	*	苔台		9.3R	石英・雲母・角閃石	内)淡褐色 外)暗褐色	口)ハケ目 (8系(m))	内)ナデ			
588	*	*		9.6R 石英・雲母・角閃石	内)茶褐色 外)淡褐色	口)ハケ目 (6系(m))	内)ナデ				
589	*	*		9.4R	*	内)淡赤褐色 外)暗褐色	口)ハケ目 (5系(m))	内)ナデ			
590	*	*		8.6R 石英・雲母・角閃石・赤鐵鉄	内)淡褐色 外)淡褐色	口)ハケ目 (5系(m))	内)ナデ				
591	36号房跡	表	10.2R		石英・雲母	内)淡褐色 外)暗褐色	口)ミガキ 外)ミガキ	内)ナデ	内)ナデ		
592	*	*			石英・雲母・角閃石	内)淡褐色 外)*	口)ヨコナデ 外)*	内)ナデ			
593	*	*			*	内)淡褐色 外)淡褐色	口)ミガキ 外)ミガキ	内)ナデ	内)ナデ		
594	*	*			*	内)暗褐色 外)*	口)ナデ 外)ナデ	内)ナデ	内)ナデ		対應に三角凸谷(1系あり)
595	*	*			石英・雲母・角閃石・赤鐵鉄	内)暗褐色 外)淡褐色	口)ミガキ→ナデ	内)ナデ			同様にM字形凸谷(1系あり)
596	*	*		6.8	石英・角閃石	内)褐褐色 外)褐褐色	口)ナデ 外)ナデ	内)ナデ	内)ナデ		
597	*	*		7	石英・雲母・角閃石	内)*	口)ミガキ 外)ミガキ	内)ナデ	内)ナデ		
598	*	表	21.6R		石英・角閃石・赤鐵鉄	内)淡褐色 外)*	口)ヨコナデ 外)	内)ナデ	内)ナデ		二角凸谷(1系あり)
599	*	*	31R		*	内)褐色 外)淡褐色	口)ヨコナデ 外)ナデ	内)ナデ	内)ナデ		
600	*	*	29.8R		*	内)褐色 外)*	口)ヨコナデ 外)ナデ	内)ナデ	内)ナデ		

番号	出土地	層 標	11世	若高	浜延	古 土	色 調	測	筆	備 考
601	36号竹原櫛	臺	30.2R	石英・雲母		内) 淡褐色 外) 黄灰色	(1) ヨコナデ 外) ハケ日 (6系/cm)	(内) ナデ		口縁と凸筋に工具キサミあり
602	*	*	38.8R	石英・雲母・角閃石		内) 淡褐色 外) 淡褐色	(1) ヨコナデ 外) ナデ	(内) ナデ		
603	*	*	31R	*		内) 淡褐色 外) *	(1) ヨコナデ 外) ハケ日 (5系/cm)	(内) ナデ		
604	*	*		石英・赤褐色	内) *		(1) ヨコナデ 外) *	(内) ナデ	三角六面1系あり	
605	*	*		石英・角閃石・赤褐色	内) 淡褐色 外) 淡褐色	(1) ヨコナデ 外) ハケ日 (7系/cm)	(内) ナデ			
606	*	*		7.5R 石英・角閃石	内) 淡褐色 外) *	(1) ヨコナデ 外) ハケ日 (5系/cm)	(内) ナデ			
607	*	*		7.6R 石英・云母・角閃石	内) 淡褐色 外) 淡褐色	(1) ヨコナデ 外) *	(内) ナデ			
608	*	林		7.3 石英・云母・角閃石	内) 淡褐色 外) 淡褐色	(1) ヨコナデ 外) *	(内) ナデ			
609	*	飯	19.1	20.7	7.5	*	(1) ヨコナデ 外) ハケ日 (4系/cm)	(内) ナデ		底部穿孔あり
610	*	高坪	25.3R	石英・雲母・角閃石		内) 淡褐色 外) 淡褐色	(1) ヨコナデ 外) *	(内) ナデ		
611	*	*	32.8R	石英・角閃石	内) *		(1) ヨコナデ 外) *	(内) ナデ		
612	*	面	28.1	石英・雲母・角閃石	内) *		(1) ヨコナデ・ハケ日 (7系/cm)	(内) ナデ		
613	*	*		石英・角閃石	内) 淡褐色	(1) ヨコナデ 外) *	(内) ナデ			
614	*	*			*	内) 淡褐色 外) *	(1) ヨコナデ 外) ハケ日 (4系/cm)	(内) ハケ目・ナデ		
615	*	檜台	10.8	16.4	12.6 石英・雲母・角閃石	内) 淡褐色 外) 淡褐色	(1) ヨコナデ 外) ハケ日 (4~5系/cm)	(内) ナデ		
616	*	*			11.8R	*	内) 淡褐色 外) 淡褐色	(1) ヨコナデ 外) ハケ日 (7系/cm)	(内) ナデ	
617	*	*			10R 石英・角閃石	内) 淡褐色 外) *	(1) ヨコナデ 外) ナデ	(内) ナデ		
618	37号北西跡	臺			3.6R	*	内) 淡褐色 外) 淡褐色	(1) ナデ	(内) ナデ	
619	*	堀			29.6R		内) 淡褐色 外) *	(1) ヨコナデ 外) ハケ日 (5系/cm)	(内) ナデ	
620	*	*			28R		内) 淡褐色 外) 淡褐色	(1) ヨコナデ 外) ハケ日 (7系/cm)	(内) ナデ	

番号	出土場	管種	口径	壁高	底径	胎土	色調	測定	備考
631	37号生野塚	素		7.9R	石英・雲母	内深褐色 外暗褐色	口) 外ハケ目 (5 条/cm) 内) ヨコナデ		
632	+	素			*	内) 黄褐色 外) 黄褐色	口) ヨコナデ (5 条/cm) 内) ナデ		
633	+	器台	12R		素目・角閃石・赤鐵色斑	内) 深褐色 外) 胎模灰色	口) ヨコナデ (6 条/cm) 内) ナデ		
634	38号竹原塚	素			石英・雲母・角閃石・赤鐵色斑	内) 阿那美色 外) *	口) ヨコナデ (7 条/cm) 内) ナデ	ヘラ比線あり	
635	+	+			*	内) 本色 外) 茶褐色	口) ヨコナデ (6 条/cm) 内) ハケ目 (6 条/cm)		
636	+	+			石英・雲母・赤鐵色斑	内) 深褐色灰 外) *	口) ヨコナデ (6 条/cm) 内) ナデ		
637	+	+			石英・雲母・角閃石	内) *	口) ヨコナデ (6 条/cm) 外) *		
638	+	+			7.4R 石英・角閃石	内) *	口) ハケ目 (9 条/cm) 内) ナデ		
639	+	+			7.2R 石英・雲母	内) *	口) ハケ目 (7 条/cm) 内) ナデ		
640	39号生野塚	+	26.8R		石英・雲母・角閃石	内) *	口) ヨコナデ (5 条/cm) 外) ハケ目 (5 条/cm)		
641	+	+	26.9R		石英・角閃石・赤鐵色斑	内) 深褐色 外) *	口) ヨコナデ (8 条/cm) 内) ナデ		
642	+	+			石英・雲母・赤鐵色斑	内) *	口) ヨコナデ (5 条/cm) 外) ハケ目 (5 条/cm)		
643	+	+			*	内) 深褐色 外) *	口) ヨコナデ (6 条/cm) 内) ナデ		
644	+	+	30.7R		石英・雲母・角閃石	内) 深褐色 外) *	口) ヨコナデ (6 条/cm) 内) ナデ		
645	+	+	32.4R		石英・雲母・角閃石・赤鐵色斑	内) *	口) ヨコナデ (7 条/cm) 外) ハケ目 (7 条/cm)		
646	+	+			石英・雲母・角閃石	内) *	口) ヨコナデ (7 条/cm) 外) ハケ目 (7 条/cm)		
647	+	+			6.95	内) 深褐色 外) 深褐色灰	口) ヨコナデ (5 条/cm) 内) ナデ		
648	+	+			7.2R	内) *	口) ヨコナデ (5 条/cm) 内) ナデ		
649	+	体			10.8R 石英・雲母	内) 深褐色 外) *	口) ハケ目 (8 条/cm) 内) ナデ		
650	+	器台	8.6R		石英・角閃石	内) 深褐色 外) *	口) ヨコナデ (9 条/cm) 内) ナデ		

番号	出土地	層級	口径	石高	底径	胎土	色調	調	参考
641	39号住居跡	器台				石英・素母・角閃石	(内)淡青褐色 外)淡褐色	口)ハケ日 (8条/cm) 外)ナデ	
642	*	*			10.3	石英・素母・角閃石・赤鐵色粒	内)淡褐色 外)淡褐色	口)ハケ日 (8条/cm) 外)ナデ	
643	40号住居跡	臺					内)油褐色	口)	内)ナデ
644	*	*			9.1	石英・赤褐色粒	内)油茶褐色 外)淡褐色	口)	内)ナデ
645	*	*				雲母・角閃石・赤褐色粒	内)暗茶褐色 外)褐色	口)	内)ナデ
646	*	*	31.8	34.6	6.85	石英・素母・角閃石・赤褐色粒	内)墨褐色 外)褐色	口)ヨコナデ 外)ハケ日 (6条/cm)	内)ナデ
647	*	鉢	9.2R			石英・素母・赤褐色粒	内)暗茶褐色 外)褐色	口)ヨコナデ 外)ナデ	小石土器 附近に三角六市1条あり
648	*	*	10.45	5.9	5.1	石英・素母・角閃石・赤褐色粒	内)暗褐色 外)褐色	口)ヨコナデ 外)ナデ	*
649	*	器台			9.4R	石英・素母・赤褐色粒	内) *	口)	内)ナデ
650	*	臺	40.2R			石英・素母・角閃石	内)褐色	口)ヨコナデ 外)ハケ日 (7条/cm)	三外凸面1条あり
651	*	*				石英・角閃石・赤褐色粒	内)暗褐色 外)褐色	口)ヨコナデ 外)ハケ日 (6条/cm)	内)ナデ
652	*	鉢			11	石英・赤母・角閃石	内)褐色 外)淡褐色	口)	内)ナデ
653	*	*	31R	22.1	8.5	石英・角閃石・赤褐色粒	内)淡褐色 外) *	口)ヨコナデ 外)ハケ日 (6条/cm)	三角凸面1条あり
654	*	*	27.6R	11.1		石英・素母・角閃石・赤褐色粒	内) *	口)ヨコナデ 外)ハケ日 (6条/cm)	内)ナデ
655	41号住居跡	臺				石英・素母・赤褐色粒	内)褐色 外) *	口)ヨコナデ 外)	
656	*	器台			8.6R	石英・角閃石・赤褐色粒	内)淡褐色 外)褐色	口)ハケ日 (6条/cm)	内)ナデ
657	42号住居跡	臺				石英・角閃石	内)淡褐色	口)ヨコナデ 外) *	内)
658	*	*			10.7	石英・素母	内)淡褐色 外)褐色	口)	内)ナデ
659	*	臺				石英・素母・角閃石	内)淡褐色 外)褐色	口)ヨコナデ 外)	内)
660	*	*				石英・角閃石・赤褐色粒	内)褐色 外) *	口)ヨコナデ 外)	内)ナデ

番号	出土地	器種	口径	深浅	底形	胎土	色調	質	備考
661	42号柱間跡	甕	30R		石突・素身・側凹口・赤褐色	内)褐褐色 外)褐黑色	(1)ヨコナデ 外)	内)	
662	*	*	33R		石突・角内石	内)淡褐色 外)*	(1)ヨコナデ 内)		
663	*	高平		17.2	石突・角内石・赤褐色	内)淡褐色 外)*	(1)ヨコナデ 外)ミガキ	内)ナデ	
664	*	*			石突・素身・角内石	内)褐褐色 外)*	(1)ヨコナデ 外)	内)ナデ	
665	43号柱間跡	甕			石突・赤褐色	内)褐褐色 外)暗赤褐色	(1)ヨコナデ 外)	内)	
666	*	*			石突・素身・赤褐色	内)暗茶色 外)*	(1)ヨコナデ・ミガキ 内)	外側に精文あり	
667	*	*			石突・角内石	内)淡褐色 外)*	(1)ヨコナデ 外)	内)	
668	*	*			素身・角内石・赤褐色	内)淡褐色 外)*	(1)ヨコナデ 外)	内)	
669	*	*	7.4R	石突・角内石	石突	内)淡褐色 外)赤褐色	(1)ヨコナデ 外)	内)ナデ	外側研磨り
670	*	*				内)*	(1)ミガキ・ヨコナデ 外)ミガキ	内)ナデ	口縁に穿孔あり 口縁内面・外縁外壁り
671	*	甕			石突・赤褐色	内)淡褐色 外)淡褐色	(1)ヨコナデ 外)ナデ	内)	
672	*	*	24.8R		石突・素身・角内石	内)褐色 外)淡褐色	(1)ヨコナデ 外)ハナゲ目(5先/cm)	内)ナデ	
673	*	*	29.4R	*	*	内)褐褐色 外)淡褐色	(1)ヨコナデ 外)ハナゲ目(6先/cm)	内)ナデ	口縁内面にヘタキヤニあり
674	*	*		*	*	内)褐色 外)*	(1)ヨコナデ 外)ハナゲ目(6先/cm)	内)ハナゲ目(4先/cm)	
675	*	*		*	*	内)褐色 外)*	(1)ヨコナデ 外)ハナゲ目(8先/cm)	内)ハナゲ目(6先/cm)	
676	*	*			石突・角内石・赤褐色	内)淡褐色 外)*	(1)ヨコナデ 外)	内)ナデ	
677	*	*			石突・素身・角内石	内)淡褐色 外)淡褐色	(1)ヨコナデ 外)ハナゲ目(4先/cm)	内)ハナゲ目(4先/cm)	
678	*	*	29.2R		石突・素身	内)淡褐色 外)*	(1)ヨコナデ 外)ハナゲ目(5先/cm)	内)ナデ	
679	*	*			石突	内)褐色 外)*	(1)ヨコナデ 外)ハナゲ目(5~6先/cm)	内)ナデ	
680	*	*		8.2	石突・素身・赤褐色	内)赤褐色 外)*	(1)ハナゲ目(6先/cm)	内)ナデ	

番号	出土地	器種	口径	標高	底径	胎土	色調	測量	備考	
681	43号生野塚	先		7.7R	石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内)淡褐色 外)灰白色	口)外ハケ目 (7条/cm) 内)ナゲ			
682	*	片	15.7R	21.1	10.3	*	内)*	口)ヨコナゲ 外)外ハケ目 (6条/cm) 内)ナゲ		
683	*	*		10R	*	内)*	口) + 外) +	口)ヨコナゲ 外)外ハケ目 (6~7条/cm) 内)ナゲ		
684	*	先		7R	石英・雲母・赤褐色粒	内)*	口) + 外)外哈氏色	口)ヨコナゲ 外)外ハケ目 (5条/cm) 内)ナゲ		
685	*	片		12R	石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内)褐色	口) + 外)外ハケ目 (8~9条/cm) 内)ナゲ	口)ヨコナゲ 外)外ハケ目 (9条/cm) 内)ナゲ		
686	*	*		12R	石英・雲母・赤褐色粒	内)黑色	口) + 外)褐色	口)ヨコナゲ 外)外ハケ目 (5条/cm) 内)ナゲ		
687	*	面			*	内)褐色	口) + 外)褐色	口)ヨコナゲ 外)外ハケ目 (9条/cm) 内)ナゲ		
688	*	*			石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内)褐色 外)褐色	口) + 外)外ハケ目 (8条/cm) 内)ナゲ	口)ヨコナゲ 外)外ハケ目 (8条/cm) 内)ナゲ		
689	*	高环				内)灰色	口) + 外)淡褐色	口)ナゲ 外)ナゲ		
690	*	支脚		9.2R	石英	内)褐色	口) + 外)褐色	口)ヨビタエ 外)ナゲ		
691	*	*			石英・角閃石・赤褐色粒	内)淡褐色 外) +	口) + 外)ナゲ	口)ヨビタエ 外)ナゲ		
692	44号生野塚	面			*	内) +	口) + 外) +	口)ヨコナゲナナ 外)ナゲ		
693	*	*			石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内)淡褐色 外) +	口) + 外)ナゲ	口)ヨコナゲナナ 外)ナゲ	外側に輪文あり	
694	*	*	28R		石英・雲母・角閃石	内)褐色	口) + 外) +	口)ヨコナゲナナ 外)ナゲ		
695	*	*		3.1R	石英・角閃石・赤褐色粒	内)褐色 外) +	口) + 外) +	口)ヨコナゲナナ 外)ナゲ		
696	*	*		6.2R	石英・雲母・赤褐色粒	内)褐色 外)哈氏色	口) + 外) +	口)ヨコナゲナナ 外)外ハケ目 (8条/cm) 内)ナゲ		
697	*	先			石英・雲母	内)褐色 外) +	口) + 外) +	口)ナゲ 外)外ハケ目 (10条/cm) 内)ナゲ	ヘラハス模様あり	
698	*	*			石英・角閃石	内)褐色 外) +	口) + 外) +	口)ヨコナゲ 外)外ハケ目 (6条/cm) 内)ナゲ		
699	*	*			石英・雲母・赤褐色粒	内)褐色 外) +	口) + 外) +	口)ヨコナゲ 外)外ハケ目 (7条/cm) 内)ナゲ	外壁墨入り	
700	*	*			*	内)褐色 外) +	口) + 外) +	口)ヨコナゲ 外)外ハケ目 (4~5条/cm) 内)ナゲ		

番号	出土地	層種	口径	断面	底径	土	色調	固	液	粘	含水率
701	44号柱洞跡	鉢	7.9	6.05	4.3	石英・角閃石・赤褐色粒 石英・雲母・角閃石	内輪状灰色 外赤褐色	口ヨコナデ 外ナデ	内ナデ	内ナデ	小型土器 器底に三角凸帯 1 本あり
702	+	甕			4.8	石英・雲母・角閃石	内赤褐色 外赤褐色	口) * 外)	口)	内ナデ	内ナデ
703	+	鉢			11.5R	石英・雲母・角閃石・赤褐色粒 外) 深茶褐色	内輪状褐色 外) 深茶褐色	口) * 外) * 内ナデ	外ナデ	内ナデ	
704	+	甕	28.4	12.4	*		内輪状褐色 外) 深茶褐色	口) * 外) *	口) * 外) *	内ナデ	内ナデ
705	+	甕	27 R			石英・角閃石	内輪状灰色 外)	口) * 外)	口) * 外)	内ナデ	内ナデ
706	+	*	29.7R			石英・雲母	内輪状褐色 外)	口) * 外)	口) * 外) *	内ナデ	内ナデ
707	+	*			6.3	石英・角閃石	内輪状灰色 外) 深茶褐色	口) *	口)	内ナデ	内ナデ
708	+	*			7.8	*	内輪状灰色	口)	外ハケ目 (8 壴/cm)	内)	
709	+	*			7.2R	石英・雲母	内)	口) *	口) *	内ナデ	内ナデ
710	+	*	26.8R			石英・角閃石・赤褐色粒	内) *	口) * 外) *	口) * 外) *	内ナデ	内ナデ
711	+	*	35.8R			石英・角閃石	内輪状褐色 外)	口) * 外)	口) * 外)	内ナデ	内ナデ
712	+	陶46	23.8R			石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内輪状灰色 外) 深茶褐色	口) * 外)	口) * 外)	内ナデ	内ナデ
713	+	*	15.9R			石英	内赤褐色 外)	口) * 外)	口) * 外)	内ガキ	内ガキ
714	+	台付甕			8.8	石英・角閃石	内輪状褐色 外)	口)	口)	内ナデ	内ナデ
715	+	支脚			11R	石英	内輪状褐色 外)	口)	口)	内)	内)
716	46号柱洞跡	甕			*		内輪状褐色 外)	口) * 外)	口) * 外)	内ナデ	内ナデ
717	+	*				石英・角閃石・赤褐色粒	内輪状褐色 外)	口) *	口) *	内ナデ	内ナデ
718	+	*	25.8R			石英・雲母・角閃石	内) *	口) *	口) *	内ナデ	内ナデ
719	+	*	28 R			石英・雲母	内輪状褐色 外) 深茶褐色	口) * 外)	口) * 外)	内ナデ	内ナデ
720	+	*			7.4 R	石英・赤褐色粒	内輪状灰色 外) 深茶褐色	口) *	口) *	内ナデ	内ナデ

番号	出土場	形 像	口径	厚度	高さ	地 土	色 調	調 整	備 考
721	46号生田塚	丸		6.5	石突・茎母・角突石	内)暗褐色 外)暗褐色	口)外ハケ目(6系/cm) 内)ナデ 外)		
722	*	*		8.8	石突・角突石	内)暗褐色 外)暗褐色	口)ナデ 外)	P1)	
723	*	*		7.6R	石突・赤褐色粒	内)暗褐色 外)暗褐色	口)ハク目(6系/cm) P1)ナデ		
724	*	*		9.2R	石突・角突石・赤褐色粒	内)赤褐色 外)暗褐色	口)ナデ 外)ナデ(14~5系/cm)	P2)ナデ	
725	*	球			赤褐色粒	内)暗褐色 外)暗褐色	口)ナデ 外)ナデミガキ		
726	*	球台		8.4R	石突・茎母	内)黄褐色 外)黄褐色	口)ハケ目ナデ 外)ヨコナデハク目(6系/cm)	P1)	
727	47号竹原塚	盤	19R		石突・赤褐色粒	内)暗褐色 外) *	口)ヨコナデ 外)ヨコナデ・ナデ 内)	P1)	
728	*	*	29.4R		石突・剝離石・赤褐色粒	内)暗褐色 外) *			
729	*	*		8.8	*	内)暗褐色 外) *	口)ナデ 外)ナデ		
730	*	*			石突	内)暗褐色 外)素面褐色	口)ナデ 外)ナデ		
731	*	*			石突・茎母	内)赤褐色 外)暗褐色	口)ナデ 外)ミガキナデ		斜面部に三ヶ所凸筋1条あり
732	*	*		12.4R	石突	内)素面色 外) *	口)ナデ 外)ハケ目ナデ	P1)	
733	*	茎			石突・茎母・角突石・赤褐色粒	内)深灰色 外)素面色	口)ヨコナデ 外)ハケ目(7系/cm) 内)ナデ		
734	*	*	20R		石突・角突石・赤褐色粒	内)暗褐色 外)暗褐色	口)ヨコナデ 外)ハク目(7系/cm) 内)ナデ		
735	*	*	26.6R		石突・茎母・角突石	内)素面色 外) *	口)ヨコナデ 外)ハク目(8系/cm) 内)ナデ		
736	*	*	28.8R		石突・角突石・赤褐色粒	内)素面色 外)暗褐色	口)ナデ 外)ナデ		
737	*	*	29.6R		*	内) *	口)ヨコナデ 外)素面色		
738	*	*	30R		*	内)素面色 外)暗褐色	口)ヨコナデ 外)ハク目(7系/cm) 内)ナデ		三ヶ所凸筋1条あり
739	*	*	34R		石突・茎母・角突石・赤褐色粒	内)赤褐色 外) *	口)ヨコナデ 外)ハク目(6系/cm, 9系/cm) 内)ナデ		凸筋削減
740	*	*		7.6R	石突・角突石・赤褐色粒	内)暗褐色 外) *	口)ナデ 外)ハケ目(6系/cm)		

番号	出土場	香 横	口径	断面	底 土	色 調	測 量	備 考
741	47号住居跡	素		7.2	石英・角閃石・赤褐色斑	内) 黄褐色 外) 黄褐色	口) ハケ日 (6mm) 外) ハケ日 (6mm)	
742	*	*		6.6	*	内) 浅褐色 外) 黄褐色	口) ハケ日 (6mm) 外) ハケ日 (6mm)	
743	*	*		7.3	*	内) 浅褐色 外) 黄褐色	口) ハケ日 (7-8mm) 外) ハケ日 (7-8mm)	
744	*	鉢		10R	*	内) 黄褐色 外) 黄褐色	口) ハケ日 外) ハケ日	
745	*	瓶		*	*	内) 黄褐色 外) 黄褐色	口) ヨコナデ 外) ヨコナデ	内) ミガキ
746	*	砾台	10R	石英・角閃石	石英・角閃石	内) 黄褐色 外) 黄褐色	口) ヨコナデ 外) ハケ日 (16mm)	内) ナナ
747	*	*	9R	石英・赤褐色	石英・赤褐色	内) 黄褐色 外) 黄褐色	口) ヨコナデ 外) ハケ日 (6mm)	内) ナナ
748	48号住居跡	瓶	12.9R	石英	石英	内) 浅褐色 外) 浅褐色	口) ヨコナデ・ミガキ 外) ヨコナデ	内) ナナ 周囲に 2 点のヘラ比縫あり
749	*	*		石英・角閃石	石英・角閃石	内) 浅褐色 外) 浅褐色	口) ヨコナデ 外) ヨコナデ	内) ナナ 周囲に 3 点介添 1 点あり
750	*	*		*	*	内) 黄褐色 外) *	口) ヨコナデ 外) ヨコナデ	*
751	*	*		5.6R	石英・角閃石	内) 黄褐色 外) *	口) ヨコナデ・ナナ 外) ヨコナデ	内) ナナ
752	*	*		5.5	*	内) 黄褐色 外) 黄褐色	口) ヨコナデ 外) ヨコナデ	内) ナナ
753	*	*		5.3	石英	内) 黄褐色 外) 黄褐色	口) ヨコナデ 外) ヨコナデ	内) ナナ 外) ヨコナデ
754	*	*		7.8	石英・角閃石	内) 黄褐色 外) 黄褐色	口) ヨコナデ 外) ヨコナデ	内) ナナ
755	*	*		8.8	石英	内) 黄褐色 外) 黄褐色	口) ヨコナデ 外) ヨコナデ	内) ナナ
756	*	*		20R	石英・黄鐵・角閃石	内) 黄褐色 外) 黄褐色	口) ヨコナデ 外) ヨコナデ	内) ナナ 外) ヨコナデ
757	*	瓶		25.6R	石英・赤褐色	内) 黄褐色 外) 黄褐色	口) ヨコナデ (5mm) 外) ヨコナデ (5mm)	内) ナナ ヘラ比縫あり
758	*	*		24R	石英	内) 黄褐色 外) *	口) ヨコナデ (ハケ日) 外) ヨコナデ (ハケ日)	内) ナナ *
759	*	*				内) 黄褐色 外) *	口) ヨコナデ (ハケ日 (5mm)) 外) ヨコナデ (ハケ日 (5mm))	工具比縫あり
760	*	*				内) 黄褐色 外) *	口) ヨコナデ 外) ハケ日 (6mm)	内) ナナ ヘラ比縫あり

番号	出土地	器種	口径	高さ	底径	胎土	胎色	内 色	外 色	被 素	備 考	
761	48号住居跡	甕	26R			石英・雲母・角閃石・赤褐色斑	外)明灰色 内)淡黄色	(1)ヨコナデ 外)ハケ目(6毫/cm, 7毫/cm)	内)ナデ	工具痕あり		
762	*	*	*			石英	内)淡黄色 外)灰黑色	(2)ヨコナデ 外)ハケ目(5毫/cm)	内)ナデ	三角形帶1条あり		
763	*	*	26.6R			石英・雲母・赤褐色斑	内)暗褐色 外)灰黑色	(3)ヨコナデ 外)ハケ目(6毫/cm)	内)ナデ			
764	*	*	*		*		内) *	外)灰黑色	(4)ヨコナデ 外)ハケ目(6毫/cm) - ナナデ	コ字形凸部2条あり		
765	*	*	25.4		*		内)暗褐色 外)淡褐色	(5)ヨコナデ 外)ハケ目(6毫/cm)	内)ナデ	ヘラ比縫あり		
766	*	*	26R			石英・雲母・角閃石	内)暗褐色 外)淡褐色	(6)ヨコナデ 外)ハケ目(6毫/cm)	内)ナデ	工具痕あり		
767	*	*	25.4			石英・角閃石・赤褐色斑	内)暗褐色 外)暗褐色	(7)ヨコナデ 外)ハケ目(5毫/cm)	内)ナデ	*		
768	*	*		8.4		石英・雲母・赤褐色斑	内) *	外)暗褐色	(8)ヨコナデ 外)ハケ目(6毫/cm)	内)ナデ		
769	*	*		6.7		石英・角閃石	内) *	外) *	外)ハケ目(4毫/cm)	内)ナデ		
770	*	*		7.6		石英・雲母・角閃石	内)暗褐色 外)暗褐色	内) *	外)ハケ目(7毫/cm)	内)ナデ		
771	*	竹林塗		7.8		石英・赤褐色斑	内)暗褐色 外)淡茶系色	内)ハケ目(6毫/cm) - ヨコナデ	外)ナナデ			
772	*	甕	28R			石英	内)暗褐色斑 外)暗褐色	(9)ヨコナデ 外)ハケ目(4毫/cm)	内)ナデ			
773	*	*		*	*		内)暗褐色 外) *	(10)ヨコナデ 外)ナナデ	内)ナデ			
774	*	器台		9 R		石英・角閃石・赤褐色斑	内)淡褐色 外) *	(11)ヨコナデ 外)ハケ目(6 - 7毫/cm)	内)ナデ			
775	*	支脚		8.1		石英・角閃石	内)暗褐色 外)暗褐色	(12)ヨコナデ 外)ナナデ	内)ナデ			
776	49号住居跡	甕				石英	内)暗褐色 外)暗褐色	(13)ヨコナデ 外)ナナデ	内)ナデ	口部に2箇一列の内凹孔あり		
777	*	*	14.3R	16.9	8.2	石英・角閃石	内)淡褐色 外)暗褐色	(14)ヨコナデ 外)ハケ目(7毫/cm, 8毫/cm)	内)ナデ	*		
778	*	*			7.2R	石英・赤褐色斑	内)淡褐色 外)暗褐色	(15)ヨコナデ 外)ナナデ	内)ナデ	外腹付壁		
779	*	*			5.6	石英・角閃石	内)暗褐色 外)赤褐色	(16)ヨコナデ 外)ナナデ	内)ナデ			
780	*	*			10.6	石英	(17)赤褐色 外) *	(18)ヨコナデ 外)ナナデ	内)ナデ			

番号	出土地	器種	口径	脚高	底径	脚 土	色 質	測 定	備 考
781	6号住居跡	甕			石灰・素燒		内) 青色 外) *	口) ヨコナデ 外) ハタケ目 (6 条/cm) 内) ナデ	
782	*	*		8.8	*		内) *	口) *	
783	*	*		7.8	6.1		内) 青色	口) ハタケ目 (6 条/cm) 内) ナデ	
784	*	*		6.4R	石英・赤褐色粒		内) 滑面 外) *	口) ハタケ目 (6 ~ 7 条/cm) 外) ハタケ目 (6 ~ 7 条/cm) 内) ナデ	
785	*	鉢	9.4R	5.36	4.4R	角閃石	内) 青色 外) *	口) ナデ 外) ハタケ目 内) ナデ	小型土器
786	*	*			石英・赤褐色粒		内) 滑面 外) *	口) ヨコナデ 外) ハタケ目 (7 条/cm) 内) ナデ	*
787	*	盤台		15R	6.9	石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内) *	口) ハタケ目 (7 条/cm) 内) ハタケ目 (7 条/cm) 外) ハタケ目 (7 条/cm) 内) ナデ	
788	*	*		7 R	石英		内) 滑面 外) *	口) ハタケ目 (7 条/cm) 内) ナデ	
789	*	支脚		10	石英・云母・赤褐色粒		内) 滑面 外) 滑面 内) 青色	口) ハタケ 外) ナデ	
790	50号住居跡	甕			石英・素燒		内) 青色 外) *	口) ナデ 外) 2.4 内) ナデ	縁部に三角凸唇 1 本あり
791	*	甕			*		内) 青色 外) 海藻紋	口) ヨコナデ 外) ハタケ目 (6 条/cm) 内) ナデ	
792	*	*			*		内) 青色 外) 滑面 内) 青色	口) ヨコナデ (6 条/cm) 内) ナデ	ヘラ状縫あり
793	*	*	36.7R	26.7	7	石英・雲母・赤褐色粒	内) 青色 外) *	口) ヨコナデ 外) ハタケ目 (6 条/cm) 内) ナデ	*
794	*	*		7.2R	石英・云母		内) 滑面 外) *	口) ハタケ目 (6 条/cm) 内) ナデ	
795	*	*		7.5	石英・雲母・角閃石・赤褐色粒		内) *	口) ハタケ目 (6 条/cm) 内) ナデ	
796	51号住居跡	甕	27R		石英・雲母・角閃石		内) *	口) ヨコナデ 外) *	
797	*	*			石英		内) 滑面 外) *	口) ヨコナデ 内) ナデ	
798	*	*			石英・素燒		内) 滑面 外) *	口) ヨコナデ 外) ナデ	
799	*	*		26.2R		石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内) 青色 外) 2.3 内) 滑面 外) *	口) 2.4 内) 2.4 内) ナデ 外) *	外面に擦文あり
800	*	*			石英・雲母・赤褐色粒		内) 青色 外) *	口) ヨコナデ 内) ナデ	

番号	出土地	器種	口径	唇高	底径	胎土	色調	測量	備考
801	51号住居跡	釜			石英・漂母・赤褐色	内) 漂母灰 外) 灰茶褐色	口) ナダ・ミガキ 外) ハケ目 (8 条/cm)	口部外面に漆文あり	
802	*	釜	24 R	*		石英・漂母	内) 漂母灰 外) 漂母灰	口) ヨコナダ 外) ハケ目 (7 条/cm) 内) ナダ	
803	*	釜	24.6 R	*	石英・漂母・赤褐色	内) 漂母灰 外) 黑褐色	口) ヨコナダ 外) ハケ目 (7 条/cm) 内) ナダ	三角凸窓 1 通り	
804	*	釜	27.4 R	*	石英・漂母・角閃石・赤褐色	内) 漂母灰 外) 漂母灰	口) ヨコナダ 外) ハケ目 (6 条/cm) 内) ナダ		
805	*	釜	31.8 R	*	石英・角閃石・赤褐色	内) 漂母灰 外) *	口) ヨコナダ 外) ハケ目 (6 条/cm) 内) ナダ		
806	*	釜	32.1 R	*	石英	内) 漂母灰	口) ヨコナダ 外) *		
807	*	釜	7.1	石英・漂母・角閃石	内) 漂母灰 外) 漂母灰	口) ヨコナダ 外) ハケ目 (6 条/cm) 内) ナダ			
808	*	釜	6.2	石英・角閃石・赤褐色	内) 漂母灰 外) 褐色	口) ヨコナダ 外) ハケ目 (6 条/cm) 内) ナダ			
809	*	釜	9 R	石英・漂母・角閃石・赤褐色	内) 漂母灰 外) 漂母灰	口) ヨコナダ 外) ハケ目 (7 条/cm) 内) ナダ			
810	*	釜	9.5	石英・漂母・角閃石・赤褐色	内) 漂母灰 外) *	口) ヨコナダ 外) ハケ目 (7 条/cm) 内) ナダ			
811	*	釜	16.5 R	*	石英・漂母・赤褐色	内) 漂母灰 外) *	口) ヨコナダ 外) ハケ目 (6 条/cm) 内) ナダ		
812	35号住居跡	釜	26.4 R	*	石英・漂母・角閃石・赤褐色	内) 漂母灰 外) *	口) ヨコナダ 外) ハケ目 (6 条/cm) 内) ナダ	周縁に三角凸窓 1 通りあり	
813	*	釜	23.5		石英・角閃石・赤褐色	内) 漂母灰 外) *	口) ヨコナダ 外) ハケ目 (9 条/cm) 内) ミガキ・ナダ		
814	*	釜	23.8	6.6	石英・赤褐色	内) 漂母灰 外) *	口) ヨコナダ 外) ハケ目 (6 条/cm) 内) ナダ	工具紋様あり	
815	*	釜	24.2 R	*	石英・漂母・角閃石	内) 漂母灰 外) *	口) ヨコナダ 外) ハケ目 (15 ~ 6 条/cm) 内) ナダ		
816	*	釜	26.5 R	*	石英・漂母・赤褐色	内) 漂母灰 外) *	口) ヨコナダ 外) ハケ目 (5 ~ 6 条/cm) 内) ナダ		
817	*	釜	6.8 R	*	石英・漂母・赤褐色	内) 漂母灰 外) *	口) ヨコナダ 外) ハケ目 (6 条/cm) 内) ナダ		
818	*	釜	8.7	*	石英	内) 漂母 外) 漂母灰	口) ヨコナダ 外) ハケ目 (6 条/cm) 内) ナダ	ヘラ波模あり	
819	*	釜					口) ヨコナダ 外) ハケ目 (6 条/cm) 内) ナダ		
820	*	釜					口) ヨコナダ 外) ハケ目 (6 条/cm) 内) ナダ		

番号	所在地	層	層幅	口径	標高	底	土	色	漿	調	筆	備
821	52号住居跡	妻	27.6R	石英・雲母・角閃石・赤褐色粒 物。	(内)暗茶褐色 (外)ハケ目 (8mm/cm)	口ヨコナデ (内)ナデ						
822	*	*	33.6R	石英・雲母・角閃石	(内)茶色 (外)褐色。	口ヨコナデ 外ハケ目 (5~6mm/cm)	内)ナデ					工具比較あり
823	*	*	31.9	*	(内)暗茶褐色 (外)褐色。	口ヨコナデ 外ハケ目 (7mm/cm)	内)ナデ					ヘラ比較あり
824	*	*	7.5	石英・雲母・角閃石・赤褐色粒 物。	(内)暗茶褐色 (外)褐色。	口)外ハケ目 (6mm/cm) 内)ナデ						
825	*	*	*	7	*	(内)褐色 外)暗茶褐色。	口)外ハケ目 (6mm/cm) 内)ナデ					
826	*	*	76~ 81.5	石英・雲母・角閃石	(内)暗茶褐色 外)暗茶褐色。	口)外ハケ目 (7mm/cm)	内)ナデ					
827	*	*	7.8	石英・雲母・角閃石・赤褐色粒 物。	(内)褐色 外)暗茶褐色。	口)ヨコナデ 外)ハケ目 (6mm/cm)~ミガキ	内)ナデ~ミガキ 削下や部に三角凸筋あり					
828	*	百合	6.3	12.5	6.2 石英・角閃石	(内)褐色 外)暗茶褐色。	口)ヨコナデ 外)ハケ目 (8mm/cm)	内)ナデ				
829	*	*	8.1	11.2	9 石英・雲母・角閃石	(内)暗茶褐色 外)褐色。	口)ナデ 外)ハケ目 (4~5mm/cm)	内)ナデ				
830	*	*	*	6.8	石英	(内)褐色 外)褐色。	口)外ハケ目 (7mm/cm)	内)ナデ				
831	13号住居跡	近	14.8R	石英・雲母・角閃石・赤褐色粒 物。	(内)褐色 外)褐色。	口)ヨコナデ 外)ハケ目 (7mm/cm), (内)ナデ						
832	*	*	*	*	*	(内)淡褐色 外)褐色。	口)ヨコナデ 外)ナデ	(内)				
833	*	通	*	石英・雲母	(内)淡茶褐色 外)褐色。	口)淡茶褐色 外)褐色。	口)ヨコナデ 外)ナデ (7mm/cm)	内)ナデ				
834	*	*	30R	石英・雲母・角閃石・赤褐色粒 物。	(内)淡茶褐色 外)褐色。	口)ヨコナデ 外)ハケ目 (5mm/cm)	内)ナデ					
835	*	*	31.2R	石英・角閃石・赤褐色粒 物。	(内)暗茶褐色 外)褐色。	口)ヨコナデ 外)ハケ目 (6mm/cm)	内)ナデ					
836	*	*	*	*	石英・雲母・角閃石・赤褐色粒 物。	(内)暗茶褐色 外)褐色。	口)ヨコナデ 外)ハケ目 (10mm/cm)	内)ナデ				
837	*	*	*	7.3	*	(内)淡茶褐色 外)褐色。	口)外ハケ目 (6mm/cm)	内)ナデ				
838	*	*	*	7.8	石英・雲母・角閃石・赤褐色粒 物。	(内)褐色 外)赤褐色。	口)外ハケ目 (6mm/cm)	内)ナデ				
839	*	*	*	11.6	石英・角閃石・赤褐色粒 物。	(内)淡茶褐色 外)赤褐色。	口)外ハケ目 (7mm/cm)	内)ナデ				
840	*	通	35.2R	石英・角閃石	(内)暗茶褐色 外)褐色。	口)ヨコナデ 外)ハケ目 (5~6mm/cm)	内)ナデ~ハケ目					

番号	出土場	層位	口径	標高	施設	胎土	色調	測量基準		備考
								内)茶系	外)ヨコナデハケ日(5系/ma)	
841	54号柱廊跡	裏			石英・雲母・赤褐色鉄	内)茶系 外)褐色	外)ヨコナデ 内)ナデ			
842	*	体			石英・雲母・角閃石	内)褐色	外)ナデ			
843	55号柱廊跡	裏			石英・雲母・角閃石・赤褐色鉄	内)青褐色 外)淡褐色	外)ヨコナデ 内)ナデ			
844	*	*			石英・角閃石	内)褐色	外)ナデ			
845	56号柱廊跡	裏			石英・雲母・角閃石・赤褐色鉄	内)淡青褐色 外)褐色	外)ハケ日(6系/ma)			
846	57号柱廊跡	*			石英・雲母・角閃石	内)水褐色 外)褐色	外)ヨコナデミガキ 内)H)			
847	*	*			石英・雲母・角閃石	内) "	外)ヨコナデミガキ 内)H)			
848	*	*			*	内)褐褐色 外)淡茶色	外)ヨコナデ 内)ナデ			
849	*	壳			石英・雲母	内) "	外)ヨコナデハケ日(7系/ma)			
850	*	*			石英・角閃石・赤褐色鉄	内)青褐色 外)淡褐色	外)ヨコナデ 内)ナデ			
851	*	*			石英	内) "	外)ヨコナデ 内)ナデ			
852	*	*			石英・雲母	内)茶系 外)褐色	外)ヨコナデハケ日(6~7系/ma)			
853	*	*			石英・雲母・赤褐色鉄	内)淡褐色 外)褐色	外)ヨコナデ 内)ナデ			
854	*	*	25.4R		石英・角閃石・赤褐色鉄	内)淡褐色 外)淡褐色	外)ヨコナデ 内)ナデ			
855	*	*	24R		石英・雲母・角閃石・赤褐色鉄	内)褐色	外)ヨコナデハケ日(7系/ma)			
856	*	*	30.7R		石英・雲母	内)褐色	外)ヨコナデハケ日(7系/ma)			
857	*	*	32.3R		石英・雲母・角閃石・赤褐色鉄	内)褐褐色 外)褐色	外)ヨコナデ 内)H)			
858	*	鉢				内) "	外)ヨコナデハケ日(7系/ma)			
859	*	*	17.4R			内) "	外)ヨコナデハケ日(6系/ma)			
860	*	支脚		12.3	石英・雲母・赤褐色鉄	内)淡褐色 外) "	外)ナデ 内)H)			

番号	出土地	種類	口径	器高	底径	胎土	色調	測量	備考	
861	33号住居跡	甕			石英・三叶	内)茶色 外)暗赤茶色	(1)ヨコナード 外)ハケ目(5㌢/cm)	内)ナデ 外)ナデ		
862	*	甕			石英・三叶・赤褐色紋	内)赤茶色 外)。	(1)ナデ	内)ナデ 外)ナデ		
863	159号住居跡	甕			石英・三叶・角閃石	内)深灰色 外)。	口)	内)		
864	*	甕			石英・三叶・赤褐色紋	内)赤茶色 外)褐色	(1)ヨコナード・ハケ目(7㌢/cm)	ミガキ 内)	ヘラビ模様あり	
865	*	甕	*		石英・三叶・角閃石	内)暗茶色 外)暗赤茶色	(1)ヨコナード 外)ハケ目(7㌢/cm)	内)ナデ 外)ナデ		
866	*	甕	*		*	内)暗褐色 外)淡褐色	(1)ナデ	内)		
867	*	甕	24.6	17.6	9.3	石英・角閃石・赤褐色紋	内)褐色 外)。	(1)ヨコナード 外)ハケ目(5㌢/cm)	内)ナデ 外)ナデ	④弓形屋敷出土の型り
868	*	甕	7.2R	6.6	3.9	石英・三叶・角閃石	内)淡褐色 外)淡黄色	口)	内)ナデ 外)ハケ目(6㌢/cm)	脚部凸起特徴
869	40号住居跡	甕	20R			石英・三叶・赤褐色紋	内)淡褐色 外)赤褐色	(1)ヨコナード・ナデ 外)	内)	外側に神文あり
870	*	甕	24.8R			石英・赤褐色紋	内)。	(1)ヨコナード 外)ハケ目(6㌢/cm)	内)ナデ	
871	*	甕	*	29.2		石英・角閃石・赤褐色紋	内)黄褐色 外)。	(1)ヨコナード 外)ハケ目(6㌢/cm)	内)ナデ 外)ナデ	
872	*	甕	29R			石英・角閃石	内)暗褐色 外)淡	(1)ヨコナード 外)ハケ目(6-7㌢/cm)	内)	ヘラビ模様あり
873	*	甕	不			石英・角閃石・赤褐色紋	内)淡褐色 外)黄褐色	口)	内)	
874	*	丸甕		7.4R	石英・赤褐色紋	内)暗褐色 外)。	口)	内)ナデ 外)ナデ	内)ナデ	
875	*	*		10.4R	石英・三叶・赤褐色紋	内)。	(1)	内)ナデ 外)ナデ	内)ナデ 外)ナデ	
876	*	*		9.5	石英・赤褐色紋	内)。	(1)	内)ナデ 外)ナデ	内)ナデ 外)ナデ	
877	*	*		10R	*	内)。	(1)	内)	内)	
878	61号住居跡	甕			石英・三叶	内)暗褐色 外)。	口)	内)		
879	*	甕			*	内)褐色 外)。	(1)ヨコナード 外)ハケ目(6㌢/cm)	内)ナデ 外)ナデ		
880	*	甕			石英・三叶・角閃石	内)茶色 外)暗茶色	(1)ヨコナード 外)ハケ目(7㌢/cm)	内)ナデ 外)ナデ	工具状模様あり	

番号	出土地	層	地質	口径	断面	地質	断面	土	色	測	調	筆	備考
881	61号生野跡	表				石英・角閃石・斜長石粒		円筒状黑色 外)	(内)ヨコナデ (外)ハケ目 (7.5cm)	(内)ナデ			
882	*	*				石英・斜長石粒		内)	*	(1)ヨコナデ (外)ハケ目 (6.5cm)	(内)ナデー・ミダキ		
883	*	*				石英・雲母・斜長石粒		内)褐色 外)	(1)ヨコナデ (外)ハケ目 (5.5cm)	(内)ナデ		ヘラ比高あり	
884	62号生野跡	表	19.2R			石英・雲母		内)淡褐色 外)	(1)ヨコナデ・ナデ (内)	(内)ナデ			
885	*	*	18.2R			石英・角閃石・斜長石粒		内)	(1)ヨコナデ・ミダキ・ (外)ハケ目 (6.5cm)	(内)ナデ			
886	*	*			7.2R	石英・雲母・角閃石		内)淡灰色 外)暗茶褐色	(1)ナデ	(内)ナデ			
887	*	*			7R	石英・雲母		内)淡褐色 外)茶色	(1)ミガキ・ナデ (内)	(内)ミガキ・ナデ			
888	*	表	23.2			石英・角閃石・斜長石粒		内)淡灰褐色 外)褐色	(1)ヨコナデ (外)ハケ目 (6.5cm)	(内)ナデ		工具痕あり	
889	*	*				石英・雲母		内)淡茶褐色 外)茶色	(1)ヨコナデ (外)ハケ目 (9~10cm)	(内)ナデ			
890	*	*			*			内)褐色 外)	(1)ヨコナデ (外)ナデ	(内)ナデ			
891	*	*				石英		内)淡茶褐色 外)	(1)ヨコナデ (外)	(内)ナデ			
892	*	*				石英・雲母・角閃石		内)淡茶褐色 外)褐色	(1)ヨコナデ (外)ハケ目 (7.5cm)	(内)ナデ			
893	*	*				石英・雲母・角閃石・斜長石粒		内)淡褐色 外)淡茶褐色	(1)ヨコナデ (外)ハケ目 (6.5cm)	(内)ナデ			
894	*	*	28R			石英・雲母・角閃石		内)淡茶褐色 外)茶色	(1)ヨコナデ・ナシカ目 (外)ハケ目 (6.5cm)	(内)ナデ			
895	*	*	26.6R			石英・雲母・斜長石粒		内)淡茶褐色 外)淡茶褐色	(1)ヨコナデ・ハケ目 (外)ハケ目 (6.5cm)	(内)ナデ		工具痕あり	
896	*	*			*			内)淡茶褐色 外)淡茶褐色	(1)ヨコナデ (外)ハケ目 (6.5cm)	(内)ナデ	*		
897	*	*	27R			石英・斜長石粒		内)褐色 外)褐色	(1)ヨコナデ・ナシカ目 (外)ハケ目 (6.5cm)	(内)ナデ			
898	*	*	6.8R			石英・雲母・角閃石・斜長石粒		内)褐色 外)茶色	(1)ナデ	(内)ナデ			
899	*	*			7.3	石英・淡褐色		内)褐色 外)茶色	(1)ナデ	(内)ナデ			
900	*	*			7.3	石英・角閃石・斜長石粒		内)淡褐色 外)	(1)ナデ (外)ハケ目 (8.5cm)	(内)ナデ			

番号	出土地	層級	口径	断面	土	色	測	面	筆	備考
901	62号生田塚	美		7.7 石英	内) 淡褐色 外) 淡茶褐色	外) ハケ目 (5mm/cm) - 内) ナデ				
902	*	*		7.1R 石英・角閃石・赤褐色粒	内) 茶色	外) ハケ目 (6mm/cm, 9.5cm)	(1) 内) ナデ			
903	*	伴	10.2	3.2 石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内) 淡褐色	外) ハケ目 (6mm/cm, 9.5cm)	(1) 外) ヨコナデ	内) ナデ		小底土層
904	*	*		4.4 石英・雲母・角閃石	内) 淡茶褐色	外) ハケ目 (6mm/cm)	(1) 内) ヨコナデ	内) ナデ		
905	63号生田塚	透	30	石英・角閃石・赤褐色粒	内) 淡褐色 外) 淡褐色	内) ヨコナデ 外) ヨコナデ (1)	(1) ミミキナデ	外) ナデ		外側に滑文あり
906	*	*		4.4 R *	石英・雲母・赤褐色粒	内) 黄褐色 外) 淡褐色	外) ヨコナデ (6mm/cm, 8.5cm)	内) ナデ		
907	*	美		石英	内) 黄褐色 外) 黑色	内) ヨコナデ (6mm/cm, 8.5cm)	内) ヨコナデ	内) ナデ		三角凸帯1条あり
908	*	*		石英	内) 淡褐色 外) 淡褐色	内) ヨコナデ (6mm/cm, 10.5cm)	内) ヨコナデ	内) ナデ		
909	*	*		石英・角閃石・赤褐色粒	内) 淡褐色	内) ヨコナデ (6mm/cm, 10.5cm)	内) ヨコナデ	内) ナデ		工具比較あり
910	*	*	32.8R	*	内) 淡褐色	内) ヨコナデ (6mm/cm, 10.5cm)	内) ヨコナデ	内) ナデ		断続に三角凸帯1条あり
911	*	*	6	石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内) 淡褐色 外) 淡茶褐色	内) ヨコナデ (6mm/cm, 10.5cm) - 外) ハケ目 (6mm/cm, 10.5cm)	内) ヨコナデ	内) ナデ		
912	*	*	6.2	石英・赤褐色粒	内) 黄褐色 外) 淡茶褐色	内) ヨコナデ (5mm/cm)	内) ヨコナデ	内) ナデ		
913	64号生田塚	*	32.6R	石英	内) 黄褐色	内) ヨコナデ (10mm/cm)	内) ヨコナデ	内) ナデ		
914	*	*		石英・雲母・角閃石・赤褐色粒	内) 淡茶褐色	内) ヨコナデ (10mm/cm)	内) ヨコナデ	内) ナデ		三角凸帯1条あり
915	*	*		7.4 石英	内) 淡褐色	内) ヨコナデ (7mm/cm, 10.5cm)	内) ヨコナデ	内) ナデ		
916	65号生田塚	*		*	内) 淡褐色 外) 淡茶褐色	内) ヨコナデ (7mm/cm, 10.5cm)	内) ヨコナデ	内) ナデ		工具比較あり
917	*	*		石英・角閃石・赤褐色粒	内) 淡褐色	内) ヨコナデ 外) ハケ目 (5 - 6mm/cm)	内) ヨコナデ	内) ナデ		
918	*	*		石英・角閃石	内) 淡茶褐色	内) ヨコナデ (6mm/cm)	内) ヨコナデ	内) ナデ		
919	*	*		6.3R 石英・雲母	内) *	内) ヨコナデ	内) ヨコナデ	内) ナデ		

福岡県行政資料	
分類番号 J H	所蔵コード 2133051
登録年度 H 4	登録番号 3

九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告—27—

平成5年3月31日

発行 福岡県教育委員会
福岡市博多区東公園7番7号

印刷 正光印刷株式会社
福岡市西区周船寺3-28-1

九州横断自動車道関係
埋蔵文化財調査報告

—27—

朝倉町上の原遺跡Ⅱ

付 図



付図 上の原遺跡遺構配置図 (1/300)